

注3

大学番号：33

意見伺い

[平成30年度設置]

計画の区分：研究科の設置

注1

横浜国立大学 大学院理工学府

注2

## 【意見伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人横浜国立大学  
平成30年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務企画部総務企画課

職名・氏名

電話番号 045-339-3175

（夜間） 同上

F A X 045-339-3055

e-mail kikaku.chosei@ynu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学新設の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。



# 目次

## 大学院理工学府

＜機械・材料・海洋系理工学専攻（博士課程前期）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	14
6. 留意事項等に対する履行状況等	31
7. その他全般的事項	32

＜化学・生命系理工学専攻（博士課程前期）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	47
2. 授業科目の概要	51
3. 施設・設備の整備状況、経費	55
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	56
5. 教員組織の状況	59
6. 留意事項等に対する履行状況等	77
7. その他全般的事項	78

＜数物・電子情報系理工学専攻（博士課程前期）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	92
2. 授業科目の概要	96
3. 施設・設備の整備状況、経費	100
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	101
5. 教員組織の状況	104
6. 留意事項等に対する履行状況等	123
7. その他全般的事項	124

＜機械・材料・海洋系理工学専攻（博士課程後期）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	139
2. 授業科目の概要	143
3. 施設・設備の整備状況、経費	146
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	147
5. 教員組織の状況	150
6. 留意事項等に対する履行状況等	159
7. その他全般的事項	160

＜化学・生命系理工学専攻（博士課程後期）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	175
2. 授業科目の概要	179
3. 施設・設備の整備状況、経費	182
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	183
5. 教員組織の状況	186
6. 留意事項等に対する履行状況等	196
7. その他全般的事項	197

＜数物・電子情報系理工学専攻（博士課程後期）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	210
2. 授業科目の概要	214
3. 施設・設備の整備状況、経費	218
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	219
5. 教員組織の状況	222
6. 留意事項等に対する履行状況等	239
7. その他全般的事項	240

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人横浜国立大学

## (2) 大学名

横浜国立大学大学院

## (3) 大学の位置

〒240-8501

神奈川県横浜市常盤台79番5号

(神奈川県横浜市常盤台79番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(ハセベ ユウイチ) 長谷部 勇一 (平成27年4月)		
学府長	(ワタナベ マサヨシ) 渡邊 正義 (平成30年4月)		
専攻長 機械・材料・ 海洋系工学専 攻(M)	(マツイ ジュン) 松井 純 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
大学院理工学府 機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程前期)  修士(工学)	工学関係	2年	109人	218人	理工学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成30年度		平成31年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	109人	-人	( )	( )	( )	( )	1.03倍	
	( - )	( - )	( )	( )	( )	( )		
	[ - ]	[ - ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]		
志願者数	162	-	( )	( )	( )	( )		
	( 1 )	( - )	( )	( )	( )	( )		
	[ 22 ]	[ - ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]		
受験者数	159	-	( )	( )	( )	( )		
	( 1 )	( - )	( )	( )	( )	( )		
	[ 20 ]	[ - ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]		
合格者数	114	-	( )	( )	( )	( )		
	( 1 )	( - )	( )	( )	( )	( )		
	[ 6 ]	[ - ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]		
B 入学者数	113	-	( )	( )	( )	( )		
	( 1 )	( - )	( )	( )	( )	( )		
	[ 6 ]	[ - ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]		
入学定員超過率 B/A	1.03							

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ ( ) 内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
- ・ [ ] 内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	113 [ 6 ] ( - )	- [ - ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次			/				
計	113 [ 6 ] ( - )		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	113 人	0 人	平成30年度	人	人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
合計	113 人	0 人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要ありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するため準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{113} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。



## 2 授業科目の概要

<横浜国立大学理工学部 機械・材料・海洋系工学専攻（博士課程前期）>

### (1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学府共通科目	● 理工学府MPBL	1-21~2		2			3	3	1			兼7
	● Presentation English	1-21~2-4~5		2								兼1
	● Presentation English S. Basic Level	1-21~2		2								兼2
	● Presentation English F. Basic Level	1-24~5		2								兼2
	● 理工学府海外インターンシップ	1-21~2-3~4~5		2								兼1
	● リスクマネジメントのための技術者倫理	13~2		2		1						兼4
	● 光・電子材料学概論	1-24~5		2		1						
	● 数値流体工学	11~2		2		1						
	● 乱流現象論	1-24~5		2		1						
	● 多機能性複合材料概論	1-24~5		2		1						
	● 波浪と船体運動	1-24~5		2			1					
	● 海洋資源エネルギー工学入門	1-24~5		2			1					
	● 量子統計力学	1-21~2		2								兼1
	● ナノ物性物理学	1-21~2		2								兼2
	● 磁気科学概論	1-21~2		2								兼2
	● 低温物理学	1-24~5		2								兼1
	● 宇宙素粒子物理学概論	1-21~2		2								兼1
	● プラズマ物理	1-24~5		2								兼1
	● エネルギーシステム論	1-24~5		2								兼2
	● 信号理論	1-24~5		2								兼1
	● アドバンスデジタル通信	1-24~5		2								兼1
	● VLSIシステム設計	1-21~2		2								兼1
	● 先端エレクトロニクス製品アーキテクチャ講座	1-24~5		2								兼1
	● 知能システム論	1-24~5		2								兼1
	● マテリアルインテグレーション	1-21~2		2								兼1
	● イノベーションと起業Ⅱ	1-24~5		2								兼2
	● プロセス計測学	1-21~2		2								兼1
	● 伝熱工学特論	1-24~5		2								兼2
	● 移動現象特論	1-21~2		2								兼1
	● 先端燃料電池技術	1-23		2			1					兼1
	● 分子統計力学	1-24~5		2								兼1
	● 量子反応論	1-21~2		2								兼1
	● 触媒化学	1-21~2		2								兼1
	● 高分子設計学	1-24~5		2								兼1
● 有機光化学	1-24~5		2								兼1	
● 微生物応用学	1-24~5		2								兼1	
● 先端機器分析特論	1-24~5		2								兼1	
● プロジェクトマネジメントⅠ	1-21~2		2								兼1	
● プロジェクトマネジメントⅡ	1-21~2		2								兼1	
● プロフェッショナルエンジニアⅠ	1-21~2		2								兼4	
● プロフェッショナルエンジニアⅡ	1-24~5		2								兼4	
● Professional Ethics in EU & US	1-21~2		2								兼2	
● グローバル企業における効果的な事業計画策定	1-21~2		2								兼1	
● グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル	1-21~2		2								兼3	
● イノベーションと課題発見Ⅰ	1-21~2		2								兼4	
● イノベーションと課題発見Ⅱ	1-21~2		2								兼4	
● 数理科学 代数	1-24~5		2								兼1	
● 数理科学 幾何	1-21~2		2								兼1	
● 数理科学 解析	1-21~2		2								兼1	
● 数理科学 確率・統計	1-24~5		2								兼2	
● 数理科学 データ・サイエンス	1-21~2		2								兼1	

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学府共通科目	● 理工学府MPBL	1-21~2		2			3	4	1			兼7
	● Presentation English	1-21~2-4~5		2								兼1
	● Presentation English S. Basic Level	1-21~2		2								兼2
	● Presentation English F. Basic Level	1-24~5		2								兼2
	● 理工学府海外インターンシップ	1-21~2-3~4~5		2				1				兼1
	● リスクマネジメントのための技術者倫理	13~2		2		1						兼4
	● 光・電子材料学概論	1-24~5		2		1						
	● 数値流体工学	11~2		2		1						
	● 乱流現象論	1-24~5		2		1						
	● 多機能性複合材料概論	1-24~5		2		1						
	● 波浪と船体運動	1-24~5		2			1					
	● 海洋資源エネルギー工学入門	1-24~5		2			1					
	● 量子統計力学	1-21~2		2								兼1
	● ナノ物性物理学	1-21~2		2								兼2
	● 磁気科学概論	1-21~2		2								兼2
	● 低温物理学	1-24~5		2								兼1
	● 宇宙素粒子物理学概論	1-21~2		2								兼1
	● プラズマ物理	1-24~5		2								兼1
	● エネルギーシステム論	1-24~5		2								兼2
	● 信号理論	1-24~5		2								兼1
	● アドバンスデジタル通信	1-24~5		2								兼1
	● VLSIシステム設計	1-21~2		2								兼1
	● 先端エレクトロニクス製品アーキテクチャ講座	1-24~5		2								兼1
	● 知能システム論	1-24~5		2								兼1
	● マテリアルインテグレーション	1-21~2		2								兼1
	● イノベーションと起業Ⅱ	1-24~5		2								兼2
	● プロセス計測学	1-21~2		2								兼1
	● 伝熱工学特論	1-24~5		2								兼2
	● 移動現象特論	1-21~2		2								兼1
	● 先端燃料電池技術	1-23		2			1					兼1
	● 分子統計力学	1-24~5		2								兼1
	● 量子反応論	1-21~2		2								兼1
	● 触媒化学	1-21~2		2								兼1
	● 高分子設計学	1-24~5		2								兼1
● 有機光化学	1-24~5		2								兼1	
● 微生物応用学	1-24~5		2								兼1	
● 先端機器分析特論	1-24~5		2								兼1	
● 固体化学	1-23~4		2								兼1	
● プロジェクトマネジメントⅠ	1-21~2		2								兼1	
● プロジェクトマネジメントⅡ	1-21~2		2								兼1	
● プロフェッショナルエンジニアⅠ	1-21~2		2								兼4	
● プロフェッショナルエンジニアⅡ	1-24~5		2								兼4	
● Professional Ethics in EU & US	1-21~2		2								兼3	
● グローバル企業における効果的な事業計画策定	1-21~2		2								兼1	
● グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル	1-21~2		2								兼1	
● イノベーションと課題発見Ⅰ	1-21~2		2								兼4	
● イノベーションと課題発見Ⅱ	1-21~2		2								兼4	
● 標準化とビジネス	1-20~1		2								兼2	
● 神奈川県取組技術課題	1-20~1		2								兼1	
● 数理科学 代数	1-24~5		2								兼1	
● 数理科学 幾何	1-21~2		2								兼1	
● 数理科学 解析	1-21~2		2								兼1	
● 数理科学 確率・統計	1-24~5		2								兼2	
● 数理科学 データ・サイエンス	1-21~2		2								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	
専攻共通科目	理学系									
	工学系	●	強度設計特論	1-20~2	2	1				
		●	マシンダイナミクス	1-4~5	2	1				
		●	システムモデリングと制御	1-4~5	2	1				
		●	結晶の変形・破壊幾何学	1-20	2	1				
		●	成形加工学	1-20~2	2		1			
		●	数値流体解析演習	1-24~5	2	1				
		●	数値構造解析演習	1-20~2	2	1				
		●	乱流工学概論	1-20~2	2		1			
		●	反応性気体力学	1-24~5	2	1				
	●	宇宙推進工学	1-8~5	2		1				
	●	航空宇宙利用工学	1-20~2	2		1				
専門科目	理学系									
	工学系	●	メカトロニクスデザイン	1-24~5	2	1				
		●	高速機械加工論	10~2	2		1			
		●	破壊強度学	1-4~5	2	1				
		●	希薄気体力学	10~2	2	1				
		●	アドバンスドロボティクス	10~2	2			1		
		●	知能ロボットエージェント	10~2	2		1			
		●	連続体力学	1-24~5	2		1			
		●	応用流体力学	1-4~5	2		1			
		●	アクチュエータ設計論	1-4~5	2		1			
		●	マイクロマシン工学	1-24~5	2	1				
		●	複合伝熱論	1-4~5	2		1			
		●	応用熱流体工学	1-4~5	2		1			
		●	サイバーロボティクス	1-24~5	2		1			
		●	センシング工学	1-4~5	2		1			
		/	/	/	/	/	/	/	/	/
		●	機械工学演習A	10~2-4~5	2	10	11	3		
		●	機械工学演習B	10~2-4~5	2	10	11	3		
		●	機械工学演習C	20~2-4~5	2	10	11	3		
		●	機械工学演習D	20~2-4~5	2	10	11	3		
		●	機械工学インターンシップL	1-20~2-4~5		4	10	11	3	
		●	機械工学インターンシップM	1-20~2-4~5		2	10	11	3	
		●	機械工学インターンシップS	1-20~2-4~5		1	10	11	3	
		●	拡散変態特論	1-20~2	2	1				
		●	固体物性学	1-24~5	2		1			
		/	/	/	/	/	/	/	/	/
		●	先端材料工学特論	1-24~5	1	4				
		●	高温構造材料設計工学	1-24~5	2					兼1
		●	材料組織計算学	1-24~5	2					兼1
		●	材料組織設計学特論	1-24~5	2					兼1
		/	/	/	/	/	/	/	/	/
		●	材料工学演習A	1-20~2-4~5	2	4	3			
		●	材料工学演習B	1-20~2-4~5	2	4	3			
		●	材料工学演習C	1-20~2-4~5	2	4	3			
		●	材料工学演習D	1-20~2-4~5	2	4	3			
	●	材料工学インターンシップL	1-20~2-3-4~5		4	4	3		兼3	
	●	材料工学インターンシップM	1-20~2-3-4~5		2	4	3		兼3	
	●	材料工学インターンシップS	1-20~2-3-4~5		1	4	3		兼3	
	●	船舶海洋構造設計学	1-20~2	2	1					
	●	浮体運動工学	1-24~5	2		1				
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	●	海洋開発工学	1-20~2	2					兼1	
	●	海上交通安全工学	1-20~2	2					兼2	
	●	リスクベースによる規制制定手法	1-24~5	2	2				兼3	
	●	海洋産業特論	1-20~2	2					兼1	
	●	海洋宇宙システム工学演習A	10~2-4~5	2	4	6				
	●	海洋宇宙システム工学演習B	10~2-4~5	2	4	6				
	●	海洋空間システムデザイン演習C	20~2-4~5	2	3	4				
	●	海洋空間システムデザイン演習D	20~2-4~5	2	3	4				
	●	海洋宇宙システム工学外演習	1-20~2-3-4~5	2	4	6				
	●	海洋宇宙システム工学海外特別研修	1-20~2-4~5	2	4	6				
	●	海洋空間実践演習	1-20~2-4~5	4	4	6			兼3	
	●	海洋宇宙システム工学実践演習	1-20~2-4~5	4	4	6			兼3	
	●	Special Lecture on Ocean and Space Engineering A	1-20~2-3-4~5	1	4					
	●	Special Lecture on Ocean and Space Engineering B	1-20~2-3-4~5	1	4					
	●	Special Lecture on Ocean and Space Engineering C	1-20~2-3-4~5	1	4					
	●	Special Lecture on Ocean and Space Engineering D	1-20~2-3-4~5	1	4					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	
専攻共通科目	理学系									
	工学系	●	強度設計特論	1-20~2	2	1				
		●	マシンダイナミクス	1-4~5	2	1				
		●	システムモデリングと制御	1-4~5	2	1				
		●	結晶の変形・破壊幾何学	1-20	2	1				
		●	成形加工学	1-20~2	2		1			
		●	数値流体解析演習	1-24~5	2	1				
		●	数値構造解析演習	1-20~2	2	1				
		●	乱流工学概論	1-20~2	2		1			
		●	反応性気体力学	1-24~5	2	1				
	●	宇宙推進工学	1-8~5	2		1				
	●	航空宇宙利用工学	1-20~2	2		1				
専門科目	理学系									
	工学系	●	メカトロニクスデザイン	1-24~5	2	1				
		●	高速機械加工論	10~2	2		1			
		●	破壊強度学	1-4~5	2	1				
		●	希薄気体力学	10~2	2	1				
		●	アドバンスドロボティクス	10~2	2			1		
		●	知能ロボットエージェント	10~2	2		1			
		●	連続体力学	1-24~5	2		1			
		●	応用流体力学	1-4~5	2		1			
		●	アクチュエータ設計論	1-4~5	2		1			
		●	マイクロマシン工学	1-24~5	2	1				
		●	複合伝熱論	1-4~5	2		1			
		●	応用熱流体工学	1-4~5	2		1			
		●	サイバーロボティクス	1-24~5	2		1			
		●	センシング工学	1-4~5	2		1			
		●	<b>エネルギー機械システム設計</b>	1-20~2	2					兼3
		●	機械工学演習A	10~2-4~5	2	10	11	3		
		●	機械工学演習B	10~2-4~5	2	10	11	3		
		●	機械工学演習C	20~2-4~5	2	10	11	3		
		●	機械工学演習D	20~2-4~5	2	10	11	3		
		●	機械工学インターンシップL	1-20~2-4~5		4	10	11	3	
		●	機械工学インターンシップM	1-20~2-4~5		2	10	11	3	
		●	機械工学インターンシップS	1-20~2-4~5		1	10	11	3	
		●	拡散変態特論	1-20~2	2	1				
		●	固体物性学	1-24~5	2		1			
		●	<b>ナノ材料工学概論</b>	1-24~5	2		1			
		●	先端材料工学特論	1-24~5	1	4				
		●	高温構造材料設計工学	1-24~5	2					兼1
		●	材料組織計算学	1-24~5	2					兼1
		●	材料組織設計学特論	1-24~5	2					兼1
		●	<b>構造材料特論</b>	1-24~5	2					兼2
		●	材料工学演習A	1-20~2-4~5	2	4	4			
		●	材料工学演習B	1-20~2-4~5	2	4	4			
		●	材料工学演習C	1-20~2-4~5	2	4	4			
		●	材料工学演習D	1-20~2-4~5	2	4	4			
	●	材料工学インターンシップL	1-20~2-3-4~5		4	4	4		兼3	
	●	材料工学インターンシップM	1-20~2-3-4~5		2	4	4		兼3	
	●	材料工学インターンシップS	1-20~2-3-4~5		1	4	4		兼3	
	●	船舶海洋構造設計学	1-20~2	2	1					
	●	浮体運動工学	1-24~5	2		1				
	●	<b>船舶設計システム工学論</b>	1-24~5	2		1				
	●	海洋開発工学	1-20~2	2					兼2	
	●	海上交通安全工学 <small>(未開講)</small>	1-20~2	2					兼2	
	●	リスクベースによる規制制定手法	1-24~5	2	2				兼3	
	●	海洋産業特論	1-20~2	2					兼1	
	●	海洋宇宙システム工学演習A	10~2-4~5	2	4	7				
	●	海洋宇宙システム工学演習B	10~2-4~5	2	4	7				
	●	海洋空間システムデザイン演習C	20~2-4~5	2	3	5				
	●	海洋空間システムデザイン演習D	20~2-4~5	2	3	5				
	●	海洋宇宙システム工学外演習	1-20~2-3-4~5	2	4	7				
	●	海洋宇宙システム工学海外特別研修	1-20~2-4~5	2	4	7				
	●	海洋空間実践演習	1-20~2-4~5	4	4	7			兼3	
	●	海洋宇宙システム工学実践演習	1-20~2-4~5	4	4	7			兼3	
	●	Special Lecture on Ocean and Space Engineering A	1-20~2-3-4~5	1	4					
	●	Special Lecture on Ocean and Space Engineering B	1-20~2-3-4~5	1	4					
	●	Special Lecture on Ocean and Space Engineering C	1-20~2-3-4~5	1	4					
	●	Special Lecture on Ocean and Space Engineering D	1-20~2-3-4~5	1	4					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目	理学系	●	日伯特別講義 A	1-21~22	4		3	4			
			日伯特別講義 B	1-21~22	2		3	4			
			日伯特別講義 C	1-24~25	4		3	4			
			日伯特別講義 D	1-24~25	2		3	4			
	工学系	●	海洋宇宙システム工学インターンシップL	1-21~22、2-4~5	4		4	6			兼3
			海洋宇宙システム工学インターンシップM	1-21~22、2-4~5	2		4	6			兼3
			海洋宇宙システム工学インターンシップS	1-21~22、2-4~5	1		4	6			兼3
	情報系	●	圧縮性流体力学	1-21~22	2			1			
			材料強度・破壊力学特論	1-21~22	2			1			
			宇宙飛行体軌道論	1-24~25	2		1				
	実務系	●	航空機空力設計論	1-24~25	2			1			
			宇宙環境利用科学	1-21~22	2						兼1
			宇宙機システム学特論	1-21~22	2						兼1
	工学系	●	航空宇宙工学演習C	21~22、2-4~5	2		2	5			
			航空宇宙工学演習D	21~22、2-4~5	2		2	5			
			加工システム設計A	1-21~22、2-4~5	4		3	3	2		
			加工システム設計B	1-21~22、2-4~5	4		3	3	2		
	工学系	●	加工システム製作A	1-21~22、2-4~5	4		3	3	2		
			加工システム製作B	1-21~22、2-4~5	4		3	3	2		
			熱流体システム設計A	1-21~22、2-4~5	4		4	5	2		
			熱流体システム設計B	1-21~22、2-4~5	4		4	5	2		
	工学系	●	熱流体システム製作A	1-21~22、2-4~5	4		4	5	2		
			熱流体システム製作B	1-21~22、2-4~5	4		4	5	2		
			統合システム設計A	1-21~22、2-4~5	4		3	3	3		
			統合システム設計B	1-21~22、2-4~5	4		3	3	3		
	工学系	●	統合システム製作A	1-21~22、2-4~5	4		3	3	3		
			統合システム製作B	1-21~22、2-4~5	4		3	3	3		
			材料設計スタジオ	1-21~22、2-4~5	4		3	1			
			材料創製スタジオ	1-21~22、2-4~5	4		2	2			
	工学系	●	組織制御スタジオ	1-21~22、2-4~5	4		2	1			
			材料特性スタジオ	1-21~22、2-4~5	4		1	2			
			材料工学R&Dスタジオ A	1-21~22、2-4~5	4		4	3			
			材料工学R&Dスタジオ B	1-21~22、2-4~5	4		4	3			
	工学系	●	海洋空間流体力学スタジオA	1-21~22、2-4~5	4		1	2			
			海洋空間流体力学スタジオB	1-21~22、2-4~5	4		1	2			
			海洋空間構造力学スタジオA	1-21~22、2-4~5	4		2				
海洋空間構造力学スタジオB			1-21~22、2-4~5	4		2					
工学系	●	海洋空間利用スタジオA	1-21~22、2-4~5	4			2				
		海洋空間利用スタジオB	1-21~22、2-4~5	4			2				
		マテリアルフロンティアサイエンススタジオA	1-21~22、2-4~5	4		1	2				
		マテリアルフロンティアサイエンススタジオB	1-21~22、2-4~5	4		1	2				
工学系	●	海洋空間R&Dスタジオ A	1-21~22、2-4~5	4		4	6				
		海洋空間R&Dスタジオ B	1-21~22、2-4~5	4		4	6				
		航空宇宙システムスタジオA	1-21~22、2-4~5	4		2	5				
		航空宇宙システムスタジオB	1-21~22、2-4~5	4		2	5				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目	理学系	●	日伯特別講義 A	1-21~22	4		3	5			
			日伯特別講義 B	1-21~22	2		3	5			
			日伯特別講義 C	1-24~25	4		3	5			
			日伯特別講義 D	1-24~25	2		3	5			
	工学系	●	海洋宇宙システム工学インターンシップL	1-21~22、2-4~5	4		4	7			兼3
			海洋宇宙システム工学インターンシップM	1-21~22、2-4~5	2		4	7			兼3
			海洋宇宙システム工学インターンシップS	1-21~22、2-4~5	1		4	7			兼3
	情報系	●	圧縮性流体力学	1-21~22	2			1			
			材料強度・破壊力学特論	1-21~22	2			1			
			宇宙飛行体軌道論	1-24~25	2		1				
	実務系	●	航空機空力設計論	1-24~25	2			1			
			宇宙環境利用科学	1-21~22	2						兼1
			宇宙機システム学特論	1-21~22	2						兼1
	工学系	●	航空宇宙工学演習C	21~22、2-4~5	2		2	5			
			航空宇宙工学演習D	21~22、2-4~5	2		2	5			
			加工システム設計A	1-21~22、2-4~5	4		3	3	2		
			加工システム設計B	1-21~22、2-4~5	4		3	3	2		
	工学系	●	加工システム製作A	1-21~22、2-4~5	4		3	3	2		
			加工システム製作B	1-21~22、2-4~5	4		3	3	2		
			熱流体システム設計A	1-21~22、2-4~5	4		4	5	2		
			熱流体システム設計B	1-21~22、2-4~5	4		4	5	2		
	工学系	●	熱流体システム製作A	1-21~22、2-4~5	4		4	5	2		
			熱流体システム製作B	1-21~22、2-4~5	4		4	5	2		
			統合システム設計A	1-21~22、2-4~5	4		3	3	3		
			統合システム設計B	1-21~22、2-4~5	4		3	3	3		
	工学系	●	統合システム製作A	1-21~22、2-4~5	4		3	3	3		
			統合システム製作B	1-21~22、2-4~5	4		3	3	3		
			材料設計スタジオ	1-21~22、2-4~5	4		3	2			
			材料創製スタジオ	1-21~22、2-4~5	4		2	3			
	工学系	●	組織制御スタジオ	1-21~22、2-4~5	4		2	2			
			材料特性スタジオ	1-21~22、2-4~5	4		1	3			
			材料工学R&Dスタジオ A	1-21~22、2-4~5	4		4	4			
			材料工学R&Dスタジオ B	1-21~22、2-4~5	4		4	4			
	工学系	●	海洋空間流体力学スタジオA	1-21~22、2-4~5	4		1	2			
			海洋空間流体力学スタジオB	1-21~22、2-4~5	4		1	2			
			海洋空間構造力学スタジオA	1-21~22、2-4~5	4		2	1			
海洋空間構造力学スタジオB			1-21~22、2-4~5	4		2	1				
工学系	●	海洋空間利用スタジオA	1-21~22、2-4~5	4			2				
		海洋空間利用スタジオB	1-21~22、2-4~5	4			2				
		マテリアルフロンティアサイエンススタジオA	1-21~22、2-4~5	4		1	2				
		マテリアルフロンティアサイエンススタジオB	1-21~22、2-4~5	4		1	2				
工学系	●	海洋空間R&Dスタジオ A	1-21~22、2-4~5	4		4	7				
		海洋空間R&Dスタジオ B	1-21~22、2-4~5	4		4	7				
		航空宇宙システムスタジオA	1-21~22、2-4~5	4		2	5				
		航空宇宙システムスタジオB	1-21~22、2-4~5	4		2	5				

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。  
・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。  
その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。  
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。  
・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。  
・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。  
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・ 学府共通科目のカリキュラム充実のため、「固体化学」、「標準化とビジネス」、「神奈川県を取り組む技術課題」を追加。
- ・ 学府共通科目の充実のため「理工学府MPBL」「理工学府海外インターンシップ」の専任教員数を各科目1名増員した。
- ・ 学府共通科目の充実のため「Professional Ethics in EU & US」の兼任教員を1名増員した。
- ・ 本務先企業の都合により「グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル」の兼任教員2名が辞任。
- ・ 専門科目のカリキュラム充実のため、「エネルギー機械システム設計」、「ナノ材料工学概論」、「構造材料特論」、「船舶設計システム工学論」を追加。
- ・ 専門科目の充実のため、「材料工学演習A」、「材料工学演習B」、「材料工学演習C」、「材料工学演習D」、「材料工学インターンシップL」、「材料工学インターンシップM」、「材料工学インターンシップS」、「海洋宇宙システム工学演習A」、「海洋宇宙システム工学演習B」、「海洋空間システムデザイン演習C」、「海洋空間システムデザイン演習D」、「海洋宇宙システム工学海外特別研修」、「海洋空間実践演習」、「海洋宇宙システム工学実践演習」、「日伯特別講義 A」、「日伯特別講義 B」、「日伯特別講義 C」、「日伯特別講義 D」、「海洋宇宙システム工学インターンシップL」、「海洋宇宙システム工学インターンシップM」、「海洋宇宙システム工学インターンシップS」、「材料設計スタジオ」、「材料創製スタジオ」、「組織制御スタジオ」、「材料特性スタジオ」、「材料工学R&Dスタジオ A」、「材料工学R&Dスタジオ B」、「海洋空間構造力学スタジオA」、「海洋空間構造力学スタジオB」、「海洋空間R&Dスタジオ A」、「海洋空間R&Dスタジオ B」の専任教員数を増員した。
- ・ 専門科目の充実のため、「海洋開発工学」の兼任教員数を1名増とした。

- (注) ・ 変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。  
変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
0 科目	156 科目	3 科目	159 科目	0 科目 [ ]	163 科目 [ 7 ]	3 科目 [ ]	166 科目 [ 7 ]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	低温物理学	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
2	宇宙素粒子物理学概論	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
3	分子統計力学	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
4	微生物応用学	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
5	数理科学 幾何	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
6	海上交通安全工学	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

該当なし

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

隔年で開講する科目であるため、学生の履修に影響はない。  
履修案内、時間割表に明示するとともに、掲示板にて周知した。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{6}{159} = \boxed{3.77\%}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	335,097㎡	— ㎡	— ㎡	335,097 ㎡				
	運動場用地	89,916 ㎡	— ㎡	— ㎡	89,916 ㎡				
	小 計	425,013 ㎡	— ㎡	— ㎡	425,013 ㎡				
	そ の 他	237,446 ㎡	— ㎡	— ㎡	237,446 ㎡				
	合 計	662,459 ㎡	— ㎡	— ㎡	662,459 ㎡				
(2) 校舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
		175,694 ㎡ ( ㎡)	— ㎡ ( ㎡)	— ㎡ ( ㎡)	175,694 ㎡ ( ㎡)				
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	113室	153室	770室	31室 (補助職員 18人)	14室 (補助職員 2人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	理工学府			139 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学府単位での特定不能なため、大学全体の数	
	理工学府	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)		
	計	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)		
(6) 図書館	面 積	閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
	15,336 ㎡	1,472 席		1,346,389 冊					
(7) 体育館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体			
	3,882 ㎡	野球場		テニスコートほか					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費(運営費交付金)による
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

#### 4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	横浜国立大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
<b>経済学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番3号	
経済学科	4	238	3年次15	476	学士(経済学)	1.07	平成29年度		
経済システム学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
国際経済学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
<b>経営学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
経営学科	4	287	-	574	学士(経営学)	1.04	平成29年度		
経営学科(昼間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	昭和42年度		平成29年学生募集停止
経営学科(夜間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
会計・情報学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
経営システム科学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
国際経営学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
<b>都市科学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番6号	
都市社会共生学科	4	74	-	148	学士(学術)	0.87	平成29年度		
建築学科	4	70	2年次2	142	学士(工学)	0.96	平成29年度		
都市基盤学科	4	48	3年次5	96	学士(工学)	1.01	平成29年度		
環境リスク共生学科	4	56	-	112	学士(環境学)	1.04	平成29年度		
<b>教育学研究科</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
高度教職実践専攻 (専門職学位課程)	2	15	-	30	教職修士(専門職)	1.03	平成29年度		
<b>理工学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程前期)	2	109	-	109	修士(工学)	1.03	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程前期)	2	107	-	107	修士(理学、工学)	1.01	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程前期)	2	146	-	146	修士(理学、工学)	1.04	平成30年度		
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程後期)	3	11	-	11	博士(工学)	0.54	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(理学、工学)	0.41	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程後期)	3	18	-	18	博士(理学、工学)	1.22	平成30年度		
<b>環境情報学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番7号	
人工環境専攻(博士課程前期)	2	75	-	75	修士(環境学、工学、学術)	0.90	平成30年度		
自然環境専攻(博士課程前期)	2	33	-	33	修士(環境学、理学、学術)	0.90	平成30年度		
情報環境専攻(博士課程前期)	2	65	-	65	修士(情報学、理学、学術)	0.98	平成30年度		

人工環境専攻(博士課程後期)	3	15	-	15	博士(環境学、工学、学術)	0.60	平成30年度	
自然環境専攻(博士課程後期)	3	6	-	6	博士(環境学、理学、学術)	0.50	平成30年度	
情報環境専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(情報学、理学、学術)	0.91	平成30年度	
環境生命学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、情報科学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リサーチマネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境生命学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、情報科学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リサーチマネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止

大学の名称	横浜国立大学							備考
-------	--------	--	--	--	--	--	--	----

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
教育学部 学校教育課程	4	230	-	920	学士(教育)	1.02	平成10年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
教育人間科学部 人間文化課程	4	-	-	-	学士(教養)	-	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	平成29年学生募集停止
理工学部 機械・材料・海洋系学科	4	185	-	740	学士(工学)	1.02	平成29年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
化学・生命系学科	4	187	-	748	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度		
数物・電子情報系学科	4	287	-	1148	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度		
建築都市・環境系学科	4	-	-	-	学士(理学、工学)	-	平成23年度		平成29年学生募集停止
工学部 生産工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	平成23年学生募集停止
建設学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度		平成23年学生募集停止
電子情報工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度		平成23年学生募集停止
知能物理工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成10年度		平成23年学生募集停止
教育学研究科 教育実践専攻(修士課程)	2	85	-	170	修士(教育学)	1.12	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
国際社会科学府 経済学専攻(博士課程前期)	2	38	-	76	修士(経済学)	0.90	平成25年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
経営学専攻(博士課程前期)	2	50	-	100	修士(経営学)	1.03	平成25年度		
国際経済法学専攻(博士課程前期)	2	25	-	50	修士(法学、国際)	1.04	平成25年度		
経済学専攻(博士課程後期)	3	10	-	30	博士(経済学、学術)	0.40	平成25年度		
経営学専攻(博士課程後期)	3	12	-	36	博士(経営学、学術)	0.44	平成25年度		
国際経済法学専攻(博士課程後期)	3	8	-	24	博士(法学、国際)	0.49	平成25年度		



法曹実務専攻（専門職学位課程）	3	25	-	75	法務博士（専門職）	0.41	平成25年度		
<b>国際社会科学研究所</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
グローバル経済専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経済学、学術）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
企業システム専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経営学、学術）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
国際経済法学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（国際経済法）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
<b>工学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
機能発現工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
機能発現工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
<b>都市イノベーション学府</b>									
建築都市文化専攻（博士課程前期）	2	68	-	136	修士（工学、学術）	0.93	平成23年度		
都市地域社会専攻（博士課程前期）	2	37	-	74	修士（工学、学術）	0.98	平成23年度		
都市イノベーション専攻（博士課程後期）	3	12	-	36	博士（工学、学術）	0.83	平成23年度		

- （注）・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<横浜国立大学理工学部 機械・材料・海洋系工学専攻（博士課程前期）>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任（予定）年月>
		担当授業科目名
専	教授	アキニワ ヨシアキ 秋庭 義明 <平成30年4月>
		破壊強度学 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 加工システム設計A 加工システム設計B 加工システム製作A 加工システム製作B
専	教授	イシイ カズヒロ 石井 一洋 <平成30年4月>
		反応性気体力学 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 航空宇宙工学演習C 航空宇宙工学演習D 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B 航空宇宙システムスタジオA 航空宇宙システムスタジオB
専	教授	ウ キョウ（ウキョウ ツヨシ） 于 強（右京 強） <平成30年4月>
		強度設計特論 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 加工システム設計A 加工システム設計B 加工システム製作A 加工システム製作B
専	教授	ウエノ セイヤ 上野 誠也 <平成30年4月>
		海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 Special Lecture on Ocean and Space Engineering A Special Lecture on Ocean and Space Engineering B Special Lecture on Ocean and Space Engineering C Special Lecture on Ocean and Space Engineering D 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 宇宙航行体軌道論 航空宇宙工学演習C 航空宇宙工学演習D 海洋空間R&Dスタジオ A 海洋空間R&Dスタジオ B 航空宇宙システムスタジオA 航空宇宙システムスタジオB

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任（予定）年月>
		担当授業科目名
専	教授	アキニワ ヨシアキ 秋庭 義明 <平成30年4月>
		破壊強度学 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 加工システム設計A 加工システム設計B 加工システム製作A 加工システム製作B
専	教授	イシイ カズヒロ 石井 一洋 <平成30年4月>
		反応性気体力学 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 航空宇宙工学演習C 航空宇宙工学演習D 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B 航空宇宙システムスタジオA 航空宇宙システムスタジオB
専	教授	ウ キョウ（ウキョウ ツヨシ） 于 強（右京 強） <平成30年4月>
		強度設計特論 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 加工システム設計A 加工システム設計B 加工システム製作A 加工システム製作B
専	教授	ウエノ セイヤ 上野 誠也 <平成30年4月>
		海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 Special Lecture on Ocean and Space Engineering A Special Lecture on Ocean and Space Engineering B Special Lecture on Ocean and Space Engineering C Special Lecture on Ocean and Space Engineering D 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 宇宙航行体軌道論 航空宇宙工学演習C 航空宇宙工学演習D 海洋空間R&Dスタジオ A 海洋空間R&Dスタジオ B 航空宇宙システムスタジオA 航空宇宙システムスタジオB

専	教授	ウメザワ オサム 梅澤 修 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 結晶の変形・破壊幾何学 先端材料工学特論 材料工学演習A 材料工学演習B 材料工学演習C 材料工学演習D 材料工学インターンシップ L 材料工学インターンシップ M 材料工学インターンシップ S 材料設計スタジオ 組織制御スタジオ 材料工学R&Dスタジオ A 材料工学R&Dスタジオ B
		オカダ テツオ 岡田 哲男 〈平成30年4月〉
専	教授	船舶海洋構造設計学 リスクベースによる規則制定手法 海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋空間システムデザイン演習C 海洋空間システムデザイン演習D 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 Special Lecture on Ocean and Space Engineering A Special Lecture on Ocean and Space Engineering B Special Lecture on Ocean and Space Engineering C Special Lecture on Ocean and Space Engineering D 日伯特別講義 A 日伯特別講義 B 日伯特別講義 C 日伯特別講義 D 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 海洋空間構造力学スタジオA 海洋空間構造力学スタジオB 海洋空間R&Dスタジオ A 海洋空間R&Dスタジオ B
		カワムラ ヤスミ 川村 恭己 〈平成30年4月〉
		数値構造解析演習 リスクベースによる規則制定手法 海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋空間システムデザイン演習C 海洋空間システムデザイン演習D 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 Special Lecture on Ocean and Space Engineering A Special Lecture on Ocean and Space Engineering B Special Lecture on Ocean and Space Engineering C Special Lecture on Ocean and Space Engineering D 日伯特別講義 A 日伯特別講義 B 日伯特別講義 C 日伯特別講義 D 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 海洋空間構造力学スタジオA 海洋空間構造力学スタジオB マリタイムフロンティアサイエンススタジオA マリタイムフロンティアサイエンススタジオB 海洋空間R&Dスタジオ A 海洋空間R&Dスタジオ B

専	教授	ウメザワ オサム 梅澤 修 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 結晶の変形・破壊幾何学 先端材料工学特論 材料工学演習A 材料工学演習B 材料工学演習C 材料工学演習D 材料工学インターンシップ L 材料工学インターンシップ M 材料工学インターンシップ S 材料設計スタジオ 組織制御スタジオ 材料工学R&Dスタジオ A 材料工学R&Dスタジオ B
		オカダ テツオ 岡田 哲男 〈平成30年4月〉
専	教授	船舶海洋構造設計学 リスクベースによる規則制定手法 海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋空間システムデザイン演習C 海洋空間システムデザイン演習D 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 Special Lecture on Ocean and Space Engineering A Special Lecture on Ocean and Space Engineering B Special Lecture on Ocean and Space Engineering C Special Lecture on Ocean and Space Engineering D 日伯特別講義 A 日伯特別講義 B 日伯特別講義 C 日伯特別講義 D 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 海洋空間構造力学スタジオA 海洋空間構造力学スタジオB 海洋空間R&Dスタジオ A 海洋空間R&Dスタジオ B
		カワムラ ヤスミ 川村 恭己 〈平成30年4月〉
		数値構造解析演習 リスクベースによる規則制定手法 海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋空間システムデザイン演習C 海洋空間システムデザイン演習D 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 Special Lecture on Ocean and Space Engineering A Special Lecture on Ocean and Space Engineering B Special Lecture on Ocean and Space Engineering C Special Lecture on Ocean and Space Engineering D 日伯特別講義 A 日伯特別講義 B 日伯特別講義 C 日伯特別講義 D 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 海洋空間構造力学スタジオA 海洋空間構造力学スタジオB マリタイムフロンティアサイエンススタジオA マリタイムフロンティアサイエンススタジオB 海洋空間R&Dスタジオ A 海洋空間R&Dスタジオ B

専	教授	サトウ ヤスカズ 佐藤 恭一 〈平成30年4月〉
		メカトロニクスデザイン 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 統合システム設計A 統合システム設計B 統合システム製作A 統合システム製作B
専	教授	サナダ カズシ 真田 一志 〈平成30年4月〉
		システムモデリングと制御 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 統合システム設計A 統合システム設計B 統合システム製作A 統合システム製作B
専	教授	タカダ ハジメ 高田 一 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL リスクマネジメントのための技術者倫理 マシナダイナミクス 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 統合システム設計A 統合システム設計B 統合システム製作A 統合システム製作B
専	教授	ナカオ ワタル 中尾 航 〈平成30年4月〉
		多機能性複合材料概論 先端材料工学特論 材料工学演習A 材料工学演習B 材料工学演習C 材料工学演習D 材料工学インターンシップ L 材料工学インターンシップ M 材料工学インターンシップ S 材料設計スタジオ 材料創製スタジオ 材料工学R&Dスタジオ A 材料工学R&Dスタジオ B
専	教授	ニシノ コウイチ 西野 耕一 〈平成30年4月〉
		乱流現象論 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B
専	教授	ヒノ タカノリ 日野 孝則 〈平成30年4月〉
		数値流体解析演習 海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋空間システムデザイン演習C 海洋空間システムデザイン演習D 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 Special Lecture on Ocean and Space Engineering A Special Lecture on Ocean and Space Engineering B

専	教授	サトウ ヤスカズ 佐藤 恭一 〈平成30年4月〉
		メカトロニクスデザイン 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 統合システム設計A 統合システム設計B 統合システム製作A 統合システム製作B
専	教授	サナダ カズシ 真田 一志 〈平成30年4月〉
		システムモデリングと制御 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 統合システム設計A 統合システム設計B 統合システム製作A 統合システム製作B
専	教授	タカダ ハジメ 高田 一 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL リスクマネジメントのための技術者倫理 マシナダイナミクス 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 統合システム設計A 統合システム設計B 統合システム製作A 統合システム製作B
専	教授	ナカオ ワタル 中尾 航 〈平成30年4月〉
		多機能性複合材料概論 先端材料工学特論 材料工学演習A 材料工学演習B 材料工学演習C 材料工学演習D 材料工学インターンシップ L 材料工学インターンシップ M 材料工学インターンシップ S 材料設計スタジオ 材料創製スタジオ 材料工学R&Dスタジオ A 材料工学R&Dスタジオ B
専	教授	ニシノ コウイチ 西野 耕一 〈平成30年4月〉
		乱流現象論 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B
専	教授	ヒノ タカノリ 日野 孝則 〈平成30年4月〉
		数値流体解析演習 海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋空間システムデザイン演習C 海洋空間システムデザイン演習D 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 Special Lecture on Ocean and Space Engineering A Special Lecture on Ocean and Space Engineering B

		Special Lecture on Ocean and Space Engineering C Special Lecture on Ocean and Space Engineering D 日伯特別講義 A 日伯特別講義 B 日伯特別講義 C 日伯特別講義 D 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 海洋空間流体力学スタジオA 海洋空間流体力学スタジオB 海洋空間R&Dスタジオ A 海洋空間R&Dスタジオ B
専	教授	ヒロサワ ショウイチ 廣澤 渉一 〈平成30年4月〉
		拡散変態特論 先端材料工学特論 材料工学演習A 材料工学演習B 材料工学演習C 材料工学演習D 材料工学インターンシップ L 材料工学インターンシップ M 材料工学インターンシップ S 材料創製スタジオ 組織制御スタジオ 材料工学R&Dスタジオ A 材料工学R&Dスタジオ B
専	教授	マツイ ジュン 松井 純 〈平成30年4月〉
		数値流体工学 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B
専	教授	マツモト ヒロアキ 松本 裕昭 〈平成30年4月〉
		希薄気体力学 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B
専	教授	マルオ ショウジ 丸尾 昭二 〈平成30年4月〉
		マイクロマシン工学 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 加工システム設計A 加工システム設計B 加工システム製作A 加工システム製作B
専	教授	ムカイ コウキ 向井 剛輝 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 光・電子材料学概論 先端材料工学特論 材料工学演習A 材料工学演習B 材料工学演習C 材料工学演習D 材料工学インターンシップ L 材料工学インターンシップ M 材料工学インターンシップ S 材料設計スタジオ 材料特性スタジオ 材料工学R&Dスタジオ A 材料工学R&Dスタジオ B

		Special Lecture on Ocean and Space Engineering C Special Lecture on Ocean and Space Engineering D 日伯特別講義 A 日伯特別講義 B 日伯特別講義 C 日伯特別講義 D 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 海洋空間流体力学スタジオA 海洋空間流体力学スタジオB 海洋空間R&Dスタジオ A 海洋空間R&Dスタジオ B
専	教授	ヒロサワ ショウイチ 廣澤 渉一 〈平成30年4月〉
		拡散変態特論 先端材料工学特論 材料工学演習A 材料工学演習B 材料工学演習C 材料工学演習D 材料工学インターンシップ L 材料工学インターンシップ M 材料工学インターンシップ S 材料創製スタジオ 組織制御スタジオ 材料工学R&Dスタジオ A 材料工学R&Dスタジオ B
専	教授	マツイ ジュン 松井 純 〈平成30年4月〉
		数値流体工学 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B
専	教授	マツモト ヒロアキ 松本 裕昭 〈平成30年4月〉
		希薄気体力学 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B
専	教授	マルオ ショウジ 丸尾 昭二 〈平成30年4月〉
		マイクロマシン工学 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 加工システム設計A 加工システム設計B 加工システム製作A 加工システム製作B
専	教授	ムカイ コウキ 向井 剛輝 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 光・電子材料学概論 先端材料工学特論 材料工学演習A 材料工学演習B 材料工学演習C 材料工学演習D 材料工学インターンシップ L 材料工学インターンシップ M 材料工学インターンシップ S 材料設計スタジオ 材料特性スタジオ 材料工学R&Dスタジオ A 材料工学R&Dスタジオ B

専	准教授	アラキ タクト 荒木 拓人 〈平成30年4月〉
		先端燃料電池技術 応用熱流体工学 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B
専	准教授	オオタ ヒロキ 太田 裕貴 〈平成30年4月〉
		センシング工学 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 加工システム設計A 加工システム設計B 加工システム製作A 加工システム製作B
専	准教授	オザキ シンゴ 尾崎 伸吾 〈平成30年4月〉
		連続体力学 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 加工システム設計A 加工システム設計B 加工システム製作A 加工システム製作B
専	准教授	カトウ リュウ 加藤 龍 〈平成30年4月〉
		サイバーロボティクス 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 統合システム設計A 統合システム設計B 統合システム製作A 統合システム製作B
専	准教授	キタムラ ケイイチ 北村 圭一 〈平成30年4月〉
		機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 圧縮性流体力学 航空宇宙工学演習C 航空宇宙工学演習D 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B 航空宇宙システムスタジオA

専	准教授	アラキ タクト 荒木 拓人 〈平成30年4月〉
		先端燃料電池技術 応用熱流体工学 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B
専	准教授	オオタ ヒロキ 太田 裕貴 〈平成30年4月〉
		センシング工学 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 加工システム設計A 加工システム設計B 加工システム製作A 加工システム製作B
専	准教授	オオタケ ミツル 大竹 充 〈平成30年4月〉
		ナノ材料工学概論 理工学府MPBL 理工学府海外インターンシップ 材料工学演習A 材料工学演習B 材料工学演習C 材料工学演習D 材料工学インターンシップL 材料工学インターンシップM 材料工学インターンシップS 材料設計スタジオ 材料創製スタジオ 組織制御スタジオ 材料特性スタジオ 材料工学R&Dスタジオ A 材料工学R&Dスタジオ B
専	准教授	オザキ シンゴ 尾崎 伸吾 〈平成30年4月〉
		連続体力学 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 加工システム設計A 加工システム設計B 加工システム製作A 加工システム製作B
専	准教授	カトウ リュウ 加藤 龍 〈平成30年4月〉
		サイバーロボティクス 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 統合システム設計A 統合システム設計B 統合システム製作A 統合システム製作B
専	准教授	キタムラ ケイイチ 北村 圭一 〈平成30年4月〉
		機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 圧縮性流体力学 航空宇宙工学演習C 航空宇宙工学演習D 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B 航空宇宙システムスタジオA

		航空宇宙システムスタジオB
専	准教授	サカイ セイゴ 酒井 清吾 〈平成30年4月〉
		複合伝熱論 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B
		シノヅカ ジュン 篠塚 淳 〈平成30年4月〉
専	准教授	高速機械加工論 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 加工システム設計A 加工システム設計B 加工システム製作A 加工システム製作B
		タカオ ヨシノリ 鷹尾 祥典 〈平成30年4月〉
		宇宙推進工学 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 航空宇宙工学演習C 航空宇宙工学演習D 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B 航空宇宙システムスタジオA 航空宇宙システムスタジオB
専	准教授	タカギ ヨウヘイ 高木 洋平 〈平成30年4月〉
		乱流工学概論 海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋空間システムデザイン演習C 海洋空間システムデザイン演習D 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 日伯特別講義 A 日伯特別講義 B 日伯特別講義 C 日伯特別講義 D 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 海洋空間流体力学スタジオA 海洋空間流体力学スタジオB 海洋空間R&Dスタジオ A 海洋空間R&Dスタジオ B
		ナカツガワ ヒロシ 中津川 博 〈平成30年4月〉
専	教授	理工学府MPBL 固体物性学 材料工学演習A 材料工学演習B 材料工学演習C 材料工学演習D 材料工学インターンシップ L 材料工学インターンシップ M 材料工学インターンシップ S 材料設計スタジオ 材料創製スタジオ 材料工学R&Dスタジオ A 材料工学R&Dスタジオ B

		航空宇宙システムスタジオB
専	准教授	サカイ セイゴ 酒井 清吾 〈平成30年4月〉
		複合伝熱論 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B
		シノヅカ ジュン 篠塚 淳 〈平成30年4月〉
専	准教授	高速機械加工論 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 加工システム設計A 加工システム設計B 加工システム製作A 加工システム製作B
		タカオ ヨシノリ 鷹尾 祥典 〈平成30年4月〉
		宇宙推進工学 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 航空宇宙工学演習C 航空宇宙工学演習D 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B 航空宇宙システムスタジオA 航空宇宙システムスタジオB
専	准教授	タカギ ヨウヘイ 高木 洋平 〈平成30年4月〉
		乱流工学概論 海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋空間システムデザイン演習C 海洋空間システムデザイン演習D 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 日伯特別講義 A 日伯特別講義 B 日伯特別講義 C 日伯特別講義 D 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 海洋空間流体力学スタジオA 海洋空間流体力学スタジオB 海洋空間R&Dスタジオ A 海洋空間R&Dスタジオ B
		ナカツガワ ヒロシ 中津川 博 〈平成30年4月〉
専	教授	理工学府MPBL 固体物性学 材料工学演習A 材料工学演習B 材料工学演習C 材料工学演習D 材料工学インターンシップ L 材料工学インターンシップ M 材料工学インターンシップ S 材料設計スタジオ 材料創製スタジオ 材料工学R&Dスタジオ A 材料工学R&Dスタジオ B

専	准教授	ニシ ヨシキ 西 佳樹 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 海洋資源エネルギー工学入門 海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋空間システムデザイン演習C 海洋空間システムデザイン演習D 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 日伯特別講義 A 日伯特別講義 B 日伯特別講義 C 日伯特別講義 D 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 海洋空間利用スタジオA 海洋空間利用スタジオB マリタイムフロンティアサイエンススタジオA マリタイムフロンティアサイエンススタジオB 海洋空間R&Dスタジオ A 海洋空間R&Dスタジオ B
		ハセガワ マコト 長谷川 誠 〈平成30年4月〉
		材料工学演習A 材料工学演習B 材料工学演習C 材料工学演習D 材料工学インターンシップ L 材料工学インターンシップ M 材料工学インターンシップ S 材料強度・破壊力学特論 航空宇宙工学演習C 航空宇宙工学演習D 組織制御スタジオ 材料特性スタジオ 材料工学R&Dスタジオ A 材料工学R&Dスタジオ B 航空宇宙システムスタジオA 航空宇宙システムスタジオB
		ヒグチ タケヒロ 樋口 丈浩 〈平成30年4月〉
航空宇宙利用工学 海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 航空宇宙工学演習C 航空宇宙工学演習D 海洋空間R&Dスタジオ A 海洋空間R&Dスタジオ B 航空宇宙システムスタジオA 航空宇宙システムスタジオB		
専	准教授	ヒヤクタク トオル 百武 徹 〈平成30年4月〉
		応用流体力学 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B
専	准教授	ヒラカワ ヨシアキ 平川 嘉昭 〈平成30年4月〉
		波浪と船体運動 海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋空間システムデザイン演習C 海洋空間システムデザイン演習D 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 日伯特別講義 A

専	准教授	ニシ ヨシキ 西 佳樹 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 海洋資源エネルギー工学入門 海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋空間システムデザイン演習C 海洋空間システムデザイン演習D 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 日伯特別講義 A 日伯特別講義 B 日伯特別講義 C 日伯特別講義 D 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 海洋空間利用スタジオA 海洋空間利用スタジオB マリタイムフロンティアサイエンススタジオA マリタイムフロンティアサイエンススタジオB 海洋空間R&Dスタジオ A 海洋空間R&Dスタジオ B
		ハセガワ マコト 長谷川 誠 〈平成30年4月〉
		材料工学演習A 材料工学演習B 材料工学演習C 材料工学演習D 材料工学インターンシップ L 材料工学インターンシップ M 材料工学インターンシップ S 材料強度・破壊力学特論 航空宇宙工学演習C 航空宇宙工学演習D 組織制御スタジオ 材料特性スタジオ 材料工学R&Dスタジオ A 材料工学R&Dスタジオ B 航空宇宙システムスタジオA 航空宇宙システムスタジオB
		ヒグチ タケヒロ 樋口 丈浩 〈平成30年4月〉
航空宇宙利用工学 海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 航空宇宙工学演習C 航空宇宙工学演習D 海洋空間R&Dスタジオ A 海洋空間R&Dスタジオ B 航空宇宙システムスタジオA 航空宇宙システムスタジオB		
専	准教授	ヒヤクタク トオル 百武 徹 〈平成30年4月〉
		応用流体力学 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B
専	准教授	ヒラカワ ヨシアキ 平川 嘉昭 〈平成30年4月〉
		波浪と船体運動 海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋空間システムデザイン演習C 海洋空間システムデザイン演習D 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 日伯特別講義 A



		日伯特別講義 B 日伯特別講義 C 日伯特別講義 D 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 海洋空間流体力学スタジオA 海洋空間流体力学スタジオB 海洋空間R&Dスタジオ A 海洋空間R&Dスタジオ B
専	准教授	フチワキ オオミ 淵脇 大海 <平成30年4月> アクチュエータ設計論 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 統合システム設計A 統合システム設計B 統合システム製作A 統合システム製作B
専	准教授	マエダ ユウスケ 前田 雄介 <平成30年4月> 知能ロボットエージェント 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 統合システム設計A 統合システム設計B 統合システム製作A 統合システム製作B
専	准教授	マエノ トモヨシ 前野 智美 <平成30年4月> 成形加工学 材料工学演習A 材料工学演習B 材料工学演習C 材料工学演習D 材料工学インターンシップ L 材料工学インターンシップ M 材料工学インターンシップ S 材料創製スタジオ 材料特性スタジオ 材料工学R&Dスタジオ A 材料工学R&Dスタジオ B
専	准教授	ミヤジ コウジ 宮路 幸二 <平成30年4月> 海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 航空機空力設計論 航空宇宙工学演習C 航空宇宙工学演習D 海洋空間R&Dスタジオ A 海洋空間R&Dスタジオ B 航空宇宙システムスタジオA 航空宇宙システムスタジオB

		日伯特別講義 B 日伯特別講義 C 日伯特別講義 D 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 海洋空間流体力学スタジオA 海洋空間流体力学スタジオB 海洋空間R&Dスタジオ A 海洋空間R&Dスタジオ B
専	准教授	フチワキ オオミ 淵脇 大海 <平成30年4月> アクチュエータ設計論 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 統合システム設計A 統合システム設計B 統合システム製作A 統合システム製作B
専	准教授	マエダ ユウスケ 前田 雄介 <平成30年4月> 知能ロボットエージェント 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 統合システム設計A 統合システム設計B 統合システム製作A 統合システム製作B
専	准教授	マエノ トモヨシ 前野 智美 <平成30年4月> 成形加工学 材料工学演習A 材料工学演習B 材料工学演習C 材料工学演習D 材料工学インターンシップ L 材料工学インターンシップ M 材料工学インターンシップ S 材料創製スタジオ 材料特性スタジオ 材料工学R&Dスタジオ A 材料工学R&Dスタジオ B
専	准教授	ミツユキ タイガ 満行 泰河 <平成30年4月> 船舶設計システム工学論 海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋空間システムデザイン演習C 海洋空間システムデザイン演習D 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 日伯特別講義A 日伯特別講義B 日伯特別講義C 日伯特別講義D 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 海洋空間構造力学スタジオA 海洋空間構造力学スタジオB 海洋空間R&DスタジオA 海洋空間R&DスタジオB
専	准教授	ミヤジ コウジ 宮路 幸二 <平成30年4月> 海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 航空機空力設計論 航空宇宙工学演習C 航空宇宙工学演習D 海洋空間R&Dスタジオ A 海洋空間R&Dスタジオ B 航空宇宙システムスタジオA 航空宇宙システムスタジオB

専	准教授	ムライ モトヒコ 村井 基彦 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 浮体運動工学 海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋空間システムデザイン演習C 海洋空間システムデザイン演習D 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 日伯特別講義 A 日伯特別講義 B 日伯特別講義 C 日伯特別講義 D 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 海洋空間利用スタジオA 海洋空間利用スタジオB マリタイムフロンティアサイエンススタジオA マリタイムフロンティアサイエンススタジオB 海洋空間R&Dスタジオ A 海洋空間R&Dスタジオ B
専	講師	クマガイ ヨリノリ 熊谷 頼範 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 加工システム設計A 加工システム設計B 加工システム製作A 加工システム製作B 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B 統合システム設計A 統合システム設計B 統合システム製作A 統合システム製作B
専	講師	サカキダ アキヒロ 榊田 明宏 〈平成30年4月〉
		機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 加工システム設計A 加工システム設計B 加工システム製作A 加工システム製作B 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B 統合システム設計A 統合システム設計B 統合システム製作A 統合システム製作B
専	講師	スギウチ ハジメ 杉内 肇 〈平成30年4月〉
		アドバンスト ロボティクス 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 統合システム設計A 統合システム設計B 統合システム製作A 統合システム製作B
兼任	教授	ウメハラ イズル 梅原 出 〈平成30年4月〉
兼任	教授	オオヤマ トシユキ 大山 俊幸 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 高分子設計学

専	准教授	ムライ モトヒコ 村井 基彦 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 浮体運動工学 海洋宇宙システム工学演習A 海洋宇宙システム工学演習B 海洋空間システムデザイン演習C 海洋空間システムデザイン演習D 海洋宇宙システム工学学外演習 海洋宇宙システム工学海外特別研修 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 日伯特別講義 A 日伯特別講義 B 日伯特別講義 C 日伯特別講義 D 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS 海洋空間利用スタジオA 海洋空間利用スタジオB マリタイムフロンティアサイエンススタジオA マリタイムフロンティアサイエンススタジオB 海洋空間R&Dスタジオ A 海洋空間R&Dスタジオ B
専	講師	クマガイ ヨリノリ 熊谷 頼範 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 加工システム設計A 加工システム設計B 加工システム製作A 加工システム製作B 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B 統合システム設計A 統合システム設計B 統合システム製作A 統合システム製作B
専	講師	サカキダ アキヒロ 榊田 明宏 〈平成30年4月〉
		機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 加工システム設計A 加工システム設計B 加工システム製作A 加工システム製作B 熱流体システム設計A 熱流体システム設計B 熱流体システム製作A 熱流体システム製作B 統合システム設計A 統合システム設計B 統合システム製作A 統合システム製作B
専	講師	スギウチ ハジメ 杉内 肇 〈平成30年4月〉
		アドバンスト ロボティクス 機械工学演習A 機械工学演習B 機械工学演習C 機械工学演習D 機械工学インターンシップL 機械工学インターンシップM 機械工学インターンシップS 統合システム設計A 統合システム設計B 統合システム製作A 統合システム製作B
兼任	教授	ウメハラ イズル 梅原 出 〈平成30年4月〉
兼任	教授	オオヤマ トシユキ 大山 俊幸 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 高分子設計学

兼任	教授	オカザキ シンジ 岡崎 慎司 〈平成30年4月〉
		プロセス計測学
兼任	教授	オクヤマ クニト 奥山 邦人 〈平成30年4月〉
		伝熱工学特論
兼任	教授	カジワラ タケシ 梶原 健 〈平成30年4月〉
		数理科学 代数
兼任	教授	クボタ ヨシヒロ 窪田 好浩 〈平成30年4月〉
		触媒化学
兼任	教授	クロキ マナブ 黒木 学 〈平成30年4月〉
		数理科学 データ・サイエンス
兼任	教授	コウノ リュウジ 河野 隆二 〈平成30年4月〉
		アドバンスデジタル通信
兼任	教授	コンノ ノリオ 今野 紀雄 〈平成30年4月〉
		数理科学 確率・統計
兼任	教授	シオジ ナオキ 塩路 直樹 〈平成30年4月〉
		数理科学 解析
兼任	教授	シュウサ ヨシカズ 周佐 喜和 〈平成30年4月〉
		イノベーションと課題発見Ⅰ イノベーションと課題発見Ⅱ
兼任	教授	タカミザワ ミノル 高見澤 実 〈平成30年4月〉
		イノベーションと課題発見Ⅰ イノベーションと課題発見Ⅱ
兼任	教授	タメチカ エミ 為近 恵美 〈平成30年4月〉
		イノベーションと起業Ⅱ イノベーションと課題発見Ⅰ イノベーションと課題発見Ⅱ
兼任	教授	ドッコ カオル 獨古 薫 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼任	教授	ハネジ ノブオ 羽路 伸夫 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL イノベーションと起業Ⅱ イノベーションと課題発見Ⅰ イノベーションと課題発見Ⅱ
兼任	教授	ハブカ ヒトシ 羽深 等 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼任	教授	ハマガミ トモキ 濱上 知樹 〈平成30年4月〉
		知能システム論
兼任	教授	フジモト ヤスタカ 藤本 康孝 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼任	教授	ミツシマ シゲノリ 光島 重徳 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 先端燃料電池技術
兼任	教授	ヤマモト イサオ 山本 勲 〈平成30年4月〉
		磁気科学概論

兼任	教授	オカザキ シンジ 岡崎 慎司 〈平成30年4月〉
		プロセス計測学
兼任	教授	オクヤマ クニト 奥山 邦人 〈平成30年4月〉
		伝熱工学特論
兼任	教授	カジワラ タケシ 梶原 健 〈平成30年4月〉
		数理科学 代数
兼任	教授	クボタ ヨシヒロ 窪田 好浩 〈平成30年4月〉
		触媒化学
兼任	教授	クロキ マナブ 黒木 学 〈平成30年4月〉
		数理科学 データ・サイエンス
兼任	教授	コウノ リュウジ 河野 隆二 〈平成30年4月〉
		アドバンスデジタル通信
兼任	教授	コンノ ノリオ 今野 紀雄 〈平成30年4月〉
		数理科学 確率・統計
兼任	教授	シオジ ナオキ 塩路 直樹 〈平成30年4月〉
		数理科学 解析
兼任	教授	シュウサ ヨシカズ 周佐 喜和 〈平成30年4月〉
		イノベーションと課題発見Ⅰ イノベーションと課題発見Ⅱ
兼任	教授	タカミザワ ミノル 高見澤 実 〈平成30年4月〉
		イノベーションと課題発見Ⅰ イノベーションと課題発見Ⅱ
兼任	教授	タメチカ エミ 為近 恵美 〈平成30年4月〉
		イノベーションと起業Ⅱ イノベーションと課題発見Ⅰ イノベーションと課題発見Ⅱ <b>神奈川県を取り組む技術課題</b>
兼任	教授	ドッコ カオル 獨古 薫 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼任	教授	ハネジ ノブオ 羽路 伸夫 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL イノベーションと起業Ⅱ イノベーションと課題発見Ⅰ イノベーションと課題発見Ⅱ
兼任	教授	ハブカ ヒトシ 羽深 等 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼任	教授	ハマガミ トモキ 濱上 知樹 〈平成30年4月〉
		知能システム論
兼任	教授	フジモト ヤスタカ 藤本 康孝 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼任	教授	ミツシマ シゲノリ 光島 重徳 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 先端燃料電池技術
兼任	教授	ヤマモト イサオ 山本 勲 〈平成30年4月〉
		磁気科学概論

兼担	教授	ヨシカワ ノブユキ 吉川 信行 〈平成30年4月〉
		VLSIシステム設計 先端エレクトロニクス製品アーキテクチャ講座
兼担	教授	イチヤナギ ユウコ 一柳 優子 〈平成30年4月〉
		ナノ物性物理学
兼担	教授	ウエハラ マサトモ 上原 政智 〈平成30年4月〉
		磁気科学概論
兼担	准教授	クラモト テツジ 蔵本 哲治 〈平成30年4月〉
		量子統計力学
兼担	准教授	サトウ コウタ 佐藤 浩太 〈平成30年4月〉
		量子反応論
兼担	准教授	シマヅ ヨシヒロ 島津 佳弘 〈平成30年4月〉
		ナノ物性物理学
兼担	准教授	タケイ マサト 竹居 正登 〈平成30年4月〉
		数理学 確率・統計
兼担	准教授	タニムラ マコト 谷村 誠 〈平成30年4月〉
		先端機器分析特論
兼担	准教授	ツシマ アキラ 津嶋 晴 〈平成30年4月〉
		プラズマ物理
兼担	准教授	ナカムラ ショウゴ 中村 正吾 〈平成30年4月〉
		宇宙素粒子物理学概論
兼担	准教授	ホンダ アツフミ 本田 淳史 〈平成30年4月〉
		数理学 幾何
兼担	准教授	モリ ショウジ 森 昌司 〈平成30年4月〉
		伝熱工学特論
兼担	講師	アイハラ マサヒコ 相原 雅彦 〈平成30年4月〉
		移動現象特論
兼担	講師	サコムラ マサル 迫村 勝 〈平成30年4月〉
		分子統計力学
兼任	講師	アリマ トシロウ 有馬 俊朗 〈平成30年4月〉
		リスクベースによる規則制定手法
兼任	講師	アンドウ ヨシタカ 安藤 吉隆 〈平成30年4月〉
		Presentation English
兼任	講師	ユアサ カズアキ 湯浅 和昭 〈平成30年4月〉
		リスクベースによる規則制定手法
兼任	講師	イトウ ヤスユキ 伊東康之 〈平成30年4月〉
		宇宙機システム学特論
兼任	講師	イナダ マサトシ 稲田 正俊 〈平成30年4月〉
		Presentation English S, Basic Level Presentation English F, Basic Level Professional Ethics in EU & US

兼担	教授	ヨシカワ ノブユキ 吉川 信行 〈平成30年4月〉
		VLSIシステム設計 先端エレクトロニクス製品アーキテクチャ講座
兼担	教授	イチヤナギ ユウコ 一柳 優子 〈平成30年4月〉
		ナノ物性物理学
兼担	教授	ウエハラ マサトモ 上原 政智 〈平成30年4月〉
		磁気科学概論
兼担	教授	ヤブウチ ナオアキ 藪内 直明 〈平成30年4月〉
		固体化学
兼担	准教授	クラモト テツジ 蔵本 哲治 〈平成30年4月〉
		量子統計力学
兼担	准教授	サトウ コウタ 佐藤 浩太 〈平成30年4月〉
		量子反応論
兼担	准教授	シマヅ ヨシヒロ 島津 佳弘 〈平成30年4月〉
		ナノ物性物理学
兼担	准教授	タケイ マサト 竹居 正登 〈平成30年4月〉
		数理学 確率・統計
兼担	准教授	タニムラ マコト 谷村 誠 〈平成30年4月〉
		先端機器分析特論
兼担	准教授	ツシマ アキラ 津嶋 晴 〈平成30年4月〉
		プラズマ物理
兼担	准教授	ナカムラ ショウゴ 中村 正吾 〈平成30年4月〉
		宇宙素粒子物理学概論
兼担	准教授	ホンダ アツフミ 本田 淳史 〈平成30年4月〉
		数理学 幾何
兼担	准教授	モリ ショウジ 森 昌司 〈平成30年4月〉
		伝熱工学特論
兼担	講師	アイハラ マサヒコ 相原 雅彦 〈平成30年4月〉
		移動現象特論
兼担	講師	サコムラ マサル 迫村 勝 〈平成30年4月〉
		分子統計力学
兼任	講師	アリマ トシロウ 有馬 俊朗 〈平成30年4月〉
		リスクベースによる規則制定手法
兼任	講師	アンドウ ヨシタカ 安藤 吉隆 〈平成30年4月〉
		Presentation English
兼任	講師	ユアサ カズアキ 湯浅 和昭 〈平成30年4月〉
		リスクベースによる規則制定手法
兼任	講師	イトウ ヤスユキ 伊東康之 〈平成30年4月〉
		宇宙機システム学特論
兼任	講師	イナダ マサトシ 稲田 正俊 〈平成30年4月〉
		Presentation English S, Basic Level Presentation English F, Basic Level Professional Ethics in EU & US

兼任	講師	イワクマ マキ 岩熊 眞起 〈平成30年4月〉
		プロフェッショナルエンジニア I プロフェッショナルエンジニア II
兼任	講師	オカダ シゲオ 岡田 恵夫 〈平成30年4月〉
		リスクマネジメントのための技術者倫理
兼任	講師	カドノ マサキ 角野 仁基 〈平成30年4月〉
		プロジェクトマネジメント I プロジェクトマネジメント II
兼任	講師	カヤブキ タダシ 萱葺 正 〈平成30年4月〉
		Presentation English S, Basic Level Presentation English F, Basic Level
兼任	講師	キクチ ヨシミ 菊池 慶実 〈平成30年4月〉
		微生物応用学
兼任	講師	キタガワ タツオ 北川 達夫 〈平成30年4月〉
		Professional Ethics in EU & US
兼任	講師	コミヤマ リョウイチ 小宮山 涼一 〈平成30年4月〉
		エネルギーシステム論
兼任	講師	ゴンダ カズヒト 権田 和士 〈平成30年4月〉
		グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル
兼任	講師	サイトウ ヨシヨリ 齊藤 義順 〈平成30年4月〉
		リスクマネジメントのための技術者倫理 プロフェッショナルエンジニア I プロフェッショナルエンジニア II
兼任	講師	サトウ クニヒト 佐藤 国仁 〈平成30年4月〉
		リスクマネジメントのための技術者倫理 プロフェッショナルエンジニア I プロフェッショナルエンジニア II
兼任	講師	ヨシダ コウイチ 吉田 公一 〈平成30年4月〉
		リスクベースによる規則制定手法
兼任	講師	セキ イワオ 関 巖 〈平成30年4月〉
		グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル
兼任	講師	タカシナ ジュンシ 高品 純志 〈平成30年4月〉
		海洋産業特論
兼任	講師	ナガセ ツネヒサ 永瀬 恒久 〈平成30年4月〉
		グローバル企業における効果的な事業計画策定
兼任	講師	ナツイサカ マコト 夏井坂 誠 〈平成30年4月〉
		宇宙環境利用科学
兼任	講師	ハシモト ヨシヘイ 橋本 義平 〈平成30年4月〉
		リスクマネジメントのための技術者倫理 プロフェッショナルエンジニア I プロフェッショナルエンジニア II
兼任	講師	フジイ ヤスマサ 藤井 康正 〈平成30年4月〉
		エネルギーシステム論
兼任	講師	マツキ タケオ 松木 武雄 〈平成30年4月〉
		マテリアルインテグレーション
兼任	講師	ムラタ シゲル 村田 滋 〈平成30年4月〉
		有機光化学

兼任	講師	イワクマ マキ 岩熊 眞起 〈平成30年4月〉
		プロフェッショナルエンジニア I プロフェッショナルエンジニア II
兼任	講師	オカダ シゲオ 岡田 恵夫 〈平成30年4月〉
		リスクマネジメントのための技術者倫理
兼任	講師	カドノ マサキ 角野 仁基 〈平成30年4月〉
		プロジェクトマネジメント I プロジェクトマネジメント II
兼任	講師	カヤブキ タダシ 萱葺 正 〈平成30年4月〉
		Presentation English S, Basic Level Presentation English F, Basic Level
兼任	講師	キクチ ヨシミ 菊池 慶実 〈平成30年4月〉
		微生物応用学
兼任	講師	キタガワ タツオ 北川 達夫 〈平成30年4月〉
		Professional Ethics in EU & US
兼任	講師	コミヤマ リョウイチ 小宮山 涼一 〈平成30年4月〉
		エネルギーシステム論
兼任	講師	サイトウ ヨシヨリ 齊藤 義順 〈平成30年4月〉
		リスクマネジメントのための技術者倫理 プロフェッショナルエンジニア I プロフェッショナルエンジニア II
兼任	講師	サトウ クニヒト 佐藤 国仁 〈平成30年4月〉
		リスクマネジメントのための技術者倫理 プロフェッショナルエンジニア I プロフェッショナルエンジニア II
兼任	講師	ヨシダ コウイチ 吉田 公一 〈平成30年4月〉
		リスクベースによる規則制定手法
兼任	講師	タカシナ ジュンシ 高品 純志 〈平成30年4月〉
		海洋産業特論
兼任	講師	ナツイサカ マコト 夏井坂 誠 〈平成30年4月〉
		宇宙環境利用科学
兼任	講師	ハシモト ヨシヘイ 橋本 義平 〈平成30年4月〉
		リスクマネジメントのための技術者倫理 プロフェッショナルエンジニア I プロフェッショナルエンジニア II
兼任	講師	フジイ ヤスマサ 藤井 康正 〈平成30年4月〉
		エネルギーシステム論
兼任	講師	マツキ タケオ 松木 武雄 〈平成30年4月〉
		マテリアルインテグレーション
兼任	講師	ムラタ シゲル 村田 滋 〈平成30年4月〉
		有機光化学

兼任	講師	ヤマグチ ヒロシ 山口 博 〈平成30年4月〉 グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル
兼任	講師	シモノ マサト 下野 昌人 〈平成30年4月〉 材料組織計算学 材料工学インターンシップ L 材料工学インターンシップ M 材料工学インターンシップ S
兼任	講師	デムラ マサヒコ 出村 雅彦 〈平成30年4月〉 材料組織設計学特論 材料工学インターンシップ L 材料工学インターンシップ M 材料工学インターンシップ S
兼任	講師	トダ ヨシアキ 戸田 佳明 〈平成30年4月〉 高温構造材料設計工学 材料工学インターンシップ L 材料工学インターンシップ M 材料工学インターンシップ S
兼任	講師	カトウ シュンジ 加藤 俊司 〈平成30年4月〉 海洋開発工学 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS
兼任	講師	フクト ジュンジ 福戸 淳司 〈平成30年4月〉 海上交通安全工学 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS
兼任	講師	イトウ（アンドウ） ヒロコ 伊藤（安藤） 博子 〈平成30年4月〉 海上交通安全工学 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS
兼任	講師	ショウキ ヒロキ 庄木 裕樹 〈平成30年4月〉 信号理論
兼任	講師	
兼任	講師	
兼任	講師	
兼任	講師	
兼任	講師	
兼任	講師	
兼任	講師	
兼任	講師	
兼任	講師	

兼任	講師	ヤマグチ ヒロシ 山口 博 〈平成30年4月〉 グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル
兼任	講師	シモノ マサト 下野 昌人 〈平成30年4月〉 材料組織計算学 材料工学インターンシップ L 材料工学インターンシップ M 材料工学インターンシップ S
兼任	講師	トダ ヨシアキ 戸田 佳明 〈平成30年4月〉 高温構造材料設計工学 材料工学インターンシップ L 材料工学インターンシップ M 材料工学インターンシップ S
兼任	講師	カトウ シュンジ 加藤 俊司 〈平成30年4月〉 海洋開発工学 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS
兼任	講師	フクト ジュンジ 福戸 淳司 〈平成30年4月〉 海上交通安全工学 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS
兼任	講師	イトウ（アンドウ） ヒロコ 伊藤（安藤） 博子 〈平成30年4月〉 海上交通安全工学 海洋空間実践演習 海洋宇宙システム工学実践演習 海洋宇宙システム工学インターンシップL 海洋宇宙システム工学インターンシップM 海洋宇宙システム工学インターンシップS
兼任	講師	ショウキ ヒロキ 庄木 裕樹 〈平成30年4月〉 信号理論
兼任	講師	オオツカ タケヒロ 大塚 剛宏 〈平成30年4月〉 Professional Ethics in EU & US
兼任	講師	エトウ マナブ 江藤 学 〈平成30年4月〉 標準化とビジネス
兼任	講師	イズミ アキラ 和泉 章 〈平成30年4月〉 標準化とビジネス
兼任	講師	カバタ ヤスオ 加幡 安雄 〈平成30年4月〉 エネルギー機械システム設計
兼任	講師	イワキ チカコ 岩城 智香子 〈平成30年4月〉 エネルギー機械システム設計
兼任	講師	ワダ クニヒコ 和田 国彦 〈平成30年4月〉 エネルギー機械システム設計
兼任	講師	フナカワ ヨシマサ 船川 義正 〈平成30年4月〉 構造材料特論
兼任	講師	カンベ ヒロシ 神戸 洋史 〈平成30年4月〉 構造材料特論

兼任	講師	
兼任	講師	
兼任	講師	

兼任	講師	ナカジマ ヤスハル 中島 康晴 〈平成30年4月〉 海洋開発工学
兼任	講師	ナガトク ユウジ 長徳 裕司 〈平成30年4月〉 グローバル企業における効果的な事業計画策定
兼任	講師	ミタライ ヨウコ 御手洗 容子 〈平成30年4月〉 材料組織設計学特論

- (注)
- ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。  
その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
  - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
  - ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、結めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- 平成30年4月：大竹充准教授就任（平成30年2月教員審査済み）。
- 平成30年4月：満行泰河准教授就任（平成30年2月教員審査済み）。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- 認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。
  - 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
  - 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
16	11	0
名	名	名

- (注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)	教授	准教授	講師	助教	計(C)
18	20	3	5	46	18	22	3	5	48	18	22	3	5	48
(18)	(22)	(3)	(5)	(46)						[ 0 ]	[ 2 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
39	2	5			41	2	5			41	2	5		
(41)	(2)	(5)								[ 2 ]	[ 0 ]	[ 0 ]		

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。
- 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
  - 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
  - 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{48}{46} = \boxed{104.34} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{48} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。



(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1			該当なし		①		
					②		
					③		
合計（D）				後任補充状況の集計（E）			
就任を辞退した教員数	担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1			該当なし		①		
					②		
					③		
合計（F）				後任補充状況の集計（G）			
辞任した教員数	担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）			
辞任等した教員数	担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{46} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1				該当なし			
合計			後任補充状況の集計				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および ( ) 書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<div style="border: 1px solid black; width: 200px; height: 30px; margin: auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <span style="font-size: 1.2em;">該当なし</span> </div>
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時  (平成29年8月)		<div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 10px; display: inline-block;">                     該当なし                 </div>	
設置計画履行状況 調 査 時 (平成31年2月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (平成32年2月)			

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、**当該大学に付された意見を全て記入**するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

## 7 その他全般的事項

<大学院理工学府 機械・材料・海洋系工学専攻（博士課程前期）>

### （1）設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① 修了要件として専攻が指定する科目及びモジュール構成科目</p> <p>② 取得可能な教職免許状</p> <p>機械・材料・海洋系工学専攻では中学校及び高等学校理科の専修免許状の課程認定を受け、以下に示す専修免許状の取得を可能にする。</p> <p>（認定を受ける免許状の種類）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校教諭専修免許状（理科）</li> <li>・高等学校教諭専修免許状（理科）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育内容充実のため、修了要件として専攻が指定する科目群に2科目を追加（別添「新旧対照表」参照）。</li> <li>・教育内容充実のため、モジュール構成科目群に5科目を追加（別添①「新旧対照表」参照）。</li> <li>・機械・材料・海洋系工学専攻（博士課程前期）のアドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに照らし合わせて、左記専修免許状取得のニーズは極めて少ないと判断し、課程認定申請の取り下げを決定し、その他のカリキュラム等の充実を図ることに注力することとした。</li> </ul>

（注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### （2）教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>横浜国立大学では、平成28年度に発足した高大接続・全学教育推進センターが中心となって教員の資質の維持向上、FD活動を行っている。理工学府からセンター教育開発・学修支援部会委員を1名選出し、学部内でのFD活動等の連絡、調整、実施を主に担当する。</p> <p>○別添② 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則</p> <p>○別添③ 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センターに置く会議の組織運営に関する規則</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>定例の高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会は月1回開催。（参加教員14名）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>学生IR、高大接続、全学教育、および教育開発・学修支援に関する事項。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>高大接続・全学教育推進センターが行う活動に学府として協力、実施する。</p> <p>各種研修会（TA研修会等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FDフォーラム開催</li> <li>・公開授業開催</li> <li>・ベストティーチャー表彰</li> <li>・シラバス改善（ルーブリックの利用等）</li> <li>・学生調査</li> </ul> <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各内容に即し、全学でコーディネートして実施する。</li> </ul>
--

c 開催状況(教員の参加状況含む)

- ・今年度4月時点ではまだ特別な行事の開催はないが、今後開催される予定。  
昨年度は、理工学府担当(予定)教員を集めた集会においてセミナーを2回(7月と12月)開催した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・高大接続・全学教育推進センターの指針に基づきルーブリックを含むシラバスを作成した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- 各ターム終了時に授業評価を実施予定。実施結果に基づき自己点検表を作成する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- 基本的にホームページ上で公開する。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

開講時期の変更など軽微な変更はあるものの、履修案内やオリエンテーション等において学生に十分な説明を行っているため、学生の履修に影響はない。設置の趣旨・目的の完全な達成に向けて、理工学府担当の教員が平成30年4月から予定通り授業を開始しており、当初設定のカリキュラムの遂行を実現していく予定で、設置趣旨・目的の完全な実現をはかる。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

未定

b 公表方法

未定

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成33年度に評価機関(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構)の評価を受けるべく、学内で検討中

(注)・設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表(予定)の有無 (  有  無 )

b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期 ( 平成30年7月1日 )

(注)・「a ホームページに公表(予定)有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。  
・「b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期」には、「a ホームページに公表(予定)有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

7 その他全般的事項

<大学院理工学府 機械・材料・海洋系工学専攻（博士課程前期）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容
<p>専攻が指定する科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機械・材料・海洋系工学専攻 工学 (TED) プログラム 専門科目 (学位専門分野の開講する研究指導科目 4 単位以上を含む)</li> </ul> <p>○材料工学分野：固体物性学，拡散変態特論，先端材料工学特論，材料組織計算学，高温構造材料設計工学，材料組織設計学特論，材料工学インターンシップ L，材料工学インターンシップ M，材料工学インターンシップ S，材料工学演習 A，材料工学演習 B，材料工学演習 C**，材料工学演習 D**</p>	<p><b>教育内容充実のため、修了要件として専攻が指定する科目群に下線部のとおり 2 科目を追加した。</b></p> <p>専攻が指定する科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機械・材料・海洋系工学専攻 工学 (TED) プログラム 専門科目 (学位専門分野の開講する研究指導科目 4 単位以上を含む)</li> </ul> <p>○材料工学分野：固体物性学，拡散変態特論，先端材料工学特論，材料組織計算学，高温構造材料設計工学，材料組織設計学特論，材料工学インターンシップ L，材料工学インターンシップ M，材料工学インターンシップ S，材料工学演習 A，材料工学演習 B，材料工学演習 C**，材料工学演習 D**，<u>ナノ材料工学概論，構造材料特論</u></p> <p><b>教育内容充実のため、モジュール構成科目群に下線部のとおり 5 科目を追加した。</b></p> <p>工学 (PED) プログラムにおけるモジュール構成科目</p> <p>○(1)~(6)のモジュールに対するモジュール構成科目： 数理科学 代数，メカトロニクスデザイン，リスクマネジメントのための技術者倫理，光・電子材料学概論，高速機械加工論，破壊強度学，希薄気体力学，アドバンストロボティクス，連続体力学，応用流体力学，強度設計特論，アクチュエータ設計論，マイクロマシン工学，複合伝熱論，応用熱流体工学，サイバーロボティクス，圧縮性流体力学，乱流現象論，マシндаイナミクス，システムモデリングと制御，知能ロボットエージェント，反応性気体力学，機械工学インターンシップ L，<u>機械工学インターンシップ M</u>，<u>機械工学インターンシップ S</u>，<u>エネルギー機械システム設計</u></p>
<p>工学 (PED) プログラムにおけるモジュール構成科目</p> <p>○(1)~(6)のモジュールに対するモジュール構成科目： 数理科学 代数，メカトロニクスデザイン，リスクマネジメントのための技術者倫理，光・電子材料学概論，高速機械加工論，破壊強度学，希薄気体力学，アドバンストロボティクス，連続体力学，応用流体力学，強度設計特論，アクチュエータ設計論，マイクロマシン工学，複合伝熱論，応用熱流体工学，サイバーロボティクス，圧縮性流体力学，乱流現象論，マシндаイナミクス，システムモデリングと制御，知能ロボットエージェント，反応性気体力学，機械工学インターンシップ L，<u>機械工学インターンシップ M</u>，<u>機械工学インターンシップ S</u></p>	<p>工学 (PED) プログラムにおけるモジュール構成科目</p> <p>○(1)~(6)のモジュールに対するモジュール構成科目： 数理科学 代数，メカトロニクスデザイン，リスクマネジメントのための技術者倫理，光・電子材料学概論，高速機械加工論，破壊強度学，希薄気体力学，アドバンストロボティクス，連続体力学，応用流体力学，強度設計特論，アクチュエータ設計論，マイクロマシン工学，複合伝熱論，応用熱流体工学，サイバーロボティクス，圧縮性流体力学，乱流現象論，マシндаイナミクス，システムモデリングと制御，知能ロボットエージェント，反応性気体力学，機械工学インターンシップ L，<u>機械工学インターンシップ M</u>，<u>機械工学インターンシップ S</u>，<u>エネルギー機械システム設計</u></p>

○(7)～(8)のモジュールに対するモジュール構成科目：  
 固体物性学，拡散変態特論，材料組織計算学，高温構造材料設計工学，材料組織  
 設計学特論，材料工学インテンシブL，材料工学インテンシブM，材料  
 工学インテンシブS

○(9)～(10)のモジュールに対するモジュール構成科目：  
 数値流体解析演習，数値構造解析演習，乱流工学概論，航空宇宙利用工学，船舶  
 海洋構造設計学，浮体運動工学，海洋開発工学，海上交通安全工学，リスクベ  
 スによる規則制定手法，海洋産業特論，宇宙航行体軌道論，航空機空力設計論，  
 宇宙環境利用科学，宇宙機システム学特論，海洋宇宙システム工学外演習，海  
 洋宇宙システム工学海外特別研修，海洋空間実践演習，Special Lecture on Ocean  
 and Space Engineering A，Special Lecture on Ocean and Space Engineering  
 B，Special Lecture on Ocean and Space Engineering C，Special Lecture on  
 Ocean and Space Engineering D，日伯特別講義 A，日伯特別講義 B，日伯特  
 別講義 C，日伯特別講義 D，海洋宇宙システム工学演習 A，海洋宇宙システム  
 工学演習 B，海洋宇宙システム工学インテンシブL，海洋宇宙システム工学  
 インテンシブM，海洋宇宙システム工学インテンシブS

○(7)～(8)のモジュールに対するモジュール構成科目：  
 固体物性学，拡散変態特論，材料組織計算学，高温構造材料設計工学，材料組織  
 設計学特論，材料工学インテンシブL，材料工学インテンシブM，材料  
 工学インテンシブS，ナノ材料工学概論，構造材料特論，材料強度・破壊力  
 学特論

○(9)～(10)のモジュールに対するモジュール構成科目：  
 数値流体解析演習，数値構造解析演習，乱流工学概論，航空宇宙利用工学，船舶  
 海洋構造設計学，浮体運動工学，海洋開発工学，海上交通安全工学，リスクベ  
 スによる規則制定手法，海洋産業特論，宇宙航行体軌道論，航空機空力設計論，  
 宇宙環境利用科学，宇宙機システム学特論，海洋宇宙システム工学外演習，海  
 洋宇宙システム工学海外特別研修，海洋空間実践演習，Special Lecture on Ocean  
 and Space Engineering A，Special Lecture on Ocean and Space Engineering  
 B，Special Lecture on Ocean and Space Engineering C，Special Lecture on  
 Ocean and Space Engineering D，日伯特別講義 A，日伯特別講義 B，日伯特  
 別講義 C，日伯特別講義 D，海洋宇宙システム工学演習 A，海洋宇宙システム  
 工学演習 B，海洋宇宙システム工学インテンシブL，海洋宇宙システム工学  
 インテンシブM，海洋宇宙システム工学インテンシブS，船舶設計シ  
 ステム工学論

(参考)

・機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程前期)  
 工学 (PED) プログラムにおけるモジュールの一覧

- (1) 加工システム設計 (加工システム設計A，加工システム設計B)
- (2) 加工システム製作 (加工システム製作A，加工システム製作B)
- (3) 熟流体システム設計 (熟流体システム設計A，熟流体システム設計B)
- (4) 熟流体システム製作 (熟流体システム製作A，熟流体システム製作B)
- (5) 統合システム設計 (統合システム設計A，統合システム設計B)
- (6) 統合システム製作 (統合システム製作A，統合システム製作B)
- (7) 材料工学 (材料設計システム，材料創製システム，組織制御システム，材料  
 特性システム)
- (8) 材料工学 R&D 実践 (材料工学 R&D A，材料工学 R&D B)
- (9) 海洋空間システム (海洋空間流体力学システムA，海洋空間流体力学シ  
 ステムB，海洋空間構造力学システムA，海洋空間構造力学システムB，海洋空間利  
 用システムA，海洋空間利用システムB，マリタイムフロンティアサイエンス  
 システムA，マリタイムフロンティアサイエンスシステムB)
- (10) 海洋空間 R&D 実践 (海洋空間 R&D システムA，海洋空間 R&D シ  
 ステムB)
- (11) 航空宇宙システム (航空宇宙システムシステムA，航空宇宙シ  
 ステムシステムB)

## ○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則

(平成 28 年 3 月 22 日規則第 25 号)

改正 平成 28 年 3 月 30 日規則第 38 号 平成 30 年 4 月 12 日規則第 57 号

## 目次

- 第 1 章 総則(第 1 条・第 2 条)
- 第 2 章 業務及び組織(第 3 条―第 10 条)
- 第 3 章 学生 IR 統括部門(第 11 条・第 12 条)
- 第 4 章 高大接続部門(第 13 条・第 14 条)
- 第 5 章 全学教育部門(第 15 条・第 16 条)
- 第 6 章 教育開発・学修支援部門(第 17 条・第 18 条)
- 第 7 章 雑則(第 19 条・第 20 条)
- 附則

## 第 1 章 総則

## (趣旨)

第 1 条 この規則は、横浜国立大学学則(以下「学則」という。)第 14 条の規定に基づき、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター(以下「センター」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

## (目的)

第 2 条 センターは、横浜国立大学(以下「本学」という。)における高大接続システム改革の実現に向けて全学一体で推進する中心的な役割を果たし、大学教育の質的転換及び入学者選抜方法の改善のための学生行動調査等を重視するインスティテューショナル・リサーチ(以下「学生 IR」という。)の推進とともに、初年次教育科目から高度全学教育科目を体系的に編成した全学教育(教養教育を含む。)の企画、調整、実施及び改善を図り、もって国際通用性のある本学教育の質保証に資することを目的とする。

## 第 2 章 業務及び組織

## (業務)

第 3 条 センターは、前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 本学の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)及び入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に基づく高大接続システム改革の実現に向けた大学教育の質的転換及び入学者選抜方法の改善のための学生 IR の推進に関すること。
- (2) 学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の内外を通じて培うことができるよう、学生のキャリア形成及び



就職支援等における組織間の有機的な連携を推進するための企画、調整、実施及び改善に関すること。

(3) 入学者選抜方法の改善、多面的・総合的な評価方法の調査研究、企画及び調整、入学広報並びに高大連携に関すること。

(4) 初年次教育科目から高度全学教育科目までを体系的に編成した全学教育（教養教育を含む。）の企画、調整、実施及び改善に関すること。

(5) 授業設計と成績評価の向上、ICT等を活用したアクティブラーニング及びキャリア教育の開発、学生の能動的学修の支援並びにこれらの組織的な研修に資するファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）の調査研究、企画、調整、実施及び改善に関すること。

(6) その他前条の目的を達成するために必要な業務に関すること。

2 前項に掲げる業務は、国立大学法人横浜国立大学組織運営規則（平成16年規則第5号。以下「組織運営規則」という。）第18条に規定する横浜国立大学大学院教育強化推進センターとの緊密に連携して行うものとする。

（組織）

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

(1) センター長

(2) 副センター長

(3) センター専任教員

(4) センター長が指名又は推薦する本学の教員

(5) その他必要な職員

（センター長）

第5条 センター長は、本学の副学長又は専任教授をもって充て、学長が任命する。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

（副センター長）

第6条 副センター長は、第4条第3号又は第4号の教員の中から、センター長の推薦に基づき学長が任命する。

2 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 副センター長の任期は、センター長が定める。ただし、第1項の規定に基づき推薦したセンター長の任期を超えることはできない。

（運営委員会等）

第7条 センターに、学則第12条第2項及び組織運営規則第12条第2項の規定に基づく教授会として、次に掲げる委員会を置く。

- (1) 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター運営委員会
- (2) 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター教員選考委員会  
(部門長会議)

第8条 センターに、組織運営規則第12条第3項の規定に基づく代議員会として、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター部門長会議を置く。  
(部門及び部門長)

第9条 センターに第3条に掲げる業務を遂行するために、次の部門を置く。

- (1) 学生 IR 統括部門
- (2) 高大接続部門
- (3) 全学教育部門
- (4) 教育開発・学修支援部門

2 部門に部門長を置く。

3 学生 IR 統括部門、高大接続部門及び教育開発・学修支援部門の部門長は、第4条第3号又は第4号の教員の中から、センター長の推薦に基づき学長が任命する。

4 全学教育部門の部門長は、教養教育主事をもって充て、学長が任命する。

5 部門長は、部門の業務を掌理する。

6 部門長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任の部門長の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究員)

第10条 センターに、研究員を置くことができる。

2 研究員は、第3条各号に規定する業務に関連した研究又は実践歴等を有する者のうちから、第8条に規定する部門長会議の議を経て、センター長が委嘱する。

### 第3章 学生 IR 統括部門

(業務)

第11条 学生 IR 統括部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) センターにおける学生 IR の統括に関すること。
- (2) 学生卒業後の進路状況及び進路先評価等に関する調査研究、企画、調整及び実施並びに本学における人材育成システムの評価に関すること。
- (3) 学生のキャリア形成及び就職支援における組織間の有機的な連携を推進するための企画、調整、実施及び改善に関すること。
- (4) キャリア・サポートルームに関すること。
- (5) その他学生 IR、学生のキャリア形成及び就職支援に関すること。

(学生 IR 統括部会)

第12条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、学生 IR 統括部会を置く。

### 第4章 高大接続部門

(業務)

第13条 高大接続部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 入学者選抜方法の改善に関する学生 IR の推進に関すること。
- (2) 多面的・総合的な評価方法に関する調査研究、企画及び調整に関すること。
- (3) 入学広報及び高大連携に関する業務に関すること。
- (4) 高大接続学習プログラムに関する業務に関すること。
- (5) その他高大接続に関する支援等の業務（他の部門に係る業務を除く。）に関すること。

(アドミッション部会との連携)

第14条 前条に規定する業務を遂行するために、横浜国立大学入学者選抜のための組織及び運営に関する規則（平成16年規則第10号）第2条に規定するアドミッション部会と連携するものとする。

#### 第5章 全学教育部門

(業務)

第15条 全学教育部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学教育（教養教育を含む。次号、第4号及び第5号において同じ。）の在り方、教育理念と教育目標に関する学生 IR の推進に関すること。
- (2) 全学教育のカリキュラム編成、シラバス作成及び履修方法等に関する全学的な総合調整に関すること。
- (3) 全学教育科目の授業の実施及び改善に関すること。
- (4) 全学教育に関する予算に関すること。
- (5) その他全学教育に関する必要な事項に関すること。

(全学教育部会)

第16条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、全学教育部会を置く。

#### 第6章 教育開発・学修支援部門

(業務)

第17条 教育開発・学修支援部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 大学教育及び学生の学修支援の在り方、教育理念と教育目標に関する学生 IR の推進に関すること。
- (2) 授業設計と成績評価（シラバスの改善を含む。）に関する調査研究、企画、調整、実施及び改善に関すること。
- (3) ICT等を活用したアクティブラーニング及びキャリア教育の開発並びに学生の能動的学修方法等に関する調査研究、開発、調整及び改善に関すること。
- (4) 大学教育の質的転換のためのFDに関する調査研究、企画、調整、実施及び評価に関すること。

- (5) 学生の学修行動調査の調査研究、企画、調整、実施及び評価に関すること。
- (6) 全学リテラシー共通テキスト等の教材開発、企画及び調整に関すること。
- (7) その他教育開発及び学生の学修支援に関する必要な事項に関すること。

(教育開発・学修支援部会)

第18条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、教育開発・学修支援部会を置く。

#### 第7章 雑則

(事務)

第19条 センターの事務は、学務部において処理する。

(雑則)

第20条 この規則に定めるもののほか、センターに関する必要な事項は、運営委員会の議を経て、センター長が定める。

#### 附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日に任命されるセンター長の選考は、学長が行い、その任期は、第5条第3項の規定にかかわらず、平成29年3月31日までとする。
- 3 平成29年3月31日までの間、第15条第1号及び第2号に規定する「教養教育」とあるのは「教養教育及び平成29年度開設予定の全学教育科目（各学部が開設予定の高度全学教育科目を含む。）」と読み替えて適用する。
- 4 横浜国立大学大学教育総合センター規則（平成16年規則511号）は、廃止する。

附 則(平成28年3月30日規則第38号)

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成30年4月12日規則第57号)

この規則は、平成30年4月12日から施行する。

○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センターに置く会議の組織運営に関する  
規則

(平成 28 年 3 月 22 日規則第 26 号)

改正 平成 28 年 3 月 30 日規則第 38 号 平成 29 年 3 月 30 日規則第 69 号  
平成 29 年 8 月 1 日規則第 82 号 平成 30 年 3 月 29 日規則第 47 号  
平成 30 年 4 月 12 日規則第 58 号

目次

- 第 1 章 総則(第 1 条)
- 第 2 章 運営委員会(第 2 条―第 6 条)
- 第 3 章 教員選考委員会(第 7 条・第 8 条)
- 第 4 章 部門長会議(第 9 条―第 11 条)
- 第 5 章 学生 IR 統括部会(第 12 条―第 14 条)
- 第 6 章 全学教育部会(第 15 条―第 17 条)
- 第 7 章 教育開発・学修支援部会(第 18 条―第 20 条)
- 第 8 章 雑則(第 21 条―第 23 条)
- 附則

第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則（以下「規則」という。）第 20 条の規定に基づき、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター（以下「センター」という。）に置く会議の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

第 2 章 運営委員会

(審議事項)

第 2 条 規則第 7 条第 1 号の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの組織に関すること。
- (2) センターの業務計画（センターの予算を含む。）及び管理運営に係る重要事項に関すること。
- (3) その他センターに関する重要事項に関すること。

(組織)

第 3 条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学部長

- (2) 研究院長
  - (3) 教養教育主事
  - (4) 附属図書館長
  - (5) 情報基盤センター長
  - (6) センター長
  - (7) 副センター長
  - (8) センター部門長
  - (9) センター専任教員
  - (10) 学務部長
  - (11) 研究・学術情報部長
  - (12) 学長が指名する者 若干人
- 2 前項第12号の委員の任期は、2年とする。ただし、欠員による委員の任期は、前任者の残任期間とする。
  - 3 前項の委員は、再任されることができる。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、副センター長がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

- 2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 3 運営委員会における審議の方法について、議長は運営委員会開催に代わるものとして、電磁的記録による審議を行うことができる。

(委員以外の者の出席)

第6条 運営委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

### 第3章 教員選考委員会

(審議事項)

第7条 規則第7条第2号の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター教員選考委員会（以下「教員選考委員会」という。）は、センターの専任教員の選考に関する事項を審議する。

(組織、委員長及び議事等)

第8条 教員選考委員会の組織、委員長、議事及び委員以外の者の出席については、第3条から第6条まで（第5条第3項を除く。）を準用する。この場合において、第3条第

1 項第 10 号から第 12 号の委員は組織から除くものとし、第 5 条第 1 項中「委員の過半数」を「委員の 3 分の 2 以上」と読み替えて適用する。

#### 第 4 章 部門長会議

(審議事項)

第 9 条 規則第 8 条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター部門長会議（以下「部門長会議」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの業務計画及び管理運営に関すること。
- (2) センターの予算に関すること。
- (3) センターの部門及び各部会との連絡調整に関すること。
- (4) その他運営委員会から審議を付託された事項に関すること。

(組織)

第 10 条 部門長会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター部門長
- (4) 学務部長
- (5) センター長が指名する者 若干人

2 前項第 5 号の委員の任期及び再任については、第 3 条第 2 項及び第 3 項を準用する。

(委員長及び議事等)

第 11 条 部門長会議の委員長、議事及び委員以外の者の出席については、第 4 条から第 6 条までを準用する。

#### 第 5 章 学生 IR 統括部会

(審議事項)

第 12 条 規則第 12 条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター学生 IR 統括部会（以下「学生 IR 統括部会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターにおける学生 IR の統括に関すること。
- (2) 学生の進路状況及び進路先評価等に関すること。
- (3) 学生のキャリア形成及び就職支援における全学的な総合調整に関すること。
- (4) キャリア・サポートルームに関すること。
- (5) その他学生 IR、学生のキャリア形成及び就職支援に関すること。

(組織)

第 13 条 学生 IR 統括部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学生 IR 統括部門長
- (2) 学生 IR 統括部門を担当する教員

- (3) 高大接続部門長、全学教育部門長及び教育開発・学修支援部門長
- (4) 各学部の教授会から選出された教員 各1人
- (5) 学務部学生支援課長、教育企画課長及び入試課長
- (6) その他学生 IR 統括部門長が指名した者

2 前項第4号及び第6号の委員の任期及び再任については、第3条第2項及び第3項を準用する。

(委員長及び議事等)

第14条 学生 IR 統括部会に委員長を置き、学生 IR 統括部門長をもって充てる。

- 2 委員長は、学生 IR 統括部会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
- 4 学生 IR 統括部会の議事及び委員以外の者の出席については、第5条及び第6条を準用する。

## 第6章 全学教育部会

(審議事項)

第15条 規則第16条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター全学教育部会（以下「全学教育部会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 全学教育（教養教育を含む。第4号及び第5号において同じ。）の全学的な総合調整に関すること。
- (2) 全学教育科目の授業実施計画に関すること。
- (3) 全学教育科目のカリキュラム編成及び改善に関すること。
- (4) 全学教育に関する予算に関すること。
- (5) その他全学教育の実施に関すること。

(組織)

第16条 全学教育部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 全学教育部門長
- (2) 全学教育部門を担当する専任教員
- (3) 各学部及び国際社会科学府の教授会から選出された教員 各1人
- (4) 教育学部学校教育課程保健体育講座から選出された教員 1人
- (5) 国際戦略推進機構から選出された教員 3人
- (6) 学務部教育企画課長
- (7) その他全学教育部門長が指名した者 若干名

2 前項第3号から第5号まで及び第7号の委員の任期及び再任については、第3条第2項及び第3項を準用する。

(委員長及び議事等)

第17条 全学教育部会に委員長を置き、全学教育部門長をもって充てる。



- 2 委員長は、全学教育部会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
- 4 全学教育部会の議事及び委員以外の者の出席については、第5条及び第6条を準用する。

## 第7章 教育開発・学修支援部会

### (審議事項)

第18条 規則第18条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会（以下「教育開発・学修支援部会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 授業設計と成績評価（シラバスの改善を含む。）に関する事。
- (2) ICT等を活用したキャリア教育及び学生の能動的学修方法等に関する事。
- (3) ファカルティ・ディベロップメントに関する事。
- (4) 学生の学修行動調査に関する事。
- (5) 全学リテラシー共通テキスト等に関する事。
- (6) その他教育開発及び学生の学修支援に関する事。

### (組織)

第19条 教育開発・学修支援部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育開発・学修支援部門長
  - (2) 教育開発・学修支援部門を担当する専任教員
  - (3) 全学教育部門長
  - (4) 各学部の教授会から選出された教員 各1人
  - (5) 国際戦略推進機構及び情報基盤センターから選出された教員 各1人
  - (6) 学務部教育企画課長
  - (7) 研究・学術情報部図書館情報課長及び情報企画課長
  - (8) その他教育開発・学修支援部門長が指名した者 若干名
- 2 前項第4号、第5号及び第8号の委員の任期及び再任については、第3条第2項及び第3項を準用する。

### (委員長及び議事等)

第20条 教育開発・学修支援部会に委員長を置き、教育開発・学修支援部門長をもって充てる。

- 2 委員長は、教育開発・学修支援部会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
- 4 教育開発・学修支援部会の議事及び委員以外の者の出席については、第5条及び第6条を準用する。

## 第8章 雑則

### (会議の合同開催等)

第21条 第5条、第11条及び前条に規定する運営委員会、部門長会議及び教育開発・学修支援部会は、組織運営規則第18条第1項に規定する横浜国立大学大学院教育強化推進センターとの事前の協議を経て、合同で開催することができる。この場合において、合同で開催される委員会等の議事については、この規則及び横浜国立大学大学院教育強化推進センターに置く会議の組織運営に関する規則を適用し、議長については、それぞれの委員長の互選により置くものとする。

(事務)

第22条 センターに置く会議の事務は、学務部において処理する。

(雑則)

第23条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

#### 附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成29年3月31日までの間、第15条第1号及び第2号に規定する「教養教育」とあるのは「教養教育及び平成29年度開設予定の全学教育科目（各学部が開設予定の高度全学教育科目を含む。）」と読み替えて適用する。
- 3 平成29年3月31日までの間、第13条第1項第4号、第16条第1項第3号及び第19条第1項第4号に規定する「各学部」とあるのは「各学部（都市科学部（仮称）設置準備委員会を含む。）」と読み替えて適用する。
- 4 横浜国立大学大学教育総合センターに置く会議の組織運営に関する規則（平成16年規則第512号）は、廃止する。

#### 附 則(平成28年3月30日規則第38号)

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

#### 附 則(平成29年3月30日規則第69号)

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

#### 附 則(平成29年8月1日規則第82号)

- 1 この規則は、平成29年8月1日から施行する。
- 2 当分の間、第15条第3号に規定する「全学教育科目」とあるのは「全学教育科目及び平成28年度入学者まで適用の教養教育科目」と読み替えて適用する。

#### 附 則(平成30年3月29日規則第47号)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

#### 附 則(平成30年4月12日規則第58号)

この規則は、平成30年4月12日から施行する。

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人横浜国立大学

## (2) 大学名

横浜国立大学大学院

## (3) 大学の位置

〒240-8501

神奈川県横浜市常盤台79番5号

(神奈川県横浜市常盤台79番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(ハセベ ユウイチ) 長谷部 勇一 (平成27年4月)		
学府長	(ワタナベ マサヨシ) 渡邊 正義 (平成30年4月)		
専攻長 化学・生命系 理工学専攻 (M)	(ヨシタケ ヒデアキ) 吉武 英昭 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
大学院理工学府 化学・生命系理工学専攻 (博士課程前期) 修士(理学) 修士(工学)	理学関係  工学関係	2年	107人	214人	理工学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成31年度		平均入学定員 超過率	備考
	平成30年度	平成31年度	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	107人 ( - ) [ - ]	- 人 ( ) [ ]	人	人	1.01倍	
志願者数	130 ( - ) [ 7 ]	- ( - ) [ - ]	( ) [ ]	( ) [ ]		
受験者数	128 ( - ) [ 6 ]	- ( - ) [ - ]	( ) [ ]	( ) [ ]		
合格者数	111 ( - ) [ 1 ]	- ( - ) [ - ]	( ) [ ]	( ) [ ]		
B 入学者数	109 ( - ) [ 1 ]	- ( - ) [ - ]	( ) [ ]	( ) [ ]		
入学定員超過率 B/A	1.01					

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ ( )内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
- ・ [ ]内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	109 [ 1 ] ( - )	— [ - ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次			/				
計	109 [ 1 ] ( - )		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	109 人	0 人	平成30年度	人	人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
合計	109 人	0 人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要ありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するため準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{109} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<横浜国立大学工学府 化学・生命系理工学専攻（博士課程前期）>

(1) - ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学府共通科目	理工学系	● 理工学府MPBL	1-2①-②	2		4						兼10
	工学系	● Presentation English	1-2①-②/④-⑤	2								兼1
	情報系	● Presentation English S, Basic Level	1-2①-②	2								兼2
	実務系	● Presentation English F, Basic Level	1-2④-⑤	2								兼2
		● 理工学府海外インターンシップ	1-2①-②/④-⑤/⑥	2								兼1
		● リスクマネジメントのための技術者倫理	1①-②	2								兼5
	●	光・電子材料学概論	1-2④-⑤	2								兼1
		● 数値流体工学	1①-②	2								兼1
	●	乱流現象論	1-2④-⑤	2								兼1
	●	多機能性複合材料概論	1-2④-⑤	2								兼1
	●	波浪と船体運動	1-2④-⑤	2								兼1
	●	海洋資源エネルギー工学入門	1-2④-⑤	2								兼1
		● 量子統計力学	1-2①-②	2								兼1
	●	ナノ物性物理学	1-2①-②	2								兼2
	●	磁気科学概論	1-2①-②	2								兼2
	●	低温物理学	1-2④-⑤	2								兼1
	●	宇宙素粒子物理学概論	1-2①-②	2								兼1
	●	プラズマ物理	1-2④-⑤	2								兼1
	●	エネルギーシステム論	1-2④-⑤	2								兼2
		● 信号理論	1-2④-⑤	2								兼1
		● アドバンスデジタル通信	1-2④-⑤	2								兼1
		● VLSIシステム設計	1-2①-②	2								兼1
		● 先端エレクトロニクス製品アーキテクチャ講座	1-2④-⑤	2								兼1
		● 知能システム論	1-2④-⑤	2								兼1
		● マテリアルインテグレーション	1-2①-②	2								兼1
		● イノベーションと起業Ⅱ	1-2④-⑤	2								兼2
		● プロセス計測学	1-2①-②	2		1						
		● 伝熱工学特論	1-2④-⑤	2		1	1					
		● 移動現象特論	1-2①-②	2				1				
		● 先端燃料電池技術	1-2③	2		1						兼1
		● 分子統計力学	1-2④-⑤	2				1				
		● 量子反応論	1-2①-②	2			1					
		● 触媒化学	1-2①-②	2		1						
		● 高分子設計学	1-2④-⑤	2		1						
	●	有機光化学	1-2④-⑤	2								兼1
	●	微生物応用学	1-2④-⑤	2								兼1
	●	先端機器分析特論	1-2④-⑤	2								兼1
				/								
		● プロジェクトマネジメントⅠ	1-2①-②	2								兼1
		● プロジェクトマネジメントⅡ	1-2①-②	2								兼1
		● プロフェッショナルエンジニアⅠ	1-2①-②	2								兼4
		● プロフェッショナルエンジニアⅡ	1-2④-⑤	2								兼4
		● Professional Ethics in EU & US	1-2①-②	2								兼2
		● グローバル企業における効果的な事業計画策定	1-2①-②	2								兼1
		● グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル	1-2①-②	2								兼3
	● イノベーションと課題発見Ⅰ	1-2①-②	2								兼4	
	● イノベーションと課題発見Ⅱ	1-2①-②	2								兼4	
			/									
●	数理学 代数	1-2④-⑤	2								兼1	
●	数理学 幾何	1-2①-②	2								兼1	
●	数理学 解析	1-2①-②	2								兼1	
	● 数理学 確率・統計	1-2④-⑤	2								兼2	
●	数理学 データ・サイエンス	1-2①-②	2								兼1	

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学府共通科目	理工学系	● 理工学府MPBL	1-2①-②	2		4						兼11
	工学系	● Presentation English	1-2①-②/④-⑤	2								兼1
	情報系	● Presentation English S, Basic Level	1-2①-②	2								兼2
	実務系	● Presentation English F, Basic Level	1-2④-⑤	2								兼2
		● 理工学府海外インターンシップ	1-2①-②/④-⑤/⑥	2								兼2
		● リスクマネジメントのための技術者倫理	1①-②	2								兼5
	●	光・電子材料学概論	1-2④-⑤	2								兼1
		● 数値流体工学	1①-②	2								兼1
	●	乱流現象論	1-2④-⑤	2								兼1
	●	多機能性複合材料概論	1-2④-⑤	2								兼1
	●	波浪と船体運動	1-2④-⑤	2								兼1
	●	海洋資源エネルギー工学入門	1-2④-⑤	2								兼1
		● 量子統計力学	1-2①-②	2								兼1
	●	ナノ物性物理学	1-2①-②	2								兼2
	●	磁気科学概論	1-2①-②	2								兼2
	●	低温物理学 (未開講)	1-2④-⑤	2								兼1
	●	宇宙素粒子物理学概論 (未開講)	1-2①-②	2								兼1
	●	プラズマ物理	1-2④-⑤	2								兼1
	●	エネルギーシステム論	1-2④-⑤	2								兼2
		● 信号理論	1-2④-⑤	2								兼1
		● アドバンスデジタル通信	1-2④-⑤	2								兼1
		● VLSIシステム設計	1-2①-②	2								兼1
		● 先端エレクトロニクス製品アーキテクチャ講座	1-2④-⑤	2								兼1
		● 知能システム論	1-2④-⑤	2								兼1
		● マテリアルインテグレーション	1-2①-②	2								兼1
		● イノベーションと起業Ⅱ	1-2④-⑤	2								兼2
		● プロセス計測学	1-2①-②	2		1						
		● 伝熱工学特論	1-2④-⑤	2		1	1					
		● 移動現象特論	1-2①-②	2				1				
		● 先端燃料電池技術	1-2③	2		1						兼1
		● 分子統計力学 (未開講)	1-2④-⑤	2				1				
		● 量子反応論	1-2①-②	2			1					
		● 触媒化学	1-2①-②	2		1						
		● 高分子設計学	1-2④-⑤	2		1						
	●	有機光化学	1-2④-⑤	2								兼1
	●	微生物応用学 (未開講)	1-2④-⑤	2								兼1
	●	先端機器分析特論	1-2④-⑤	2								兼1
	●	● 固体化学	1-2①-②	2			1					
		● プロジェクトマネジメントⅠ	1-2①-②	2								兼1
		● プロジェクトマネジメントⅡ	1-2①-②	2								兼1
		● プロフェッショナルエンジニアⅠ	1-2①-②	2								兼4
		● プロフェッショナルエンジニアⅡ	1-2④-⑤	2								兼4
		● Professional Ethics in EU & US	1-2①-②	2								兼3
		● グローバル企業における効果的な事業計画策定	1-2①-②	2								兼1
		● グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル	1-2①-②	2								兼1
	● イノベーションと課題発見Ⅰ	1-2①-②	2								兼4	
	● イノベーションと課題発見Ⅱ	1-2①-②	2								兼4	
	● 標準化とビジネス	1-2①-②	2								兼2	
	● 神奈川県を取り組む技術課題	1-2①-②	2								兼1	
●	数理学 代数	1-2④-⑤	2								兼1	
●	数理学 幾何 (未開講)	1-2①-②	2								兼1	
●	数理学 解析	1-2①-②	2								兼1	
	● 数理学 確率・統計	1-2④-⑤	2								兼2	
●	数理学 データ・サイエンス	1-2①-②	2								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
専攻共通科目	理 学 系 工 学 系 情 報 系 実 務 系	光物理学	1-21~2	2			1							
		生物物理学	1-21~2	2			1							
		金属錯体化学	1-24~5	2			1							
		PSDキャリアデザイン特論	1-21~2	2								兼5		
		電子移動の化学	1-24~5	2			1							
		電気化学特論	1-24~5	2			1							
		触媒反応工学	1-21~2	2				1						
		エネルギー化学概論	1-21~2	2			1	1						
		エネルギー変換材料	1-24~5	2				1						
		遺伝情報機能科学	1-21~2	2			1							
		力学機能材料学	1-24~5	2			1							
		流体化学工学	1-24~5	2			1							
		環境分離工学	1-24~5	2				1						
		エネルギーバリューチェーンシステム概論	1-24~5	2								兼1		
		燃料電池工学	1-24~5	2								兼1		
		セラミックスエネルギー工学	1-21~2	2								兼1		
		発生工学	1-21~2	2				1						
		専攻科目	理 学 系 工 学 系 情 報 系 実 務 系	化学演習S	11~2	2			9	11	1			
				化学演習F	14~5	2			9	11	1			
				有機電気化学特論	1-23~2	2			1					
インターエレメント結合の化学	1-21~2			2				1						
光材料化学	1-21~2			2				1						
セラミックス材料工学	1-24			1			1							
粉体材料プロセス工学	1-24			1				1						
化学TED演習S	21~2			2			5	9	1					
化学TED演習F	24~5			2			5	9	1					
エネルギー化学演習BS	21~2			2			4	2						
エネルギー化学演習BF	24~5			2			4	2						
化学TED特別実験	1-24~5			2			9	11	1					
化学TED学外実習	1-21~2			2			9	11	1					
物理有機化学特論	1-21~2			2				1						
構造生物学	1-24~5			2			1							
生物宇宙地球化学	1-21~2			2			1	1						
化学反応動力学	1-21~2			2				1						
	●			化学TEDプレゼンテーション実習	21~2	1			9	11	1			
	●			化学インターンシップL	1-21~2 3-4~5 ⑤	4			9	11	1			
	●			化学インターンシップM	1-21~2 3-4~5 ⑤	2			9	11	1			
	●			化学インターンシップS	1-21~2 3-4~5 ⑤	1			9	11	1			
	●			化学海外インターンシップL	1-21~2 3-4~5 ⑤	4			9	11	1			
	●			化学海外インターンシップM	1-21~2 3-4~5 ⑤	2			9	11	1			
	●			化学海外インターンシップS	1-21~2 3-4~5 ⑤	1			9	11	1			
	●			化学PSD演習S	21~2	2			9	11	1			
	●			化学PSD演習F	24~5	2			9	11	1			
	●			化学PSD特別実験	1-24~5	2			9	11	1			
	●			化学PSD学外実習	1-21~2	2			9	11	1			
	●			化学PSDプレゼンテーション実習	21~2	1			9	11	1			
	●			リスク分析論	1-21~2	2							兼2	
	●			技術者リカレント教育論	1-24~5	2			1					
	●			ミキシング化学工学	1-24~5	2			1					
	●			素材生産工学	1-21~2	2			1					
	●			微生物バイオテクノロジー	1-21~2	2			1					
	●			医工学	1-24~5	2				1				
	●			技術開発と社会	1-24~5	2							兼3	
	●			環境物理化学	1-21~2	2			1					
	●			化学応用・バイオPBL	1-21~2	2			9	7	1		兼3	
	●			化学プロセス・シミュレーション	1-23~2	2							兼2	
	●			機能性材料学	1-24~5	2				1				
	●			細胞組織工学	1-21~2	2				1				
	●			機械装置材料工学	1-21~2	2			1					
	●			化学応用・バイオ演習A	11~2	2			9	7	1		兼3	
	●			化学応用・バイオ演習B	14~5	2			9	7	1		兼3	
	●			化学応用・バイオ演習C	21~2	2			6	4	1			
	●			化学応用・バイオ演習D	24~5	2			6	4	1			
	●			エネルギー化学演習AS	21~2	2			3	3				
	●			エネルギー化学演習AF	24~5	2			3	3				
	●			化学応用・バイオ特別実験	1-24~5	2			9	6	1		兼3	
	●			化学応用・バイオ学外実習	1-21~2	2			9	6	1		兼3	
	●			化学応用・バイオインターンシップL	1-21~2 3-4~5 ⑤	4			9	6	1		兼3	
	●			化学応用・バイオインターンシップM	1-21~2 3-4~5 ⑤	2			9	6	1		兼3	
	●			化学応用・バイオインターンシップS	1-21~2 3-4~5 ⑤	1			9	6	1		兼3	
	●	プロセス工学解析実習S	11~2	4			3	3	1					
	●	プロセス工学解析実習F	14~5	4			3	3	1					
	●	プロセス工学技術創生実習S	21~2	4			3	3	1					
	●	プロセス工学技術創生実習F	24~5	4			3	3	1					
	●	創エネルギー解析実習S	11~2	4			4	2						
	●	創エネルギー解析実習F	14~5	4			4	2						
	●	創エネルギー工学技術創生実習S	21~2	4			4	2						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
専攻共通科目	理 学 系 工 学 系 情 報 系 実 務 系	光物理学	1-21~2	2			1							
		生物物理学	1-21~2	2			1							
		金属錯体化学	1-24~5	2			1							
		PSDキャリアデザイン特論	1-21~2	2								兼5		
		電子移動の化学	1-24~5	2			1							
		電気化学特論	1-24~5	2			1							
		触媒反応工学	1-21~2	2				1						
		エネルギー化学概論	1-21~2	2			1	1						
		エネルギー変換材料	1-24~5	2				1						
		遺伝情報機能科学	1-21~2	2			1							
		力学機能材料学	1-24~5	2			1							
		流体化学工学	1-24~5	2			1							
		環境分離工学	1-24~5	2				1						
		エネルギーバリューチェーンシステム概論	1-24~5	2								兼1		
		燃料電池工学	1-24~5	2								兼1		
		セラミックスエネルギー工学	1-21~2	2								兼1		
		発生工学	1-21~2	2				1						
		専攻科目	理 学 系 工 学 系 情 報 系 実 務 系	化学演習S	11~2	2			10	12	1			
				化学演習F	14~5	2			10	12	1			
				有機電気化学特論	1-23~2	2			1					
インターエレメント結合の化学	1-21~2			2				1						
光材料化学	1-21~2			2				1						
セラミックス材料工学	1-24			1			1							
粉体材料プロセス工学	1-24			1				1						
化学TED演習S	21~2			2			5	10	1					
化学TED演習F	24~5			2			5	10	1					
エネルギー化学演習BS	21~2			2			4	5	2					
エネルギー化学演習BF	24~5			2			4	5	2					
化学TED特別実験	1-24~5			2			9	12	1					
化学TED学外実習	1-21~2			2			9	12	1					
物理有機化学特論	1-21~2			2				1						
構造生物学	1-24~5			2			1							
生物宇宙地球化学	1-21~2			2			1	1						
化学反応動力学	1-21~2			2				1						
	●			精密有機合成化学(未開講)	1-21~2	2			1					
	●			化学TEDプレゼンテーション実習	21~2	1			10	12	1			
	●			化学インターンシップL	1-21~2 3-4~5 ⑤	4			10	12	1			
	●			化学インターンシップM	1-21~2 3-4~5 ⑤	2			10	12	1			
	●			化学インターンシップS	1-21~2 3-4~5 ⑤	1			10	12	1			
	●			化学海外インターンシップL	1-21~2 3-4~5 ⑤	4			10	12	1			
	●			化学海外インターンシップM	1-21~2 3-4~5 ⑤	2			10	12	1			
	●			化学海外インターンシップS	1-21~2 3-4~5 ⑤	1			10	12	1			
	●			化学PSD演習S	21~2	2			10	12	1			
	●			化学PSD演習F	24~5	2			10	12	1			
	●			化学PSD特別実験	1-24~5	2			10	12	1			
	●			化学PSD学外実習	1-21~2	2			10	12	1			
	●			化学PSDプレゼンテーション実習	21~2	1			10	12	1			
	●			リスク分析論	1-21~2	2							兼2	
	●			技術者リカレント教育論	1-24~5	2			1					
	●			ミキシング化学工学	1-24~5	2			1					
	●			素材生産工学	1-21~2	2			1					
	●			微生物バイオテクノロジー	1-24~5	2			1					
	●			医工学	1-24~5	2				1				
	●			技術開発と社会	1-21~2	2							兼4	
	●			環境物理化学	1-21~2	2			1					
	●			化学応用・バイオPBL	1-21~2	2			10	6	1		兼3	
	●			化学プロセス・シミュレーション	1-23~2	2							兼2	
	●			機能性材料学	1-24~5	2				1				
	●			細胞組織工学	1-21~2	2				1				



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	● 創エネルギー工学技術創生実習F	24-5		4		4	2					
	● バイオとライフの解析技術S	10-2		4		2	2					
	● バイオとライフの解析技術F	14-5		4		2	2					
	● バイオとライフ技術の創生S	20-2		4		2	2					
	● バイオとライフ技術の創生F	24-5		4		2	2					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	● 創エネルギー工学技術創生実習F	24-5		4		4	2					
	● バイオとライフの解析技術S	10-2		4		3	1					
	● バイオとライフの解析技術F	14-5		4		3	1					
	● バイオとライフ技術の創生S	20-2		4		3	1					
	● バイオとライフ技術の創生F	24-5		4		3	1					

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。  
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。  
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。  
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。  
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・ 学府共通科目のカリキュラム充実のため、「固体化学」、「標準化とビジネス」、「神奈川県を取り組む技術課題」を追加。
- ・ 専門科目のカリキュラム充実のため「精密有機合成化学」を追加。
- ・ カリキュラムの調整により、「微生物バイオテクノロジー」、「技術開発と社会」の開講タームを変更した。
- ・ 専門教育の充実のため、「化学演習S」、「化学演習F」、「化学PSD演習S」、「化学PSD演習F」、「化学PSD特別実験」、「化学PSD学外実習」、「化学PSDプレゼンテーション実習」、「化学TED特別実験」、「化学TED学外実習」、「化学TEDプレゼンテーション実習」、「化学インターンシップL」、「化学インターンシップM」、「化学インターンシップS」、「化学海外インターンシップL」、「化学海外インターンシップM」、「化学海外インターンシップS」の専任教員を各科目2名増員した。
- ・ 専門科目の充実のため、「化学TED演習S」、「化学TED演習F」、「エネルギー化学演習BS」、「エネルギー化学演習BF」の専任教員数を各科目1名増員した。
- ・ 学府共通科目の充実のため「理工学府MPBL」「理工学府海外インターンシップ」の兼任教員数を各科目1名増員した。
- ・ 学府共通科目の充実のため「Professional Ethics in EU & US」の兼任教員を1名増員した。
- ・ 専門教育科目の充実のため、「技術開発と社会」の兼任教員数を1名増員した。
- ・ 本務先企業の都合により「グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル」の兼任教員2名が辞任した。
- ・ 専任教員の昇任により、「医工学」、「化学応用・バイオPBL」、「細胞組織工学」、「化学応用・バイオ演習A」、「化学応用・バイオ演習B」、「化学応用・バイオ演習C」、「化学応用・バイオ演習D」、「バイオとライフの解析技術S」、「バイオとライフの解析技術F」、「バイオとライフ技術の創生S」、「バイオとライフ技術の創生F」の専任教員の配置を「教授1増、「准教授1減」とした。
- ・ 設置申請時に誤植があったため、「化学応用・バイオ特別実験」、「化学応用・バイオ学外実習」、「化学応用・バイオインターンシップL」、「化学応用・バイオインターンシップM」、「化学応用・バイオインターンシップS」を担当する専任教員の配置数を「教授9、准教授6、兼任3」から「教授9、准教授7、兼任3」に修正したうえで、専任教員の昇任により「教授10、准教授6、兼任3」となった。

- (注) ・ 変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。  
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
0 科目	133 科目	0 科目	133 科目	0 科目	137 科目	0 科目	137 科目	
				[ ]	[ 4 ]	[ ]	[ 4 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	低温物理学	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
2	宇宙素粒子物理学概論	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
3	分子統計力学	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
4	微生物応用学	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
5	数理科学 幾何	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
6	金属錯体化学	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
7	電気化学特論	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
8	触媒反応工学	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
9	力学機能材料学	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
10	有機電気化学特論	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
11	光材料化学	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
12	物理有機化学特論	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
13	構造生物学	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
14	化学反応動力学	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
15	精密有機合成化学	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
16	医工学	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
17	細胞組織工学	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
18	機械装置材料工学	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。  
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

該当なし

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

隔年で開講する科目であるため、学生の履修に影響はない。  
履修案内、時間割表に明示するとともに、掲示板にて周知した。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{18}{133} = 13.53\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。  
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	335,097㎡	— ㎡	— ㎡	335,097 ㎡				
	運動場用地	89,916 ㎡	— ㎡	— ㎡	89,916 ㎡				
	小 計	425,013 ㎡	— ㎡	— ㎡	425,013 ㎡				
	そ の 他	237,446 ㎡	— ㎡	— ㎡	237,446 ㎡				
	合 計	662,459 ㎡	— ㎡	— ㎡	662,459 ㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	175,694 ㎡ ( ㎡)	— ㎡ ( ㎡)	— ㎡ ( ㎡)	175,694 ㎡ ( ㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	113室	153室	770室	31室 (補助職員 18人)	14室 (補助職員 2人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数						
	理工学府		139 室						
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学府単位での特定不能なため、大学全体の数	
	理工学府	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)		
	計	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)		
(6) 図 書 館	面 積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数						
	15,336 ㎡	1,472 席	1,346,389 冊	大学全体					
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	3,882 ㎡	野球場	テニスコートほか			大学全体			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費(運営費交付金)による
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。  
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

#### 4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	横浜国立大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 定員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
<b>経済学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番3号	
経済学科	4	238	3年次15	476	学士(経済学)	1.07	平成29年度		
経済システム学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
国際経済学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
<b>経営学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
経営学科	4	287	-	574	学士(経営学)	1.04	平成29年度		
経営学科(昼間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	昭和42年度		平成29年学生募集停止
経営学科(夜間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
会計・情報学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
経営システム科学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
国際経営学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
<b>都市科学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番6号	
都市社会共生学科	4	74	-	148	学士(学術)	0.87	平成29年度		
建築学科	4	70	2年次2	142	学士(工学)	0.96	平成29年度		
都市基盤学科	4	48	3年次5	96	学士(工学)	1.01	平成29年度		
環境リスク共生学科	4	56	-	112	学士(環境学)	1.04	平成29年度		
<b>教育学研究科</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
高度教職実践専攻 (専門職学位課程)	2	15	-	30	教職修士(専門職)	1.03	平成29年度		
<b>理工学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程前期)	2	109	-	109	修士(工学)	1.03	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程前期)	2	107	-	107	修士(理学、工学)	1.01	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程前期)	2	146	-	146	修士(理学、工学)	1.04	平成30年度		
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程後期)	3	11	-	11	博士(工学)	0.54	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(理学、工学)	0.41	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程後期)	3	18	-	18	博士(理学、工学)	1.22	平成30年度		
<b>環境情報学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番7号	
人工環境専攻(博士課程前期)	2	75	-	75	修士(環境学、工学、学術)	0.90	平成30年度		
自然環境専攻(博士課程前期)	2	33	-	33	修士(環境学、理学、学術)	0.90	平成30年度		
情報環境専攻(博士課程前期)	2	65	-	65	修士(情報学、理学、学術)	0.98	平成30年度		

人工環境専攻(博士課程後期)	3	15	-	15	博士(環境学、工学、学術)	0.60	平成30年度	
自然環境専攻(博士課程後期)	3	6	-	6	博士(環境学、理学、学術)	0.50	平成30年度	
情報環境専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(情報学、理学、学術)	0.91	平成30年度	
環境生命学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、情報科学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リカマージメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境生命学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、情報科学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リカマージメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止

大学の名称	横浜国立大学							備考
-------	--------	--	--	--	--	--	--	----

既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
教育学部 学校教育課程	4	230	-	920	学士(教育)	1.02	平成10年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
教育人間科学部 人間文化課程	4	-	-	-	学士(教養)	-	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	平成29年学生募集停止
理工学部 機械・材料・海洋系学科	4	185	-	740	学士(工学)	1.02	平成29年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
化学・生命系学科	4	187	-	748	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度		
数物・電子情報系学科	4	287	-	1148	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度		
建築都市・環境系学科	4	-	-	-	学士(理学、工学)	-	平成23年度		平成29年学生募集停止
工学部 生産工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	平成23年学生募集停止
建設学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度		平成23年学生募集停止
電子情報工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度		平成23年学生募集停止
知能物理工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成10年度		平成23年学生募集停止
教育学研究科 教育実践専攻(修士課程)	2	85	-	170	修士(教育学)	1.12	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
国際社会科学府 経済学専攻(博士課程前期)	2	38	-	76	修士(経済学)	0.90	平成25年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
経営学専攻(博士課程前期)	2	50	-	100	修士(経営学)	1.03	平成25年度		
国際経済法学専攻(博士課程前期)	2	25	-	50	修士(法学、国際)	1.04	平成25年度		
経済学専攻(博士課程後期)	3	10	-	30	博士(経済学、学術)	0.40	平成25年度		
経営学専攻(博士課程後期)	3	12	-	36	博士(経営学、学術)	0.44	平成25年度		
国際経済法学専攻(博士課程後期)	3	8	-	24	博士(法学、国際)	0.49	平成25年度		

法曹実務専攻（専門職学位課程）	3	25	-	75	法務博士（専門職）	0.41	平成25年度		
<b>国際社会科学研究所</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
グローバル経済専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経済学、学術）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
企業システム専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経営学、学術）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
国際経済法学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（国際経済法）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
<b>工学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
機能発現工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
機能発現工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
<b>都市イノベーション学府</b>									
建築都市文化専攻（博士課程前期）	2	68	-	136	修士（工学、学術）	0.93	平成23年度		
都市地域社会専攻（博士課程前期）	2	37	-	74	修士（工学、学術）	0.98	平成23年度		
都市イノベーション専攻（博士課程後期）	3	12	-	36	博士（工学、学術）	0.83	平成23年度		

- （注）・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<横浜国立大学理工学部 化学・生命系理工学専攻（博士課程前期）>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任（予定）年月>
専	教授	アトベ マヒト 跡部 真人  <平成30年4月>
		化学演習S 化学演習F 有機電気化学特論【隔年】 エネルギー化学演習BS エネルギー化学演習BF 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	教授	オオヤマ トシユキ 大山 俊幸  <平成30年4月>
		理工学部MPBL 高分子設計学【隔年】 化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	教授	オカザキ シンジ 岡崎 慎司  <平成30年4月>
		プロセス計測学 技術者リカレント教育論 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B エネルギー化学演習A S エネルギー化学演習A F 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S 創エネルギー解析実習S 創エネルギー解析実習F 創エネルギー工学技術創生実習S 創エネルギー工学技術創生実習F
		オクヤマ クニト 奥山 邦人  <平成30年4月>
		伝熱工学特論 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任（予定）年月>
専	教授	アトベ マヒト 跡部 真人  <平成30年4月>
		化学演習S 化学演習F 有機電気化学特論【隔年】 エネルギー化学演習BS エネルギー化学演習BF 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	教授	オオヤマ トシユキ 大山 俊幸  <平成30年4月>
		理工学部MPBL 高分子設計学【隔年】 化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	教授	オカザキ シンジ 岡崎 慎司  <平成30年4月>
		プロセス計測学 技術者リカレント教育論 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B エネルギー化学演習A S エネルギー化学演習A F 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S 創エネルギー解析実習S 創エネルギー解析実習F 創エネルギー工学技術創生実習S 創エネルギー工学技術創生実習F
		オクヤマ クニト 奥山 邦人  <平成30年4月>
		伝熱工学特論 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B

専	教授	化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップL 化学応用・バイオインターンシップM 化学応用・バイオインターンシップS プロセス工学解析実習S プロセス工学解析実習F プロセス工学技術創生実習S プロセス工学技術創生実習F
専	教授	カミノヤマ メグル 上ノ山 周 〈平成30年4月〉 流体化学工学 ミキシング化学工学 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップL 化学応用・バイオインターンシップM 化学応用・バイオインターンシップS プロセス工学解析実習S プロセス工学解析実習F プロセス工学技術創生実習S プロセス工学技術創生実習F
専	教授	クボタ ヨシヒロ 窪田 好浩 〈平成30年4月〉 触媒化学【隔年】 化学演習S 化学演習F エネルギー化学演習BS エネルギー化学演習BF 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	教授	クリハラ ヤスユキ 栗原 靖之 〈平成30年4月〉 遺伝情報機能科学 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップL 化学応用・バイオインターンシップM 化学応用・バイオインターンシップS バイオとライフの解析技術S バイオとライフの解析技術F バイオとライフ技術の創生S バイオとライフ技術の創生F
専	教授	コジマ チョウジロウ 児嶋 長次郎 〈平成30年4月〉 化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 構造生物学【隔年】 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL

専	教授	化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップL 化学応用・バイオインターンシップM 化学応用・バイオインターンシップS プロセス工学解析実習S プロセス工学解析実習F プロセス工学技術創生実習S プロセス工学技術創生実習F
専	教授	カミノヤマ メグル 上ノ山 周 〈平成30年4月〉 流体化学工学 ミキシング化学工学 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップL 化学応用・バイオインターンシップM 化学応用・バイオインターンシップS プロセス工学解析実習S プロセス工学解析実習F プロセス工学技術創生実習S プロセス工学技術創生実習F
専	教授	クボタ ヨシヒロ 窪田 好浩 〈平成30年4月〉 触媒化学【隔年】 化学演習S 化学演習F エネルギー化学演習BS エネルギー化学演習BF 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	教授	クリハラ ヤスユキ 栗原 靖之 〈平成30年4月〉 遺伝情報機能科学 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップL 化学応用・バイオインターンシップM 化学応用・バイオインターンシップS バイオとライフの解析技術S バイオとライフの解析技術F バイオとライフ技術の創生S バイオとライフ技術の創生F
専	教授	コジマ チョウジロウ 児嶋 長次郎 〈平成30年4月〉 化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 構造生物学【隔年】 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL



		化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	教授	コバヤシ ケンセイ 小林 憲正 〈平成30年4月〉
		化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 生物宇宙地球化学【隔年】 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	教授	タカハシ コウジ 高橋 宏治 〈平成30年4月〉
		力学機能材料学 化学応用・バイオPBL 機械装置材料工学【隔年】 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S 創エネルギー解析実習S 創エネルギー解析実習F 創エネルギー工学技術創生実習S 創エネルギー工学技術創生実習F
専	教授	タケダ ミノル 武田 穰 〈平成30年4月〉
		微生物バイオテクノロジー 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S バイオとライフの解析技術S バイオとライフの解析技術F バイオとライフ技術の創生S バイオとライフ技術の創生F
専	教授	タタミ ジュンイチ 多々見 純一 〈平成30年4月〉
		化学演習S 化学演習F セラミックス材料工学 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習

		化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	教授	コバヤシ ケンセイ 小林 憲正 〈平成30年4月〉
		化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 生物宇宙地球化学【隔年】 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	教授	タカハシ コウジ 高橋 宏治 〈平成30年4月〉
		力学機能材料学 化学応用・バイオPBL 機械装置材料工学【隔年】 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S 創エネルギー解析実習S 創エネルギー解析実習F 創エネルギー工学技術創生実習S 創エネルギー工学技術創生実習F
専	教授	タケダ ミノル 武田 穰 〈平成30年4月〉
		微生物バイオテクノロジー 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S バイオとライフの解析技術S バイオとライフの解析技術F バイオとライフ技術の創生S バイオとライフ技術の創生F
専	教授	タタミ ジュンイチ 多々見 純一 〈平成30年4月〉
		化学演習S 化学演習F セラミックス材料工学 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習

専	教授	ドッコ カオル 獨古 薫 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 電気化学特論【隔年】 化学演習S 化学演習F エネルギー化学演習BS エネルギー化学演習BF 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
		ハブカ ヒトシ 羽深 等 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 素材生産工学 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S プロセス工学解析実習S プロセス工学解析実習F プロセス工学技術創生実習S プロセス工学技術創生実習F
専	教授	ミツシマ シゲノリ 光島 重徳 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 先端燃料電池技術 エネルギー化学概論 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B エネルギー化学演習AS エネルギー化学演習AF 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S 創エネルギー解析実習S 創エネルギー解析実習F 創エネルギー工学技術創生実習S 創エネルギー工学技術創生実習F
		ヤマグチ ヨシタカ 山口 佳隆 〈平成30年4月〉
		金属錯体化学【隔年】 化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS

専	教授	ドッコ カオル 獨古 薫 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 電気化学特論【隔年】 化学演習S 化学演習F エネルギー化学演習BS エネルギー化学演習BF 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
		ハブカ ヒトシ 羽深 等 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 素材生産工学 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S プロセス工学解析実習S プロセス工学解析実習F プロセス工学技術創生実習S プロセス工学技術創生実習F
専	教授	ミツシマ シゲノリ 光島 重徳 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 先端燃料電池技術 エネルギー化学概論 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B エネルギー化学演習AS エネルギー化学演習AF 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S 創エネルギー解析実習S 創エネルギー解析実習F 創エネルギー工学技術創生実習S 創エネルギー工学技術創生実習F
		ヤマグチ ヨシタカ 山口 佳隆 〈平成30年4月〉
		金属錯体化学【隔年】 化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS
専	教授	ヤブウチ ナオアキ 藪内 直明 〈平成30年4月〉
		固体化学 化学演習S 化学演習F エネルギー化学演習BS エネルギー化学演習BF 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	教授	ヤマグチ ヨシタカ 山口 佳隆 〈平成30年4月〉
		金属錯体化学【隔年】 化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS

		化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	教授	ヨシタケ ヒデアキ 吉武 英昭  <平成30年4月>
		環境物理化学 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B エネルギー化学演習AS エネルギー化学演習AF 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップL 化学応用・バイオインターンシップM 化学応用・バイオインターンシップS 創エネルギー解析実習S 創エネルギー解析実習F 創エネルギー工学技術創生実習S 創エネルギー工学技術創生実習F
専	教授	ワタナベ マサヨシ 渡邊 正義 ) <平成30年4月>
		電子移動の化学【隔年】 化学演習S 化学演習F エネルギー化学演習BS エネルギー化学演習BF 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	准教授	イイジマ モトユキ 飯島 志行  <平成30年4月>
		化学演習S 化学演習F 粉体材料プロセス工学 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習

		化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	教授	ヨシタケ ヒデアキ 吉武 英昭  <平成30年4月>
		環境物理化学 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B エネルギー化学演習AS エネルギー化学演習AF 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップL 化学応用・バイオインターンシップM 化学応用・バイオインターンシップS 創エネルギー解析実習S 創エネルギー解析実習F 創エネルギー工学技術創生実習S 創エネルギー工学技術創生実習F
専	教授	ワタナベ マサヨシ 渡邊 正義 ) <平成30年4月>
		電子移動の化学【隔年】 化学演習S 化学演習F エネルギー化学演習BS エネルギー化学演習BF 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	准教授	イイジマ モトユキ 飯島 志行  <平成30年4月>
		化学演習S 化学演習F 粉体材料プロセス工学 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	准教授	イトウ スグル 伊藤 傑  <平成30年4月>
		精密有機合成化学 化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習

専	准教授	イナガキ サトシ 稲垣 怜史 〈平成30年4月〉
		触媒反応工学【隔年】 化学演習S 化学演習F エネルギー化学演習BS エネルギー化学演習BF 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
		ウエノ カズヒデ 上野 和英 〈平成30年4月〉
		化学演習S 化学演習F エネルギー化学演習BS エネルギー化学演習BF 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	准教授	ウブカタ タカシ 生方 俊 〈平成30年4月〉
		化学演習S 化学演習F 光材料化学【隔年】 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
		カナイ トシミツ 金井 俊光 〈平成30年4月〉
		化学応用・バイオPBL 機能性材料学【隔年】 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップL 化学応用・バイオインターンシップM 化学応用・バイオインターンシップS プロセス工学解析実習S プロセス工学解析実習F プロセス工学技術創生実習S プロセス工学技術創生実習F

専	准教授	イナガキ サトシ 稲垣 怜史 〈平成30年4月〉
		触媒反応工学【隔年】 化学演習S 化学演習F エネルギー化学演習BS エネルギー化学演習BF 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
		ウエノ カズヒデ 上野 和英 〈平成30年4月〉
		化学演習S 化学演習F エネルギー化学演習BS エネルギー化学演習BF 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	准教授	ウブカタ タカシ 生方 俊 〈平成30年4月〉
		化学演習S 化学演習F 光材料化学【隔年】 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
		カナイ トシミツ 金井 俊光 〈平成30年4月〉
		化学応用・バイオPBL 機能性材料学【隔年】 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップL 化学応用・バイオインターンシップM 化学応用・バイオインターンシップS プロセス工学解析実習S プロセス工学解析実習F プロセス工学技術創生実習S プロセス工学技術創生実習F

専	准教授	カワムラ イズル 川村 出 〈平成30年4月〉
		生物物理化学【隔年】 化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
		キクチ (ヤマダ) アツサ 菊地 (山田) あづさ 〈平成30年4月〉
		光物理化学【隔年】 化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
		クロダ ヨシユキ 黒田 義之 〈平成30年4月〉
エネルギー化学概論 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B エネルギー化学演習A S エネルギー化学演習A F 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S 創エネルギー解析実習S 創エネルギー解析実習F 創エネルギー工学技術創生実習S 創エネルギー工学技術創生実習F		
専	准教授	ケブカワ (モチヅキ) ヨウコ 癸生川 (望月) 陽子 〈平成30年4月〉
		化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 生物宇宙地球化学【隔年】 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
		ゴトウ ヒロアキ 五東 弘昭 〈平成30年4月〉
		化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 物理有機化学特論【隔年】 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS

専	准教授	カワムラ イズル 川村 出 〈平成30年4月〉
		生物物理化学【隔年】 化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
		キクチ (ヤマダ) アツサ 菊地 (山田) あづさ 〈平成30年4月〉
		光物理化学【隔年】 化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
		クロダ ヨシユキ 黒田 義之 〈平成30年4月〉
エネルギー化学概論 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B エネルギー化学演習A S エネルギー化学演習A F 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S 創エネルギー解析実習S 創エネルギー解析実習F 創エネルギー工学技術創生実習S 創エネルギー工学技術創生実習F		
専	准教授	ケブカワ (モチヅキ) ヨウコ 癸生川 (望月) 陽子 〈平成30年4月〉
		化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 生物宇宙地球化学【隔年】 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
		ゴトウ ヒロアキ 五東 弘昭 〈平成30年4月〉
		化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 物理有機化学特論【隔年】 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS

		化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	准教授	サトウ コウタ 佐藤 浩太  <平成30年4月>
		量子反応論【隔年】 化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	准教授	スズキ アツシ 鈴木 敦  <平成30年4月>
		発生工学 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S バイオとライフの解析技術S バイオとライフの解析技術F バイオとライフ技術の創生S バイオとライフ技術の創生F
専	准教授	セキ カネカズ 関 金一  <平成30年4月>
		化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学反応動力学【隔年】 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	准教授	ナカムラ カズホ 中村 一穂  <平成30年4月>
		環境分離工学 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S プロセス工学解析実習S プロセス工学解析実習F プロセス工学技術創生実習S プロセス工学技術創生実習F

		化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	准教授	サトウ コウタ 佐藤 浩太  <平成30年4月>
		量子反応論【隔年】 化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	准教授	スズキ アツシ 鈴木 敦 ) <平成30年4月>
		発生工学 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S バイオとライフの解析技術S バイオとライフの解析技術F バイオとライフ技術の創生S バイオとライフ技術の創生F
専	准教授	セキ カネカズ 関 金一  <平成30年4月>
		化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学反応動力学【隔年】 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
専	准教授	ナカムラ カズホ 中村 一穂  <平成30年4月>
		環境分離工学 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S プロセス工学解析実習S プロセス工学解析実習F プロセス工学技術創生実習S プロセス工学技術創生実習F

専	准教授	フクダ ジュンジ 福田 淳二 〈平成30年4月〉
		医工学 化学応用・バイオPBL 細胞組織工学 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S バイオとライフの解析技術S バイオとライフの解析技術F バイオとライフ技術の創生S バイオとライフ技術の創生F
		マツザワ コウイチ 松澤 幸一 〈平成30年4月〉
		エネルギー変換材料 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B エネルギー化学演習A S エネルギー化学演習A F 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S 創エネルギー解析実習S 創エネルギー解析実習F 創エネルギー工学技術創生実習S 創エネルギー工学技術創生実習F
専	准教授	ミナト マコト 湊 盟 〈平成30年4月〉
		化学演習S 化学演習F インターエレメント結合の化学【隔年】 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
		モリ ショウジ 森 昌司 〈平成30年4月〉
		伝熱工学特論 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B エネルギー化学演習A S エネルギー化学演習A F 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S プロセス工学解析実習S プロセス工学解析実習F プロセス工学技術創生実習S プロセス工学技術創生実習F
専	講師	アイハラ マサヒコ 相原 雅彦 〈平成30年4月〉
		移動現象特論 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S プロセス工学解析実習S プロセス工学解析実習F プロセス工学技術創生実習S プロセス工学技術創生実習F

専	教授	フクダ ジュンジ 福田 淳二 〈平成30年4月〉
		医工学 化学応用・バイオPBL 細胞組織工学 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S バイオとライフの解析技術S バイオとライフの解析技術F バイオとライフ技術の創生S バイオとライフ技術の創生F
		マツザワ コウイチ 松澤 幸一 〈平成30年4月〉
		エネルギー変換材料 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B エネルギー化学演習A S エネルギー化学演習A F 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S 創エネルギー解析実習S 創エネルギー解析実習F 創エネルギー工学技術創生実習S 創エネルギー工学技術創生実習F
専	准教授	ミナト マコト 湊 盟 〈平成30年4月〉
		化学演習S 化学演習F インターエレメント結合の化学【隔年】 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
		モリ ショウジ 森 昌司 〈平成30年4月〉
		伝熱工学特論 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B エネルギー化学演習A S エネルギー化学演習A F 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S プロセス工学解析実習S プロセス工学解析実習F プロセス工学技術創生実習S プロセス工学技術創生実習F
専	講師	アイハラ マサヒコ 相原 雅彦 〈平成30年4月〉
		移動現象特論 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ演習C 化学応用・バイオ演習D 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S プロセス工学解析実習S プロセス工学解析実習F プロセス工学技術創生実習S プロセス工学技術創生実習F

専	講師	サコムラ マサル 迫村 勝 〈平成30年4月〉
		分子統計力学【隔年】 化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
		ウメザワ オサム 梅澤 修 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
		ウメハラ イズル 梅原 出 〈平成30年4月〉
		理工学府海外インターンシップ 理工学府MPBL
		カジワラ タケン 梶原 健 〈平成30年4月〉
		数理科学 代数【隔年】
		クロキ マナブ 黒木 学 〈平成30年4月〉
		数理科学 データ・サイエンス
		コウノ リュウジ 河野 隆二 〈平成30年4月〉
		アドバンストデジタル通信
		コノ ノリオ 今野 紀雄 〈平成30年4月〉
数理科学 確率・統計		
シオジ ナオキ 塩路 直樹 〈平成30年4月〉		
数理科学 解析【隔年】		
シュウサ ヨシカズ 周佐 喜和 〈平成30年4月〉		
イノベーションと課題発見 I イノベーションと課題発見 II		
タカダ ハジメ 高田 一 〈平成30年4月〉		
理工学府MPBL リスクマネジメントのための技術者倫理		
タカミザワ ミノル 高見澤 実 〈平成30年4月〉		
イノベーションと課題発見 I イノベーションと課題発見 II		
タメチカ エミ 為近 恵美 〈平成30年4月〉		
イノベーションと起業 II イノベーションと課題発見 I イノベーションと課題発見 II		
ナカオ ワタル 中尾 航 〈平成30年4月〉		
多機能性複合材料概論		
ニシノ コウイチ 西野 耕一 〈平成30年4月〉		
乱流現象論		

専	講師	サコムラ マサル 迫村 勝 〈平成30年4月〉
		分子統計力学【隔年】 化学演習S 化学演習F 化学TED演習S 化学TED演習F 化学TED特別実験 化学TED学外実習 化学TEDプレゼンテーション実習 化学インターンシップL 化学インターンシップM 化学インターンシップS 化学海外インターンシップL 化学海外インターンシップM 化学海外インターンシップS 化学PSD演習S 化学PSD演習F 化学PSD特別実験 化学PSD学外実習 化学PSDプレゼンテーション実習
		ウメザワ オサム 梅澤 修 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
		ウメハラ イズル 梅原 出 〈平成30年4月〉
		理工学府海外インターンシップ 理工学府MPBL
		カジワラ タケン 梶原 健 〈平成30年4月〉
		数理科学 代数【隔年】
		クロキ マナブ 黒木 学 〈平成30年4月〉
		数理科学 データ・サイエンス
		コウノ リュウジ 河野 隆二 〈平成30年4月〉
		アドバンストデジタル通信
		コノ ノリオ 今野 紀雄 〈平成30年4月〉
数理科学 確率・統計		
シオジ ナオキ 塩路 直樹 〈平成30年4月〉		
数理科学 解析【隔年】		
シュウサ ヨシカズ 周佐 喜和 〈平成30年4月〉		
イノベーションと課題発見 I イノベーションと課題発見 II		
タカダ ハジメ 高田 一 〈平成30年4月〉		
理工学府MPBL リスクマネジメントのための技術者倫理		
タカミザワ ミノル 高見澤 実 〈平成30年4月〉		
イノベーションと課題発見 I イノベーションと課題発見 II		
タメチカ エミ 為近 恵美 〈平成30年4月〉		
イノベーションと起業 II イノベーションと課題発見 I イノベーションと課題発見 II <b>神奈川県を取り組む技術課題</b>		
ナカオ ワタル 中尾 航 〈平成30年4月〉		
多機能性複合材料概論		
ニシノ コウイチ 西野 耕一 〈平成30年4月〉		
乱流現象論		



兼担	教授	ハネジ ノブオ 羽路 伸夫 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL イノベーションと起業Ⅱ イノベーションと課題発見Ⅰ イノベーションと課題発見Ⅱ
兼担	教授	ハマガミ トモキ 濱上 知樹 〈平成30年4月〉
		知能システム論
兼担	教授	フジモト ヤスタカ 藤本 康孝 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼担	教授	マツイ ジュン 松井 純 〈平成30年4月〉
		数値流体工学
兼担	教授	ムカイ コウキ 向井 剛輝 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 光・電子材料学概論
兼担	教授	ヤマモト イサオ 山本 勲 〈平成30年4月〉
		磁気科学概論
兼担	教授	ヨシカワ ノブユキ 吉川 信行 〈平成30年4月〉
		VLSIシステム設計 先端エレクトロニクス製品アーキテクチャ講座
兼担	准教授	アラキ タクト 荒木 拓人 〈平成30年4月〉
		先端燃料電池技術
兼担	准教授	イチヤナギ ユウコ 一柳 優子 〈平成30年4月〉
		ナノ物性物理科学
兼担	准教授	ウエハラ マサトモ 上原 政智 〈平成30年4月〉
		磁気科学概論
兼担	准教授	クラモト テツジ 蔵本 哲治 〈平成30年4月〉
		量子統計力学【隔年】
兼担	准教授	シマヅ ヨシヒロ 島津 佳弘 〈平成30年4月〉
		低温物理学【隔年】
兼担	准教授	シラサキ リョウエン 白崎 良演 〈平成30年4月〉
		ナノ物性物理科学
兼担	准教授	タケイ マサト 竹居 正登 〈平成30年4月〉
		数理科学 確率・統計
兼担	准教授	タニムラ マコト 谷村 誠 〈平成30年4月〉
		先端機器分析特論
兼担	准教授	ツシマ アキラ 津嶋 晴 〈平成30年4月〉
		プラズマ物理【隔年】
兼担	准教授	ナカツガワ ヒロシ 中津川 博 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼担	准教授	ナカムラ ショウゴ 中村 正吾 〈平成30年4月〉
		宇宙素粒子物理学概論【隔年】
兼担	准教授	ニシ ヨシキ 西 佳樹 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 海洋資源エネルギー工学入門

兼担	教授	ハネジ ノブオ 羽路 伸夫 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL イノベーションと起業Ⅱ イノベーションと課題発見Ⅰ イノベーションと課題発見Ⅱ
兼担	教授	ハマガミ トモキ 濱上 知樹 〈平成30年4月〉
		知能システム論
兼担	教授	フジモト ヤスタカ 藤本 康孝 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼担	教授	マツイ ジュン 松井 純 〈平成30年4月〉
		数値流体工学
兼担	教授	ムカイ コウキ 向井 剛輝 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 光・電子材料学概論
兼担	教授	ヤマモト イサオ 山本 勲 〈平成30年4月〉
		磁気科学概論
兼担	教授	ヨシカワ ノブユキ 吉川 信行 〈平成30年4月〉
		VLSIシステム設計 先端エレクトロニクス製品アーキテクチャ講座
兼担	准教授	アラキ タクト 荒木 拓人 〈平成30年4月〉
		先端燃料電池技術
兼担	准教授	イチヤナギ ユウコ 一柳 優子 〈平成30年4月〉
		ナノ物性物理科学
兼担	准教授	ウエハラ マサトモ 上原 政智 〈平成30年4月〉
		磁気科学概論
兼担	准教授	クラモト テツジ 蔵本 哲治 〈平成30年4月〉
		量子統計力学【隔年】
兼担	准教授	シマヅ ヨシヒロ 島津 佳弘 〈平成30年4月〉
		低温物理学【隔年】
兼担	准教授	シラサキ リョウエン 白崎 良演 〈平成30年4月〉
		ナノ物性物理科学
兼担	准教授	タケイ マサト 竹居 正登 〈平成30年4月〉
		数理科学 確率・統計
兼担	准教授	タニムラ マコト 谷村 誠 〈平成30年4月〉
		先端機器分析特論
兼担	准教授	ツシマ アキラ 津嶋 晴 〈平成30年4月〉
		プラズマ物理【隔年】
兼担	准教授	ナカツガワ ヒロシ 中津川 博 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼担	准教授	ナカムラ ショウゴ 中村 正吾 〈平成30年4月〉
		宇宙素粒子物理学概論【隔年】
兼担	准教授	ニシ ヨシキ 西 佳樹 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 海洋資源エネルギー工学入門

兼任	准教授	ヒラカワ ヨシアキ 平川 嘉昭 〈平成30年4月〉 波浪と船体運動
兼任	准教授	ホンダ アツフミ 本田 淳史 〈平成30年4月〉 数理科学 幾何【隔年】
兼任	准教授	ムライ モトヒコ 村井 基彦 〈平成30年4月〉 理工学府MPBL
兼任	講師	クマガイ ヨリノリ 熊谷 頼範 〈平成30年4月〉 理工学府MPBL
兼任	講師	アンドウ ヨシタカ 安藤 孝敏 〈平成30年4月〉 Presentation English
兼任	講師	ヤマグチ ヒロシ 山口 博 〈平成30年4月〉 グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル
兼任	講師	イナダ マサトシ 稲田正俊 〈平成30年4月〉 Presentation English S, Basic Level Presentation English F, Basic Level Professional Ethics in EU & US
兼任	講師	イワクマ マキ 岩熊 眞起 〈平成30年4月〉 プロフェッショナルエンジニア I プロフェッショナルエンジニア II
兼任	講師	オカダ シゲオ 岡田 恵夫 〈平成30年4月〉 リスクマネジメントのための技術者倫理
兼任	講師	カドノ マサキ 角野 仁基 〈平成30年4月〉 プロジェクトマネジメント I プロジェクトマネジメント II
兼任	講師	カマタ モトユキ 鎌田 素之 〈平成30年4月〉 リスク分析論
兼任	講師	カヤブキ タダシ 萱葺 正 〈平成30年4月〉 Presentation English S, Basic Level Presentation English F, Basic Level
兼任	講師	キクチ ヨシミ 菊池 慶実 〈平成30年4月〉 微生物応用学【隔年】
兼任	講師	キタガワ タツオ 北川 達夫 〈平成30年4月〉 Professional Ethics in EU & US
兼任	講師	コミヤマ リョウイチ 小宮山 涼一 〈エネルギーシステム論【隔年】〉 エネルギーシステム論【隔年】
兼任	講師	ゴンダ カズヒト 権田和士 〈平成30年4月〉 グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル
兼任	講師	サイトウ ヨシヨリ 齊藤義順 〈平成30年4月〉 リスクマネジメントのための技術者倫理 プロフェッショナルエンジニア I プロフェッショナルエンジニア II

兼任	准教授	ヒラカワ ヨシアキ 平川 嘉昭 〈平成30年4月〉 波浪と船体運動
兼任	准教授	ホンダ アツフミ 本田 淳史 〈平成30年4月〉 数理科学 幾何【隔年】
兼任	准教授	ムライ モトヒコ 村井 基彦 〈平成30年4月〉 理工学府MPBL
兼任	准教授	オオタケ ミツル 大竹 充 〈平成30年4月〉 理工学府MPBL 理工学府海外インターンシップ
兼任	講師	クマガイ ヨリノリ 熊谷 頼範 〈平成30年4月〉 理工学府MPBL
兼任	講師	アンドウ ヨシタカ 安藤 吉隆 〈平成30年4月〉 Presentation English
兼任	講師	ヤマグチ ヒロシ 山口 博 〈平成30年4月〉 グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル
兼任	講師	イナダ マサトシ 稲田正俊 〈平成30年4月〉 Presentation English S, Basic Level Presentation English F, Basic Level Professional Ethics in EU & US
兼任	講師	イワクマ マキ 岩熊 眞起 〈平成30年4月〉 プロフェッショナルエンジニア I プロフェッショナルエンジニア II
兼任	講師	オカダ シゲオ 岡田 恵夫 〈平成30年4月〉 リスクマネジメントのための技術者倫理
兼任	講師	カドノ マサキ 角野 仁基 〈平成30年4月〉 プロジェクトマネジメント I プロジェクトマネジメント II
兼任	講師	カマタ モトユキ 鎌田 素之 〈平成30年4月〉 リスク分析論
兼任	講師	カヤブキ タダシ 萱葺 正 〈平成30年4月〉 Presentation English S, Basic Level Presentation English F, Basic Level
兼任	講師	キクチ ヨシミ 菊池 慶実 〈平成30年4月〉 微生物応用学【隔年】
兼任	講師	キタガワ タツオ 北川 達夫 〈平成30年4月〉 Professional Ethics in EU & US
兼任	講師	コミヤマ リョウイチ 小宮山 涼一 〈エネルギーシステム論【隔年】〉 エネルギーシステム論【隔年】
兼任	講師	サイトウ ヨシヨリ 齊藤義順 〈平成30年4月〉 リスクマネジメントのための技術者倫理 プロフェッショナルエンジニア I プロフェッショナルエンジニア II

兼任	講師	サトウ クニヒト 佐藤 国仁 〈平成30年4月〉
		リスクマネジメントのための技術者倫理 プロフェッショナルエンジニアⅠ プロフェッショナルエンジニアⅡ
兼任	講師	シマザキ マコト 島崎 眞 〈平成30年4月〉
		PSDキャリアデザイン特論
兼任	講師	ヤマモト ヒロシ 山本 博志 〈平成30年4月〉
		化学プロセス・シミュレーション
兼任	講師	スヤマ コウイチ 陶山貢市 〈平成30年4月〉
		リスク分析論
兼任	講師	セキ イワオ 関 巖 〈平成30年4月〉
		グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル
兼任	講師	タカハシ アキオ 高橋昭雄 〈平成30年4月〉
		PSDキャリアデザイン特論
兼任	講師	タケダ ヒロシ 竹田 宏 〈平成30年4月〉
		化学プロセス・シミュレーション
兼任	講師	タダ ケイシ 多田 啓司 〈平成30年4月〉
		PSDキャリアデザイン特論
兼任	講師	ナガセ ツネヒサ 永瀬 恒久 〈平成30年4月〉
		グローバル企業における効果的な事業計画策定
兼任	講師	ハシモト ヨシヘイ 橋本 義平 〈平成30年4月〉
		リスクマネジメントのための技術者倫理 プロフェッショナルエンジニアⅠ プロフェッショナルエンジニアⅡ
兼任	講師	フジイ ヤスマサ 藤井 康正 〈平成30年4月〉
		エネルギーシステム論【隔年】
兼任	講師	フジオカ ケイコ 藤岡 恵子 〈平成30年4月〉
		技術開発と社会
兼任	講師	フジワラ ユウタ 藤原 佑太 〈平成30年4月〉
		PSDキャリアデザイン特論
兼任	講師	ホソダ ユキオ 細田 幸男 〈平成30年4月〉
		PSDキャリアデザイン特論
兼任	講師	マチダ マサシ 町田 雅志 〈平成30年4月〉
		技術開発と社会
兼任	講師	マツキ タケオ 松木 武雄 〈平成30年4月〉
		マテリアルインテグレーション
兼任	講師	ムラタ シゲル 村田 滋 〈平成30年4月〉
		有機光化学【隔年】
兼任	講師	ムギクラ ヨシヒロ 麦倉 良啓 〈平成30年4月〉
		エネルギーバリューチェーンシステム概論 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S

兼任	講師	サトウ クニヒト 佐藤 国仁 〈平成30年4月〉
		リスクマネジメントのための技術者倫理 プロフェッショナルエンジニアⅠ プロフェッショナルエンジニアⅡ
兼任	講師	シマザキ マコト 島崎 眞 〈平成30年4月〉
		PSDキャリアデザイン特論
兼任	講師	ヤマモト ヒロシ 山本 博志 〈平成30年4月〉
		化学プロセス・シミュレーション
兼任	講師	スヤマ コウイチ 陶山貢市 〈平成30年4月〉
		リスク分析論
兼任	講師	タカハシ アキオ 高橋昭雄 〈平成30年4月〉
		PSDキャリアデザイン特論
兼任	講師	タケダ ヒロシ 竹田 宏 〈平成30年4月〉
		化学プロセス・シミュレーション
兼任	講師	タダ ケイシ 多田 啓司 〈平成30年4月〉
		PSDキャリアデザイン特論
兼任	講師	ハシモト ヨシヘイ 橋本 義平 〈平成30年4月〉
		リスクマネジメントのための技術者倫理 プロフェッショナルエンジニアⅠ プロフェッショナルエンジニアⅡ
兼任	講師	フジイ ヤスマサ 藤井 康正 〈平成30年4月〉
		エネルギーシステム論【隔年】
兼任	講師	フジオカ ケイコ 藤岡 恵子 〈平成30年4月〉
		技術開発と社会
兼任	講師	フジワラ ユウタ 藤原 佑太 〈平成30年4月〉
		PSDキャリアデザイン特論
兼任	講師	ホソダ ユキオ 細田 幸男 〈平成30年4月〉
		PSDキャリアデザイン特論
兼任	講師	マチダ マサシ 町田 雅志 〈平成30年4月〉
		技術開発と社会
兼任	講師	マツキ タケオ 松木 武雄 〈平成30年4月〉
		マテリアルインテグレーション
兼任	講師	ムラタ シゲル 村田 滋 〈平成30年4月〉
		有機光化学【隔年】
兼任	講師	ムギクラ ヨシヒロ 麦倉 良啓 〈平成30年4月〉
		エネルギーバリューチェーンシステム概論 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S

兼任	講師	ヤマモト トオル 山本 融 〈平成30年4月〉
		セラミックスエネルギー工学 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S
兼任	講師	モリタ ヒロシ 森田 寛 〈平成30年4月〉
		燃料電池工学 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S
兼任	講師	ショウキ ヒロキ 庄木 裕樹 〈平成30年4月〉
		信号理論

兼任	講師	ヤマモト トオル 山本 融 〈平成30年4月〉
		セラミックスエネルギー工学 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S
兼任	講師	モリタ ヒロシ 森田 寛 〈平成30年4月〉
		燃料電池工学 化学応用・バイオPBL 化学応用・バイオ演習A 化学応用・バイオ演習B 化学応用・バイオ特別実験 化学応用・バイオ学外実習 化学応用・バイオインターンシップ L 化学応用・バイオインターンシップ M 化学応用・バイオインターンシップ S
兼任	講師	ショウキ ヒロキ 庄木 裕樹 〈平成30年4月〉
		信号理論
兼任	講師	オオツカ タケヒロ 大塚 剛宏 〈平成30年4月〉
		Professional Ethics in EU & US
兼任	講師	アンドウ ヨシマサ 安藤 喜昌 〈平成30年4月〉
		技術開発と社会
兼任	講師	エトウ マナブ 江藤 学 〈平成30年4月〉
		標準化とビジネス
兼任	講師	イズミ アキラ 和泉 章 〈平成30年4月〉
		標準化とビジネス
兼任	講師	ナガトク ユウジ 長徳 裕司 〈平成30年4月〉
		グローバル企業における効果的な事業計画策定

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
  - ・ その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
  - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
  - ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

**【平成30年度】**

- ・平成29年7月：伊藤傑助教、准教授昇任（平成29年12月教員審査済み）。
- ・平成30年1月：福田淳二准教授、教授に昇任（平成29年12月教員審査済み）。
- ・平成30年4月：藪内直明教授就任（平成30年2月教員審査済み）。

- (注)
- ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
  - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
  - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
16	11	0
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	教授	准教授	講師	助教	計 (C)
18	18	2	4	42	20	18	2	4	44	20	18	2	4	44
(20)	(18)	(2)	(4)	(44)						[ 2 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 2 ]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
38	0	4			40	0	4			40	0	4		
(40)	(0)	(4)								[ 2 ]	[ 0 ]	[ 0 ]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上 記（B））の教員 のうち、定年を延 長して採用してい る教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。  
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{44}{42} = \boxed{104.76} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{44} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1				該当なし			
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1				該当なし			
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)			
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D) + (F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{0}{42} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1				該当なし			
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。



## 6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時  (平成29年8月)		該当なし	
設置計画履行状況 調 査 時 (平成31年2月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (平成32年2月)			

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、**当該大学に付された意見を全て記入**するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

## 7 その他全般的事項

<大学院理工学府 化学・生命系理工学専攻（博士課程前期）>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
① 修了要件として専攻が指定する科目	教育内容充実のため、修了要件として専攻が指定する科目群に1科目を追加（別添①「新旧対照表」参照）。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>横浜国立大学では、平成28年度に発足した高大接続・全学教育推進センターが中心となって教員の資質の維持向上、FD活動を行っている。理工学府からセンター教育開発・学修支援部会委員を1名選出し、学部内でのFD活動等の連絡、調整、実施を主に担当する。</p> <p>○別添② 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則</p> <p>○別添③ 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センターに置く会議の組織運営に関する規則</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>定例の高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会は月1回開催。（参加教員14名）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>学生IR、高大接続、全学教育、および教育開発・学修支援に関する事項。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>高大接続・全学教育推進センターが行う活動に学府として協力、実施する。</p> <p>各種研修会(TA研修会等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FDフォーラム開催</li> <li>・公開授業開催</li> <li>・ベストティーチャー表彰</li> <li>・シラバス改善(ループリックの利用等)</li> <li>・学生調査</li> </ul> <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各内容に即し、全学でコーディネートして実施する。</li> </ul> <p>c 開催状況(教員の参加状況含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度4月時点ではまだ特別な行事の開催はないが、今後開催される予定。</li> <li>・昨年度は、理工学府担当(予定)教員を集めた集会においてセミナーを2回(7月と12月)開催した。</li> </ul> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高大接続・全学教育推進センターの指針に基づきループリックを含むシラバスを作成した。</li> </ul>
---

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各ターム終了時に授業評価を実施予定。実施結果に基づき自己点検表を作成する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

基本的にホームページ上で公開する。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

開講時期の変更など軽微な変更はあるものの、履修案内やオリエンテーション等において学生に十分な説明を行っているため、学生の履修に影響はない。設置の趣旨・目的の完全な達成に向けて、理工学府担当の教員が平成30年4月から予定通り授業を開始しており、当初設定のカリキュラムの遂行を実現していく予定で、設置趣旨・目的の完全な実現をはかる。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

未定

b 公表方法

未定

③ 認証評価を受ける計画

・平成33年度に評価機関(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構)の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表(予定)の有無 (  有  無 )

b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期 ( 平成30年7月1日 )

(注) ・ 「a ホームページに公表(予定)有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。  
・ 「b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期」には、「a ホームページに公表(予定)有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

7 その他全般的事項

<大学院理工学府 生命・化学系理工学専攻（博士課程前期）>

(1) 設置計画変更事項等に係る別添資料

設置時の計画	変更内容
<p>専攻が指定する科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化学・生命系理工学専攻 工学 (TED) プログラム 専門科目</li> </ul> <p>○応用化学分野：構造生物学，有機電気化学特論，生物宇宙地球化学，インターエメント結合の化学，物理有機化学特論，化学反応動力学，光材料化学，セラミックス材料工学，粉体材料プロセス工学，化学インターアクションシップL，化学インターアクションシップM，化学インターアクションシップS，化学海外インターアクションシップL，化学海外インターアクションシップM，化学海外インターアクションシップS，化学演習F**，化学TED演習S**，化学TED演習F**，化学TEDブレゼンテーション実習**，化学TED特別実験，化学TED学外実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化学・生命系理工学専攻 理学 (PSD) プログラム 専門科目</li> </ul> <p>○化学分野：構造生物学，有機電気化学特論，生物宇宙地球化学，インターエメント結合の化学，化学反応動力学，光材料化学，物理有機化学特論，セラミックス材料工学，粉体材料プロセス工学，化学演習S**，化学演習F**，化学PSD演習S**，化学PSD演習F**，化学海外インターアクションシップM，化学海外インターアクションシップS，化学インターアクションシップL，化学インターアクションシップP S，化学PSD特別実験，化学PSD学外実習</p>	<p>教育内容充実のため、修了要件として専攻が指定する科目群に下線部のとおり1科目を追加した。</p> <p>専攻が指定する科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化学・生命系理工学専攻 工学 (TED) プログラム 専門科目</li> </ul> <p>○応用化学分野：構造生物学，有機電気化学特論，生物宇宙地球化学，インターエメント結合の化学，物理有機化学特論，化学反応動力学，光材料化学，セラミックス材料工学，粉体材料プロセス工学，化学インターアクションシップL，化学インターアクションシップM，化学海外インターアクションシップS，化学海外インターアクションシップL，化学海外インターアクションシップM，化学海外インターアクションシップS，化学演習F**，化学TED演習S**，化学TED演習F**，化学TEDブレゼンテーション実習**，化学TED特別実験，化学TED学外実習，<u>精密有機合成化学</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化学・生命系理工学専攻 理学 (PSD) プログラム 専門科目</li> </ul> <p>○化学分野：構造生物学，有機電気化学特論，生物宇宙地球化学，インターエメント結合の化学，化学反応動力学，光材料化学，物理有機化学特論，セラミックス材料工学，粉体材料プロセス工学，化学演習S**，化学演習F**，化学PSD演習S**，化学PSD演習F**，化学海外インターアクションシップM，化学海外インターアクションシップS，化学インターアクションシップL，化学インターアクションシップP S，化学PSD特別実験，化学PSD学外実習，<u>精密有機合成化学</u></p>

## ○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則

(平成 28 年 3 月 22 日規則第 25 号)

改正 平成 28 年 3 月 30 日規則第 38 号 平成 30 年 4 月 12 日規則第 57 号

## 目次

- 第 1 章 総則(第 1 条・第 2 条)
- 第 2 章 業務及び組織(第 3 条―第 10 条)
- 第 3 章 学生 IR 統括部門(第 11 条・第 12 条)
- 第 4 章 高大接続部門(第 13 条・第 14 条)
- 第 5 章 全学教育部門(第 15 条・第 16 条)
- 第 6 章 教育開発・学修支援部門(第 17 条・第 18 条)
- 第 7 章 雑則(第 19 条・第 20 条)
- 附則

## 第 1 章 総則

## (趣旨)

第 1 条 この規則は、横浜国立大学学則(以下「学則」という。)第 14 条の規定に基づき、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター(以下「センター」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

## (目的)

第 2 条 センターは、横浜国立大学(以下「本学」という。)における高大接続システム改革の実現に向けて全学一体で推進する中心的な役割を果たし、大学教育の質的転換及び入学者選抜方法の改善のための学生行動調査等を重視するインスティテューショナル・リサーチ(以下「学生 IR」という。)の推進とともに、初年次教育科目から高度全学教育科目を体系的に編成した全学教育(教養教育を含む。)の企画、調整、実施及び改善を図り、もって国際通用性のある本学教育の質保証に資することを目的とする。

## 第 2 章 業務及び組織

## (業務)

第 3 条 センターは、前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 本学の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)及び入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に基づく高大接続システム改革の実現に向けた大学教育の質的転換及び入学者選抜方法の改善のための学生 IR の推進に関すること。
- (2) 学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の内外を通じて培うことができるよう、学生のキャリア形成及び

就職支援等における組織間の有機的な連携を推進するための企画、調整、実施及び改善に関すること。

(3) 入学者選抜方法の改善、多面的・総合的な評価方法の調査研究、企画及び調整、入学広報並びに高大連携に関すること。

(4) 初年次教育科目から高度全学教育科目までを体系的に編成した全学教育（教養教育を含む。）の企画、調整、実施及び改善に関すること。

(5) 授業設計と成績評価の向上、ICT等を活用したアクティブラーニング及びキャリア教育の開発、学生の能動的学修の支援並びにこれらの組織的な研修に資するファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）の調査研究、企画、調整、実施及び改善に関すること。

(6) その他前条の目的を達成するために必要な業務に関すること。

2 前項に掲げる業務は、国立大学法人横浜国立大学組織運営規則（平成16年規則第5号。以下「組織運営規則」という。）第18条に規定する横浜国立大学大学院教育強化推進センターとの緊密に連携して行うものとする。

（組織）

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

(1) センター長

(2) 副センター長

(3) センター専任教員

(4) センター長が指名又は推薦する本学の教員

(5) その他必要な職員

（センター長）

第5条 センター長は、本学の副学長又は専任教授をもって充て、学長が任命する。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

（副センター長）

第6条 副センター長は、第4条第3号又は第4号の教員の中から、センター長の推薦に基づき学長が任命する。

2 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 副センター長の任期は、センター長が定める。ただし、第1項の規定に基づき推薦したセンター長の任期を超えることはできない。

（運営委員会等）

第7条 センターに、学則第12条第2項及び組織運営規則第12条第2項の規定に基づく教授会として、次に掲げる委員会を置く。

- (1) 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター運営委員会
- (2) 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター教員選考委員会  
(部門長会議)

第8条 センターに、組織運営規則第12条第3項の規定に基づく代議員会として、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター部門長会議を置く。  
(部門及び部門長)

第9条 センターに第3条に掲げる業務を遂行するために、次の部門を置く。

- (1) 学生 IR 統括部門
- (2) 高大接続部門
- (3) 全学教育部門
- (4) 教育開発・学修支援部門

2 部門に部門長を置く。

3 学生 IR 統括部門、高大接続部門及び教育開発・学修支援部門の部門長は、第4条第3号又は第4号の教員の中から、センター長の推薦に基づき学長が任命する。

4 全学教育部門の部門長は、教養教育主事をもって充て、学長が任命する。

5 部門長は、部門の業務を掌理する。

6 部門長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任の部門長の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究員)

第10条 センターに、研究員を置くことができる。

2 研究員は、第3条各号に規定する業務に関連した研究又は実践歴等を有する者のうちから、第8条に規定する部門長会議の議を経て、センター長が委嘱する。

### 第3章 学生 IR 統括部門

(業務)

第11条 学生 IR 統括部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) センターにおける学生 IR の統括に関すること。
- (2) 学生卒業後の進路状況及び進路先評価等に関する調査研究、企画、調整及び実施並びに本学における人材育成システムの評価に関すること。
- (3) 学生のキャリア形成及び就職支援における組織間の有機的な連携を推進するための企画、調整、実施及び改善に関すること。
- (4) キャリア・サポートルームに関すること。
- (5) その他学生 IR、学生のキャリア形成及び就職支援に関すること。

(学生 IR 統括部会)

第12条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、学生 IR 統括部会を置く。

### 第4章 高大接続部門

(業務)

第13条 高大接続部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 入学者選抜方法の改善に関する学生 IR の推進に関すること。
- (2) 多面的・総合的な評価方法に関する調査研究、企画及び調整に関すること。
- (3) 入学広報及び高大連携に関する業務に関すること。
- (4) 高大接続学習プログラムに関する業務に関すること。
- (5) その他高大接続に関する支援等の業務（他の部門に係る業務を除く。）に関すること。

(アドミッション部会との連携)

第14条 前条に規定する業務を遂行するために、横浜国立大学入学者選抜のための組織及び運営に関する規則（平成16年規則第10号）第2条に規定するアドミッション部会と連携するものとする。

#### 第5章 全学教育部門

(業務)

第15条 全学教育部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学教育（教養教育を含む。次号、第4号及び第5号において同じ。）の在り方、教育理念と教育目標に関する学生 IR の推進に関すること。
- (2) 全学教育のカリキュラム編成、シラバス作成及び履修方法等に関する全学的な総合調整に関すること。
- (3) 全学教育科目の授業の実施及び改善に関すること。
- (4) 全学教育に関する予算に関すること。
- (5) その他全学教育に関する必要な事項に関すること。

(全学教育部会)

第16条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、全学教育部会を置く。

#### 第6章 教育開発・学修支援部門

(業務)

第17条 教育開発・学修支援部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 大学教育及び学生の学修支援の在り方、教育理念と教育目標に関する学生 IR の推進に関すること。
- (2) 授業設計と成績評価（シラバスの改善を含む。）に関する調査研究、企画、調整、実施及び改善に関すること。
- (3) ICT等を活用したアクティブラーニング及びキャリア教育の開発並びに学生の能動的学修方法等に関する調査研究、開発、調整及び改善に関すること。
- (4) 大学教育の質的転換のためのFDに関する調査研究、企画、調整、実施及び評価に関すること。



- (5) 学生の学修行動調査の調査研究、企画、調整、実施及び評価に関すること。
- (6) 全学リテラシー共通テキスト等の教材開発、企画及び調整に関すること。
- (7) その他教育開発及び学生の学修支援に関する必要な事項に関すること。

(教育開発・学修支援部会)

第18条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、教育開発・学修支援部会を置く。

#### 第7章 雑則

(事務)

第19条 センターの事務は、学務部において処理する。

(雑則)

第20条 この規則に定めるもののほか、センターに関する必要な事項は、運営委員会の議を経て、センター長が定める。

#### 附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日に任命されるセンター長の選考は、学長が行い、その任期は、第5条第3項の規定にかかわらず、平成29年3月31日までとする。
- 3 平成29年3月31日までの間、第15条第1号及び第2号に規定する「教養教育」とあるのは「教養教育及び平成29年度開設予定の全学教育科目（各学部が開設予定の高度全学教育科目を含む。）」と読み替えて適用する。
- 4 横浜国立大学大学教育総合センター規則（平成16年規則511号）は、廃止する。

附 則(平成28年3月30日規則第38号)

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成30年4月12日規則第57号)

この規則は、平成30年4月12日から施行する。

○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センターに置く会議の組織運営に関する  
規則

(平成 28 年 3 月 22 日規則第 26 号)

改正 平成 28 年 3 月 30 日規則第 38 号 平成 29 年 3 月 30 日規則第 69 号  
平成 29 年 8 月 1 日規則第 82 号 平成 30 年 3 月 29 日規則第 47 号  
平成 30 年 4 月 12 日規則第 58 号

目次

- 第 1 章 総則(第 1 条)
- 第 2 章 運営委員会(第 2 条―第 6 条)
- 第 3 章 教員選考委員会(第 7 条・第 8 条)
- 第 4 章 部門長会議(第 9 条―第 11 条)
- 第 5 章 学生 IR 統括部会(第 12 条―第 14 条)
- 第 6 章 全学教育部会(第 15 条―第 17 条)
- 第 7 章 教育開発・学修支援部会(第 18 条―第 20 条)
- 第 8 章 雑則(第 21 条―第 23 条)

附則

第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則（以下「規則」という。）第 20 条の規定に基づき、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター（以下「センター」という。）に置く会議の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

第 2 章 運営委員会

(審議事項)

第 2 条 規則第 7 条第 1 号の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの組織に関すること。
- (2) センターの業務計画（センターの予算を含む。）及び管理運営に係る重要事項に関すること。
- (3) その他センターに関する重要事項に関すること。

(組織)

第 3 条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学部長

- (2) 研究院長
  - (3) 教養教育主事
  - (4) 附属図書館長
  - (5) 情報基盤センター長
  - (6) センター長
  - (7) 副センター長
  - (8) センター部門長
  - (9) センター専任教員
  - (10) 学務部長
  - (11) 研究・学術情報部長
  - (12) 学長が指名する者 若干人
- 2 前項第12号の委員の任期は、2年とする。ただし、欠員による委員の任期は、前任者の残任期間とする。
  - 3 前項の委員は、再任されることができる。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、副センター長がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

- 2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 3 運営委員会における審議の方法について、議長は運営委員会開催に代わるものとして、電磁的記録による審議を行うことができる。

(委員以外の者の出席)

第6条 運営委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

### 第3章 教員選考委員会

(審議事項)

第7条 規則第7条第2号の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター教員選考委員会（以下「教員選考委員会」という。）は、センターの専任教員の選考に関する事項を審議する。

(組織、委員長及び議事等)

第8条 教員選考委員会の組織、委員長、議事及び委員以外の者の出席については、第3条から第6条まで（第5条第3項を除く。）を準用する。この場合において、第3条第

1 項第 10 号から第 12 号の委員は組織から除くものとし、第 5 条第 1 項中「委員の過半数」を「委員の 3 分の 2 以上」と読み替えて適用する。

#### 第 4 章 部門長会議

(審議事項)

第 9 条 規則第 8 条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター部門長会議（以下「部門長会議」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの業務計画及び管理運営に関すること。
- (2) センターの予算に関すること。
- (3) センターの部門及び各部会との連絡調整に関すること。
- (4) その他運営委員会から審議を付託された事項に関すること。

(組織)

第 10 条 部門長会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター部門長
- (4) 学務部長
- (5) センター長が指名する者 若干人

2 前項第 5 号の委員の任期及び再任については、第 3 条第 2 項及び第 3 項を準用する。

(委員長及び議事等)

第 11 条 部門長会議の委員長、議事及び委員以外の者の出席については、第 4 条から第 6 条までを準用する。

#### 第 5 章 学生 IR 統括部会

(審議事項)

第 12 条 規則第 12 条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター学生 IR 統括部会（以下「学生 IR 統括部会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターにおける学生 IR の統括に関すること。
- (2) 学生の進路状況及び進路先評価等に関すること。
- (3) 学生のキャリア形成及び就職支援における全学的な総合調整に関すること。
- (4) キャリア・サポートルームに関すること。
- (5) その他学生 IR、学生のキャリア形成及び就職支援に関すること。

(組織)

第 13 条 学生 IR 統括部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学生 IR 統括部門長
- (2) 学生 IR 統括部門を担当する教員

- (3) 高大接続部門長、全学教育部門長及び教育開発・学修支援部門長
  - (4) 各学部の教授会から選出された教員 各1人
  - (5) 学務部学生支援課長、教育企画課長及び入試課長
  - (6) その他学生 IR 統括部門長が指名した者
- 2 前項第4号及び第6号の委員の任期及び再任については、第3条第2項及び第3項を準用する。

(委員長及び議事等)

第14条 学生 IR 統括部会に委員長を置き、学生 IR 統括部門長をもって充てる。

- 2 委員長は、学生 IR 統括部会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
- 4 学生 IR 統括部会の議事及び委員以外の者の出席については、第5条及び第6条を準用する。

## 第6章 全学教育部会

(審議事項)

第15条 規則第16条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター全学教育部会（以下「全学教育部会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 全学教育（教養教育を含む。第4号及び第5号において同じ。）の全学的な総合調整に関すること。
- (2) 全学教育科目の授業実施計画に関すること。
- (3) 全学教育科目のカリキュラム編成及び改善に関すること。
- (4) 全学教育に関する予算に関すること。
- (5) その他全学教育の実施に関すること。

(組織)

第16条 全学教育部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 全学教育部門長
  - (2) 全学教育部門を担当する専任教員
  - (3) 各学部及び国際社会科学府の教授会から選出された教員 各1人
  - (4) 教育学部学校教育課程保健体育講座から選出された教員 1人
  - (5) 国際戦略推進機構から選出された教員 3人
  - (6) 学務部教育企画課長
  - (7) その他全学教育部門長が指名した者 若干名
- 2 前項第3号から第5号まで及び第7号の委員の任期及び再任については、第3条第2項及び第3項を準用する。

(委員長及び議事等)

第17条 全学教育部会に委員長を置き、全学教育部門長をもって充てる。

- 2 委員長は、全学教育部会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
- 4 全学教育部会の議事及び委員以外の者の出席については、第5条及び第6条を準用する。

## 第7章 教育開発・学修支援部会

### (審議事項)

第18条 規則第18条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会（以下「教育開発・学修支援部会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 授業設計と成績評価（シラバスの改善を含む。）に関する事。
- (2) ICT等を活用したキャリア教育及び学生の能動的学修方法等に関する事。
- (3) ファカルティ・ディベロップメントに関する事。
- (4) 学生の学修行動調査に関する事。
- (5) 全学リテラシー共通テキスト等に関する事。
- (6) その他教育開発及び学生の学修支援に関する事。

### (組織)

第19条 教育開発・学修支援部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育開発・学修支援部門長
  - (2) 教育開発・学修支援部門を担当する専任教員
  - (3) 全学教育部門長
  - (4) 各学部の教授会から選出された教員 各1人
  - (5) 国際戦略推進機構及び情報基盤センターから選出された教員 各1人
  - (6) 学務部教育企画課長
  - (7) 研究・学術情報部図書館情報課長及び情報企画課長
  - (8) その他教育開発・学修支援部門長が指名した者 若干名
- 2 前項第4号、第5号及び第8号の委員の任期及び再任については、第3条第2項及び第3項を準用する。

### (委員長及び議事等)

第20条 教育開発・学修支援部会に委員長を置き、教育開発・学修支援部門長をもって充てる。

- 2 委員長は、教育開発・学修支援部会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
- 4 教育開発・学修支援部会の議事及び委員以外の者の出席については、第5条及び第6条を準用する。

## 第8章 雑則

### (会議の合同開催等)

第21条 第5条、第11条及び前条に規定する運営委員会、部門長会議及び教育開発・学修支援部会は、組織運営規則第18条第1項に規定する横浜国立大学大学院教育強化推進センターとの事前の協議を経て、合同で開催することができる。この場合において、合同で開催される委員会等の議事については、この規則及び横浜国立大学大学院教育強化推進センターに置く会議の組織運営に関する規則を適用し、議長については、それぞれの委員長の互選により置くものとする。

(事務)

第22条 センターに置く会議の事務は、学務部において処理する。

(雑則)

第23条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

#### 附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成29年3月31日までの間、第15条第1号及び第2号に規定する「教養教育」とあるのは「教養教育及び平成29年度開設予定の全学教育科目（各学部が開設予定の高度全学教育科目を含む。）」と読み替えて適用する。
- 3 平成29年3月31日までの間、第13条第1項第4号、第16条第1項第3号及び第19条第1項第4号に規定する「各学部」とあるのは「各学部（都市科学部（仮称）設置準備委員会を含む。）」と読み替えて適用する。
- 4 横浜国立大学大学教育総合センターに置く会議の組織運営に関する規則（平成16年規則第512号）は、廃止する。

#### 附 則(平成28年3月30日規則第38号)

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

#### 附 則(平成29年3月30日規則第69号)

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

#### 附 則(平成29年8月1日規則第82号)

- 1 この規則は、平成29年8月1日から施行する。
- 2 当分の間、第15条第3号に規定する「全学教育科目」とあるのは「全学教育科目及び平成28年度入学者まで適用の教養教育科目」と読み替えて適用する。

#### 附 則(平成30年3月29日規則第47号)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

#### 附 則(平成30年4月12日規則第58号)

この規則は、平成30年4月12日から施行する。





# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人横浜国立大学

## (2) 大学名

横浜国立大学大学院

## (3) 大学の位置

〒240-8501

神奈川県横浜市常盤台79番5号

(神奈川県横浜市常盤台79番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(ハセベ ユウイチ) 長谷部 勇一 (平成27年4月)		
学府長	(ワタナベ マサヨシ) 渡邊 正義 (平成30年4月)		
専攻長 数物・電子情報系理工学専攻(M)	(セキヤ タカオ) 関谷 隆夫 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
大学院理工学府 数物・電子情報系理工学専攻(博士課程前期) 修士(理学) 修士(工学)	理学関係  工学関係	2年	146人	292人	理工学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成30年度		平成31年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	146人	-人	( )	( )	人	人	1.04倍	
	( - )	( - )	( )	( )				
	[ - ]	[ - ]	[ ]	[ ]				
志願者数	200	-	( )	( )	( )	( )		
	( - )	( - )	( )	( )	( )	( )		
	[ 20 ]	[ - ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]		
受験者数	196	-	( )	( )	( )	( )		
	( - )	( - )	( )	( )	( )	( )		
	[ 18 ]	[ - ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]		
合格者数	156	-	( )	( )	( )	( )		
	( - )	( - )	( )	( )	( )	( )		
	[ 10 ]	[ - ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]		
B 入学者数	153	-	( )	( )	( )	( )		
	( - )	( - )	( )	( )	( )	( )		
	[ 10 ]	[ - ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]		
入学定員超過率 B/A	1.04							

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ ( )内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
- ・ [ ]内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	153 [ 10 ] ( - )	- [ - ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次			/				
計	153 [ 10 ] ( - )		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	153 人	0 人	平成30年度	人	人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
合計	153 人	0 人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要ありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するため準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{153} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<横浜国立大学理工学府 数物・電子情報系理工学専攻（博士課程前期）>

### (1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学府共通科目	理工学府MPBL	1-21~2		2		3						兼11
	Presentation English	1-21~2-4-5		2								兼1
	Presentation English S, Basic Level	1-21~2		2								兼2
	Presentation English F, Basic Level	1-24~5		2								兼2
	理工学府海外インターンシップ	1-21~2-4-5		2		1						兼1
	リスクマネジメントのための技術者倫理	1-21~2		2								兼5
	光・電子材料科学概論	1-24~5		2								兼1
	数値流体工学	1-21~2		2								兼1
	乱流現象論	1-24~5		2								兼1
	多機能性複合材料概論	1-24~5		2								兼1
	波浪と船体運動	1-24~5		2								兼1
	海洋資源エネルギー工学入門	1-24~5		2								兼1
	量子統計力学	1-21~2		2			1					
	ナノ物性物理学	1-21~2		2			2					
	磁気科学概論	1-21~2		2		1	1					
	低温物理学	1-24~5		2			1					
	宇宙素粒子物理学概論	1-21~2		2			1					
	プラズマ物理	1-24~5		2			1					
	エネルギーシステム論	1-24~5		2								兼2
	信号理論	1-24~5		2								兼1
	アドバンスデジタル通信	1-24~5		2		1						
	VLSIシステム設計	1-21~2		2		1						
	先端エレクトロニクス製品アーキテクチャ講義	1-24~5		2		1						
	知能システム論	1-24~5		2		1						
	マテリアルインテグレーション	1-21~2		2								兼1
	イノベーションと起業Ⅱ	1-24~5		2		1						兼1
	プロセス計測学	1-21~2		2								兼1
	伝熱工学特論	1-24~5		2								兼2
	移動現象特論	1-21~2		2								兼1
	先端燃料電池技術	1-23		2								兼2
	分子統計力学	1-24~5		2								兼1
	量子反応論	1-21~2		2								兼1
	触媒化学	1-21~2		2								兼1
	高分子設計学	1-24~5		2								兼1
	有機光化学	1-24~5		2								兼1
	微生物応用学	1-24~5		2								兼1
	先端機器分析特論	1-24~5		2								兼1
	プロジェクトマネジメントⅠ	1-21~2		2								兼1
プロジェクトマネジメントⅡ	1-21~2		2								兼1	
プロフェッショナルエンジニアⅠ	1-21~2		2								兼4	
プロフェッショナルエンジニアⅡ	1-24~5		2								兼4	
Professional Ethics in EU & US	1-21~2		2								兼2	
グローバル企業における効果的な事業計画策定	1-21~2		2								兼1	
グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル	1-21~2		2								兼3	
イノベーションと課題発見Ⅰ	1-21~2		2		1						兼3	
イノベーションと課題発見Ⅱ	1-21~2		2		1						兼3	
数学科学 代数	1-24~5		2		1							
数学科学 幾何	1-21~2		2			1						
数学科学 解析	1-21~2		2		1							
数学科学 確率・統計	1-24~5		2		1	1						
数学科学 データ・サイエンス	1-21~2		2		1							
専攻共通科目	符号理論	1-24~5		2		1						
	デジタル回路論	1-21~2		2			1					
	ナノフォトニクス	1-21~2		2			1					
	離散システム特論	1-24~5		2		1						
	フォトニクス理論	1-21~2		2		1						
	量子情報物理学概論	1-21~2		2		1	1					
	先端レーザー分光学概論	1-24~5		2		1	1					
	精密レーザー分光学概論	1-21~2		2		1						
	多体電子論	1-21~2		2		1	1					
	ニュートリノ物理学概論	1-24~5		2			1					
	物理学輪講	1-21~2-4-5		2		2						
	物理学演習	1-21~2-4-5		2		2						
	先進数理科学 代数	1-24~5		2		1						
	先進数理科学 幾何	1-21~2		2			1					
	先進数理科学 解析	1-21~2		2		1						
	先進数理科学 確率A	1-21~2		2		1						
	先進数理科学 確率B	1-24~5		2			1					
	先進数理科学 統計	1-24~5		2		1						

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学府共通科目	理工学府MPBL	1-21~2		2		3						兼12
	Presentation English	1-21~2-4-5		2								兼1
	Presentation English S, Basic Level	1-21~2		2								兼2
	Presentation English F, Basic Level	1-24~5		2								兼2
	理工学府海外インターンシップ	1-21~2-4-5		2		1						兼1
	リスクマネジメントのための技術者倫理	1-21~2		2								兼5
	光・電子材料科学概論	1-24~5		2								兼1
	数値流体工学	1-21~2		2								兼1
	乱流現象論	1-24~5		2								兼1
	多機能性複合材料概論	1-24~5		2								兼1
	波浪と船体運動	1-24~5		2								兼1
	海洋資源エネルギー工学入門	1-24~5		2								兼1
	量子統計力学	1-21~2		2			1					
	ナノ物性物理学	1-21~2		2			2					
	磁気科学概論	1-21~2		2			1	1				
	低温物理学 (未開講)	1-24~5		2			1					
	宇宙素粒子物理学概論 (未開講)	1-21~2		2			1					
	プラズマ物理	1-24~5		2			1					
	エネルギーシステム論	1-24~5		2								兼2
	信号理論	1-24~5		2								兼1
	アドバンスデジタル通信	1-24~5		2		1						
	VLSIシステム設計	1-21~2		2		1						
	先端エレクトロニクス製品アーキテクチャ講義	1-24~5		2		1						
	知能システム論	1-24~5		2		1						
	マテリアルインテグレーション	1-21~2		2								兼1
	イノベーションと起業Ⅱ	1-24~5		2		1						兼1
	プロセス計測学	1-21~2		2								兼1
	伝熱工学特論	1-24~5		2								兼2
	移動現象特論	1-21~2		2								兼1
	先端燃料電池技術	1-23		2								兼2
	分子統計力学 (未開講)	1-24~5		2								兼1
	量子反応論	1-21~2		2								兼1
	触媒化学	1-21~2		2								兼1
	高分子設計学	1-24~5		2								兼1
	有機光化学	1-24~5		2								兼1
	微生物応用学 (未開講)	1-24~5		2								兼1
	先端機器分析特論	1-24~5		2								兼1
	固体化学	1-24~5		2								兼1
プロジェクトマネジメントⅠ	1-21~2		2								兼1	
プロジェクトマネジメントⅡ	1-21~2		2								兼1	
プロフェッショナルエンジニアⅠ	1-21~2		2								兼4	
プロフェッショナルエンジニアⅡ	1-24~5		2								兼4	
Professional Ethics in EU & US	1-21~2		2								兼3	
グローバル企業における効果的な事業計画策定	1-21~2		2								兼1	
グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル	1-21~2		2								兼1	
イノベーションと課題発見Ⅰ	1-21~2		2		1						兼3	
イノベーションと課題発見Ⅱ	1-21~2		2		1						兼3	
標準化とビジネス	1-20~2		2								兼2	
神奈川県を取り組む技術課題	1-20~2		2								兼1	
数学科学 代数	1-24~5		2		1							
数学科学 幾何 (未開講)	1-21~2		2			1						
数学科学 解析	1-21~2		2		1							
数学科学 確率・統計	1-24~5		2		1	1						
数学科学 データ・サイエンス	1-21~2		2		1							
専攻共通科目	符号理論	1-24~5		2		1						
	デジタル回路論	1-21~2		2			1					
	ナノフォトニクス	1-21~2		2			1					
	離散システム特論	1-24~5		2		1						
	フォトニクス理論	1-21~2		2		1						
	量子情報物理学概論	1-21~2		2		1	1					
	先端レーザー分光学概論	1-24~5		2		1	1					
	精密レーザー分光学概論 (未開講)	1-21~2		2		1						
	多体電子論	1-21~2		2		1	1					
	ニュートリノ物理学概論 (未開講)	1-24~5		2			1					
	物理学輪講	1-21~2-4-5		2		2						
	物理学演習	1-21~2-4-5		2		2						
	先進数理科学 代数 (未開講)	1-24~5		2		1						
	先進数理科学 幾何	1-21~2		2			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目	● 電力システム計画論	1-21~2		2		1					
	● 半導体工学特論	1-21~2		2		1					
	● マイクロエレクトロニクス	1-21~2		2						兼1	
	● 半導体光エレクトロニクス	1-24~5		2		1					
	● 情報通信インフラストラクチャ	1-21~2		2						兼1	
	● マルチメディア移動通信	1-24~5		2						兼1	
	● マイクロ波工学	1-21~2		2		1					
	● フォールトトレラントシステム論	1-24~5		2						兼1	
	● 電磁気学特論	1-21~2		2						兼1	
	● 数理プログラミング論	1-24~5		2		1					
	● アナログCMOS集積回路	1-24~5		2						兼1	
	● 集積ナノデバイス工学	1-21~2		2		1					
	● 電子デバイス特論	1-24~5		2		1					
	● 情報通信による医工融合コロキウム	1-21~2		2		1					
	● スマートグリッド論	1-21~2		2		1					
	● 超伝導エレクトロニクス	1-21~2		2		1					
	● モバイルアンテナシステム測定	1-24~5		2		1					
	● モーションコントロールシステム	1-21~2		2		1					
	● 人間システム工学	1-24~5		2		1					
	● 電気電子ネットワーク学外研修	1-21~2		2		10	10				兼1
	● 情報システム学外研修	1-21~2		2		10	10				兼1
	● 応用物理学外研修	1-21~2		2		10	10				兼1
	● 電気電子ネットワークコロキウムI	1-4~5		2		4					
	● 電気電子ネットワークコロキウムII	1-4~5		2		4					
	● 情報システムコロキウムI	1-4~5		2		4					
	● 情報システムコロキウムII	1-4~5		2		4					
	● 応用物理コロキウムI	1-4~5		2		4					
	● 応用物理コロキウムII	1-4~5		2		4					
	● 電気電子ネットワーク演習A	1-21~2		2		10	10				
	● 電気電子ネットワーク演習B	1-24~5		2		10	10				
	● 電気電子ネットワーク演習C	1-21~2		2		10	10				
	● 電気電子ネットワーク演習D	1-24~5		2		10	10				
	● 情報システム演習A	1-21~2		2		10	10				
	● 情報システム演習B	1-24~5		2		10	10				
	● 情報システム演習C	1-21~2		2		10	10				
	● 情報システム演習D	1-24~5		2		10	10				
	● 応用物理演習A	1-21~2		2		10	10				
	● 応用物理演習B	1-24~5		2		10	10				
	● 応用物理演習C	1-21~2		2		10	10				
	● 応用物理演習D	1-24~5		2		10	10				
● 電気電子ネットワーク海外インターンシップL	1-21~2-4~5		4		10	10				兼1	
● 電気電子ネットワーク海外インターンシップM	1-21~2-4~5		2		10	10				兼1	
● 電気電子ネットワーク海外インターンシップS	1-21~2-4~5		1		10	10				兼1	
● 情報システム海外インターンシップL	1-21~2-4~5		4		10	10				兼1	
● 情報システム海外インターンシップM	1-21~2-4~5		2		10	10				兼1	
● 情報システム海外インターンシップS	1-21~2-4~5		1		10	10				兼1	
● 応用物理海外インターンシップL	1-21~2-4~5		4		10	10				兼1	
● 応用物理海外インターンシップM	1-21~2-4~5		2		10	10				兼1	
● 応用物理海外インターンシップS	1-21~2-4~5		1		10	10				兼1	
● 集積回路設計S	1-21~2		4		2	1					
● 集積回路設計F	1-24~5		4		2	1					
● オープンソース学実習S	1-21~2		4		1	1					
● オープンソース学実習F	1-24~5		4		1	1					
● モーションコントロールS	1-21~2		4		1	1					
● モーションコントロールF	1-24~5		4		1	1					
● ナノエレクトロニクスS	1-21~2		4		1	2					
● ナノエレクトロニクスF	1-24~5		4		1	2					
● 光波解析S	1-21~2		4		1	1					
● 光波解析F	1-24~5		4		1	1					
● アンテナ設計・解析S	1-21~2		4		1	2					
● アンテナ設計・解析F	1-24~5		4		1	2					
● 情報通信技術S	1-21~2		4		2						
● 情報通信技術F	1-24~5		4		2						
● 電気エネルギー供給S	1-21~2		4		1	1					
● 電気エネルギー供給F	1-24~5		4		1	1					
● 先端電子材料・エレクトロニクスS	1-21~2		4		2	1					
● 先端電子材料・エレクトロニクスF	1-24~5		4		2	1					
● 集積エレクトロニクスS	1-21~2		4		1	1					
● 集積エレクトロニクスF	1-24~5		4		1	1					
● 電子情報工学と未来医療・福祉S	1-21~2		4		6	2					
● 電子情報工学と未来医療・福祉F	1-24~5		4		6	2					
● 環境適応スマートシステムS	1-21~2		4		3	3					
● 環境適応スマートシステムF	1-24~5		4		3	3					
● 無線通信システムS	1-21~2		4		1	2					
● 無線通信システムF	1-24~5		4		1	2					
● 先端フォトニクスS	1-21~2		4		1	2					
● 先端フォトニクスF	1-24~5		4		1	2					
● 高度情報ネットワークシステムS	1-21~2		4		3	2					
● 高度情報ネットワークシステムF	1-24~5		4		3	2					
● 重い電子系の物理	1-24~5		2		1						
● 表面科学	1-24~5		2			2					
● 結晶の対称性と群論	1-24~5		2		1						
● 高エネルギー物理学概論	1-21~2		2			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目	● 電力システム計画論	1-21~2		2		1					
	● 半導体工学特論	1-21~2		2		1					
	● マイクロエレクトロニクス	1-21~2		2						兼1	
	● 半導体光エレクトロニクス	1-24~5		2			1				
	● 情報通信インフラストラクチャ	1-21~2		2						兼1	
	● マルチメディア移動通信	1-24~5		2						兼1	
	● マイクロ波工学	1-21~2		2		1					
	● フォールトトレラントシステム論	1-24~5		2						兼1	
	● 電磁気学特論	1-21~2		2						兼1	
	● 数理プログラミング論	1-24~5		2		1					
	● アナログCMOS集積回路	1-24~5		2						兼1	
	● 集積ナノデバイス工学	1-21~2		2		1					
	● 電子デバイス特論	1-24~5		2		1					
	● 情報通信による医工融合コロキウム	1-21~2		2		1					
	● スマートグリッド論	1-21~2		2		1					
	● 超伝導エレクトロニクス	1-21~2		2		1					
	● モバイルアンテナシステム測定	1-24~5		2		1					
	● モーションコントロールシステム	1-21~2		2		1					
	● 人間システム工学	1-24~5		2		1					
	● 電気電子ネットワーク学外研修	1-21~2		2		10	10				兼1
	● 情報システム学外研修	1-21~2		2		10	10				兼1
	● 応用物理学外研修	1-21~2		2		10	10				兼1
	● 電気電子ネットワークコロキウムI	1-4~5		2		4					
	● 電気電子ネットワークコロキウムII	1-4~5		2		4					
	● 情報システムコロキウムI	1-4~5		2		4					
	● 情報システムコロキウムII	1-4~5		2		4					
	● 応用物理コロキウムI	1-4~5		2		4					
	● 応用物理コロキウムII	1-4~5		2		4					
	● マルチメディア無線通信ネットワーク	1-20~2		2							兼1
	● 電気電子ネットワーク演習A	1-21~2		2		10	10				
	● 電気電子ネットワーク演習B	1-24~5		2		10	10				
	● 電気電子ネットワーク演習C	1-21~2		2		10	10				
	● 電気電子ネットワーク演習D	1-24~5		2		10	10				
	● 情報システム演習A	1-21~2		2		10	10				
	● 情報システム演習B	1-24~5		2		10	10				
	● 情報システム演習C	1-21~2		2		10	10				
	● 情報システム演習D	1-24~5		2		10	10				
	● 応用物理演習A	1-21~2		2		10	10				
	● 応用物理演習B	1-24~5		2		10	10				
	● 応用物理演習C	1-21~2		2		10	10				
● 応用物理演習D	1-24~5		2		10	10					
● 電気電子ネットワーク海外インターンシップL	1-21~2-4~5		4		10	10				兼1	
● 電気電子ネットワーク海外インターンシップM	1-21~2-4~5		2		10	10				兼1	
● 電気電子ネットワーク海外インターンシップS	1-21~2-4~5		1		10	10				兼1	
● 情報システム海外インターンシップL	1-21~2-4~5		4		10	10				兼1	
● 情報システム海外インターンシップM	1-21~2-4~5		2		10	10				兼1	
● 情報システム海外インターンシップS	1-21~2-4~5		1		10	10				兼1	
● 応用物理海外インターンシップL	1-21~2-4~5		4		10	10				兼1	
● 応用物理海外インターンシップM	1-21~2-4~5		2		10	10				兼1	
● 応用物理海外インターンシップS	1-21~2-4~5		1		10	10				兼1	
● 集積回路設計S	1-21~2		4		2	1					
● 集積回路設計F	1-24~5		4		2	1					
● オープンソース学実習S	1-21~2		4		1	1					
● オープンソース学実習F	1-24~5		4		1	1					
● モーションコントロールS	1-21~2		4		1	1					
● モーションコントロールF	1-24~5		4		1	1					
● ナノエレクトロニクスS	1-21~2		4		1</						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目	理学系	非線形科学	1-21~2	2			1				
	工学系	先端物理学	1-23	2							兼1
	情報系	現代物理学	1-23	2							兼1
	実務系	物理学演習A	10~2	2		7	15				
		物理学演習B	14~5	2		7	15				
		物理学演習C	21~2	2		7	15				
		物理学演習D	24~5	2		7	15				
		物理PSD演習A	1-21~2	2		7	15				
		物理PSD演習B	1-24~5	2		7	15				
		● 物理学インターンシップL	1-21~2, 2-4~5, 5	4		7	15				
		● 物理学インターンシップM	1-21~2, 2-4~5, 5	2		7	15				
		● 物理学インターンシップS	1-21~2, 2-4~5, 5	1		7	15				
		● 物理学キャリアデザイン	10~2, 2-4~5, 5	2		3	1				兼1
		● 物理学プレゼンテーション実習	10~6	1		7	15				
		数学科学論A	10~2	2		4	2				
		数学科学論B	14~5	2		4	2				
		数学科学論C	21~2	2		4	2				
		数学科学論D	24~5	2		4	2				
		数学科学演習A	10~2	2		4	2				
		数学科学演習B	14~5	2		4	2				
	数学科学演習C	21~2	2		4	2					
	数学科学演習D	24~5	2		4	2					
	数学科学学外研修	1-21~2, 2-4~5, 5	2		4	2					
	代数学演習	1-21~2	2		1						
	幾何学演習	1-24~5	2			1					
	解析学演習	1-24~5	2			1					
	確率論演習	1-21~2	2			1					
	統計学演習	1-24~5	2			1					
	計算機数学演習	1-21~2	2			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目	理学系	非線形科学	1-21~2	2			1				
	工学系	先端物理学	1-23	2							兼1
	情報系	現代物理学	1-23	2							兼1
	実務系	物理学演習A	10~2	2		7	15				
		物理学演習B	14~5	2		7	15				
		物理学演習C	21~2	2		7	15				
		物理学演習D	24~5	2		7	15				
		物理PSD演習A	1-21~2	2		7	15				
		物理PSD演習B	1-24~5	2		7	15				
		● 物理学インターンシップL	1-21~2, 2-4~5, 5	4		7	15				
		● 物理学インターンシップM	1-21~2, 2-4~5, 5	2		7	15				
		● 物理学インターンシップS	1-21~2, 2-4~5, 5	1		7	15				
		● 物理学キャリアデザイン	10~2, 2-4~5, 5	2		3	1				兼1
		● 物理学プレゼンテーション実習	10~6	1		7	15				
		● 発展物理学	1-20~2, 2-5	2							兼1
		数学科学論A	10~2	2		4	2				
		数学科学論B	14~5	2		4	2				
		数学科学論C	21~2	2		4	2				
		数学科学論D	24~5	2		4	2				
		数学科学演習A	10~2	2		4	2				
	数学科学演習B	14~5	2		4	2					
	数学科学演習C	21~2	2		4	2					
	数学科学演習D	24~5	2		4	2					
	数学科学学外研修	1-21~2, 2-4~5, 5	2		4	2					
	代数学演習	1-21~2	2			1					
	幾何学演習	1-24~5	2				1				
	解析学演習	1-24~5	2				1				
	確率論演習 (未開講)	1-21~2	2				1				
	統計学演習 (未開講)	1-24~5	2				1				
	計算機数学演習 (未開講)	1-21~2	2				1				

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。  
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。  
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。  
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。  
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・ 学府共通科目のカリキュラム充実のため、「固体化学」、「標準化とビジネス」、「神奈川県を取り組む技術課題」を追加。
- ・ 学府共通科目の充実のため「理工学府MPBL」「理工学府海外インターンシップ」の兼任教員数を各科目1名増員した。
- ・ 学府共通科目の充実のため「Professional Ethics in EU & US」の兼任教員を1名増員した。
- ・ 本務先企業の都合により「グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル」の兼任教員2名が辞任。
- ・ 専門科目の充実のため「発展物理学」、「マルチメディア無線通信ネットワーク」を追加。
- ・ カリキュラムの調整により、「先端物理学」、「現代物理学」、「数理プログラミング論」の開講タームを変更した。
- ・ より効果的な学修が行えるようにカリキュラムを見直し、「電気電子ネットワーク演習A」、「電気電子ネットワーク演習B」、「電気電子ネットワーク演習C」、「電気電子ネットワーク演習D」、「情報システム演習A」、「情報システム演習B」、「情報システム演習C」、「情報システム演習D」、「応用物理演習A」、「応用物理演習B」、「応用物理演習C」、「応用物理演習D」の配当年次を変更した。

- (注) ・ 変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。  
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
0 科目	181 科目	0 科目	181 科目	0 科目	186 科目	0 科目	186 科目	
				[ ]	[ 5 ]	[ ]	[ 5 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	低温物理学	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
2	宇宙素粒子物理学概論	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
3	分子統計力学	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
4	微生物応用学	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
5	数理科学 幾何	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
6	精密レーザー分光概論	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
7	ニュートリノ物理学概論	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
8	先進数理科学 代数	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
9	先進数理科学 解析	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
10	先進数理科学 確率B	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
11	マイクロエレクトロニクス	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
12	モバイルアンテナシステム測定	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
13	結晶の対称性と群論	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
14	確率論演習	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
15	統計学演習	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
16	計算機数学演習	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

該当なし

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

隔年で開講する科目であるため、学生の履修に影響はない。  
履修案内、時間割表に明示するとともに、掲示板にて周知した。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{16}{181} = \boxed{8.83}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。



3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	335,097㎡	— ㎡	— ㎡	335,097 ㎡				
	運動場用地	89,916 ㎡	— ㎡	— ㎡	89,916 ㎡				
	小 計	425,013 ㎡	— ㎡	— ㎡	425,013 ㎡				
	そ の 他	237,446 ㎡	— ㎡	— ㎡	237,446 ㎡				
	合 計	662,459 ㎡	— ㎡	— ㎡	662,459 ㎡				
(2) 校舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	175,694 ㎡ ( ㎡)	— ㎡ ( ㎡)	— ㎡ ( ㎡)	175,694 ㎡ ( ㎡)					
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	113室	153室	770室	31室 (補助職員 18人)	14室 (補助職員 2人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数						
	理工学府		139 室						
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学府単位での特定不能なため、大学全体の数	
	理工学府	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)		
	計	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)		
(6) 図書館	面 積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数						
	15,336 ㎡	1,472 席	1,346,389 冊	大学全体					
(7) 体育館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	3,882 ㎡	野球場	テニスコートほか			大学全体			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費(運営費交付金)による
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。  
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

#### 4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	横浜国立大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
<b>経済学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番3号	
経済学科	4	238	3年次15	476	学士(経済学)	1.07	平成29年度		
経済システム学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
国際経済学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
<b>経営学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
経営学科	4	287	-	574	学士(経営学)	1.04	平成29年度		
経営学科(昼間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	昭和42年度		平成29年学生募集停止
経営学科(夜間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
会計・情報学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
経営システム科学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
国際経営学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
<b>都市科学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番6号	
都市社会共生学科	4	74	-	148	学士(学術)	0.87	平成29年度		
建築学科	4	70	2年次2	142	学士(工学)	0.96	平成29年度		
都市基盤学科	4	48	3年次5	96	学士(工学)	1.01	平成29年度		
環境リスク共生学科	4	56	-	112	学士(環境学)	1.04	平成29年度		
<b>教育学研究科</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
高度教職実践専攻 (専門職学位課程)	2	15	-	30	教職修士(専門職)	1.03	平成29年度		
<b>理工学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程前期)	2	109	-	109	修士(工学)	1.03	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程前期)	2	107	-	107	修士(理学、工学)	1.01	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程前期)	2	146	-	146	修士(理学、工学)	1.04	平成30年度		
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程後期)	3	11	-	11	博士(工学)	0.54	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(理学、工学)	0.41	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程後期)	3	18	-	18	博士(理学、工学)	1.22	平成30年度		
<b>環境情報学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番7号	
人工環境専攻(博士課程前期)	2	75	-	75	修士(環境学、工学、学術)	0.90	平成30年度		
自然環境専攻(博士課程前期)	2	33	-	33	修士(環境学、理学、学術)	0.90	平成30年度		
情報環境専攻(博士課程前期)	2	65	-	65	修士(情報学、理学、学術)	0.98	平成30年度		

人工環境専攻(博士課程後期)	3	15	-	15	博士(環境学、工学、学術)	0.60	平成30年度	
自然環境専攻(博士課程後期)	3	6	-	6	博士(環境学、理学、学術)	0.50	平成30年度	
情報環境専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(情報学、理学、学術)	0.91	平成30年度	
環境生命学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、情報科学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リカマージメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境生命学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、情報科学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リカマージメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止

大学の名称	横浜国立大学							備考
-------	--------	--	--	--	--	--	--	----

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
教育学部 学校教育課程	4	230	-	920	学士(教育)	1.02	平成10年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
教育人間科学部 人間文化課程	4	-	-	-	学士(教養)	-	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	平成29年学生募集停止
理工学部 機械・材料・海洋系学科	4	185	-	740	学士(工学)	1.02	平成29年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
化学・生命系学科	4	187	-	748	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度		
数物・電子情報系学科	4	287	-	1148	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度		
建築都市・環境系学科	4	-	-	-	学士(理学、工学)	-	平成23年度		平成29年学生募集停止
工学部 生産工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	平成23年学生募集停止
建設学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度		平成23年学生募集停止
電子情報工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度		平成23年学生募集停止
知能物理工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成10年度		平成23年学生募集停止
教育学研究科 教育実践専攻(修士課程)	2	85	-	170	修士(教育学)	1.12	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
国際社会科学府 経済学専攻(博士課程前期)	2	38	-	76	修士(経済学)	0.90	平成25年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
経営学専攻(博士課程前期)	2	50	-	100	修士(経営学)	1.03	平成25年度		
国際経済法学専攻(博士課程前期)	2	25	-	50	修士(法学、国際)	1.04	平成25年度		
経済学専攻(博士課程後期)	3	10	-	30	博士(経済学、学術)	0.40	平成25年度		
経営学専攻(博士課程後期)	3	12	-	36	博士(経営学、学術)	0.44	平成25年度		
国際経済法学専攻(博士課程後期)	3	8	-	24	博士(法学、国際)	0.49	平成25年度		

法曹実務専攻（専門職学位課程）	3	25	-	75	法務博士（専門職）	0.41	平成25年度		
<b>国際社会科学研究所</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
グローバル経済専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経済学、学術）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
企業システム専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経営学、学術）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
国際経済法学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（国際経済法）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
<b>工学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
機能発現工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
機能発現工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
<b>都市イノベーション学府</b>									
建築都市文化専攻（博士課程前期）	2	68	-	136	修士（工学、学術）	0.93	平成23年度		
都市地域社会専攻（博士課程前期）	2	37	-	74	修士（工学、学術）	0.98	平成23年度		
都市イノベーション専攻（博士課程後期）	3	12	-	36	博士（工学、学術）	0.83	平成23年度		

- （注）・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<横浜国立大学理工学府 数物・電子情報系理工学専攻（博士課程前期）>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任（予定）年月>
専	教授	アライ ヒロユキ 新井 宏之  <平成30年4月>
		モバイルアンテナシステム測定 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B 応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS アンテナ設計・解析S アンテナ設計・解析F 無線通信システムS 無線通信システムF
		ウメハラ イズル 梅原 出  <平成30年4月>
		理工学府MPBL 理工学府海外インターンシップ 重い電子系の物理 物理学演習A 物理学演習B 物理学演習C 物理学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理学インターンシップL 物理学インターンシップM 物理学インターンシップS 物理学キャリアデザイン 物理学プレゼンテーション実習
専	教授	オオノ カオル 大野 かおる  <平成30年4月>
		多体電子論 物理学輪講 物理学演習 物理学演習A 物理学演習B 物理学演習C 物理学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理学インターンシップL 物理学インターンシップM 物理学インターンシップS 物理学プレゼンテーション実習
		オオヤマ ツトム 大山 カ  <平成30年4月>

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任（予定）年月>
専	教授	アライ ヒロユキ 新井 宏之  <平成30年4月>
		モバイルアンテナシステム測定 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B 応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS アンテナ設計・解析S アンテナ設計・解析F 無線通信システムS 無線通信システムF
		ウメハラ イズル 梅原 出  <平成30年4月>
		理工学府MPBL 理工学府海外インターンシップ 重い電子系の物理 物理学演習A 物理学演習B 物理学演習C 物理学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理学インターンシップL 物理学インターンシップM 物理学インターンシップS 物理学キャリアデザイン 物理学プレゼンテーション実習
専	教授	オオノ カオル 大野 かおる  <平成30年4月>
		多体電子論 物理学輪講 物理学演習 物理学演習A 物理学演習B 物理学演習C 物理学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理学インターンシップL 物理学インターンシップM 物理学インターンシップS 物理学プレゼンテーション実習
		オオヤマ ツトム 大山 カ  <平成30年4月>

専	教授	電力システム計画論 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B 応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS 電気エネルギー供給S 電気エネルギー供給F 環境適応スマートシステムS 環境適応スマートシステムF
		オチアイ ヒデキ 落合 秀樹 <平成30年4月>
		符号理論 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B 応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS 情報通信技術S 情報通信技術F 電子情報工学と未来医療・福祉S 電子情報工学と未来医療・福祉F 高度情報ネットワークシステムS 高度情報ネットワークシステムF
専	教授	カジワラ タケシ 梶原 健 <平成30年4月>
		数理科学 代数 先進数理科学 代数 数理科学輪講A 数理科学輪講B 数理科学輪講C 数理科学輪講D 数理科学演習A 数理科学演習B 数理科学演習C 数理科学演習D 数理科学学外研修 代数学演習 計算機数学演習

専	教授	電力システム計画論 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B 応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS 電気エネルギー供給S 電気エネルギー供給F 環境適応スマートシステムS 環境適応スマートシステムF
		オチアイ ヒデキ 落合 秀樹 <平成30年4月>
		符号理論 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B 応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS 情報通信技術S 情報通信技術F 電子情報工学と未来医療・福祉S 電子情報工学と未来医療・福祉F 高度情報ネットワークシステムS 高度情報ネットワークシステムF
専	教授	カジワラ タケシ 梶原 健 <平成30年4月>
		数理科学 代数 先進数理科学 代数 数理科学輪講A 数理科学輪講B 数理科学輪講C 数理科学輪講D 数理科学演習A 数理科学演習B 数理科学演習C 数理科学演習D 数理科学学外研修 代数学演習 計算機数学演習

専	教授	クロキ マナブ 黒木 学 〈平成30年4月〉
		数理科学 データ・サイエンス 先進数理科学 統計 数理科学輪講A 数理科学輪講B 数理科学輪講C 数理科学輪講D 数理科学演習A 数理科学演習B 数理科学演習C 数理科学演習D 数理科学学外研修
専	教授	コウ ホウライ 洪 鋒雷 〈平成30年4月〉
		精密レーザー分光概論 物理工学演習A 物理工学演習B 物理工学演習C 物理工学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理工学インターンシップL 物理工学インターンシップM 物理工学インターンシップS 物理工学プレゼンテーション実習
専	教授	コウノ リュウジ 河野 隆二 〈平成30年4月〉
		アドバンスデジタル通信 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B 応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS 情報通信技術S 情報通信技術F 電子情報工学と未来医療・福祉S 電子情報工学と未来医療・福祉F 高度情報ネットワークシステムS 高度情報ネットワークシステムF
専	教授	コサカ ヒデオ 小坂 英男 〈平成30年4月〉
		量子情報物理学概論 物理工学演習A 物理工学演習B 物理工学演習C 物理工学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理工学インターンシップL 物理工学インターンシップM 物理工学インターンシップS 物理工学プレゼンテーション実習
専	教授	コンノ ノリオ 今野 紀雄 〈平成30年4月〉
		数理科学 確率・統計 先進数理科学 確率A 数理科学輪講A 数理科学輪講B 数理科学輪講C 数理科学輪講D

専	教授	クロキ マナブ 黒木 学 〈平成30年4月〉
		数理科学 データ・サイエンス 先進数理科学 統計 数理科学輪講A 数理科学輪講B 数理科学輪講C 数理科学輪講D 数理科学演習A 数理科学演習B 数理科学演習C 数理科学演習D 数理科学学外研修
専	教授	コウ ホウライ 洪 鋒雷 〈平成30年4月〉
		精密レーザー分光概論 物理工学演習A 物理工学演習B 物理工学演習C 物理工学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理工学インターンシップL 物理工学インターンシップM 物理工学インターンシップS 物理工学プレゼンテーション実習
専	教授	コウノ リュウジ 河野 隆二 〈平成30年4月〉
		アドバンスデジタル通信 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B 応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS 情報通信技術S 情報通信技術F 電子情報工学と未来医療・福祉S 電子情報工学と未来医療・福祉F 高度情報ネットワークシステムS 高度情報ネットワークシステムF
専	教授	コサカ ヒデオ 小坂 英男 〈平成30年4月〉
		量子情報物理学概論 物理工学演習A 物理工学演習B 物理工学演習C 物理工学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理工学インターンシップL 物理工学インターンシップM 物理工学インターンシップS 物理工学プレゼンテーション実習
専	教授	コンノ ノリオ 今野 紀雄 〈平成30年4月〉
		数理科学 確率・統計 先進数理科学 確率A 数理科学輪講A 数理科学輪講B 数理科学輪講C 数理科学輪講D

		数理科学演習A 数理科学演習B 数理科学演習C 数理科学演習D 数理科学学外研修 統計学演習			数理科学演習A 数理科学演習B 数理科学演習C 数理科学演習D 数理科学学外研修 統計学演習	
専	教授	シオジ ナオキ 塩路 直樹 <平成30年4月>		専	教授	シオジ ナオキ 塩路 直樹 <平成30年4月>
		数理科学 解析 先進数理科学 解析 数理科学輪講A 数理科学輪講B 数理科学輪講C 数理科学輪講D 数理科学演習A 数理科学演習B 数理科学演習C 数理科学演習D 数理科学学外研修 解析学演習				数理科学 解析 先進数理科学 解析 数理科学輪講A 数理科学輪講B 数理科学輪講C 数理科学輪講D 数理科学演習A 数理科学演習B 数理科学演習C 数理科学演習D 数理科学学外研修 解析学演習
専	教授	セキヤ タカオ 関谷 隆夫 <平成30年4月>		専	教授	セキヤ タカオ 関谷 隆夫 <平成30年4月>
		物理学輪講 物理学演習 結晶の対称性と群論 物理工学演習A 物理工学演習B 物理工学演習C 物理工学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理工学インターンシップL 物理工学インターンシップM 物理工学インターンシップS 物理工学キャリアデザイン 物理工学プレゼンテーション実習				物理学輪講 物理学演習 結晶の対称性と群論 物理工学演習A 物理工学演習B 物理工学演習C 物理工学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理工学インターンシップL 物理工学インターンシップM 物理工学インターンシップS 物理工学キャリアデザイン 物理工学プレゼンテーション実習
専	教授	タケダ ジュン 武田 淳 <平成30年4月>		専	教授	タケダ ジュン 武田 淳 <平成30年4月>
		先端レーザー分光学概論 物理工学演習A 物理工学演習B 物理工学演習C 物理工学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理工学インターンシップL 物理工学インターンシップM 物理工学インターンシップS 物理工学プレゼンテーション実習				先端レーザー分光学概論 物理工学演習A 物理工学演習B 物理工学演習C 物理工学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理工学インターンシップL 物理工学インターンシップM 物理工学インターンシップS 物理工学プレゼンテーション実習
専	教授	タケムラ ヤスシ 竹村 泰司 <平成30年4月>		専	教授	タケムラ ヤスシ 竹村 泰司 <平成30年4月>
		電子デバイス特論 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B 応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS 電子情報工学と未来医療・福祉S 電子情報工学と未来医療・福祉F ナノエレクトロニクスS ナノエレクトロニクスF 先端電子材料・エレクトロニクスS 先端電子材料・エレクトロニクスF				電子デバイス特論 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B 応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS 電子情報工学と未来医療・福祉S 電子情報工学と未来医療・福祉F ナノエレクトロニクスS ナノエレクトロニクスF 先端電子材料・エレクトロニクスS 先端電子材料・エレクトロニクスF
専	教授	ハネジ ノブオ 羽路 伸夫 <平成30年4月>		専	教授	ハネジ ノブオ 羽路 伸夫 <平成30年4月>
		理工学府MPBL イノベーションと起業Ⅱ イノベーションと課題発見Ⅰ イノベーションと課題発見Ⅱ 半導体工学特論 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A				理工学府MPBL イノベーションと起業Ⅱ イノベーションと課題発見Ⅰ イノベーションと課題発見Ⅱ 半導体工学特論 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A





専	教授	<p>フジモト ヤスタカ 藤本 康孝</p> <p>&lt;平成30年4月&gt;</p> <p>理工学府MPBL 離散システム特論 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B 応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS モーションコントロールS モーションコントロールF 環境適応スマートシステムS 環境適応スマートシステムF</p>
		<p>ヤマモト イサオ 山本 勲</p> <p>&lt;平成30年4月&gt;</p> <p>磁気科学概論 物理工学演習A 物理工学演習B 物理工学演習C 物理工学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理工学インターンシップL 物理工学インターンシップM 物理工学インターンシップS 物理工学キャリアデザイン 物理工学プレゼンテーション実習</p>
		<p>ヨシカワ ノブユキ 吉川 信行</p> <p>&lt;平成30年4月&gt;</p> <p>VLSIシステム設計 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B 応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS 集積回路設計S 集積回路設計F 電子情報工学と未来医療・福祉S 電子情報工学と未来医療・福祉F 先端エレクトロニクス製品アーキテクチャ講座 先端電子材料・エレクトロニクスS 先端電子材料・エレクトロニクスF</p>
専	准教授	<p>アラカワ タロウ 荒川 太郎</p> <p>&lt;平成30年4月&gt;</p> <p>電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B</p>

専	教授	<p>フジモト ヤスタカ 藤本 康孝</p> <p>&lt;平成30年4月&gt;</p> <p>理工学府MPBL 離散システム特論 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B 応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS モーションコントロールS モーションコントロールF 環境適応スマートシステムS 環境適応スマートシステムF</p>
		<p>ヤマモト イサオ 山本 勲</p> <p>&lt;平成30年4月&gt;</p> <p>磁気科学概論 物理工学演習A 物理工学演習B 物理工学演習C 物理工学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理工学インターンシップL 物理工学インターンシップM 物理工学インターンシップS 物理工学キャリアデザイン 物理工学プレゼンテーション実習</p>
		<p>ヨシカワ ノブユキ 吉川 信行</p> <p>&lt;平成30年4月&gt;</p> <p>VLSIシステム設計 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B 応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS 集積回路設計S 集積回路設計F 電子情報工学と未来医療・福祉S 電子情報工学と未来医療・福祉F 先端エレクトロニクス製品アーキテクチャ講座 先端電子材料・エレクトロニクスS 先端電子材料・エレクトロニクスF</p>
専	准教授	<p>アラカワ タロウ 荒川 太郎</p> <p>&lt;平成30年4月&gt;</p> <p>電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B</p>

		応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS 先端フォトニクスS 先端フォトニクスF ナノエレクトロニクスS ナノエレクトロニクスF 半導体光エレクトロニクス
専	准教授	イシワタ シンゴ 石渡 信吾 <平成30年4月> 非線形科学 物理学演習A 物理学演習B 物理学演習C 物理学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理学インターンシップL 物理学インターンシップM 物理学インターンシップS 物理学キャリアデザイン 物理学プレゼンテーション実習
専	准教授	イチゲ コウイチ 市毛 弘一 <平成30年4月> デジタル回路論 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B 応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS アンテナ設計・解析S アンテナ設計・解析F 無線通信システムS 無線通信システムF
専	准教授	イチヤナギ ユウコ 一柳 優子 <平成30年4月> ナノ物性物理科学 物理学演習A 物理学演習B 物理学演習C 物理学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理学インターンシップL 物理学インターンシップM 物理学インターンシップS 物理学プレゼンテーション実習
専	准教授	ウエハラ マサトモ 上原 政智 <平成30年4月> 磁気科学概論 物理学演習A 物理学演習B 物理学演習C 物理学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理学インターンシップL 物理学インターンシップM 物理学インターンシップS 物理学プレゼンテーション実習
専	准教授	オオノ シンヤ 大野 真也 <平成30年4月> 表面科学 物理学演習A 物理学演習B 物理学演習C

		応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS 先端フォトニクスS 先端フォトニクスF ナノエレクトロニクスS ナノエレクトロニクスF 半導体光エレクトロニクス
専	准教授	イシワタ シンゴ 石渡 信吾 <平成30年4月> 非線形科学 物理学演習A 物理学演習B 物理学演習C 物理学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理学インターンシップL 物理学インターンシップM 物理学インターンシップS 物理学キャリアデザイン 物理学プレゼンテーション実習
専	准教授	イチゲ コウイチ 市毛 弘一 <平成30年4月> デジタル回路論 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B 応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS アンテナ設計・解析S アンテナ設計・解析F 無線通信システムS 無線通信システムF
専	准教授	イチヤナギ ユウコ 一柳 優子 <平成30年4月> ナノ物性物理科学 物理学演習A 物理学演習B 物理学演習C 物理学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理学インターンシップL 物理学インターンシップM 物理学インターンシップS 物理学プレゼンテーション実習
専	准教授	ウエハラ マサトモ 上原 政智 <平成30年4月> 磁気科学概論 物理学演習A 物理学演習B 物理学演習C 物理学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理学インターンシップL 物理学インターンシップM 物理学インターンシップS 物理学プレゼンテーション実習
専	准教授	オオノ シンヤ 大野 真也 <平成30年4月> 表面科学 物理学演習A 物理学演習B 物理学演習C





専	准教授	<p style="text-align: center;">〈平成30年4月〉</p> 低温物理学 理工学演習A 理工学演習B 理工学演習C 理工学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 理工学インターンシップL 理工学インターンシップM 理工学インターンシップS 理工学プレゼンテーション実習
		<p style="text-align: center;">シモノ トモユキ 下野 誠通</p> <p style="text-align: center;">〈平成30年4月〉</p> 情報通信による医工融合コロキウム モーションコントロールシステム 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B 応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS モーションコントロールS モーションコントロールF 環境適応スマートシステムS 環境適応スマートシステムF
		<p style="text-align: center;">シュドウ ケンイチ 首藤 健一</p> <p style="text-align: center;">〈平成30年4月〉</p> 表面科学 理工学演習A 理工学演習B 理工学演習C 理工学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 理工学インターンシップL 理工学インターンシップM 理工学インターンシップS 理工学プレゼンテーション実習
		<p style="text-align: center;">シラサキ リョウエン 白崎 良演</p> <p style="text-align: center;">〈平成30年4月〉</p> ナノ物性物理学 理工学演習A 理工学演習B 理工学演習C 理工学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 理工学インターンシップL 理工学インターンシップM 理工学インターンシップS 理工学プレゼンテーション実習
専	准教授	<p style="text-align: center;">タケイ マサト 竹居 正登</p> <p style="text-align: center;">〈平成30年4月〉</p> 数理科学 確率・統計 先進数理科学 確率B 数理科学輪講A 数理科学輪講B 数理科学輪講C 数理科学輪講D 数理科学演習A 数理科学演習B 数理科学演習C 数理科学演習D 数理科学学外研修 確率論演習

専	准教授	<p style="text-align: center;">〈平成30年4月〉</p> 低温物理学 理工学演習A 理工学演習B 理工学演習C 理工学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 理工学インターンシップL 理工学インターンシップM 理工学インターンシップS 理工学プレゼンテーション実習
		<p style="text-align: center;">シモノ トモユキ 下野 誠通</p> <p style="text-align: center;">〈平成30年4月〉</p> 情報通信による医工融合コロキウム モーションコントロールシステム 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B 応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS モーションコントロールS モーションコントロールF 環境適応スマートシステムS 環境適応スマートシステムF
		<p style="text-align: center;">シュドウ ケンイチ 首藤 健一</p> <p style="text-align: center;">〈平成30年4月〉</p> 表面科学 理工学演習A 理工学演習B 理工学演習C 理工学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 理工学インターンシップL 理工学インターンシップM 理工学インターンシップS 理工学プレゼンテーション実習
		<p style="text-align: center;">シラサキ リョウエン 白崎 良演</p> <p style="text-align: center;">〈平成30年4月〉</p> ナノ物性物理学 理工学演習A 理工学演習B 理工学演習C 理工学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 理工学インターンシップL 理工学インターンシップM 理工学インターンシップS 理工学プレゼンテーション実習
専	准教授	<p style="text-align: center;">タケイ マサト 竹居 正登</p> <p style="text-align: center;">〈平成30年4月〉</p> 数理科学 確率・統計 先進数理科学 確率B 数理科学輪講A 数理科学輪講B 数理科学輪講C 数理科学輪講D 数理科学演習A 数理科学演習B 数理科学演習C 数理科学演習D 数理科学学外研修 確率論演習



		応用物理海外インターンシップS 光波解析S 光波解析F 先端フォトニクスS 先端フォトニクスF
専	准教授	ホリキリ トモユキ 堀切 智之 〈平成30年4月〉
		量子情報物理学概論 物理学演習A 物理学演習B 物理学演習C 物理学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理学インターンシップL 物理学インターンシップM 物理学インターンシップS 物理学プレゼンテーション実習
専	准教授	ホンダ アツミ 本田 淳史 〈平成30年4月〉
		数理科学 幾何 先進数理科学 幾何 数理科学輪講A 数理科学輪講B 数理科学輪講C 数理科学輪講D 数理科学演習A 数理科学演習B 数理科学演習C 数理科学演習D 数理科学学外研修 幾何学演習
専	准教授	ミナミノ アキヒロ 南野 彰宏 〈平成30年4月〉
		ニュートリノ物理学概論 物理学演習A 物理学演習B 物理学演習C 物理学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理学インターンシップL 物理学インターンシップM 物理学インターンシップS 物理学プレゼンテーション実習
専	准教授	ヤマナシ ユウキ 山梨 裕希 〈平成30年4月〉
		電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B 応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS 集積回路設計S 集積回路設計F 先端電子材料・エレクトロニクスS 先端電子材料・エレクトロニクスF 超伝導エレクトロニクス
専	准教授	レービガー ハンネス Raebiger Hannes 〈平成30年4月〉
		多体電子論 物理学演習A 物理学演習B 物理学演習C 物理学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理学インターンシップL 物理学インターンシップM 物理学インターンシップS 物理学プレゼンテーション実習
兼任	教授	ムカイ コウキ 向井 剛輝 〈平成30年4月〉

		応用物理海外インターンシップS 光波解析S 光波解析F 先端フォトニクスS 先端フォトニクスF
専	准教授	ホリキリ トモユキ 堀切 智之 〈平成30年4月〉
		量子情報物理学概論 物理学演習A 物理学演習B 物理学演習C 物理学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理学インターンシップL 物理学インターンシップM 物理学インターンシップS 物理学プレゼンテーション実習
専	准教授	ホンダ アツミ 本田 淳史 〈平成30年4月〉
		数理科学 幾何 先進数理科学 幾何 数理科学輪講A 数理科学輪講B 数理科学輪講C 数理科学輪講D 数理科学演習A 数理科学演習B 数理科学演習C 数理科学演習D 数理科学学外研修 幾何学演習
専	准教授	ミナミノ アキヒロ 南野 彰宏 〈平成30年4月〉
		ニュートリノ物理学概論 物理学演習A 物理学演習B 物理学演習C 物理学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理学インターンシップL 物理学インターンシップM 物理学インターンシップS 物理学プレゼンテーション実習
専	准教授	ヤマナシ ユウキ 山梨 裕希 〈平成30年4月〉
		電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク演習A 電気電子ネットワーク演習B 電気電子ネットワーク演習C 電気電子ネットワーク演習D 情報システム演習A 情報システム演習B 情報システム演習C 情報システム演習D 応用物理演習A 応用物理演習B 応用物理演習C 応用物理演習D 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS 集積回路設計S 集積回路設計F 先端電子材料・エレクトロニクスS 先端電子材料・エレクトロニクスF 超伝導エレクトロニクス
専	准教授	レービガー ハンネス Raebiger Hannes 〈平成30年4月〉
		多体電子論 物理学演習A 物理学演習B 物理学演習C 物理学演習D 物理PSD演習A 物理PSD演習B 物理学インターンシップL 物理学インターンシップM 物理学インターンシップS 物理学プレゼンテーション実習
兼任	教授	ムカイ コウキ 向井 剛輝 〈平成30年4月〉



		理工学府MPBL 光・電子材料学概論
兼担	教授	ウメザワ オサム 梅澤 修 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼担	教授	オオヤマ トシユキ 大山 俊幸 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 高分子設計学
兼担	教授	オカザキ シンジ 岡崎 慎司 〈平成30年4月〉
		プロセス計測学
兼担	教授	オクヤマ クニト 奥山 邦人 〈平成30年4月〉
		伝熱工学特論
兼担	教授	クボタ ヨシヒロ 窪田 好浩 〈平成30年4月〉
		触媒化学
兼担	教授	シュウサ ヨシカズ 周佐 喜和 〈平成30年4月〉
		イノベーションと課題発見Ⅰ イノベーションと課題発見Ⅱ
兼担	教授	タカダ ハジメ 高田 一 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL リスクマネジメントのための技術者倫理
兼担	教授	タカミザワ ミノル 高見澤 実 〈平成30年4月〉
		イノベーションと課題発見Ⅰ イノベーションと課題発見Ⅱ
兼担	教授	タメチカ エミ 為近 恵美 〈平成30年4月〉
		イノベーションと起業Ⅱ イノベーションと課題発見Ⅰ イノベーションと課題発見Ⅱ
兼担	教授	ドッコ カオル 獨古 薫 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼担	教授	ナカオ ワタル 中尾 航 〈平成30年4月〉
		多機能性複合材料概論
兼担	教授	ニシノ コウイチ 西野 耕一 〈平成30年4月〉
		乱流現象論
兼担	教授	ハブカ ヒトシ 羽深 等 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼担	教授	マツイ ジュン 松井 純 〈平成30年4月〉
		数値流体工学
兼担	教授	ミツシマ シゲノリ 光島 重徳 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 先端燃料電池技術
兼担	准教授	モリ ショウジ 森 昌司 〈平成30年4月〉
		伝熱工学特論

		理工学府MPBL 光・電子材料学概論
兼担	教授	ウメザワ オサム 梅澤 修 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼担	教授	オオヤマ トシユキ 大山 俊幸 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 高分子設計学
兼担	教授	オカザキ シンジ 岡崎 慎司 〈平成30年4月〉
		プロセス計測学
兼担	教授	オクヤマ クニト 奥山 邦人 〈平成30年4月〉
		伝熱工学特論
兼担	教授	クボタ ヨシヒロ 窪田 好浩 〈平成30年4月〉
		触媒化学
兼担	教授	シュウサ ヨシカズ 周佐 喜和 〈平成30年4月〉
		イノベーションと課題発見Ⅰ イノベーションと課題発見Ⅱ
兼担	教授	タカダ ハジメ 高田 一 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL リスクマネジメントのための技術者倫理
兼担	教授	タカミザワ ミノル 高見澤 実 〈平成30年4月〉
		イノベーションと課題発見Ⅰ イノベーションと課題発見Ⅱ
兼担	教授	タメチカ エミ 為近 恵美 〈平成30年4月〉
		イノベーションと起業Ⅱ イノベーションと課題発見Ⅰ イノベーションと課題発見Ⅱ <b>神奈川県を取り組む技術課題</b>
兼担	教授	ドッコ カオル 獨古 薫 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼担	教授	ナカオ ワタル 中尾 航 〈平成30年4月〉
		多機能性複合材料概論
兼担	教授	ニシノ コウイチ 西野 耕一 〈平成30年4月〉
		乱流現象論
兼担	教授	ハブカ ヒトシ 羽深 等 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼担	教授	マツイ ジュン 松井 純 〈平成30年4月〉
		数値流体工学
兼担	教授	ミツシマ シゲノリ 光島 重徳 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 先端燃料電池技術
<b>兼担</b>	<b>教授</b>	<b>ヤブウチ ナオアキ</b> <b>藪内 直明</b> <b>〈平成30年4月〉</b>
		<b>固体化学</b>
兼担	准教授	モリ ショウジ 森 昌司 〈平成30年4月〉
		伝熱工学特論

兼担	准教授	アラキ タクト 荒木 拓人 〈平成30年4月〉
		先端燃料電池技術
兼担	准教授	サトウ コウタ 佐藤 浩太 〈平成30年4月〉
		量子反応論
兼担	准教授	タニムラ マコト 谷村 誠 〈平成30年4月〉
		先端機器分析特論
兼担	准教授	ナカツガワ ヒロシ 中津川 博 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼担	准教授	ニシ ヨシキ 西 佳樹 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 海洋資源エネルギー工学入門
兼担	准教授	ヒラカワ ヨシアキ 平川 嘉昭 〈平成30年4月〉
		波浪と船体運動
兼担	准教授	ムライ モトヒコ 村井 基彦 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼担	講師	サコムラ マサル 迫村 勝 〈平成30年4月〉
		分子統計力学
兼担	講師	アイハラ マサヒコ 相原 雅彦 〈平成30年4月〉
		移動現象特論
兼担	講師	クマガイ ヨリノリ 熊谷 頼範 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼任	講師	ムラタ シゲル 村田 滋 〈平成30年4月〉
		有機光化学
兼任	講師	アンドウ ヨシタカ 安藤 吉隆 〈平成30年4月〉
		Presentation English
兼任	講師	ヤマグチ ヒロシ 山口 博 〈平成30年4月〉
		グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル
兼任	講師	イナダ マサトシ 稲田正俊 〈平成30年4月〉
		Presentation English S, Basic Level Presentation English F, Basic Level Professional Ethics in EU & US
兼任	講師	イワクマ マキ 岩熊 真起 〈平成30年4月〉
		プロフェッショナルエンジニア I プロフェッショナルエンジニア II
兼任	講師	オカダ シゲオ 岡田 恵夫 〈平成30年4月〉
		リスクマネジメントのための技術者倫理
兼任	講師	オガワ アツシ 小川 敦 〈平成30年4月〉
		アナログCMOS集積回路
兼任	講師	カドノ マサキ 角野 仁基 〈平成30年4月〉
		プロジェクトマネジメント I プロジェクトマネジメント II

兼担	准教授	アラキ タクト 荒木 拓人 〈平成30年4月〉
		先端燃料電池技術
兼担	准教授	サトウ コウタ 佐藤 浩太 〈平成30年4月〉
		量子反応論
兼担	准教授	タニムラ マコト 谷村 誠 〈平成30年4月〉
		先端機器分析特論
兼担	准教授	ナカツガワ ヒロシ 中津川 博 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼担	准教授	ニシ ヨシキ 西 佳樹 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 海洋資源エネルギー工学入門
兼担	准教授	ヒラカワ ヨシアキ 平川 嘉昭 〈平成30年4月〉
		波浪と船体運動
兼担	准教授	ムライ モトヒコ 村井 基彦 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼担	准教授	オオタケ ミツル 大竹 充 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL 理工学府海外インターンシップ
兼担	講師	サコムラ マサル 迫村 勝 〈平成30年4月〉
		分子統計力学
兼担	講師	アイハラ マサヒコ 相原 雅彦 〈平成30年4月〉
		移動現象特論
兼担	講師	クマガイ ヨリノリ 熊谷 頼範 〈平成30年4月〉
		理工学府MPBL
兼任	講師	ムラタ シゲル 村田 滋 〈平成30年4月〉
		有機光化学
兼任	講師	アンドウ ヨシタカ 安藤 吉隆 〈平成30年4月〉
		Presentation English
兼任	講師	ヤマグチ ヒロシ 山口 博 〈平成30年4月〉
		グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル
兼任	講師	イナダ マサトシ 稲田正俊 〈平成30年4月〉
		Presentation English S, Basic Level Presentation English F, Basic Level Professional Ethics in EU & US
兼任	講師	イワクマ マキ 岩熊 真起 〈平成30年4月〉
		プロフェッショナルエンジニア I プロフェッショナルエンジニア II
兼任	講師	オカダ シゲオ 岡田 恵夫 〈平成30年4月〉
		リスクマネジメントのための技術者倫理
兼任	講師	オガワ アツシ 小川 敦 〈平成30年4月〉
		アナログCMOS集積回路
兼任	講師	カドノ マサキ 角野 仁基 〈平成30年4月〉
		プロジェクトマネジメント I プロジェクトマネジメント II

兼任	講師	カヤブキ タダシ 萱葺 正 〈平成30年4月〉
		Presentation English S, Basic Level Presentation English F, Basic Level
兼任	講師	キクチ ヨシミ 菊池 慶実 〈平成30年4月〉
		微生物応用学
兼任	講師	キタガワ タツオ 北川 達夫 〈平成30年4月〉
		Professional Ethics in EU & US
兼任	講師	コミヤマ リョウイチ 小宮山 涼一 〈平成30年4月〉
		エネルギーシステム論
兼任	講師	ゴンダ カズヒト 権田 和士 〈平成30年4月〉
		グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル
兼任	講師	サイトウ ヨシヨリ 齊藤 義順 〈平成30年4月〉
		リスクマネジメントのための技術者倫理 プロフェッショナルエンジニア I プロフェッショナルエンジニア II
兼任	講師	サトウ クニヒト 佐藤国仁 〈平成30年4月〉
		リスクマネジメントのための技術者倫理 プロフェッショナルエンジニア I プロフェッショナルエンジニア II
兼任	講師	マスマト ゼン 増本 全 〈平成30年4月〉
		物理工学キャリアデザイン
兼任	講師	スズキ ヨシシゲ 鈴木 義茂 〈平成30年4月〉
		先端物理学
兼任	講師	セキ イワオ 関 巖 〈平成30年4月〉
		グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル
兼任	講師	タナカ ヒロカズ 田中 宏和 〈平成30年4月〉
		フォールトトレラントシステム論
兼任	講師	ナガセ ツネヒサ 永瀬 恒久 〈平成30年4月〉
		グローバル企業における効果的な事業計画策定
兼任	講師	ハシモト ヨシヘイ 橋本 義平 〈平成30年4月〉
		リスクマネジメントのための技術者倫理 プロフェッショナルエンジニア I プロフェッショナルエンジニア II
兼任	講師	ヒダカ クニヒコ 日高 邦彦 〈平成30年4月〉
		電磁気学特論
兼任	講師	ヒラカワ カズヒコ 平川 一彦 〈平成30年4月〉
		マイクロエレクトロニクス
兼任	講師	フジイ ヤスマサ 藤井 康正 〈平成30年4月〉
		エネルギーシステム論
兼任	講師	マツキ タケオ 松木 武雄 〈平成30年4月〉
		マテリアルインテグレーション
兼任	講師	ミタニ ヒサシ 三谷 尚 〈平成30年4月〉
		現代物理学
兼任	講師	ショウキ ヒロキ 庄木 裕樹 〈平成30年4月〉
		信号理論

兼任	講師	カヤブキ タダシ 萱葺 正 〈平成30年4月〉
		Presentation English S, Basic Level Presentation English F, Basic Level
兼任	講師	キクチ ヨシミ 菊池 慶実 〈平成30年4月〉
		微生物応用学
兼任	講師	キタガワ タツオ 北川 達夫 〈平成30年4月〉
		Professional Ethics in EU & US
兼任	講師	コミヤマ リョウイチ 小宮山 涼一 〈平成30年4月〉
		エネルギーシステム論
兼任	講師	サイトウ ヨシヨリ 齊藤 義順 〈平成30年4月〉
		リスクマネジメントのための技術者倫理 プロフェッショナルエンジニア I プロフェッショナルエンジニア II
兼任	講師	サトウ クニヒト 佐藤国仁 〈平成30年4月〉
		リスクマネジメントのための技術者倫理 プロフェッショナルエンジニア I プロフェッショナルエンジニア II
兼任	講師	マスマト ゼン 増本 全 〈平成30年4月〉
		物理工学キャリアデザイン
兼任	講師	スズキ ヨシシゲ 鈴木 義茂 〈平成30年4月〉
		先端物理学
兼任	講師	タナカ ヒロカズ 田中 宏和 〈平成30年4月〉
		フォールトトレラントシステム論
兼任	講師	ハシモト ヨシヘイ 橋本 義平 〈平成30年4月〉
		リスクマネジメントのための技術者倫理 プロフェッショナルエンジニア I プロフェッショナルエンジニア II
兼任	講師	ヒダカ クニヒコ 日高 邦彦 〈平成30年4月〉
		電磁気学特論
兼任	講師	ヒラカワ カズヒコ 平川 一彦 〈平成30年4月〉
		マイクロエレクトロニクス
兼任	講師	フジイ ヤスマサ 藤井 康正 〈平成30年4月〉
		エネルギーシステム論
兼任	講師	マツキ タケオ 松木 武雄 〈平成30年4月〉
		マテリアルインテグレーション
兼任	講師	ショウキ ヒロキ 庄木 裕樹 〈平成30年4月〉
		信号理論

兼任	講師	ツジ ヒロユキ 辻 宏之 〈平成30年4月〉
		マルチメディア移動通信 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS
兼任	講師	ワタナベ ソウイチ 渡邊 聡一 〈平成30年4月〉 情報通信インフラストラクチャ

兼任	講師	ツジ ヒロユキ 辻 宏之 〈平成30年4月〉
		マルチメディア移動通信 電気電子ネットワーク学外研修 情報システム学外研修 応用物理学外研修 電気電子ネットワーク海外インターンシップL 電気電子ネットワーク海外インターンシップM 電気電子ネットワーク海外インターンシップS 情報システム海外インターンシップL 情報システム海外インターンシップM 情報システム海外インターンシップS 応用物理海外インターンシップL 応用物理海外インターンシップM 応用物理海外インターンシップS
兼任	講師	ワタナベ ソウイチ 渡邊 聡一 〈平成30年4月〉 情報通信インフラストラクチャ
兼任	講師	オオツカ タケヒロ 大塚 剛宏 〈平成30年4月〉 Professional Ethics in EU & US
兼任	講師	エトウ マナブ 江藤 学 〈平成30年4月〉 標準化とビジネス
兼任	講師	イズミ アキラ 和泉 章 〈平成30年4月〉 標準化とビジネス
兼任	講師	ナガトク ユウジ 長徳 裕司 〈平成30年4月〉 グローバル企業における効果的な事業計画策定
兼任	講師	カツラ ホウショウ 桂 法称 〈平成30年4月〉 現代物理学
兼任	講師	カトリ テッパイ 香取 哲平 〈平成30年4月〉 発展物理科学
兼任	講師	リ カンホウ 李 還帮 〈平成30年4月〉 マルチメディア無線通信ネットワーク

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
  - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
  - ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

特になし
------

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**  
 ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。  
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
21 名	14 名	0 名

- (注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)	教授	准教授	講師	助教	計(C)
21	27	0	9	57	21	27	0	9	57	21	27	0	9	57
(21)	(27)	(0)	(9)	(57)						[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
48	0	9			48	0	9			48	0	9		
(48)	(0)	(9)								[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]		

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。  
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{57}{57} = \boxed{100} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{57} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1				該当なし			
合計（D）				後任補充状況の集計（E）			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1				該当なし			
合計（F）				後任補充状況の集計（G）			
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）			
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{57} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1				該当なし			
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時  (平成29年8月)		<div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 10px; display: inline-block;">                     該当なし                 </div>	
設置計画履行状況 調 査 時 (平成31年2月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (平成32年2月)			

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）



## 7 その他全般的事項

<大学院理工学府 数物・電子情報系理工学専攻（博士課程前期）>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
① 修了要件として専攻が指定する科目及びモジュール構成科目	<p>・教育内容充実のため修了要件として専攻が指定する科目群に1科目を追加（別添①「新旧対照表」参照）。</p> <p>・教育内容充実のため、モジュール構成科目群に5科目を追加（別添①「新旧対照表」参照）。</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>横浜国立大学では、平成28年度に発足した高大接続・全学教育推進センターが中心となって教員の資質の維持向上、FD活動を行っている。理工学府からセンター教育開発・学修支援部会委員を1名選出し、学部内でのFD活動等の連絡、調整、実施を主に担当する。</p> <p>○別添② 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則</p> <p>○別添③ 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センターに置く会議の組織運営に関する規則</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>定例の高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会は月1回開催。（参加教員14名）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>学生IR、高大接続、全学教育、および教育開発・学修支援に関する事項。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>高大接続・全学教育推進センターが行う活動に学府として協力、実施する。</p> <p>各種研修会（TA研修会等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FDフォーラム開催</li> <li>・公開授業開催</li> <li>・ベストティーチャー表彰</li> <li>・シラバス改善（ループリックの利用等）</li> <li>・学生調査</li> </ul> <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各内容に即し、全学でコーディネートして実施する。</li> </ul>
--

c 開催状況(教員の参加状況含む)

- ・今年度4月時点ではまだ特別な行事の開催はないが、今後開催される予定。  
昨年度は、理工学府担当(予定)教員を集めた集会においてセミナーを2回(7月と12月)開催した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・高大接続・全学教育推進センターの指針に基づきルーブリックを含むシラバスを作成した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- 各ターム終了時に授業評価を実施予定。実施結果に基づき自己点検表を作成する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- 基本的にホームページ上で公開する。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

開講時期の変更など軽微な変更はあるものの、履修案内やオリエンテーション等において学生に十分な説明を行っているため、学生の履修に影響はない。設置の趣旨・目的の完全な達成に向けて、理工学府担当の教員が平成30年4月から予定通り授業を開始しており、当初設定のカリキュラムの遂行を実現していく予定で、設置趣旨・目的の完全な実現をはかる。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

未定

b 公表方法

未定

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成33年度に評価機関(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構)の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表(予定)の有無 (  有  無 )

b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期 ( 平成30年7月1日 )

(注) ・ 「a ホームページに公表(予定)有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。  
・ 「b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期」には、「a ホームページに公表(予定)有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

7 その他全般的事項

<大学院理工学府 数物・電子情報系理工学専攻（博士課程前期）>

(1) 設置計画変更事項等に係る別添資料

設置時の計画	変更内容
<p>専攻が指定する科目</p> <p>・数物・電子情報系理工学専攻 理学 (PSD) プログラム, 理学プログラム 専門科目</p> <p>○物理学分野：重い電子系の物理, 物理学インターンシップ L, 表面科学, 物理学インターンシップ M, 結晶の対称性と群論, 物理学インターンシップ S, 高エネルギー物理学概論, 物理学キャリアデザイン, 非線形科学, 物理学プレゼンテーション実習**, 先端物理学, 現代物理学, 物理学演習 A***, 物理学演習 B***, 物理学演習 C***, 物理学演習 D***, 物理学 PSD 演習 A, 物理学 PSD 演習 B</p> <p>(**は必修, ***は 4 単位以上を選択必修)</p>	<p><b>教育内容充実のため、修了要件として専攻が指定する科目群に下線部のとおり 1 科目を追加した。</b></p> <p>専攻が指定する科目</p> <p>・数物・電子情報系理工学専攻 理学 (PSD) プログラム, 理学プログラム 専門科目</p> <p>○物理学分野：重い電子系の物理, 物理学インターンシップ L, 表面科学, 物理学インターンシップ M, 結晶の対称性と群論, 物理学インターンシップ S, 高エネルギー物理学概論, 物理学キャリアデザイン, 非線形科学, 物理学プレゼンテーション実習**, 先端物理学, 現代物理学, 物理学演習 A***, 物理学演習 B***, 物理学演習 C***, 物理学演習 D***, 物理学 PSD 演習 A, 物理学 PSD 演習 B, <u>発展物理科学</u></p> <p>(**は必修, ***は 4 単位以上を選択必修)</p>
<p>・数物・電子情報系理工学専攻 工学 (PED) プログラム 工学 (PED) プログラムにおけるモジュール構成科目；</p> <p>○(1)～(15)のモジュールに対するモジュール構成科目： 情報通信インフラストラクチャ, 半導体工学特論, 電力システム計画論, リスクマネジメントのための技術者倫理, マルチメディア移動通信, マイクロエレクトロニクス, Presentation English, フォールトトレラントシステム論, 半導体光エレクトロニクス, 応用物理海外インターンシップ L, 数理プログラミング論, 電磁気学特論, マイクロ波工学, 応用物理海外インターンシップ M, 電子</p>	<p><b>教育内容充実のため、モジュール構成科目群に下線部のとおり 5 科目を追加した。</b></p> <p>・数物・電子情報系理工学専攻 工学 (PED) プログラム 工学 (PED) プログラムにおけるモジュール構成科目；</p> <p>○(1)～(15)のモジュールに対するモジュール構成科目： 情報通信インフラストラクチャ, 半導体工学特論, 電力システム計画論, リスクマネジメントのための技術者倫理, マルチメディア移動通信, マイクロエレクトロニクス, Presentation English, フォールトトレラントシステム論, 半導体光エレクトロニクス, 応用物理海外インターンシップ L, 数理プログラミング論, 電磁気学特論, マイクロ波工学, 応用物理海外インターンシップ M, 電子</p>

デバイス特論, アナログ CMOS 集積回路, 応用物理海外インタナショナル誌 S, 超伝導エレクトロニクス, 集積ナノデバイス工学, 情報通信による医工融合コロキウム, スマートグリッド論, 人間システム工学, モバイルアンテナシステム測定, モーションコントロールシステム

デバイス特論, アナログ CMOS 集積回路, 応用物理海外インタナショナル誌 S, 超伝導エレクトロニクス, 集積ナノデバイス工学, 情報通信による医工融合コロキウム, スマートグリッド論, 人間システム工学, モバイルアンテナシステム測定, モーションコントロールシステム, マルチメディア無線通信ネットワーク, 符号理論, デジタル回路論, 離散システム特論, フォトニクス理論

(参考)

数物・電子情報系理工学専攻 (博士課程前期) 工学 (PED) プログラムにおけるモジュールの一覧

- (1) 集積回路の設計 (集積回路設計 S, 集積回路設計 F)
- (2) オープンソース学 (オープンソース学実習 S, オープンソース学実習 F)
- (3) 制御 (モーションコントロール S, モーションコントロール F)
- (4) ナノエレクトロニクス (ナノエレクトロニクス S, ナノエレクトロニクス F)
- (5) 光波解析 (光波解析 S, 光波解析 F)
- (6) 電波解析 (アンテナ設計・解析 S, アンテナ設計・解析 F)
- (7) 情報通信技術 (情報通信技術 S, 情報通信技術 F)
- (8) 電気エネルギー供給 (電気エネルギー供給 S, 電気エネルギー供給 F)
- (9) 先端電子材料・エレクトロニクス (先端電子材料・エレクトロニクス S, 先端電子材料・エレクトロニクス F)
- (10) 集積エレクトロニクス (集積エレクトロニクス S, 集積エレクトロニクス F)
- (11) 電子情報工学と未来医療・福祉 (電子情報工学と未来医療・福祉 S, 電子情報工学と未来医療・福祉 F)
- (12) 環境適応システム (環境適応システム S, 環境適応システム F)
- (13) 無線通信システム (無線通信システム S, 無線通信システム F)
- (14) 先端フォトニクス (先端フォトニクス S, 先端フォトニクス F)
- (15) 高度情報ネットワークシステム (高度情報ネットワークシステム S, 高度情報ネットワークシステム F)

## ○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則

(平成 28 年 3 月 22 日規則第 25 号)

改正 平成 28 年 3 月 30 日規則第 38 号 平成 30 年 4 月 12 日規則第 57 号

## 目次

- 第 1 章 総則(第 1 条・第 2 条)
- 第 2 章 業務及び組織(第 3 条―第 10 条)
- 第 3 章 学生 IR 統括部門(第 11 条・第 12 条)
- 第 4 章 高大接続部門(第 13 条・第 14 条)
- 第 5 章 全学教育部門(第 15 条・第 16 条)
- 第 6 章 教育開発・学修支援部門(第 17 条・第 18 条)
- 第 7 章 雑則(第 19 条・第 20 条)
- 附則

## 第 1 章 総則

## (趣旨)

第 1 条 この規則は、横浜国立大学学則(以下「学則」という。)第 14 条の規定に基づき、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター(以下「センター」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

## (目的)

第 2 条 センターは、横浜国立大学(以下「本学」という。)における高大接続システム改革の実現に向けて全学一体で推進する中心的な役割を果たし、大学教育の質的転換及び入学者選抜方法の改善のための学生行動調査等を重視するインスティテューショナル・リサーチ(以下「学生 IR」という。)の推進とともに、初年次教育科目から高度全学教育科目を体系的に編成した全学教育(教養教育を含む。)の企画、調整、実施及び改善を図り、もって国際通用性のある本学教育の質保証に資することを目的とする。

## 第 2 章 業務及び組織

## (業務)

第 3 条 センターは、前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 本学の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)及び入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に基づく高大接続システム改革の実現に向けた大学教育の質的転換及び入学者選抜方法の改善のための学生 IR の推進に関すること。
- (2) 学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の内外を通じて培うことができるよう、学生のキャリア形成及び

就職支援等における組織間の有機的な連携を推進するための企画、調整、実施及び改善に関すること。

(3) 入学者選抜方法の改善、多面的・総合的な評価方法の調査研究、企画及び調整、入学広報並びに高大連携に関すること。

(4) 初年次教育科目から高度全学教育科目までを体系的に編成した全学教育（教養教育を含む。）の企画、調整、実施及び改善に関すること。

(5) 授業設計と成績評価の向上、ICT等を活用したアクティブラーニング及びキャリア教育の開発、学生の能動的学修の支援並びにこれらの組織的な研修に資するファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）の調査研究、企画、調整、実施及び改善に関すること。

(6) その他前条の目的を達成するために必要な業務に関すること。

2 前項に掲げる業務は、国立大学法人横浜国立大学組織運営規則（平成16年規則第5号。以下「組織運営規則」という。）第18条に規定する横浜国立大学大学院教育強化推進センターとの緊密に連携して行うものとする。

（組織）

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

(1) センター長

(2) 副センター長

(3) センター専任教員

(4) センター長が指名又は推薦する本学の教員

(5) その他必要な職員

（センター長）

第5条 センター長は、本学の副学長又は専任教授をもって充て、学長が任命する。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

（副センター長）

第6条 副センター長は、第4条第3号又は第4号の教員の中から、センター長の推薦に基づき学長が任命する。

2 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 副センター長の任期は、センター長が定める。ただし、第1項の規定に基づき推薦したセンター長の任期を超えることはできない。

（運営委員会等）

第7条 センターに、学則第12条第2項及び組織運営規則第12条第2項の規定に基づく教授会として、次に掲げる委員会を置く。

- (1) 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター運営委員会
- (2) 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター教員選考委員会  
(部門長会議)

第8条 センターに、組織運営規則第12条第3項の規定に基づく代議員会として、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター部門長会議を置く。  
(部門及び部門長)

第9条 センターに第3条に掲げる業務を遂行するために、次の部門を置く。

- (1) 学生 IR 統括部門
- (2) 高大接続部門
- (3) 全学教育部門
- (4) 教育開発・学修支援部門

2 部門に部門長を置く。

3 学生 IR 統括部門、高大接続部門及び教育開発・学修支援部門の部門長は、第4条第3号又は第4号の教員の中から、センター長の推薦に基づき学長が任命する。

4 全学教育部門の部門長は、教養教育主事をもって充て、学長が任命する。

5 部門長は、部門の業務を掌理する。

6 部門長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任の部門長の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究員)

第10条 センターに、研究員を置くことができる。

2 研究員は、第3条各号に規定する業務に関連した研究又は実践歴等を有する者のうちから、第8条に規定する部門長会議の議を経て、センター長が委嘱する。

### 第3章 学生 IR 統括部門

(業務)

第11条 学生 IR 統括部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) センターにおける学生 IR の統括に関すること。
- (2) 学生卒業後の進路状況及び進路先評価等に関する調査研究、企画、調整及び実施並びに本学における人材育成システムの評価に関すること。
- (3) 学生のキャリア形成及び就職支援における組織間の有機的な連携を推進するための企画、調整、実施及び改善に関すること。
- (4) キャリア・サポートルームに関すること。
- (5) その他学生 IR、学生のキャリア形成及び就職支援に関すること。

(学生 IR 統括部会)

第12条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、学生 IR 統括部会を置く。

### 第4章 高大接続部門

(業務)

第13条 高大接続部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 入学者選抜方法の改善に関する学生 IR の推進に関すること。
- (2) 多面的・総合的な評価方法に関する調査研究、企画及び調整に関すること。
- (3) 入学広報及び高大連携に関する業務に関すること。
- (4) 高大接続学習プログラムに関する業務に関すること。
- (5) その他高大接続に関する支援等の業務（他の部門に係る業務を除く。）に関すること。

(アドミッション部会との連携)

第14条 前条に規定する業務を遂行するために、横浜国立大学入学者選抜のための組織及び運営に関する規則（平成16年規則第10号）第2条に規定するアドミッション部会と連携するものとする。

#### 第5章 全学教育部門

(業務)

第15条 全学教育部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学教育（教養教育を含む。次号、第4号及び第5号において同じ。）の在り方、教育理念と教育目標に関する学生 IR の推進に関すること。
- (2) 全学教育のカリキュラム編成、シラバス作成及び履修方法等に関する全学的な総合調整に関すること。
- (3) 全学教育科目の授業の実施及び改善に関すること。
- (4) 全学教育に関する予算に関すること。
- (5) その他全学教育に関する必要な事項に関すること。

(全学教育部会)

第16条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、全学教育部会を置く。

#### 第6章 教育開発・学修支援部門

(業務)

第17条 教育開発・学修支援部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 大学教育及び学生の学修支援の在り方、教育理念と教育目標に関する学生 IR の推進に関すること。
- (2) 授業設計と成績評価（シラバスの改善を含む。）に関する調査研究、企画、調整、実施及び改善に関すること。
- (3) ICT等を活用したアクティブラーニング及びキャリア教育の開発並びに学生の能動的学修方法等に関する調査研究、開発、調整及び改善に関すること。
- (4) 大学教育の質的転換のためのFDに関する調査研究、企画、調整、実施及び評価に関すること。



- (5) 学生の学修行動調査の調査研究、企画、調整、実施及び評価に関すること。
- (6) 全学リテラシー共通テキスト等の教材開発、企画及び調整に関すること。
- (7) その他教育開発及び学生の学修支援に関する必要な事項に関すること。

(教育開発・学修支援部会)

第18条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、教育開発・学修支援部会を置く。

#### 第7章 雑則

(事務)

第19条 センターの事務は、学務部において処理する。

(雑則)

第20条 この規則に定めるもののほか、センターに関する必要な事項は、運営委員会の議を経て、センター長が定める。

#### 附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日に任命されるセンター長の選考は、学長が行い、その任期は、第5条第3項の規定にかかわらず、平成29年3月31日までとする。
- 3 平成29年3月31日までの間、第15条第1号及び第2号に規定する「教養教育」とあるのは「教養教育及び平成29年度開設予定の全学教育科目（各学部が開設予定の高度全学教育科目を含む。）」と読み替えて適用する。
- 4 横浜国立大学大学教育総合センター規則（平成16年規則511号）は、廃止する。

附 則(平成28年3月30日規則第38号)

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成30年4月12日規則第57号)

この規則は、平成30年4月12日から施行する。

○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センターに置く会議の組織運営に関する  
規則

(平成 28 年 3 月 22 日規則第 26 号)

改正 平成 28 年 3 月 30 日規則第 38 号 平成 29 年 3 月 30 日規則第 69 号  
平成 29 年 8 月 1 日規則第 82 号 平成 30 年 3 月 29 日規則第 47 号  
平成 30 年 4 月 12 日規則第 58 号

目次

- 第 1 章 総則(第 1 条)
- 第 2 章 運営委員会(第 2 条―第 6 条)
- 第 3 章 教員選考委員会(第 7 条・第 8 条)
- 第 4 章 部門長会議(第 9 条―第 11 条)
- 第 5 章 学生 IR 統括部会(第 12 条―第 14 条)
- 第 6 章 全学教育部会(第 15 条―第 17 条)
- 第 7 章 教育開発・学修支援部会(第 18 条―第 20 条)
- 第 8 章 雑則(第 21 条―第 23 条)

附則

第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則（以下「規則」という。）第 20 条の規定に基づき、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター（以下「センター」という。）に置く会議の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

第 2 章 運営委員会

(審議事項)

第 2 条 規則第 7 条第 1 号の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの組織に関すること。
- (2) センターの業務計画（センターの予算を含む。）及び管理運営に係る重要事項に関すること。
- (3) その他センターに関する重要事項に関すること。

(組織)

第 3 条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学部長

- (2) 研究院長
  - (3) 教養教育主事
  - (4) 附属図書館長
  - (5) 情報基盤センター長
  - (6) センター長
  - (7) 副センター長
  - (8) センター部門長
  - (9) センター専任教員
  - (10) 学務部長
  - (11) 研究・学術情報部長
  - (12) 学長が指名する者 若干人
- 2 前項第12号の委員の任期は、2年とする。ただし、欠員による委員の任期は、前任者の残任期間とする。
  - 3 前項の委員は、再任されることができる。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、副センター長がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

- 2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 3 運営委員会における審議の方法について、議長は運営委員会開催に代わるものとして、電磁的記録による審議を行うことができる。

(委員以外の者の出席)

第6条 運営委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

### 第3章 教員選考委員会

(審議事項)

第7条 規則第7条第2号の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター教員選考委員会（以下「教員選考委員会」という。）は、センターの専任教員の選考に関する事項を審議する。

(組織、委員長及び議事等)

第8条 教員選考委員会の組織、委員長、議事及び委員以外の者の出席については、第3条から第6条まで（第5条第3項を除く。）を準用する。この場合において、第3条第

1 項第 10 号から第 12 号の委員は組織から除くものとし、第 5 条第 1 項中「委員の過半数」を「委員の 3 分の 2 以上」と読み替えて適用する。

#### 第 4 章 部門長会議

(審議事項)

第 9 条 規則第 8 条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター部門長会議（以下「部門長会議」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの業務計画及び管理運営に関する事。
- (2) センターの予算に関する事。
- (3) センターの部門及び各部会との連絡調整に関する事。
- (4) その他運営委員会から審議を付託された事項に関する事。

(組織)

第 10 条 部門長会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター部門長
- (4) 学務部長
- (5) センター長が指名する者 若干人

2 前項第 5 号の委員の任期及び再任については、第 3 条第 2 項及び第 3 項を準用する。

(委員長及び議事等)

第 11 条 部門長会議の委員長、議事及び委員以外の者の出席については、第 4 条から第 6 条までを準用する。

#### 第 5 章 学生 IR 統括部会

(審議事項)

第 12 条 規則第 12 条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター学生 IR 統括部会（以下「学生 IR 統括部会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターにおける学生 IR の統括に関する事。
- (2) 学生の進路状況及び進路先評価等に関する事。
- (3) 学生のキャリア形成及び就職支援における全学的な総合調整に関する事。
- (4) キャリア・サポートルームに関する事。
- (5) その他学生 IR、学生のキャリア形成及び就職支援に関する事。

(組織)

第 13 条 学生 IR 統括部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学生 IR 統括部門長
- (2) 学生 IR 統括部門を担当する教員

- (3) 高大接続部門長、全学教育部門長及び教育開発・学修支援部門長
  - (4) 各学部の教授会から選出された教員 各1人
  - (5) 学務部学生支援課長、教育企画課長及び入試課長
  - (6) その他学生 IR 統括部門長が指名した者
- 2 前項第4号及び第6号の委員の任期及び再任については、第3条第2項及び第3項を準用する。

(委員長及び議事等)

第14条 学生 IR 統括部会に委員長を置き、学生 IR 統括部門長をもって充てる。

- 2 委員長は、学生 IR 統括部会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
- 4 学生 IR 統括部会の議事及び委員以外の者の出席については、第5条及び第6条を準用する。

## 第6章 全学教育部会

(審議事項)

第15条 規則第16条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター全学教育部会（以下「全学教育部会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 全学教育（教養教育を含む。第4号及び第5号において同じ。）の全学的な総合調整に関すること。
- (2) 全学教育科目の授業実施計画に関すること。
- (3) 全学教育科目のカリキュラム編成及び改善に関すること。
- (4) 全学教育に関する予算に関すること。
- (5) その他全学教育の実施に関すること。

(組織)

第16条 全学教育部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 全学教育部門長
  - (2) 全学教育部門を担当する専任教員
  - (3) 各学部及び国際社会科学府の教授会から選出された教員 各1人
  - (4) 教育学部学校教育課程保健体育講座から選出された教員 1人
  - (5) 国際戦略推進機構から選出された教員 3人
  - (6) 学務部教育企画課長
  - (7) その他全学教育部門長が指名した者 若干名
- 2 前項第3号から第5号まで及び第7号の委員の任期及び再任については、第3条第2項及び第3項を準用する。

(委員長及び議事等)

第17条 全学教育部会に委員長を置き、全学教育部門長をもって充てる。

- 2 委員長は、全学教育部会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
- 4 全学教育部会の議事及び委員以外の者の出席については、第5条及び第6条を準用する。

## 第7章 教育開発・学修支援部会

### (審議事項)

第18条 規則第18条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会（以下「教育開発・学修支援部会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 授業設計と成績評価（シラバスの改善を含む。）に関する事。
- (2) ICT等を活用したキャリア教育及び学生の能動的学修方法等に関する事。
- (3) ファカルティ・ディベロップメントに関する事。
- (4) 学生の学修行動調査に関する事。
- (5) 全学リテラシー共通テキスト等に関する事。
- (6) その他教育開発及び学生の学修支援に関する事。

### (組織)

第19条 教育開発・学修支援部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育開発・学修支援部門長
  - (2) 教育開発・学修支援部門を担当する専任教員
  - (3) 全学教育部門長
  - (4) 各学部の教授会から選出された教員 各1人
  - (5) 国際戦略推進機構及び情報基盤センターから選出された教員 各1人
  - (6) 学務部教育企画課長
  - (7) 研究・学術情報部図書館情報課長及び情報企画課長
  - (8) その他教育開発・学修支援部門長が指名した者 若干名
- 2 前項第4号、第5号及び第8号の委員の任期及び再任については、第3条第2項及び第3項を準用する。

### (委員長及び議事等)

第20条 教育開発・学修支援部会に委員長を置き、教育開発・学修支援部門長をもって充てる。

- 2 委員長は、教育開発・学修支援部会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
- 4 教育開発・学修支援部会の議事及び委員以外の者の出席については、第5条及び第6条を準用する。

## 第8章 雑則

### (会議の合同開催等)

第21条 第5条、第11条及び前条に規定する運営委員会、部門長会議及び教育開発・学修支援部会は、組織運営規則第18条第1項に規定する横浜国立大学大学院教育強化推進センターとの事前の協議を経て、合同で開催することができる。この場合において、合同で開催される委員会等の議事については、この規則及び横浜国立大学大学院教育強化推進センターに置く会議の組織運営に関する規則を適用し、議長については、それぞれの委員長の互選により置くものとする。

(事務)

第22条 センターに置く会議の事務は、学務部において処理する。

(雑則)

第23条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

#### 附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成29年3月31日までの間、第15条第1号及び第2号に規定する「教養教育」とあるのは「教養教育及び平成29年度開設予定の全学教育科目（各学部が開設予定の高度全学教育科目を含む。）」と読み替えて適用する。
- 3 平成29年3月31日までの間、第13条第1項第4号、第16条第1項第3号及び第19条第1項第4号に規定する「各学部」とあるのは「各学部（都市科学部（仮称）設置準備委員会を含む。）」と読み替えて適用する。
- 4 横浜国立大学大学教育総合センターに置く会議の組織運営に関する規則（平成16年規則第512号）は、廃止する。

#### 附 則(平成28年3月30日規則第38号)

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

#### 附 則(平成29年3月30日規則第69号)

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

#### 附 則(平成29年8月1日規則第82号)

- 1 この規則は、平成29年8月1日から施行する。
- 2 当分の間、第15条第3号に規定する「全学教育科目」とあるのは「全学教育科目及び平成28年度入学者まで適用の教養教育科目」と読み替えて適用する。

#### 附 則(平成30年3月29日規則第47号)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

#### 附 則(平成30年4月12日規則第58号)

この規則は、平成30年4月12日から施行する。





# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人横浜国立大学

## (2) 大学名

横浜国立大学大学院

## (3) 大学の位置

〒240-8501

神奈川県横浜市常盤台79番5号

(神奈川県横浜市常盤台79番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(ハセベ ユウイチ) 長谷部 勇一 (平成27年4月)		
学部長	(ワタナベ マサヨシ) 渡邊 正義 (平成30年4月)		
専攻長 機械・材料・ 海洋系工学専 攻(D)	(マツイ ジュン) 松井 純 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
大学院理工学府 機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程後期)  博士(工学)	工学関係	3年	11人	33人	理工学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。  
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。  
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員超過率	備考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員		11人 ( - ) [ - ]	人	人	人	人		0.54 倍	
志願者数		6 ( 3 ) [ 1 ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]		
受験者数		6 ( 3 ) [ 1 ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]		
合格者数		6 ( 3 ) [ 1 ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]		
B 入学者数		6 ( 3 ) [ 1 ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]		
入学定員超過率 B/A		0.54							

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( ) 内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。  
 ・ [ ] 内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 転入学生は記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	6 [ 1 ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	秋季入学定員は若干名
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次			/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
計	6 [ 1 ] ( - )	[ ] ( )			[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	6 人	0 人	平成30年度	人	人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
平成32年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
合 計	6 人	0 人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要ありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するため準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<横浜国立大学理工学府 機械・材料・海洋系工学専攻（博士課程後期）>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	機械工学特別演習	1・2・3①～2・4～5		3		9	11	1				
	アドバンスメカトロニクス	1・2④～5		2		1						
	超高速加工現象特論	1①～2		2			1					
	破壊強度学特論	1④～5		2		1						
	ターボ機械特論	1・2・3①～2		2		1						
	希薄気体力学特論	1・2①～2		2		1						
	ロボティックマニピュレーション特論	1①～2		2			1					
	宇宙推進工学特論	1・2④～5		2			1					
	弾塑性力学特論	1・2①～2		2			1					
	数値流体力学特論	1・2④～5		2			1					
	非線形構造解析	1・2①～2		2		1						
	マイクロマニピュレーション特論	2④～5		2			1					
	機械システム制御工学特論	1④～5		2		1						
	燃焼の熱流体力学	1・2・3④～5		2		1						
	応用流体力学特論	1・2④～5		2			1					
	乱流計測論	1・2・3①～2		2		1						
	光造形工学	1・2①～2		2		1						
	複合伝熱特論	1・2・3①～2		2			1					
	応用熱流体工学特論	1・2・3④～5		2			1					
	サイバーロボティクス特論	1・2④～5		2			1					
	薄膜加工特論	1・2④～5		2			1					
	材料工学特別演習	1・2・3①～2・4～5		3		4	3					
	材料工学教育研修	1・2・3①～2・4～5		1		4	3					兼3
	材料工学外研修	1・2・3①～2・4～5		1		4	3					兼3
	材料工学特別研究	1・2・3①～2・4～5		2		4	3					兼3
	光半導体材料工学	1・2①～2		2		1						
	材料破壊制御学特論	1・2①～2		2			1					
	多機能性複合材料特論	1・2①～2		2		1						
	成形加工学特論	1・2④～5		2			1					
	機能材料学特論	1・2④～5		2			1					
	疲労強度組織学特論	1・2④		2		1						
	局所平衡論	1・2④～5		2		1						
	先進材料工学特論	1・2④～5		2		4						
	高温構造材料設計工学特論	1・2④～5		2								兼1
	材料組織計算工学特論	1・2④～5		2								兼1
	材料組織設計工学特論	1・2④～5		2								兼1
	海洋宇宙システム工学特別演習	1・2・3①～2・4～5		3		4	6					
	数値流体解析特別演習	1・2・3④～5		2		1						
	構造情報システム学	1・2・3④～5		2		1						
	船舶海洋構造設計学特論	1・2・3④～5		2		1						
	宇宙航行体制御特論	1・2・3①～2		2		1						

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	機械工学特別演習	1・2・3①～2・4～5		3		9	11	1				
	アドバンスメカトロニクス	1・2④～5		2		1						
	超高速加工現象特論	1①～2		2			1					
	破壊強度学特論	1④～5		2		1						
	ターボ機械特論	1・2・3①～2		2		1						
	希薄気体力学特論	1・2①～2		2		1						
	ロボティックマニピュレーション特論	1①～2		2			1					
	宇宙推進工学特論	1・2④～5		2			1					
	弾塑性力学特論	1・2①～2		2			1					
	数値流体力学特論	1・2④～5		2			1					
	非線形構造解析	1・2①～2		2		1						
	マイクロマニピュレーション特論	2④～5		2			1					
	機械システム制御工学特論	1④～5		2		1						
	燃焼の熱流体力学	1・2・3④～5		2		1						
	応用流体力学特論	1・2④～5		2			1					
	乱流計測論	1・2・3①～2		2		1						
	光造形工学	1・2①～2		2		1						
	複合伝熱特論	1・2・3①～2		2			1					
	応用熱流体工学特論	1・2・3④～5		2			1					
	サイバーロボティクス特論	1・2④～5		2			1					
	薄膜加工特論	1・2④～5		2			1					
	回転電機熱流体工学	1・2・3④～5		2								兼1
	ヴァーチャルデザイン工学	1・2・3④～5		2								兼1
	表面改質技術	1・2・3④～5		2								兼1
	材料工学特別演習	1・2・3①～2・4～5		3		4	4					
	材料工学教育研修	1・2・3①～2・4～5		1		4	4					兼3
	材料工学外研修	1・2・3①～2・4～5		1		4	4					兼3
	材料工学特別研究	1・2・3①～2・4～5		2		4	4					兼3
	光半導体材料工学	1・2①～2		2		1						
	材料破壊制御学特論	1・2①～2		2			1					
	多機能性複合材料特論	1・2①～2		2		1						
	成形加工学特論	1・2④～5		2			1					
	機能材料学特論	1・2④～5		2			1					
	疲労強度組織学特論	1・2④		2		1						
	局所平衡論	1・2④～5		2		1						
	薄膜工学特論	1・2・3④～5		2			1					
	先進材料工学特論	1・2④～5		2		4						
	高温構造材料設計工学特論	1・2④～5		2								兼1
	材料組織計算工学特論	1・2④～5		2								兼1
	材料組織設計工学特論	1・2④～5		2								兼1
	海洋宇宙システム工学特別演習	1・2・3①～2・4～5		3		4	7					
	数値流体解析特別演習	1・2・3④～5		2		1						
	構造情報システム学	1・2・3④～5		2		1						
	船舶海洋構造設計学特論	1・2・3④～5		2		1						
	宇宙航行体制御特論	1・2・3①～2		2		1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
	海空耐航性能特論	1-2-3④~⑤		2			1				
	航空機空力設計特論	1-2-3①~②		2			1				
	海洋資源エネルギー工学特論	1-2-3①~②		2			1				
	浮体運動工学特論	1-2-3④~⑤		2			1				
	航空宇宙利用工学特論	1-2-3④~⑤		2			1				
	乱流工学特論	1-2-3④~⑤		2			1				
	海上交通安全工学特論	1-2-3④~⑤		2							兼2
	海洋開発工学特論	1-2-3①~②		2							兼1
	機械工学教育研修	1-2-3①~②・④~⑤		1		9	11	1			
	機械工学学外研修	1-2-3①~②・④~⑤		1		9	11	1			
	機械工学特別研究	1-2-3①~②・④~⑤		1		9	11	1			
	機械工学国際インターンシップ	1-2-3①~②・④~⑤		1		9	11	1			
	サブ・リサーチ機械工学演習A	1-2-3①~②・④~⑤		2		9	11	1			
	サブ・リサーチ機械工学演習B	1-2-3①~②・④~⑤		2		9	11	1			
	材料工学国際インターンシップ	1-2-3①~②・④~⑤		1		4	3				兼3
	サブ・リサーチ材料工学演習	1-2-3①~②・④~⑤		4		4	3				
	海洋宇宙システム工学特別研究	1-2-3①~②・④~⑤		2		6	7				
	海洋宇宙システム工学教育研修	1-2-3①~②・④~⑤		1		6	7				
	海洋宇宙システム工学学外研修	1-2-3①~②・④~⑤		1		6	7				
	海洋宇宙システム工学国際インターンシップ	1-2-3①~②・④~⑤		1		6	7				
	サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習	1-2-3①~②・④~⑤		4		4	6				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
	海空耐航性能特論	1-2-3④~⑤		2			1				
	航空機空力設計特論	1-2-3①~②		2			1				
	海洋資源エネルギー工学特論	1-2-3①~②		2			1				
	浮体運動工学特論	1-2-3④~⑤		2			1				
	航空宇宙利用工学特論	1-2-3④~⑤		2			1				
	乱流工学特論	1-2-3④~⑤		2			1				
	船舶設計システム工学特論	1-2-3①~②		2			1				
	海上交通安全工学特論	1-2-3④~⑤		2							兼2
	海洋開発工学特論	1-2-3①~②		2							兼2
	機械工学教育研修	1-2-3①~②・④~⑤		1		9	11	1			
	機械工学学外研修	1-2-3①~②・④~⑤		1		9	11	1			
	機械工学特別研究	1-2-3①~②・④~⑤		1		9	11	1			
	機械工学国際インターンシップ	1-2-3①~②・④~⑤		1		9	11	1			
	サブ・リサーチ機械工学演習A	1-2-3①~②・④~⑤		2		9	11	1			
	サブ・リサーチ機械工学演習B	1-2-3①~②・④~⑤		2		9	11	1			
	材料工学国際インターンシップ	1-2-3①~②・④~⑤		1		4	4				兼3
	サブ・リサーチ材料工学演習	1-2-3①~②・④~⑤		4		4	4				
	海洋宇宙システム工学特別研究	1-2-3①~②・④~⑤		2		4	7				兼4
	海洋宇宙システム工学教育研修	1-2-3①~②・④~⑤		1		4	7				兼4
	海洋宇宙システム工学学外研修	1-2-3①~②・④~⑤		1		4	7				兼4
	海洋宇宙システム工学国際インターンシップ	1-2-3①~②・④~⑤		1		4	7				兼4
	サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習	1-2-3①~②・④~⑤		4		4	7				

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。  
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。  
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。  
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。  
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

・設置申請時に誤植があったため、「海洋宇宙システム工学特別研究」、「海洋宇宙システム工学教育研修」、「海洋宇宙システム工学学外研修」、「海洋宇宙システム工学国際インターンシップ」の専任教員の配置を、「教授6、准教授7」から「教授4、准教授6、兼任3」に修正したうえで、科目の充実のため、「海洋宇宙システム工学特別研究」、「海洋宇宙システム工学教育研修」、「海洋宇宙システム工学学外研修」、「海洋宇宙システム工学国際インターンシップ」に専任教員(准教授)1名及び兼任教員数1名を増員した。

・科目の充実のため、「薄膜工学特論」、「船舶設計システム工学特論」、「材料工学特別演習」、「材料工学教育研修」、「材料工学学外研修」、「材料工学特別研究」、「海洋宇宙システム工学特別演習」、「材料工学国際インターンシップ」、「サブ・リサーチ材料工学演習」、「サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習」の専任教員数を各科目1名増とした。

・カリキュラム充実のため「薄膜工学特論」、「船舶設計システム工学特論」、「回転電機熱流体工学」、「ヴァーチャルデザイン工学」、「表面改質技術」を追加。

・科目の充実のため、「海洋開発工学特論」、「回転電機熱流体工学」、「ヴァーチャルデザイン工学」、「表面改質技術」の兼任教員を1名増員した。

- (注) ・ 変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。  
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
0 科目	62 科目	0 科目	62 科目	0 科目	67 科目	0 科目	67 科目	
				[ ]	[ 5 ]	[ ]	[ 5 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	超高速加工現象特論	2	1	専門	選択	隔年度開講のため
2	ターボ機械特論	2	1・2・3	専門	選択	隔年度開講のため
3	宇宙推進工学特論	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
4	数値流体力学特論	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
5	非線形構造解析	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
6	マイクロマニピュレーション特論	2	2	専門	選択	隔年度開講のため
7	機械システム制御工学特論	2	1	専門	選択	隔年度開講のため
8	サイバーロボティクス特論	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
9	多機能性複合材料特論	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
10	成形加工学特論	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
11	機能材料学特論	2	1・2	専門	選択	隔年度開講のため
12	薄膜工学特論	2	1・2・3	専門	選択	隔年度開講のため

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2		該当なし				
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

隔年で開講する科目であるため、学生の履修に影響はない。  
履修案内、時間割表に明示するとともに、掲示板にて周知した。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{12}{62} = \boxed{19.35\%}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	335,097㎡	— ㎡	— ㎡	335,097 ㎡				
	運動場用地	89,916 ㎡	— ㎡	— ㎡	89,916 ㎡				
	小 計	425,013 ㎡	— ㎡	— ㎡	425,013 ㎡				
	そ の 他	237,446 ㎡	— ㎡	— ㎡	237,446 ㎡				
	合 計	662,459 ㎡	— ㎡	— ㎡	662,459 ㎡				
(2) 校舎	専 用	175,694 ㎡	— ㎡	— ㎡	175,694 ㎡				
	( ㎡)	( ㎡)	( ㎡)	( ㎡)	( ㎡)				
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	113室	153室	770室	31室 (補助職員 18人)	14室 (補助職員 2人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	理工学府			139 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	学府単位での特定不能なため、大学全体の数	
		[うち外国書]	[うち外国書]						[うち外国書]
	冊	種	点	点	点				
	理工学府	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)		
計	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)			
(6) 図書館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	15,336 ㎡		1,472 席		1,346,389 冊				
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	3,882 ㎡		野球場		テニスコートほか				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費(運営費交付金)による
		教員1人当たり研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。



#### 4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	横浜国立大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 定員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
<b>経済学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番3号	
経済学科	4	238	3年次15	476	学士(経済学)	1.07	平成29年度		
経済システム学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
国際経済学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
<b>経営学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
経営学科	4	287	-	574	学士(経営学)	1.04	平成29年度		
経営学科(昼間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	昭和42年度		平成29年学生募集停止
経営学科(夜間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
会計・情報学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
経営システム科学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
国際経営学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
<b>都市科学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番6号	
都市社会共生学科	4	74	-	148	学士(学術)	0.87	平成29年度		
建築学科	4	70	2年次2	142	学士(工学)	0.96	平成29年度		
都市基盤学科	4	48	3年次5	96	学士(工学)	1.01	平成29年度		
環境リスク共生学科	4	56	-	112	学士(環境学)	1.04	平成29年度		
<b>教育学研究科</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
高度教職実践専攻 (専門職学位課程)	2	15	-	30	教職修士(専門職)	1.03	平成29年度		
<b>理工学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程前期)	2	109	-	109	修士(工学)	1.03	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程前期)	2	107	-	107	修士(理学、工学)	1.01	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程前期)	2	146	-	146	修士(理学、工学)	1.04	平成30年度		
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程後期)	3	11	-	11	博士(工学)	0.54	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(理学、工学)	0.41	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程後期)	3	18	-	18	博士(理学、工学)	1.22	平成30年度		
<b>環境情報学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番7号	
人工環境専攻(博士課程前期)	2	75	-	75	修士(環境学、工学、学術)	0.90	平成30年度		
自然環境専攻(博士課程前期)	2	33	-	33	修士(環境学、理学、学術)	0.90	平成30年度		
情報環境専攻(博士課程前期)	2	65	-	65	修士(情報学、理学、学術)	0.98	平成30年度		

人工環境専攻(博士課程後期)	3	15	-	15	博士(環境学、工学、学術)	0.60	平成30年度		
自然環境専攻(博士課程後期)	3	6	-	6	博士(環境学、理学、学術)	0.50	平成30年度		
情報環境専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(情報学、理学、学術)	0.91	平成30年度		
環境生命学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、情報科学、学術)	-	平成18年度		平成30年学生募集停止
環境リカマージメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度		平成30年学生募集停止
環境生命学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、情報科学、学術)	-	平成18年度		平成30年学生募集停止
環境リカマージメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度		平成30年学生募集停止
大学の名称	横浜国立大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
教育学部	年	人	年次人	人		倍			
学校教育課程	4	230	-	920	学士(教育)	1.02	平成10年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
教育人間科学部									
人間文化課程	4	-	-	-	学士(教養)	-	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	平成29年学生募集停止
理工学部									
機械・材料・海洋系学科	4	185	-	740	学士(工学)	1.02	平成29年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
化学・生命系学科	4	187	-	748	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度		
数物・電子情報系学科	4	287	-	1148	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度		
建築都市・環境系学科	4	-	-	-	学士(理学、工学)	-	平成23年度		平成29年学生募集停止
工学部									
生産工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	平成23年学生募集停止
建設学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度		平成23年学生募集停止
電子情報工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度		平成23年学生募集停止
知能物理工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成10年度		平成23年学生募集停止
教育学研究科									
教育実践専攻(修士課程)	2	85	-	170	修士(教育学)	1.12	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
国際社会科学府									
経済学専攻(博士課程前期)	2	38	-	76	修士(経済学)	0.90	平成25年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
経営学専攻(博士課程前期)	2	50	-	100	修士(経営学)	1.03	平成25年度		
国際経済法学専攻(博士課程前期)	2	25	-	50	修士(法学、国際)	1.04	平成25年度		
経済学専攻(博士課程後期)	3	10	-	30	博士(経済学、学術)	0.40	平成25年度		
経営学専攻(博士課程後期)	3	12	-	36	博士(経営学、学術)	0.44	平成25年度		
国際経済法学専攻(博士課程後期)	3	8	-	24	博士(法学、国際)	0.49	平成25年度		

法曹実務専攻（専門職学位課程）	3	25	-	75	法務博士（専門職）	0.41	平成25年度		
<b>国際社会科学研究所</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
グローバル経済専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経済学、学術）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
企業システム専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経営学、学術）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
国際経済法学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（国際経済法）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
<b>工学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
機能発現工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
機能発現工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
<b>都市イノベーション学府</b>									
建築都市文化専攻（博士課程前期）	2	68	-	136	修士（工学、学術）	0.93	平成23年度		
都市地域社会専攻（博士課程前期）	2	37	-	74	修士（工学、学術）	0.98	平成23年度		
都市イノベーション専攻（博士課程後期）	3	12	-	36	博士（工学、学術）	0.83	平成23年度		

- （注）・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<横浜国立大学理工学部 機械・材料・海洋系工学専攻（博士課程後期）>

(1) - ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任（予定）年月>
専	教授	アキニワ ヨシアキ 秋庭 義明 <平成30年4月>
		機械工学特別演習 破壊強度学特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	教授	イシイ カズヒロ 石井 一洋 <平成30年4月>
		機械工学特別演習 燃焼の熱流体力学【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	教授	ウ キョウ（ウキョウ ツヨシ） 于 強（右京 強） <平成30年4月>
		機械工学特別演習 非線形構造解析【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	教授	ウエノ セイヤ 上野 誠也 <平成30年4月>
		海洋宇宙システム工学特別演習 宇宙航行体制御特論 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
専	教授	ウメザワ オサム 梅澤 修 <平成30年4月>
		材料工学特別演習 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 疲労強度組織学特論【隔年】 先進材料工学特論 材料工学国際インターンシップ サブ・リサーチ材料工学演習
専	教授	オカダ テツオ 岡田 哲男 <平成30年4月>
		海洋宇宙システム工学特別演習 船舶海洋構造設計学特論 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
		カワムラ ヤスミ 川村 恭己 <平成30年4月>
		海洋宇宙システム工学特別演習

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任（予定）年月>
専	教授	アキニワ ヨシアキ 秋庭 義明 <平成30年4月>
		機械工学特別演習 破壊強度学特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	教授	イシイ カズヒロ 石井 一洋 <平成30年4月>
		機械工学特別演習 燃焼の熱流体力学【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	教授	ウ キョウ（ウキョウ ツヨシ） 于 強（右京 強） <平成30年4月>
		機械工学特別演習 非線形構造解析【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	教授	ウエノ セイヤ 上野 誠也 <平成30年4月>
		海洋宇宙システム工学特別演習 宇宙航行体制御特論 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
専	教授	ウメザワ オサム 梅澤 修 <平成30年4月>
		材料工学特別演習 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 疲労強度組織学特論【隔年】 先進材料工学特論 材料工学国際インターンシップ サブ・リサーチ材料工学演習
専	教授	オカダ テツオ 岡田 哲男 <平成30年4月>
		海洋宇宙システム工学特別演習 船舶海洋構造設計学特論 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
		カワムラ ヤスミ 川村 恭己 <平成30年4月>
		海洋宇宙システム工学特別演習

専	教授	構造情報システム学 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
専	教授	サトウ ヤスカズ 佐藤 恭一 〈平成30年4月〉
		機械工学特別演習 アドバンストメカトロニクス【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	教授	サナダ カズシ 真田 一志 〈平成30年4月〉
		機械工学特別演習 機械システム制御工学特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	教授	ナカオ ワタル 中尾 航 〈平成30年4月〉
		材料工学特別演習 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 多機能性複合材料特論【隔年】 先進材料工学特論 材料工学国際インターンシップ サブ・リサーチ材料工学演習
専	教授	ニシノ コウイチ 西野 耕一 〈平成30年4月〉
		機械工学特別演習 乱流計測論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	教授	ヒノ タカノリ 日野 孝則 〈平成30年4月〉
		海洋宇宙システム工学特別演習 数値流体解析特別演習 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
専	教授	ヒロサワ ショウイチ 廣澤 渉一 〈平成30年4月〉
		材料工学特別演習 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 先進材料工学特論 材料工学国際インターンシップ サブ・リサーチ材料工学演習 局所平衡論【隔年】
専	教授	マツイ ジュン 松井 純 〈平成30年4月〉
		機械工学特別演習 ターボ機械特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	教授	マツモト ヒロアキ 松本 裕昭 〈平成30年4月〉
		機械工学特別演習 希薄気体力学特論【隔年】 機械工学教育研修

専	教授	構造情報システム学 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
専	教授	サトウ ヤスカズ 佐藤 恭一 〈平成30年4月〉
		機械工学特別演習 アドバンストメカトロニクス【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	教授	サナダ カズシ 真田 一志 〈平成30年4月〉
		機械工学特別演習 機械システム制御工学特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	教授	ナカオ ワタル 中尾 航 〈平成30年4月〉
		材料工学特別演習 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 多機能性複合材料特論【隔年】 先進材料工学特論 材料工学国際インターンシップ サブ・リサーチ材料工学演習
専	教授	ニシノ コウイチ 西野 耕一 〈平成30年4月〉
		機械工学特別演習 乱流計測論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	教授	ヒノ タカノリ 日野 孝則 〈平成30年4月〉
		海洋宇宙システム工学特別演習 数値流体解析特別演習 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
専	教授	ヒロサワ ショウイチ 廣澤 渉一 〈平成30年4月〉
		材料工学特別演習 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 先進材料工学特論 材料工学国際インターンシップ サブ・リサーチ材料工学演習 局所平衡論【隔年】
専	教授	マツイ ジュン 松井 純 〈平成30年4月〉
		機械工学特別演習 ターボ機械特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	教授	マツモト ヒロアキ 松本 裕昭 〈平成30年4月〉
		機械工学特別演習 希薄気体力学特論【隔年】 機械工学教育研修

		機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	教授	マルオ ショウジ 丸尾 昭二  <平成30年4月>
		機械工学特別演習 光造形工学【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	教授	ムカイ コウキ 向井 剛輝  <平成30年4月>
		材料工学特別演習 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 光半導体材料工学【隔年】 先進材料工学特論 材料工学国際インターンシップ サブ・リサーチ材料工学演習
専	准教授	アラキ タクト 荒木 拓人  <平成30年4月>
		機械工学特別演習 応用熱流体工学特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	准教授	オオタ ヒロキ 太田 裕貴  <平成30年4月>
		機械工学特別演習 薄膜加工特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	准教授	オザキ シンゴ 尾崎 伸吾  <平成30年4月>
		機械工学特別演習 弾塑性力学特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	准教授	カトウ リュウ 加藤 龍  <平成30年4月>
		機械工学特別演習 サイバーロボティクス特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	准教授	キタムラ ケイイチ 北村 圭一  <平成30年4月>
		機械工学特別演習 数値流体力学特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B

		機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	教授	マルオ ショウジ 丸尾 昭二  <平成30年4月>
		機械工学特別演習 光造形工学【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	教授	ムカイ コウキ 向井 剛輝  <平成30年4月>
		材料工学特別演習 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 光半導体材料工学【隔年】 先進材料工学特論 材料工学国際インターンシップ サブ・リサーチ材料工学演習
専	准教授	アラキ タクト 荒木 拓人  <平成30年4月>
		機械工学特別演習 応用熱流体工学特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	准教授	オオタ ヒロキ 太田 裕貴  <平成30年4月>
		機械工学特別演習 薄膜加工特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	准教授	オオタケ ミツル 大竹 充  <平成30年4月>
		薄膜工学特論 材料工学特別演習 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 材料工学国際インターンシップ サブ・リサーチ材料工学演習
専	准教授	オザキ シンゴ 尾崎 伸吾  <平成30年4月>
		機械工学特別演習 弾塑性力学特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	准教授	カトウ リュウ 加藤 龍  <平成30年4月>
		機械工学特別演習 サイバーロボティクス特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	准教授	キタムラ ケイイチ 北村 圭一  <平成30年4月>
		機械工学特別演習 数値流体力学特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B

専	准教授	サカイ セイゴ 酒井 清吾 〈平成30年4月〉
		機械工学特別演習 複合伝熱特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	准教授	シノヅカ ジュン 篠塚 淳 〈平成30年4月〉
		機械工学特別演習 超高速加工現象特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	准教授	タカオ ヨシノリ 鷹尾 祥典 〈平成30年4月〉
		機械工学特別演習 宇宙推進工学特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	准教授	タカギ ヨウヘイ 高木 洋平 〈平成30年4月〉
		海洋宇宙システム工学特別演習 乱流工学特論 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
専	教授	ナカツガワ ヒロシ 中津川 博 〈平成30年4月〉
		材料工学特別演習 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 機能材料学特論【隔年】 材料工学国際インターンシップ サブ・リサーチ材料工学演習
専	准教授	ニシ ヨシキ 西 佳樹 〈平成30年4月〉
		海洋宇宙システム工学特別演習 海洋資源エネルギー工学特論 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
専	准教授	ハセガワ マコト 長谷川 誠 〈平成30年4月〉
		材料工学特別演習 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 材料破壊制御学特論【隔年】 材料工学国際インターンシップ サブ・リサーチ材料工学演習
専	准教授	ヒグチ タケヒロ 樋口 丈浩 〈平成30年4月〉
		海洋宇宙システム工学特別演習 航空宇宙利用工学特論 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
専	准教授	ヒヤクタケ トオル 百武 徹 〈平成30年4月〉
		機械工学特別演習 応用流体力学特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修

専	准教授	サカイ セイゴ 酒井 清吾 〈平成30年4月〉
		機械工学特別演習 複合伝熱特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	准教授	シノヅカ ジュン 篠塚 淳 〈平成30年4月〉
		機械工学特別演習 超高速加工現象特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	准教授	タカオ ヨシノリ 鷹尾 祥典 〈平成30年4月〉
		機械工学特別演習 宇宙推進工学特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	准教授	タカギ ヨウヘイ 高木 洋平 〈平成30年4月〉
		海洋宇宙システム工学特別演習 乱流工学特論 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
専	教授	ナカツガワ ヒロシ 中津川 博 〈平成30年4月〉
		材料工学特別演習 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 機能材料学特論【隔年】 材料工学国際インターンシップ サブ・リサーチ材料工学演習
専	准教授	ニシ ヨシキ 西 佳樹 〈平成30年4月〉
		海洋宇宙システム工学特別演習 海洋資源エネルギー工学特論 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
専	准教授	ハセガワ マコト 長谷川 誠 〈平成30年4月〉
		材料工学特別演習 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 材料破壊制御学特論【隔年】 材料工学国際インターンシップ サブ・リサーチ材料工学演習
専	准教授	ヒグチ タケヒロ 樋口 丈浩 〈平成30年4月〉
		海洋宇宙システム工学特別演習 航空宇宙利用工学特論 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
専	准教授	ヒヤクタケ トオル 百武 徹 〈平成30年4月〉
		機械工学特別演習 応用流体力学特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修

		機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	准教授	ヒラカワ ヨシアキ 平川 嘉昭 〈平成30年4月〉 海洋宇宙システム工学特別演習 海空耐航性能特論 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
		フチワキ オオミ 淵脇 大海 〈平成30年4月〉 機械工学特別演習 マイクロマニピュレーション特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	准教授	マエダ ユウスケ 前田 雄介 〈平成30年4月〉 機械工学特別演習 ロボティックマニピュレーション特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
		マエノ トモヨシ 前野 智美 〈平成30年4月〉 材料工学特別演習 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 成形加工学特論【隔年】 材料工学国際インターンシップ サブ・リサーチ材料工学演習
専	准教授	マエノ トモヨシ 前野 智美 〈平成30年4月〉 材料工学特別演習 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 成形加工学特論【隔年】 材料工学国際インターンシップ サブ・リサーチ材料工学演習
		ミヤジ コウジ 宮路 幸二 〈平成30年4月〉 海洋宇宙システム工学特別演習 航空機空力設計特論 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
専	准教授	ムライ モトヒコ 村井 基彦 〈平成30年4月〉 海洋宇宙システム工学特別演習 浮体運動工学特論 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
		スギウチ ハジメ 杉内 肇 〈平成30年4月〉 機械工学特別演習 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
兼任	講師	シモノ マサト 下野 昌人 〈平成30年4月〉 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究

		機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	准教授	ヒラカワ ヨシアキ 平川 嘉昭 〈平成30年4月〉 海洋宇宙システム工学特別演習 海空耐航性能特論 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
		フチワキ オオミ 淵脇 大海 〈平成30年4月〉 機械工学特別演習 マイクロマニピュレーション特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
専	准教授	マエダ ユウスケ 前田 雄介 〈平成30年4月〉 機械工学特別演習 ロボティックマニピュレーション特論【隔年】 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
		マエノ トモヨシ 前野 智美 〈平成30年4月〉 材料工学特別演習 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 成形加工学特論【隔年】 材料工学国際インターンシップ サブ・リサーチ材料工学演習
専	准教授	ミツユキ タイガ 満行 泰河 〈平成30年4月〉 船舶設計システム工学特論 海洋宇宙システム工学特別演習 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
		ミヤジ コウジ 宮路 幸二 〈平成30年4月〉 海洋宇宙システム工学特別演習 航空機空力設計特論 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
専	准教授	ムライ モトヒコ 村井 基彦 〈平成30年4月〉 海洋宇宙システム工学特別演習 浮体運動工学特論 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習
		スギウチ ハジメ 杉内 肇 〈平成30年4月〉 機械工学特別演習 機械工学教育研修 機械工学学外研修 機械工学特別研究 機械工学国際インターンシップ サブ・リサーチ機械工学演習A サブ・リサーチ機械工学演習B
兼任	講師	シモノ マサト 下野 昌人 〈平成30年4月〉 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究



		材料組織計算工学特論 材料工学国際インターンシップ
兼任	講師	デムラ マサヒコ 出村 雅彦 〈平成30年4月〉 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 材料組織設計工学特論 材料工学国際インターンシップ
兼任	講師	トダ ヨシアキ 戸田 佳明 〈平成30年4月〉 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 高温構造材料設計工学特論 材料工学国際インターンシップ
兼任	講師	カトウ シュンジ 加藤 俊司 〈平成30年4月〉 海洋開発工学特論 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ
兼任	講師	フクト ジュンジ 福戸 淳司 〈平成30年4月〉 海上交通安全工学特論※ 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ
兼任	講師	イトウ（アンドウ） ヒロコ 伊藤（安藤） 博子 〈平成30年4月〉 海上交通安全工学特論※ 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ
兼任	講師	
兼任	講師	
兼任	講師	
兼任	講師	

		材料組織計算工学特論 材料工学国際インターンシップ
兼任	講師	ミタライ ヨウコ 御手洗 容子 〈平成30年4月〉 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 材料組織設計工学特論 材料工学国際インターンシップ
兼任	講師	トダ ヨシアキ 戸田 佳明 〈平成30年4月〉 材料工学教育研修 材料工学学外研修 材料工学特別研究 高温構造材料設計工学特論 材料工学国際インターンシップ
兼任	講師	カトウ シュンジ 加藤 俊司 〈平成30年4月〉 海洋開発工学特論 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ
兼任	講師	フクト ジュンジ 福戸 淳司 〈平成30年4月〉 海上交通安全工学特論※ 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ
兼任	講師	イトウ（アンドウ） ヒロコ 伊藤（安藤） 博子 〈平成30年4月〉 海上交通安全工学特論※ 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ
兼任	講師	カバタ ヤスオ 加幡 安雄 〈平成30年4月〉 回転電機熱流体工学
兼任	講師	イワキ チカコ 岩城 智香子 〈平成30年4月〉 ヴァーチャルデザイン工学
兼任	講師	ワダ クニヒコ 和田 国彦 〈平成30年4月〉 表面改質技術
兼任	講師	ナカジマ ヤスハル 中島 康晴 〈平成30年4月〉 海洋開発工学特論 海洋宇宙システム工学特別研究 海洋宇宙システム工学教育研修 海洋宇宙システム工学学外研修 海洋宇宙システム工学国際インターンシップ

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。  
・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。  
その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。  
・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。  
・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。  
・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- 平成30年4月：大竹充准教授就任（平成30年2月教員審査済み）。
- 平成30年4月：満行泰河准教授就任（平成30年2月教員審査済み）。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- 認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。
  - 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
  - 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
4 名	3 名	3 名

- (注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)	教授	准教授	講師	助教	計(C)
17	20	1	5	43	17	22	1	5	45	17	22	1	5	45
(17)	(22)	(1)	(5)	(45)						[ 0 ]	[ 2 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 2 ]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
38	0	5			40	0	5			40	0	5		
(40)	(0)	(5)								[ 2 ]	[ 0 ]	[ 0 ]		

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
- 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
  - 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
  - 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{45}{43} = 104.65\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{45} = 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1				該当なし	① ③		
合計（D）				後任補充状況の集計（E）			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1				該当なし	① ③		
合計（F）				後任補充状況の集計（G）			
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）			
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{43} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1					① ② ③		
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および( )書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時  (平成29年8月)		該当なし	
設置計画履行状況 調 査 時 (平成31年2月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (平成32年2月)			

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、**当該大学に付された意見を全て記入**するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

## 7 その他全般的事項

<大学院理工学府 機械・材料・海洋系工学専攻（博士課程後期）>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況。今後の見通しなど
① 修了要件として専攻が指定する科目及びモジュール構成科目	・教育内容充実のため修了要件として専攻が指定する科目群に5科目を追加（別添①「新旧対照表」参照）。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で。設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

#### ① 実施体制

##### a 委員会の設置状況

横浜国立大学では、平成28年度に発足した高大接続・全学教育推進センターが中心となって教員の資質の維持向上、FD活動を行っている。理工学府からセンター教育開発・学修支援部会委員を1名選出し、学部内でのFD活動等の連絡、調整、実施を主に担当する。

○別添② 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則

○別添③ 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センターに置く会議の組織運営に関する規則

##### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

定例の高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会は月1回開催。（参加教員14名）

##### c 委員会の審議事項等

学生IR、高大接続、全学教育、および教育開発・学修支援に関する事項。

#### ② 実施状況

##### a 実施内容

高大接続・全学教育推進センターが行う活動に学府として協力、実施する。

各種研修会(TA研修会等)

・FDフォーラム開催

・公開授業開催

・ベストティーチャー表彰

・シラバス改善(ループリックの利用等)

・学生調査

##### b 実施方法

・各内容に即し、全学でコーディネートして実施する。

##### c 開催状況(教員の参加状況含む)

・今年度4月時点ではまだ特別な行事の開催はないが、今後開催される予定。

昨年度は、理工学府担当(予定)教員を集めた集会においてセミナーを2回(7月と12月)開催した。

##### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

・高大接続・全学教育推進センターの指針に基づきループリックを含むシラバスを作成した。

#### ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各ターム終了時に授業評価を実施予定。実施結果に基づき自己点検表を作成する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

基本的にホームページ上で公開する。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

開講時期の変更など軽微な変更はあるものの、履修案内やオリエンテーション等において学生に十分な説明を行っているため、学生の履修に影響はない。設置の趣旨・目的の完全な達成に向けて、理工学府担当の教員が平成30年4月から予定通り授業を開始しており、当初設定のカリキュラムの遂行を実現していく予定で、設置趣旨・目的の完全な実現をはかる。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

未定

b 公表方法

未定

③ 認証評価を受ける計画

・平成33年度に評価機関(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構)の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表(予定)の有無 (  有  無 )

b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期 ( 平成30年7月1日 )

(注) ・ 「a ホームページに公表(予定)有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。  
・ 「b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期」には、「a ホームページに公表(予定)有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

7 その他全般的事項

<大学院理工学府 機械・材料・海洋系工学専攻（博士課程後期）>

(1) 設置計画変更事項等に係る別添資料

設置時の計画	変更内容
<p>・機械・材料・海洋系工学専攻 工学 (PED) プログラムにおけるモジュール構成科目：</p> <p>○(1)～(3)のモジュールに対するモジュール構成科目： アドバンスドメカトロニクス 超高速加工現象特論，破壊強度学特論，ターボ機械特論，希薄気体力学特論，ロボティクスマニピュレーション特論，宇宙推進工学特論，弾塑性力学特論，数値流体力学特論，非線形構造解析，マイクログマニピュレーション特論，機械システム制御工学特論，燃焼の熟流体力学，応用流体力学特論，乱流計測論，光造形工学，複合伝熱特論，応用熟流体力学特論，身体性機械論，機械工学国際インスタンシブ</p> <p>○(4)のモジュールに対するモジュール構成科目： 光半導体材料工学，材料破壊制御学特論，多機能性複合材料特論，成形加工学特論，機能材料学特論，疲労強度組織学特論，局所平衡論，先進材料工学特論，高温構造材料設計工学特論，材料組織計算工学特論，材料組織設計工学特論</p> <p>○(5)のモジュールに対するモジュール構成科目： 船舶海洋構造設計学特論，数値流体解析特別演習，構造物シミュレーション学，宇宙航行体制御特論，海空耐航性能特論，航空機空力設計特論，海洋資源エネルギー工学特論，浮体運動工学特論，航空宇宙利用工学特論，乱流工学特論，海上交通安全工学特論，海洋開発工学特論，海洋宇宙システム工学国際インスタンシブ</p>	<p>教育内容充実のため、モジュール構成科目群に下線部のとおり 5 科目を追加した。</p> <p>・機械・材料・海洋系工学専攻 工学 (PED) プログラムにおけるモジュール構成科目：</p> <p>○(1)～(3)のモジュールに対するモジュール構成科目： アドバンスドメカトロニクス 超高速加工現象特論，破壊強度学特論，ターボ機械特論，希薄気体力学特論，ロボティクスマニピュレーション特論，宇宙推進工学特論，弾塑性力学特論，数値流体力学特論，非線形構造解析，マイクログマニピュレーション特論，機械システム制御工学特論，燃焼の熟流体力学，応用流体力学特論，乱流計測論，光造形工学，複合伝熱特論，応用熟流体力学特論，身体性機械論，機械工学国際インスタンシブ，<u>回転電機熟流体力学</u>，<u>ヴァーチャルデザイン工学</u>，<u>表面改質技術</u></p> <p>○(4)のモジュールに対するモジュール構成科目： 光半導体材料工学，材料破壊制御学特論，多機能性複合材料特論，成形加工学特論，機能材料学特論，疲労強度組織学特論，局所平衡論，先進材料工学特論，高温構造材料設計工学特論，材料組織計算工学特論，材料組織設計工学特論，<u>薄膜工学特論</u></p> <p>○(5)のモジュールに対するモジュール構成科目： 船舶海洋構造設計学特論，数値流体解析特別演習，構造物シミュレーション学，宇宙航行体制御特論，海空耐航性能特論，航空機空力設計特論，海洋資源エネルギー工学特論，浮体運動工学特論，航空宇宙利用工学特論，乱流工学特論，海上交通安全工学特論，海洋開発工学特論，海洋宇宙システム工学国際インスタンシブ，<u>船舶設計システム工学特論</u></p> <p>(参考) ・機械・材料・海洋系工学専攻（博士課程後期） 工学 (PED) プログラムにおけるモジュールの一覧</p>



- (1) 先進加工システム設計 (サブ・リサーチ機械工学演習 A, サブ・リサーチ機械工学演習 B, 非線形構造解析, 破壊強度学特論, 光造形工学, 超高速加工現象特論, 弾塑性力学特論, 薄膜加工特論)
- (2) 先進熱流体システム設計 (サブ・リサーチ機械工学演習 A, サブ・リサーチ機械工学演習 B, 乱流計測論, 燃焼の熱流体力学, ターボ機械特論, 希薄気体力学特論, 複合伝熱特論, 応用流体力学特論, 応用熱流体工学特論, 推進工学特論, 数値流体力学特論)
- (3) 先進統合システム設計 (サブ・リサーチ機械工学演習 A, サブ・リサーチ機械工学演習 B, 機械システム制御工学特論, アドバンスドメカトロニクス, ロボティクスマニピュレーション特論, サイバーロボティクス特論)
- (4) 先端材料設計 (サブ・リサーチ材料工学演習, 材料設計特別演習, 疲労強度組織学特論, 局所平衡論, 機能材料学特論, 結晶と対称, 光半導体材料工学, 材料破壊制御学特論, 先進材料工学特論, 非平衡物理学, 高温構造材料設計学特論, 材料組織設計工学特論, 材料組織計算工学特論)
- (5) 大規模システム設計 (サブ・リサーチ海洋宇宙システム工学演習, 数値流体解析特別演習, 構造物情報システム学, 船舶海洋構造設計学特論, 宇宙航行体制御特論, 海空耐航性能特論, 航空機空力設計特論, 海洋資源エネルギー工学特論, 浮体運動工学特論, 航空宇宙利用工学特論, 乱流工学特論, 海上交通安全工学特論, 海洋開発工学特論)

## ○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則

(平成 28 年 3 月 22 日規則第 25 号)

改正 平成 28 年 3 月 30 日規則第 38 号 平成 30 年 4 月 12 日規則第 57 号

## 目次

- 第 1 章 総則(第 1 条・第 2 条)
- 第 2 章 業務及び組織(第 3 条―第 10 条)
- 第 3 章 学生 IR 統括部門(第 11 条・第 12 条)
- 第 4 章 高大接続部門(第 13 条・第 14 条)
- 第 5 章 全学教育部門(第 15 条・第 16 条)
- 第 6 章 教育開発・学修支援部門(第 17 条・第 18 条)
- 第 7 章 雑則(第 19 条・第 20 条)
- 附則

## 第 1 章 総則

## (趣旨)

第 1 条 この規則は、横浜国立大学学則(以下「学則」という。)第 14 条の規定に基づき、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター(以下「センター」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

## (目的)

第 2 条 センターは、横浜国立大学(以下「本学」という。)における高大接続システム改革の実現に向けて全学一体で推進する中心的な役割を果たし、大学教育の質的転換及び入学者選抜方法の改善のための学生行動調査等を重視するインスティテューショナル・リサーチ(以下「学生 IR」という。)の推進とともに、初年次教育科目から高度全学教育科目を体系的に編成した全学教育(教養教育を含む。)の企画、調整、実施及び改善を図り、もって国際通用性のある本学教育の質保証に資することを目的とする。

## 第 2 章 業務及び組織

## (業務)

第 3 条 センターは、前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 本学の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)及び入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に基づく高大接続システム改革の実現に向けた大学教育の質的転換及び入学者選抜方法の改善のための学生 IR の推進に関すること。
- (2) 学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の内外を通じて培うことができるよう、学生のキャリア形成及び

就職支援等における組織間の有機的な連携を推進するための企画、調整、実施及び改善に関すること。

(3) 入学者選抜方法の改善、多面的・総合的な評価方法の調査研究、企画及び調整、入学広報並びに高大連携に関すること。

(4) 初年次教育科目から高度全学教育科目までを体系的に編成した全学教育（教養教育を含む。）の企画、調整、実施及び改善に関すること。

(5) 授業設計と成績評価の向上、ICT等を活用したアクティブラーニング及びキャリア教育の開発、学生の能動的学修の支援並びにこれらの組織的な研修に資するファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）の調査研究、企画、調整、実施及び改善に関すること。

(6) その他前条の目的を達成するために必要な業務に関すること。

2 前項に掲げる業務は、国立大学法人横浜国立大学組織運営規則（平成16年規則第5号。以下「組織運営規則」という。）第18条に規定する横浜国立大学大学院教育強化推進センターとの緊密に連携して行うものとする。

（組織）

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

(1) センター長

(2) 副センター長

(3) センター専任教員

(4) センター長が指名又は推薦する本学の教員

(5) その他必要な職員

（センター長）

第5条 センター長は、本学の副学長又は専任教授をもって充て、学長が任命する。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

（副センター長）

第6条 副センター長は、第4条第3号又は第4号の教員の中から、センター長の推薦に基づき学長が任命する。

2 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 副センター長の任期は、センター長が定める。ただし、第1項の規定に基づき推薦したセンター長の任期を超えることはできない。

（運営委員会等）

第7条 センターに、学則第12条第2項及び組織運営規則第12条第2項の規定に基づく教授会として、次に掲げる委員会を置く。

- (1) 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター運営委員会
- (2) 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター教員選考委員会  
(部門長会議)

第8条 センターに、組織運営規則第12条第3項の規定に基づく代議員会として、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター部門長会議を置く。  
(部門及び部門長)

第9条 センターに第3条に掲げる業務を遂行するために、次の部門を置く。

- (1) 学生 IR 統括部門
- (2) 高大接続部門
- (3) 全学教育部門
- (4) 教育開発・学修支援部門

2 部門に部門長を置く。

3 学生 IR 統括部門、高大接続部門及び教育開発・学修支援部門の部門長は、第4条第3号又は第4号の教員の中から、センター長の推薦に基づき学長が任命する。

4 全学教育部門の部門長は、教養教育主事をもって充て、学長が任命する。

5 部門長は、部門の業務を掌理する。

6 部門長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任の部門長の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究員)

第10条 センターに、研究員を置くことができる。

2 研究員は、第3条各号に規定する業務に関連した研究又は実践歴等を有する者のうちから、第8条に規定する部門長会議の議を経て、センター長が委嘱する。

### 第3章 学生 IR 統括部門

(業務)

第11条 学生 IR 統括部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) センターにおける学生 IR の統括に関すること。
- (2) 学生卒業後の進路状況及び進路先評価等に関する調査研究、企画、調整及び実施並びに本学における人材育成システムの評価に関すること。
- (3) 学生のキャリア形成及び就職支援における組織間の有機的な連携を推進するための企画、調整、実施及び改善に関すること。
- (4) キャリア・サポートルームに関すること。
- (5) その他学生 IR、学生のキャリア形成及び就職支援に関すること。

(学生 IR 統括部会)

第12条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、学生 IR 統括部会を置く。

### 第4章 高大接続部門

(業務)

第13条 高大接続部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 入学者選抜方法の改善に関する学生 IR の推進に関すること。
- (2) 多面的・総合的な評価方法に関する調査研究、企画及び調整に関すること。
- (3) 入学広報及び高大連携に関する業務に関すること。
- (4) 高大接続学習プログラムに関する業務に関すること。
- (5) その他高大接続に関する支援等の業務（他の部門に係る業務を除く。）に関すること。

(アドミッション部会との連携)

第14条 前条に規定する業務を遂行するために、横浜国立大学入学者選抜のための組織及び運営に関する規則（平成16年規則第10号）第2条に規定するアドミッション部会と連携するものとする。

#### 第5章 全学教育部門

(業務)

第15条 全学教育部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学教育（教養教育を含む。次号、第4号及び第5号において同じ。）の在り方、教育理念と教育目標に関する学生 IR の推進に関すること。
- (2) 全学教育のカリキュラム編成、シラバス作成及び履修方法等に関する全学的な総合調整に関すること。
- (3) 全学教育科目の授業の実施及び改善に関すること。
- (4) 全学教育に関する予算に関すること。
- (5) その他全学教育に関する必要な事項に関すること。

(全学教育部会)

第16条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、全学教育部会を置く。

#### 第6章 教育開発・学修支援部門

(業務)

第17条 教育開発・学修支援部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 大学教育及び学生の学修支援の在り方、教育理念と教育目標に関する学生 IR の推進に関すること。
- (2) 授業設計と成績評価（シラバスの改善を含む。）に関する調査研究、企画、調整、実施及び改善に関すること。
- (3) ICT等を活用したアクティブラーニング及びキャリア教育の開発並びに学生の能動的学修方法等に関する調査研究、開発、調整及び改善に関すること。
- (4) 大学教育の質的転換のためのFDに関する調査研究、企画、調整、実施及び評価に関すること。

- (5) 学生の学修行動調査の調査研究、企画、調整、実施及び評価に関すること。
- (6) 全学リテラシー共通テキスト等の教材開発、企画及び調整に関すること。
- (7) その他教育開発及び学生の学修支援に関する必要な事項に関すること。

(教育開発・学修支援部会)

第18条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、教育開発・学修支援部会を置く。

#### 第7章 雑則

(事務)

第19条 センターの事務は、学務部において処理する。

(雑則)

第20条 この規則に定めるもののほか、センターに関する必要な事項は、運営委員会の議を経て、センター長が定める。

#### 附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日に任命されるセンター長の選考は、学長が行い、その任期は、第5条第3項の規定にかかわらず、平成29年3月31日までとする。
- 3 平成29年3月31日までの間、第15条第1号及び第2号に規定する「教養教育」とあるのは「教養教育及び平成29年度開設予定の全学教育科目（各学部が開設予定の高度全学教育科目を含む。）」と読み替えて適用する。
- 4 横浜国立大学大学教育総合センター規則（平成16年規則511号）は、廃止する。

附 則(平成28年3月30日規則第38号)

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成30年4月12日規則第57号)

この規則は、平成30年4月12日から施行する。

○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センターに置く会議の組織運営に関する  
規則

(平成 28 年 3 月 22 日規則第 26 号)

改正 平成 28 年 3 月 30 日規則第 38 号 平成 29 年 3 月 30 日規則第 69 号  
平成 29 年 8 月 1 日規則第 82 号 平成 30 年 3 月 29 日規則第 47 号  
平成 30 年 4 月 12 日規則第 58 号

目次

- 第 1 章 総則(第 1 条)
- 第 2 章 運営委員会(第 2 条―第 6 条)
- 第 3 章 教員選考委員会(第 7 条・第 8 条)
- 第 4 章 部門長会議(第 9 条―第 11 条)
- 第 5 章 学生 IR 統括部会(第 12 条―第 14 条)
- 第 6 章 全学教育部会(第 15 条―第 17 条)
- 第 7 章 教育開発・学修支援部会(第 18 条―第 20 条)
- 第 8 章 雑則(第 21 条―第 23 条)

附則

第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則（以下「規則」という。）第 20 条の規定に基づき、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター（以下「センター」という。）に置く会議の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

第 2 章 運営委員会

(審議事項)

第 2 条 規則第 7 条第 1 号の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの組織に関すること。
- (2) センターの業務計画（センターの予算を含む。）及び管理運営に係る重要事項に関すること。
- (3) その他センターに関する重要事項に関すること。

(組織)

第 3 条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学部長

- (2) 研究院長
  - (3) 教養教育主事
  - (4) 附属図書館長
  - (5) 情報基盤センター長
  - (6) センター長
  - (7) 副センター長
  - (8) センター部門長
  - (9) センター専任教員
  - (10) 学務部長
  - (11) 研究・学術情報部長
  - (12) 学長が指名する者 若干人
- 2 前項第12号の委員の任期は、2年とする。ただし、欠員による委員の任期は、前任者の残任期間とする。
  - 3 前項の委員は、再任されることができる。  
(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、副センター長がその職務を代行する。  
(議事)

第5条 運営委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

- 2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 3 運営委員会における審議の方法について、議長は運営委員会開催に代わるものとして、電磁的記録による審議を行うことができる。

(委員以外の者の出席)

第6条 運営委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

### 第3章 教員選考委員会

(審議事項)

第7条 規則第7条第2号の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター教員選考委員会（以下「教員選考委員会」という。）は、センターの専任教員の選考に関する事項を審議する。

(組織、委員長及び議事等)

第8条 教員選考委員会の組織、委員長、議事及び委員以外の者の出席については、第3条から第6条まで（第5条第3項を除く。）を準用する。この場合において、第3条第



1 項第 10 号から第 12 号の委員は組織から除くものとし、第 5 条第 1 項中「委員の過半数」を「委員の 3 分の 2 以上」と読み替えて適用する。

#### 第 4 章 部門長会議

(審議事項)

第 9 条 規則第 8 条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター部門長会議（以下「部門長会議」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの業務計画及び管理運営に関すること。
- (2) センターの予算に関すること。
- (3) センターの部門及び各部会との連絡調整に関すること。
- (4) その他運営委員会から審議を付託された事項に関すること。

(組織)

第 10 条 部門長会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター部門長
- (4) 学務部長
- (5) センター長が指名する者 若干人

2 前項第 5 号の委員の任期及び再任については、第 3 条第 2 項及び第 3 項を準用する。

(委員長及び議事等)

第 11 条 部門長会議の委員長、議事及び委員以外の者の出席については、第 4 条から第 6 条までを準用する。

#### 第 5 章 学生 IR 統括部会

(審議事項)

第 12 条 規則第 12 条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター学生 IR 統括部会（以下「学生 IR 統括部会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターにおける学生 IR の統括に関すること。
- (2) 学生の進路状況及び進路先評価等に関すること。
- (3) 学生のキャリア形成及び就職支援における全学的な総合調整に関すること。
- (4) キャリア・サポートルームに関すること。
- (5) その他学生 IR、学生のキャリア形成及び就職支援に関すること。

(組織)

第 13 条 学生 IR 統括部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学生 IR 統括部門長
- (2) 学生 IR 統括部門を担当する教員

- (3) 高大接続部門長、全学教育部門長及び教育開発・学修支援部門長
  - (4) 各学部の教授会から選出された教員 各1人
  - (5) 学務部学生支援課長、教育企画課長及び入試課長
  - (6) その他学生 IR 統括部門長が指名した者
- 2 前項第4号及び第6号の委員の任期及び再任については、第3条第2項及び第3項を準用する。

(委員長及び議事等)

第14条 学生 IR 統括部会に委員長を置き、学生 IR 統括部門長をもって充てる。

- 2 委員長は、学生 IR 統括部会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
- 4 学生 IR 統括部会の議事及び委員以外の者の出席については、第5条及び第6条を準用する。

## 第6章 全学教育部会

(審議事項)

第15条 規則第16条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター全学教育部会（以下「全学教育部会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 全学教育（教養教育を含む。第4号及び第5号において同じ。）の全学的な総合調整に関すること。
- (2) 全学教育科目の授業実施計画に関すること。
- (3) 全学教育科目のカリキュラム編成及び改善に関すること。
- (4) 全学教育に関する予算に関すること。
- (5) その他全学教育の実施に関すること。

(組織)

第16条 全学教育部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 全学教育部門長
  - (2) 全学教育部門を担当する専任教員
  - (3) 各学部及び国際社会科学府の教授会から選出された教員 各1人
  - (4) 教育学部学校教育課程保健体育講座から選出された教員 1人
  - (5) 国際戦略推進機構から選出された教員 3人
  - (6) 学務部教育企画課長
  - (7) その他全学教育部門長が指名した者 若干名
- 2 前項第3号から第5号まで及び第7号の委員の任期及び再任については、第3条第2項及び第3項を準用する。

(委員長及び議事等)

第17条 全学教育部会に委員長を置き、全学教育部門長をもって充てる。

- 2 委員長は、全学教育部会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
- 4 全学教育部会の議事及び委員以外の者の出席については、第5条及び第6条を準用する。

## 第7章 教育開発・学修支援部会

### (審議事項)

第18条 規則第18条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会（以下「教育開発・学修支援部会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 授業設計と成績評価（シラバスの改善を含む。）に関すること。
- (2) ICT等を活用したキャリア教育及び学生の能動的学修方法等に関すること。
- (3) ファカルティ・ディベロップメントに関すること。
- (4) 学生の学修行動調査に関すること。
- (5) 全学リテラシー共通テキスト等に関すること。
- (6) その他教育開発及び学生の学修支援に関すること。

### (組織)

第19条 教育開発・学修支援部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育開発・学修支援部門長
  - (2) 教育開発・学修支援部門を担当する専任教員
  - (3) 全学教育部門長
  - (4) 各学部の教授会から選出された教員 各1人
  - (5) 国際戦略推進機構及び情報基盤センターから選出された教員 各1人
  - (6) 学務部教育企画課長
  - (7) 研究・学術情報部図書館情報課長及び情報企画課長
  - (8) その他教育開発・学修支援部門長が指名した者 若干名
- 2 前項第4号、第5号及び第8号の委員の任期及び再任については、第3条第2項及び第3項を準用する。

### (委員長及び議事等)

第20条 教育開発・学修支援部会に委員長を置き、教育開発・学修支援部門長をもって充てる。

- 2 委員長は、教育開発・学修支援部会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
- 4 教育開発・学修支援部会の議事及び委員以外の者の出席については、第5条及び第6条を準用する。

## 第8章 雑則

### (会議の合同開催等)

第21条 第5条、第11条及び前条に規定する運営委員会、部門長会議及び教育開発・学修支援部会は、組織運営規則第18条第1項に規定する横浜国立大学大学院教育強化推進センターとの事前の協議を経て、合同で開催することができる。この場合において、合同で開催される委員会等の議事については、この規則及び横浜国立大学大学院教育強化推進センターに置く会議の組織運営に関する規則を適用し、議長については、それぞれの委員長の互選により置くものとする。

(事務)

第22条 センターに置く会議の事務は、学務部において処理する。

(雑則)

第23条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

#### 附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成29年3月31日までの間、第15条第1号及び第2号に規定する「教養教育」とあるのは「教養教育及び平成29年度開設予定の全学教育科目（各学部が開設予定の高度全学教育科目を含む。）」と読み替えて適用する。
- 3 平成29年3月31日までの間、第13条第1項第4号、第16条第1項第3号及び第19条第1項第4号に規定する「各学部」とあるのは「各学部（都市科学部（仮称）設置準備委員会を含む。）」と読み替えて適用する。
- 4 横浜国立大学大学教育総合センターに置く会議の組織運営に関する規則（平成16年規則第512号）は、廃止する。

#### 附 則(平成28年3月30日規則第38号)

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

#### 附 則(平成29年3月30日規則第69号)

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

#### 附 則(平成29年8月1日規則第82号)

- 1 この規則は、平成29年8月1日から施行する。
- 2 当分の間、第15条第3号に規定する「全学教育科目」とあるのは「全学教育科目及び平成28年度入学者まで適用の教養教育科目」と読み替えて適用する。

#### 附 則(平成30年3月29日規則第47号)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

#### 附 則(平成30年4月12日規則第58号)

この規則は、平成30年4月12日から施行する。

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人横浜国立大学

## (2) 大学名

横浜国立大学大学院

## (3) 大学の位置

〒240-8501

神奈川県横浜市常盤台79番5号

(神奈川県横浜市常盤台79番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(ハセベ ユウイチ) 長谷部 勇一 (平成27年4月)		
学府長	(ワタナベ マサヨシ) 渡邊 正義 (平成30年4月)		
専攻長 化学・生命系 理工学専攻 (D)	(ヨシタケ ヒデアキ) 吉武 英昭 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
大学院理工学府 化学・生命系理工学専攻 (博士課程後期) 博士(理学) 博士(工学)	理学関係  工学関係	3 年	12 人	36 人	理工学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員 超過率	備考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員		12人 ( - ) [ - ]	人	人	( ) [ ]	人	人	0.41 倍	
志願者数		5 ( 1 ) [ 2 ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]		
受験者数		5 ( 1 ) [ 2 ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]		
合格者数		5 ( 1 ) [ 2 ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]		
B 入学者数		5 ( 1 ) [ 2 ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]		
入学定員超過率 B/A		0.41							

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ ( )内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
- ・ [ ]内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	5 [ 2 ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	秋季入学定員は若干名
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次			/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
計	5 [ 2 ] ( - )	[ ] ( )			[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	5 人	0 人	平成30年度	人	人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
平成32年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
合 計	5 人	0 人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

・各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要ありません。)

・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入して

・在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。

・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するため準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。

・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学

・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{5} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。



## 2 授業科目の概要

<横浜国立大学理工学府 化学・生命系理工学専攻（博士課程後期）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	有機金属化学	1-2-3①~②		2			1					
	触媒工学	1-2-3①~②		2			1					
	触媒設計学	1-2-3④~⑤		2		1						
	光機能材料	1-2-3①~②		2			1					
	電気化学デバイス特論	1-2-3④~⑤		2		1						
	機能高分子化学	1-2-3①~②		2		1						
	機能性溶液論	1-2-3①~②		2				1				
	有機電子移動化学特論	1-2-3④~⑤		2		1						
	セラミックス材料設計	1-2-3⑤		1		1						
	粉体材料プロセス工学特論	1-2-3⑤		1			1					
	化学TED特別演習	1-2-3①~②・④~⑤		3		7	11	1				
	化学TED教育研修	1-2-3①~②・④~⑤		1		7	11	1				
	化学TED学外研修	1-2-3①~②・④~⑤		1		7	11	1				
	化学TED特別研究	1-2-3①~②・④~⑤		2		7	11	1				
	化学TED国際インターンシップ	1-2-3①・②・③・④・⑤・⑥		1		7	11	1				
	光反応と分光学	1-2-3④~⑤		2			1					
	大きな系のための量子論	1-2-3①~②		2			1					
	アストロバイオロジー特論	1-2-3④~⑤		2			1					
	生命機能構造解析学	1-2-3④~⑤		2		1						
	錯体化学特論	1-2-3①~②		2		1						
	光物理化学特論	1-2-3①~②		2			1					
	構造生命科学特論	1-2-3④~⑤		2			1					
	機能有機分子設計	1-2-3①~②		2			1					
	化学PSD特別演習	1-2-3①~②・④~⑤		3		7	11	1				
	化学PSD教育研修	1-2-3①~②・④~⑤		1		7	11	1				
	化学PSD学外研修	1-2-3①~②・④~⑤		1		7	11	1				
	化学PSD特別研究	1-2-3①~②・④~⑤		2		7	11	1				
	化学PSD国際インターンシップ	1-2-3①・②・③・④・⑤・⑥		1		7	11	1				
	工業物質工学	1-2-3④~⑤		2		1						
	材料電気化学	1-2-3①~②		2			1					
	エネルギー化学特論	1-2-3④~⑤		2		1	1					
	エネルギー機器材料学	1-2-3④~⑤		2		1						
	エネルギーバリューチェーンシステム特論	1-2-3①~②		2								兼1
	エネルギー変換プロセス	1-2-3①~②		2								兼1
	エネルギー素材科学	1-2-3④~⑤		2								兼1
	物質環境エネルギー工学	1-2-3①~②		2		1	1					
	反応装置工学	1-2-3①~②		2		1						
	化学エネルギー工学	1-2-3①~②		2				1				
	分離工学特論	1-2-3④~⑤		2			1					
	生体高分子工学	1-2-3①~②		2		1						
	医工学特論	1-2-3④~⑤		2			1					
	環境化学反応論	1-2-3①~②		2		1						
	高次生命機能科学	1-2-3④~⑤		2		1						
	発生工学特論	1-2-3④~⑤		2			1					

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	有機金属化学	1-2-3①~②		2			1					
	触媒工学	1-2-3①~②		2			1					
	触媒設計学 (未開講)	1-2-3④~⑤		2		1						
	光機能材料	1-2-3①~②		2			1					
	電気化学デバイス特論 (未開講)	1-2-3④~⑤		2		1						
	機能高分子化学 (未開講)	1-2-3①~②		2		1						
	機能性溶液論	1-2-3①~②		2				1				
	有機電子移動化学特論	1-2-3④~⑤		2		1						
	セラミックス材料設計	1-2-3⑤		1		1						
	粉体材料プロセス工学特論	1-2-3⑤		1			1					
	化学TED特別演習	1-2-3①~②・④~⑤		3		8	12	1				
	化学TED教育研修	1-2-3①~②・④~⑤		1		8	12	1				
	化学TED学外研修	1-2-3①~②・④~⑤		1		8	12	1				
	化学TED特別研究	1-2-3①~②・④~⑤		2		8	12	1				
	化学TED国際インターンシップ	1-2-3①・②・③・④・⑤・⑥		1		8	12	1				
	光反応と分光学 (未開講)	1-2-3④~⑤		2			1					
	大きな系のための量子論	1-2-3①~②		2			1					
	アストロバイオロジー特論	1-2-3④~⑤		2			1					
	生命機能構造解析学 (未開講)	1-2-3④~⑤		2		1						
	錯体化学特論 (未開講)	1-2-3①~②		2		1						
	光物理化学特論	1-2-3①~②		2			1					
	構造生命科学特論	1-2-3④~⑤		2			1					
	機能有機分子設計 (未開講)	1-2-3①~②		2			1					
	有機合成化学特論 (未開講)	1-2-3①~②		2			1					
	固体化学特論 (未開講)	1-2-3④~⑤		2		1						
	化学PSD特別演習	1-2-3①~②・④~⑤		3		8	12	1				
	化学PSD教育研修	1-2-3①~②・④~⑤		1		8	12	1				
	化学PSD学外研修	1-2-3①~②・④~⑤		1		8	12	1				
	化学PSD特別研究	1-2-3①~②・④~⑤		2		8	12	1				
	化学PSD国際インターンシップ	1-2-3①・②・③・④・⑤・⑥		1		8	12	1				
	工業物質工学	1-2-3④~⑤		2		1						
	材料電気化学 (未開講)	1-2-3①~②		2			1					
	エネルギー化学特論	1-2-3④~⑤		2		1	1					
	エネルギー機器材料学	1-2-3④~⑤		2		1						
	エネルギーバリューチェーンシステム特論 (未開講)	1-2-3①~②		2								兼1
	エネルギー変換プロセス (未開講)	1-2-3①~②		2								兼1
	エネルギー素材科学 (未開講)	1-2-3④~⑤		2								兼1
	物質環境エネルギー工学 (未開講)	1-2-3①~②		2		1	1					
	反応装置工学 (未開講)	1-2-3①~②		2		1						
	化学エネルギー工学	1-2-3①~②		2				1				
	分離工学特論 (未開講)	1-2-3④~⑤		2			1					
	生体高分子工学	1-2-3①~②		2		1						
	医工学特論 (未開講)	1-2-3④~⑤		2			1					
	環境化学反応論 (未開講)	1-2-3①~②		2		1						
	高次生命機能科学	1-2-3④~⑤		2		1						
	発生工学特論	1-2-3④~⑤		2			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
	機能性材料科学特論	1-2-3④ ~⑤		2			1				
	細胞組織工学特論	1-2-3① ~②		2			1				
	化学応用・バイオ特別演習	1-2-3① ~②・④ ~⑤		3		8	7	1			
	化学応用・バイオ教育研修	1-2-3① ~②・④ ~⑤		1		8	7	1			兼3
	化学応用・バイオ学外研修	1-2-3① ~②・④ ~⑤		1		8	7	1			兼3
	化学応用・バイオ特別研究	1-2-3① ~②・④ ~⑤		2		8	7	1			兼3
	化学応用・バイオTED国際インターンシップ	1-2-3①・ ②・③・ ④・⑤・⑥		1		8	7	1			兼3
	バイオ創生・計測工学実習S	1-2-3① ~②		4		3	3				
	バイオ創生・計測工学実習F	1-2-3④ ~⑤		4		3	3				
	イノベーション化学プロセス実習S	1-2-3① ~②		4		2	2	1			
	イノベーション化学プロセス実習F	1-2-3④ ~⑤		4		2	2	1			
	エネルギー先端創生実習S	1-2-3① ~②		4		4	2				
	エネルギー先端創生実習F	1-2-3④ ~⑤		4		4	2				
	エレクトロニクス実装実習S	1-2-3① ~②		4		5					兼2
	エレクトロニクス実装実習F	1-2-3④ ~⑤		4		5					兼2
	非線形構造解析	1-2① ~②		2							兼1
	半導体デバイス特論	1-2-3④ ~⑤		2							兼1
	化学・生命系PED国際インターンシップ	1-2-3①・ ②・③・ ④・⑤・⑥		1		8	7	1			兼3

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
	機能性材料科学特論 (未開講)	1-2-3④ ~⑤		2			1				
	細胞組織工学特論 (未開講)	1-2-3① ~②		2			1				
	化学応用・バイオ特別演習	1-2-3① ~②・④ ~⑤		3			9	6	1		
	化学応用・バイオ教育研修	1-2-3① ~②・④ ~⑤		1			9	6	1		兼3
	化学応用・バイオ学外研修	1-2-3① ~②・④ ~⑤		1			9	6	1		兼3
	化学応用・バイオ特別研究	1-2-3① ~②・④ ~⑤		2			9	6	1		兼3
	化学応用・バイオTED国際インターンシップ	1-2-3①・ ②・③・ ④・⑤・⑥		1			9	6	1		兼3
	バイオ創生・計測工学実習S	1-2-3① ~②		4			4	2			
	バイオ創生・計測工学実習F	1-2-3④ ~⑤		4			4	2			
	イノベーション化学プロセス実習S	1-2-3① ~②		4			2	2	1		
	イノベーション化学プロセス実習F	1-2-3④ ~⑤		4			2	2	1		
	エネルギー先端創生実習S	1-2-3① ~②		4			4	2			
	エネルギー先端創生実習F	1-2-3④ ~⑤		4			4	2			
	エレクトロニクス実装実習S	1-2-3① ~②		4			5				兼2
	エレクトロニクス実装実習F	1-2-3④ ~⑤		4			5				兼2
	非線形構造解析 (未開講)	1-2① ~②		2							兼1
	半導体デバイス特論	1-2-3④ ~⑤		2							兼1
	化学・生命系PED国際インターンシップ	1-2-3①・ ②・③・ ④・⑤・⑥		1			9	6	1		兼3

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。  
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。  
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。  
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。  
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

・カリキュラム充実のため「有機合成化学特論」、「固体化学特論」を追加。
・科目の充実のため専任教員を新規採用し、「化学TED特別演習」、「化学TED教育研修」、「化学TED学外研修」、「化学TED特別研究」、「化学TED国際インターンシップ」、「化学PSD特別演習」、「化学PSD教育研修」、「化学PSD学外研修」、「化学PSD特別研究」、「化学PSD国際インターンシップ」の専任教員の配置を「教授1増」、「准教授1増」とした。
・専任教員の昇任により、「医工学特論」、「細胞組織工学特論」、「化学応用・バイオ特別演習」、「化学応用・バイオ教育研修」、「化学応用・バイオ学外研修」、「化学応用・バイオ特別研究」、「化学応用・バイオTED国際インターンシップ」、「バイオ創生・計測工学実習S」、「バイオ創生・計測工学実習F」、「化学・生命系PED国際インターンシップ」の専任教員の配置を「教授1増」、「准教授1減」とした。

- (注) ・ 変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。  
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
0 科目	62 科目	0 科目	62 科目	0 科目	64 科目	0 科目	64 科目	
				[ ]	[ 2 ]	[ ]	[ 2 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	触媒設計学	2	1・2・3	専門	選択	隔年年度開講のため
2	電気化学デバイス特論	2	1・2・3	専門	選択	隔年年度開講のため
3	機能高分子化学	2	1・2・3	専門	選択	隔年年度開講のため
4	光反応と分光学	2	1・2・3	専門	選択	隔年年度開講のため
5	生命機能構造解析学	2	1・2・3	専門	選択	隔年年度開講のため
6	錯体化学特論	2	1・2・3	専門	選択	隔年年度開講のため
7	機能有機分子設計	2	1・2・3	専門	選択	隔年年度開講のため
8	有機合成化学特論	2	1・2・3	専門	選択	隔年年度開講のため
9	固体化学特論	2	1・2・3	専門	選択	隔年年度開講のため
10	材料電気化学	2	1・2・3	専門	選択	隔年年度開講のため
11	エネルギーバリューチェーンシステム特論	2	1・2・3	専門	選択	隔年年度開講のため
12	エネルギー変換プロセス	2	1・2・3	専門	選択	隔年年度開講のため
13	エネルギー素材科学	2	1・2・3	専門	選択	隔年年度開講のため
14	物質環境エネルギー工学	2	1・2・3	専門	選択	隔年年度開講のため
15	反応装置工学	2	1・2・3	専門	選択	隔年年度開講のため
16	分離工学特論	2	1・2・3	専門	選択	隔年年度開講のため
17	医工学特論	2	1・2・3	専門	選択	隔年年度開講のため
18	環境化学反応論	2	1・2・3	専門	選択	隔年年度開講のため
19	機能性材料学特論	2	1・2・3	専門	選択	隔年年度開講のため
20	細胞組織工学特論	2	1・2・3	専門	選択	隔年年度開講のため
21	非線形構造解析	2	1・2	専門	選択	隔年年度開講のため

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。  
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

該当なし

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

隔年で開講する科目であるため、学生の履修に影響はない。  
履修案内、時間割表に明示するとともに、掲示板にて周知した。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{21}{62} = \boxed{33.87} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。  
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	335,097㎡	— ㎡	— ㎡	335,097 ㎡				
	運動場用地	89,916 ㎡	— ㎡	— ㎡	89,916 ㎡				
	小 計	425,013 ㎡	— ㎡	— ㎡	425,013 ㎡				
	そ の 他	237,446 ㎡	— ㎡	— ㎡	237,446 ㎡				
	合 計	662,459 ㎡	— ㎡	— ㎡	662,459 ㎡				
(2) 校舎	専 用	175,694 ㎡	— ㎡	— ㎡	175,694 ㎡				
	( ㎡)	( ㎡)	( ㎡)	( ㎡)	( ㎡)				
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	113室	153室	770室	31室 (補助職員 18人)	14室 (補助職員 2人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	理工学府			139 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	学府単位での特定不能なため、大学全体の数	
		〔うち外国書〕冊	〔うち外国書〕種						〔うち外国書〕
	理工学府	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)		
	計	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)		
(6) 図書館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	15,336 ㎡		1,472 席		1,346,389 冊				
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	3,882 ㎡		野球場		テニスコートほか				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費(運営費交付金)による
		教員1人当たり研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

#### 4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	横浜国立大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
<b>経済学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番3号	
経済学科	4	238	3年次15	476	学士(経済学)	1.07	平成29年度		
経済システム学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
国際経済学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
<b>経営学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
経営学科	4	287	-	574	学士(経営学)	1.04	平成29年度		
経営学科(昼間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	昭和42年度		平成29年学生募集停止
経営学科(夜間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
会計・情報学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
経営システム科学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
国際経営学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
<b>都市科学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番6号	
都市社会共生学科	4	74	-	148	学士(学術)	0.87	平成29年度		
建築学科	4	70	2年次2	142	学士(工学)	0.96	平成29年度		
都市基盤学科	4	48	3年次5	96	学士(工学)	1.01	平成29年度		
環境リスク共生学科	4	56	-	112	学士(環境学)	1.04	平成29年度		
<b>教育学研究科</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
高度教職実践専攻 (専門職学位課程)	2	15	-	30	教職修士(専門職)	1.03	平成29年度		
<b>理工学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程前期)	2	109	-	109	修士(工学)	1.03	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程前期)	2	107	-	107	修士(理学、工学)	1.01	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程前期)	2	146	-	146	修士(理学、工学)	1.04	平成30年度		
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程後期)	3	11	-	11	博士(工学)	0.54	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(理学、工学)	0.41	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程後期)	3	18	-	18	博士(理学、工学)	1.22	平成30年度		
<b>環境情報学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番7号	
人工環境専攻(博士課程前期)	2	75	-	75	修士(環境学、工学、学術)	0.90	平成30年度		
自然環境専攻(博士課程前期)	2	33	-	33	修士(環境学、理学、学術)	0.90	平成30年度		
情報環境専攻(博士課程前期)	2	65	-	65	修士(情報学、理学、学術)	0.98	平成30年度		

人工環境専攻(博士課程後期)	3	15	-	15	博士(環境学、工学、学術)	0.60	平成30年度	
自然環境専攻(博士課程後期)	3	6	-	6	博士(環境学、理学、学術)	0.50	平成30年度	
情報環境専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(情報学、理学、学術)	0.91	平成30年度	
環境生命学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、情報科学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リカマネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境生命学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、情報科学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リカマネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止

大学の名称	横浜国立大学							備考
-------	--------	--	--	--	--	--	--	----

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
教育学部 学校教育課程	4年	230人	-	920人	学士(教育)	1.02倍	平成10年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
教育人間科学部 人間文化課程	4年	-	-	-	学士(教養)	-	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	平成29年学生募集停止
理工学部 機械・材料・海洋系学科	4年	185人	-	740人	学士(工学)	1.02倍	平成29年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
化学・生命系学科	4年	187人	-	748人	学士(理学、工学)	1.02倍	平成23年度		
数物・電子情報系学科	4年	287人	-	1148人	学士(理学、工学)	1.02倍	平成23年度		
建築都市・環境系学科	4年	-	-	-	学士(理学、工学)	-	平成23年度		平成29年学生募集停止
工学部 生産工学科	4年	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	平成23年学生募集停止
建設学科	4年	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度		平成23年学生募集停止
電子情報工学科	4年	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度		平成23年学生募集停止
知能物理工学科	4年	-	-	-	学士(工学)	-	平成10年度		平成23年学生募集停止
教育学研究科 教育実践専攻(修士課程)	2年	85人	-	170人	修士(教育学)	1.12倍	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
国際社会科学府 経済学専攻(博士課程前期)	2年	38人	-	76人	修士(経済学)	0.90倍	平成25年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
経営学専攻(博士課程前期)	2年	50人	-	100人	修士(経営学)	1.03倍	平成25年度		
国際経済法学専攻(博士課程前期)	2年	25人	-	50人	修士(法学、国際)	1.04倍	平成25年度		
経済学専攻(博士課程後期)	3年	10人	-	30人	博士(経済学、学術)	0.40倍	平成25年度		
経営学専攻(博士課程後期)	3年	12人	-	36人	博士(経営学、学術)	0.44倍	平成25年度		
国際経済法学専攻(博士課程後期)	3年	8人	-	24人	博士(法学、国際)	0.49倍	平成25年度		

法曹実務専攻（専門職学位課程）	3	25	-	75	法務博士（専門職）	0.41	平成25年度		
<b>国際社会科学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
グローバル経済専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経済学、学術）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
企業システム専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経営学、学術）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
国際経済法学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（国際経済法）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
<b>工学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
機能発現工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
機能発現工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
<b>都市イノベーション学部</b>									
建築都市文化専攻（博士課程前期）	2	68	-	136	修士（工学、学術）	0.93	平成23年度		
都市地域社会専攻（博士課程前期）	2	37	-	74	修士（工学、学術）	0.98	平成23年度		
都市イノベーション専攻（博士課程後期）	3	12	-	36	博士（工学、学術）	0.83	平成23年度		

- （注）・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<横浜国立大学理工学部 化学・生命系理工学専攻（博士課程後期）>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任（予定）年月>
専	教授	アトベ マヒト 跡部 真人  <平成30年4月>
		有機電子移動化学特論 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	教授	オオヤマ トシユキ 大山 俊幸  <平成30年4月>
		エレクトロニクス実装実習S エレクトロニクス実装実習F 機能高分子化学 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	教授	オカザキ シンジ 岡崎 慎司  <平成30年4月>
		工業物質工学 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ バイオ創生・計測工学実習S バイオ創生・計測工学実習F エネルギー先端創生実習S エネルギー先端創生実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	教授	オクヤマ クニト 奥山 邦人  <平成30年4月>
		エレクトロニクス実装実習S エレクトロニクス実装実習F 物質環境エネルギー工学 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ イノベーション化学プロセス実習S イノベーション化学プロセス実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	教授	クボタ ヨシヒロ 窪田 好浩  <平成30年4月>
		触媒設計学 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任（予定）年月>
専	教授	アトベ マヒト 跡部 真人  <平成30年4月>
		有機電子移動化学特論 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	教授	オオヤマ トシユキ 大山 俊幸  <平成30年4月>
		エレクトロニクス実装実習S エレクトロニクス実装実習F 機能高分子化学 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	教授	オカザキ シンジ 岡崎 慎司  <平成30年4月>
		工業物質工学 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ バイオ創生・計測工学実習S バイオ創生・計測工学実習F エネルギー先端創生実習S エネルギー先端創生実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	教授	オクヤマ クニト 奥山 邦人  <平成30年4月>
		エレクトロニクス実装実習S エレクトロニクス実装実習F 物質環境エネルギー工学 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ イノベーション化学プロセス実習S イノベーション化学プロセス実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	教授	クボタ ヨシヒロ 窪田 好浩  <平成30年4月>
		触媒設計学 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修



		化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	教授	クリハラ ヤスユキ 栗原 靖之 〈平成30年4月〉
		高次生命機能科学 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ バイオ創生・計測工学実習S バイオ創生・計測工学実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	教授	コジマ チョウジロウ 児嶋 長次郎 〈平成30年4月〉
		化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 生命機能構造解析学 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	教授	タカハシ コウジ 高橋 宏治 〈平成30年4月〉
		エレクトロニクス実装実習S エレクトロニクス実装実習F エネルギー機器材料学 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ エネルギー先端創生実習S エネルギー先端創生実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	教授	タケダ ミノル 武田 穰 〈平成30年4月〉
		生体高分子工学 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ バイオ創生・計測工学実習S バイオ創生・計測工学実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	教授	タタミ ジュンイチ 多々見 純一 〈平成30年4月〉
		セラミックス材料設計 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	教授	ドッコ カオル 獨古 薫 〈平成30年4月〉
		電気化学デバイス特論 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
		ハブカ ヒトシ 羽深 等 〈平成30年4月〉
		エレクトロニクス実装実習S

		化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	教授	クリハラ ヤスユキ 栗原 靖之 〈平成30年4月〉
		高次生命機能科学 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ バイオ創生・計測工学実習S バイオ創生・計測工学実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	教授	コジマ チョウジロウ 児嶋 長次郎 〈平成30年4月〉
		化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 生命機能構造解析学 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	教授	タカハシ コウジ 高橋 宏治 〈平成30年4月〉
		エレクトロニクス実装実習S エレクトロニクス実装実習F エネルギー機器材料学 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ エネルギー先端創生実習S エネルギー先端創生実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	教授	タケダ ミノル 武田 穰 〈平成30年4月〉
		生体高分子工学 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ バイオ創生・計測工学実習S バイオ創生・計測工学実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	教授	タタミ ジュンイチ 多々見 純一 〈平成30年4月〉
		セラミックス材料設計 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	教授	ドッコ カオル 獨古 薫 〈平成30年4月〉
		電気化学デバイス特論 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
		ハブカ ヒトシ 羽深 等 〈平成30年4月〉
		エレクトロニクス実装実習S

専	教授	エレクトロニクス実装実習F 反応装置工学 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ イノベーション化学プロセス実習S イノベーション化学プロセス実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	教授	ミツシマ シゲノリ 光島 重徳 〈平成30年4月〉
		エネルギー化学特論 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ エネルギー先端創生実習S エネルギー先端創生実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	教授	ヤマグチ ヨシタカ 山口 佳隆 〈平成30年4月〉
		化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 錯体化学特論 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	教授	ヨシタケ ヒデアキ 吉武 英昭 〈平成30年4月〉
		エレクトロニクス実装実習S エレクトロニクス実装実習F 環境化学反応論 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ エネルギー先端創生実習S エネルギー先端創生実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	准教授	イイジマ モトユキ 飯島 志行 〈平成30年4月〉
		粉体材料プロセス工学特論 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	イナガキ サトシ 稲垣 怜史 〈平成30年4月〉

専	教授	エレクトロニクス実装実習F 反応装置工学 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ イノベーション化学プロセス実習S イノベーション化学プロセス実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	教授	ミツシマ シゲノリ 光島 重徳 〈平成30年4月〉
		エネルギー化学特論 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ エネルギー先端創生実習S エネルギー先端創生実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	教授	ヤマグチ ヨシタカ 山口 佳隆 〈平成30年4月〉
		化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 錯体化学特論 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	教授	ヨシタケ ヒデアキ 吉武 英昭 〈平成30年4月〉
		エレクトロニクス実装実習S エレクトロニクス実装実習F 環境化学反応論 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ エネルギー先端創生実習S エネルギー先端創生実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	准教授	イイジマ モトユキ 飯島 志行 〈平成30年4月〉
		粉体材料プロセス工学特論 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	イトウ スグル 伊藤 傑 〈平成30年4月〉
		有機合成化学特論 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	イナガキ サトシ 稲垣 怜史 〈平成30年4月〉

専	准教授	触媒工学 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	ウエノ カズヒデ 上野 和英 〈平成30年4月〉
		化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	ウブカタ タカシ 生方 俊 〈平成30年4月〉
		光機能材料 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	カナイ トシミツ 金井 俊光 〈平成30年4月〉
		機能性材料学特論 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ イノベーション化学プロセス実習S イノベーション化学プロセス実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	准教授	カワムラ イズル 川村 出 〈平成30年4月〉
		化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 構造生命科学特論 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	キクチ (ヤマダ) アツサ 菊地 (山田) あづさ 〈平成30年4月〉
		化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 光物理化学特論 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	クロダ ヨシユキ 黒田 義之 〈平成30年4月〉
		エネルギー化学特論 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ エネルギー先端創生実習S エネルギー先端創生実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
		ケブカワ (モチヅキ) ヨウコ 癸生川 (望月) 陽子 〈平成30年4月〉
		化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修

専	准教授	触媒工学 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	ウエノ カズヒデ 上野 和英 〈平成30年4月〉
		化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	ウブカタ タカシ 生方 俊 〈平成30年4月〉
		光機能材料 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	カナイ トシミツ 金井 俊光 〈平成30年4月〉
		機能性材料学特論 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ イノベーション化学プロセス実習S イノベーション化学プロセス実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	准教授	カワムラ イズル 川村 出 〈平成30年4月〉
		化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 構造生命科学特論 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	キクチ (ヤマダ) アツサ 菊地 (山田) あづさ 〈平成30年4月〉
		化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 光物理化学特論 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	クロダ ヨシユキ 黒田 義之 〈平成30年4月〉
		エネルギー化学特論 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ エネルギー先端創生実習S エネルギー先端創生実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
		ケブカワ (モチヅキ) ヨウコ 癸生川 (望月) 陽子 〈平成30年4月〉
		化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修

専	准教授	化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ アストロバイオロジー特論 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	ゴトウ ヒロアキ 五東 弘昭 〈平成30年4月〉
		化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 機能有機分子設計 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	サトウ コウタ 佐藤 浩太 〈平成30年4月〉
		化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 大きな系のための量子論 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	スズキ アツシ 鈴木 敦 〈平成30年4月〉
		発生工学特論 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ バイオ創生・計測工学実習S バイオ創生・計測工学実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	准教授	セキ カネカズ 関 金一 〈平成30年4月〉
		化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 光反応と分光 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	ナカムラ カズホ 中村 一穂 〈平成30年4月〉
		分離工学特論 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ バイオ創生・計測工学実習S バイオ創生・計測工学実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	准教授	フクダ ジュンジ 福田 淳二 〈平成30年4月〉
		医工学特論 細胞組織工学特論 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ バイオ創生・計測工学実習S バイオ創生・計測工学実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	准教授	マツザワ コウイチ 松澤 幸一 〈平成30年4月〉
		材料電気化学 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修

専	准教授	化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ アストロバイオロジー特論 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	ゴトウ ヒロアキ 五東 弘昭 〈平成30年4月〉
		化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 機能有機分子設計 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	サトウ コウタ 佐藤 浩太 〈平成30年4月〉
		化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 大きな系のための量子論 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	スズキ アツシ 鈴木 敦 〈平成30年4月〉
		発生工学特論 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ バイオ創生・計測工学実習S バイオ創生・計測工学実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	准教授	セキ カネカズ 関 金一 〈平成30年4月〉
		化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 光反応と分光 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	ナカムラ カズホ 中村 一穂 〈平成30年4月〉
		分離工学特論 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ バイオ創生・計測工学実習S バイオ創生・計測工学実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	教授	フクダ ジュンジ 福田 淳二 〈平成30年4月〉
		医工学特論 細胞組織工学特論 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ バイオ創生・計測工学実習S バイオ創生・計測工学実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	准教授	マツザワ コウイチ 松澤 幸一 〈平成30年4月〉
		材料電気化学 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修

		化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ エネルギー先端創生実習S エネルギー先端創生実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	准教授	ミナト マコト 湊 盟 〈平成30年4月〉
		有機金属化学 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	モリ ショウジ 森 昌司 〈平成30年4月〉
		物質環境エネルギー工学 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ イノベーション化学プロセス実習S イノベーション化学プロセス実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	講師	アイハラ マサヒコ 相原 雅彦 〈平成30年4月〉
		化学エネルギー工学 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ イノベーション化学プロセス実習S イノベーション化学プロセス実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	講師	サコムラ マサル 迫村 勝 〈平成30年4月〉
		機能性溶液論 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
兼任	教授	ウ キョウ (ウキョウ ツヨシ) 于 強 (右京 強) 〈平成30年4月〉
		エレクトロニクス実装実習S エレクトロニクス実装実習F 非線形構造解析
兼任	教授	ハネジ ノブオ 羽路 伸夫 〈平成30年4月〉
		エレクトロニクス実装実習S エレクトロニクス実装実習F 半導体デバイス特論
兼任	講師	ムギクラ ヨシヒロ 麦倉 良啓 〈平成30年4月〉
		エネルギーバリューチェーンシステム特論 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ 化学・生命系PED国際インターンシップ
兼任	講師	ヤマモト トオル 山本 融 〈平成30年4月〉
		エネルギー素材科学 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ 化学・生命系PED国際インターンシップ

		化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ エネルギー先端創生実習S エネルギー先端創生実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	准教授	ミナト マコト 湊 盟 〈平成30年4月〉
		有機金属化学 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
専	准教授	モリ ショウジ 森 昌司 〈平成30年4月〉
		物質環境エネルギー工学 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ イノベーション化学プロセス実習S イノベーション化学プロセス実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	講師	アイハラ マサヒコ 相原 雅彦 〈平成30年4月〉
		化学エネルギー工学 化学応用・バイオ特別演習 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ イノベーション化学プロセス実習S イノベーション化学プロセス実習F 化学・生命系PED国際インターンシップ
専	講師	サコムラ マサル 迫村 勝 〈平成30年4月〉
		機能性溶液論 化学TED特別演習 化学TED教育研修 化学TED学外研修 化学TED特別研究 化学TED国際インターンシップ 化学PSD特別演習 化学PSD教育研修 化学PSD学外研修 化学PSD特別研究 化学PSD国際インターンシップ
兼任	教授	ウ キョウ (ウキョウ ツヨシ) 于 強 (右京 強) 〈平成30年4月〉
		エレクトロニクス実装実習S エレクトロニクス実装実習F 非線形構造解析
兼任	教授	ハネジ ノブオ 羽路 伸夫 〈平成30年4月〉
		エレクトロニクス実装実習S エレクトロニクス実装実習F 半導体デバイス特論
兼任	講師	ムギクラ ヨシヒロ 麦倉 良啓 〈平成30年4月〉
		エネルギーバリューチェーンシステム特論 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ 化学・生命系PED国際インターンシップ
兼任	講師	ヤマモト トオル 山本 融 〈平成30年4月〉
		エネルギー素材科学 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ 化学・生命系PED国際インターンシップ

兼任	講師	モリタ ヒロシ 森田 寛 〈平成30年4月〉
		エネルギー変換プロセス 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ 化学・生命系PED国際インターンシップ

兼任	講師	モリタ ヒロシ 森田 寛 〈平成30年4月〉
		エネルギー変換プロセス 化学応用・バイオ教育研修 化学応用・バイオ学外研修 化学応用・バイオ特別研究 化学応用・バイオTED国際インターンシップ 化学・生命系PED国際インターンシップ

- (注)
- 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。  
その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
  - 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
  - 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
  - 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- 平成30年1月：福田淳二准教授、教授に昇任（平成29年12月教員審査済み）。
- 平成30年4月：藪内直明教授就任（平成30年2月教員審査済み）。
- 平成30年4月：伊藤傑准教授就任（平成29年12月教員審査済み）。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- 認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。
  - 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
  - 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
4	3	3
名	名	名

- (注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)	教授	准教授	講師	助教	計(C)
15	18	2	4	39	17	18	2	4	41	17	18	2	4	41
(17)	(18)	(2)	(4)	(41)						[ 2 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
35	0	4			37	0	4			37	0	4		
(37)	(0)	(4)								[ 2 ]	[ 0 ]	[ 0 ]		

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。
- 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
  - 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
  - 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{41}{39} = \boxed{105.12} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{41} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1				該当なし	① ③		
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1				該当なし	① ③		
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)			
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D) + (F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{0}{39} = 0 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。



(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1					① ③		
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および ( ) 書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>該当なし</p> </div>
--

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時  (平成29年8月)		<div style="border: 2px solid black; background-color: yellow; padding: 10px; display: inline-block;">                     該当なし                 </div>	
設置計画履行状況 調 査 時 (平成31年2月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (平成32年2月)			

(注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。

・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。

・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。

・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

## 7 その他全般的事項

<大学院理工学府 化学・生命系理工学専攻（博士課程後期）>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
変更なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

#### ① 実施体制

##### a 委員会の設置状況

横浜国立大学では、平成28年度に発足した高大接続・全学教育推進センターが中心となって教員の資質の維持向上、FD活動を行っている。理工学府からセンター教育開発・学修支援部会委員を1名選出し、学部内でのFD活動等の連絡、調整、実施を主に担当する。

○別添① 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則

○別添② 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センターに置く会議の組織運営に関する規則

##### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

定例の高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会は月1回開催。（参加教員14名）

##### c 委員会の審議事項等

学生IR、高大接続、全学教育、および教育開発・学修支援に関する事項。

#### ② 実施状況

##### a 実施内容

高大接続・全学教育推進センターが行う活動に学府として協力、実施する。

各種研修会(TA研修会等)

・FDフォーラム開催

・公開授業開催

・ベストティーチャー表彰

・シラバス改善(ルーブリックの利用等)

・学生調査

##### b 実施方法

・各内容に即し、全学でコーディネートして実施する。

##### c 開催状況(教員の参加状況含む)

・今年度4月時点ではまだ特別な行事の開催はないが、今後開催される予定。

昨年度は、理工学府担当(予定)教員を集めた集会においてセミナーを2回(7月と12月)開催した。

##### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

・高大接続・全学教育推進センターの指針に基づきルーブリックを含むシラバスを作成した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各ターム終了時に授業評価を実施予定。実施結果に基づき自己点検表を作成する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

基本的にホームページ上で公開する。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

開講時期の変更など軽微な変更はあるものの、履修案内やオリエンテーション等において学生に十分な説明を行っているため、学生の履修に影響はない。設置の趣旨・目的の完全な達成に向けて、理工学府担当の教員が平成30年4月から予定通り授業を開始しており、当初設定のカリキュラムの遂行を実現していく予定で、設置趣旨・目的の完全な実現をはかる。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

未定

b 公表方法

未定

③ 認証評価を受ける計画

・平成33年度に評価機関(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構)の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表(予定)の有無 (  有  無 )

b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期 ( 平成30年7月1日 )

(注) ・ 「a ホームページに公表(予定)有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。  
・ 「b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期」には、「a ホームページに公表(予定)有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

## ○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則

(平成 28 年 3 月 22 日規則第 25 号)

改正 平成 28 年 3 月 30 日規則第 38 号 平成 30 年 4 月 12 日規則第 57 号

## 目次

- 第 1 章 総則(第 1 条・第 2 条)
- 第 2 章 業務及び組織(第 3 条―第 10 条)
- 第 3 章 学生 IR 統括部門(第 11 条・第 12 条)
- 第 4 章 高大接続部門(第 13 条・第 14 条)
- 第 5 章 全学教育部門(第 15 条・第 16 条)
- 第 6 章 教育開発・学修支援部門(第 17 条・第 18 条)
- 第 7 章 雑則(第 19 条・第 20 条)
- 附則

## 第 1 章 総則

## (趣旨)

第 1 条 この規則は、横浜国立大学学則(以下「学則」という。)第 14 条の規定に基づき、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター(以下「センター」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

## (目的)

第 2 条 センターは、横浜国立大学(以下「本学」という。)における高大接続システム改革の実現に向けて全学一体で推進する中心的な役割を果たし、大学教育の質的転換及び入学者選抜方法の改善のための学生行動調査等を重視するインスティテューショナル・リサーチ(以下「学生 IR」という。)の推進とともに、初年次教育科目から高度全学教育科目を体系的に編成した全学教育(教養教育を含む。)の企画、調整、実施及び改善を図り、もって国際通用性のある本学教育の質保証に資することを目的とする。

## 第 2 章 業務及び組織

## (業務)

第 3 条 センターは、前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 本学の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)及び入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に基づく高大接続システム改革の実現に向けた大学教育の質的転換及び入学者選抜方法の改善のための学生 IR の推進に関すること。
- (2) 学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の内外を通じて培うことができるよう、学生のキャリア形成及び

就職支援等における組織間の有機的な連携を推進するための企画、調整、実施及び改善に関すること。

(3) 入学者選抜方法の改善、多面的・総合的な評価方法の調査研究、企画及び調整、入学広報並びに高大連携に関すること。

(4) 初年次教育科目から高度全学教育科目までを体系的に編成した全学教育（教養教育を含む。）の企画、調整、実施及び改善に関すること。

(5) 授業設計と成績評価の向上、ICT等を活用したアクティブラーニング及びキャリア教育の開発、学生の能動的学修の支援並びにこれらの組織的な研修に資するファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）の調査研究、企画、調整、実施及び改善に関すること。

(6) その他前条の目的を達成するために必要な業務に関すること。

2 前項に掲げる業務は、国立大学法人横浜国立大学組織運営規則（平成16年規則第5号。以下「組織運営規則」という。）第18条に規定する横浜国立大学大学院教育強化推進センターとの緊密に連携して行うものとする。

（組織）

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

(1) センター長

(2) 副センター長

(3) センター専任教員

(4) センター長が指名又は推薦する本学の教員

(5) その他必要な職員

（センター長）

第5条 センター長は、本学の副学長又は専任教授をもって充て、学長が任命する。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

（副センター長）

第6条 副センター長は、第4条第3号又は第4号の教員の中から、センター長の推薦に基づき学長が任命する。

2 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 副センター長の任期は、センター長が定める。ただし、第1項の規定に基づき推薦したセンター長の任期を超えることはできない。

（運営委員会等）

第7条 センターに、学則第12条第2項及び組織運営規則第12条第2項の規定に基づく教授会として、次に掲げる委員会を置く。

- (1) 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター運営委員会
- (2) 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター教員選考委員会  
(部門長会議)

第8条 センターに、組織運営規則第12条第3項の規定に基づく代議員会として、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター部門長会議を置く。  
(部門及び部門長)

第9条 センターに第3条に掲げる業務を遂行するために、次の部門を置く。

- (1) 学生 IR 統括部門
- (2) 高大接続部門
- (3) 全学教育部門
- (4) 教育開発・学修支援部門

2 部門に部門長を置く。

3 学生 IR 統括部門、高大接続部門及び教育開発・学修支援部門の部門長は、第4条第3号又は第4号の教員の中から、センター長の推薦に基づき学長が任命する。

4 全学教育部門の部門長は、教養教育主事をもって充て、学長が任命する。

5 部門長は、部門の業務を掌理する。

6 部門長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任の部門長の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究員)

第10条 センターに、研究員を置くことができる。

2 研究員は、第3条各号に規定する業務に関連した研究又は実践歴等を有する者のうちから、第8条に規定する部門長会議の議を経て、センター長が委嘱する。

### 第3章 学生 IR 統括部門

(業務)

第11条 学生 IR 統括部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) センターにおける学生 IR の統括に関すること。
- (2) 学生卒業後の進路状況及び進路先評価等に関する調査研究、企画、調整及び実施並びに本学における人材育成システムの評価に関すること。
- (3) 学生のキャリア形成及び就職支援における組織間の有機的な連携を推進するための企画、調整、実施及び改善に関すること。
- (4) キャリア・サポートルームに関すること。
- (5) その他学生 IR、学生のキャリア形成及び就職支援に関すること。

(学生 IR 統括部会)

第12条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、学生 IR 統括部会を置く。

### 第4章 高大接続部門

(業務)

第13条 高大接続部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 入学者選抜方法の改善に関する学生 IR の推進に関すること。
- (2) 多面的・総合的な評価方法に関する調査研究、企画及び調整に関すること。
- (3) 入学広報及び高大連携に関する業務に関すること。
- (4) 高大接続学習プログラムに関する業務に関すること。
- (5) その他高大接続に関する支援等の業務（他の部門に係る業務を除く。）に関すること。

(アドミッション部会との連携)

第14条 前条に規定する業務を遂行するために、横浜国立大学入学者選抜のための組織及び運営に関する規則（平成16年規則第10号）第2条に規定するアドミッション部会と連携するものとする。

#### 第5章 全学教育部門

(業務)

第15条 全学教育部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学教育（教養教育を含む。次号、第4号及び第5号において同じ。）の在り方、教育理念と教育目標に関する学生 IR の推進に関すること。
- (2) 全学教育のカリキュラム編成、シラバス作成及び履修方法等に関する全学的な総合調整に関すること。
- (3) 全学教育科目の授業の実施及び改善に関すること。
- (4) 全学教育に関する予算に関すること。
- (5) その他全学教育に関する必要な事項に関すること。

(全学教育部会)

第16条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、全学教育部会を置く。

#### 第6章 教育開発・学修支援部門

(業務)

第17条 教育開発・学修支援部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 大学教育及び学生の学修支援の在り方、教育理念と教育目標に関する学生 IR の推進に関すること。
- (2) 授業設計と成績評価（シラバスの改善を含む。）に関する調査研究、企画、調整、実施及び改善に関すること。
- (3) ICT等を活用したアクティブラーニング及びキャリア教育の開発並びに学生の能動的学修方法等に関する調査研究、開発、調整及び改善に関すること。
- (4) 大学教育の質的転換のためのFDに関する調査研究、企画、調整、実施及び評価に関すること。



- (5) 学生の学修行動調査の調査研究、企画、調整、実施及び評価に関すること。
- (6) 全学リテラシー共通テキスト等の教材開発、企画及び調整に関すること。
- (7) その他教育開発及び学生の学修支援に関する必要な事項に関すること。

(教育開発・学修支援部会)

第18条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、教育開発・学修支援部会を置く。

#### 第7章 雑則

(事務)

第19条 センターの事務は、学務部において処理する。

(雑則)

第20条 この規則に定めるもののほか、センターに関する必要な事項は、運営委員会の議を経て、センター長が定める。

#### 附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日に任命されるセンター長の選考は、学長が行い、その任期は、第5条第3項の規定にかかわらず、平成29年3月31日までとする。
- 3 平成29年3月31日までの間、第15条第1号及び第2号に規定する「教養教育」とあるのは「教養教育及び平成29年度開設予定の全学教育科目（各学部が開設予定の高度全学教育科目を含む。）」と読み替えて適用する。
- 4 横浜国立大学大学教育総合センター規則（平成16年規則511号）は、廃止する。

附 則(平成28年3月30日規則第38号)

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成30年4月12日規則第57号)

この規則は、平成30年4月12日から施行する。

○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センターに置く会議の組織運営に関する  
規則

(平成 28 年 3 月 22 日規則第 26 号)

改正 平成 28 年 3 月 30 日規則第 38 号 平成 29 年 3 月 30 日規則第 69 号  
平成 29 年 8 月 1 日規則第 82 号 平成 30 年 3 月 29 日規則第 47 号  
平成 30 年 4 月 12 日規則第 58 号

目次

- 第 1 章 総則(第 1 条)
- 第 2 章 運営委員会(第 2 条―第 6 条)
- 第 3 章 教員選考委員会(第 7 条・第 8 条)
- 第 4 章 部門長会議(第 9 条―第 11 条)
- 第 5 章 学生 IR 統括部会(第 12 条―第 14 条)
- 第 6 章 全学教育部会(第 15 条―第 17 条)
- 第 7 章 教育開発・学修支援部会(第 18 条―第 20 条)
- 第 8 章 雑則(第 21 条―第 23 条)

附則

第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則（以下「規則」という。）第 20 条の規定に基づき、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター（以下「センター」という。）に置く会議の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

第 2 章 運営委員会

(審議事項)

第 2 条 規則第 7 条第 1 号の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの組織に関すること。
- (2) センターの業務計画（センターの予算を含む。）及び管理運営に係る重要事項に関すること。
- (3) その他センターに関する重要事項に関すること。

(組織)

第 3 条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学部長

- (2) 研究院長
  - (3) 教養教育主事
  - (4) 附属図書館長
  - (5) 情報基盤センター長
  - (6) センター長
  - (7) 副センター長
  - (8) センター部門長
  - (9) センター専任教員
  - (10) 学務部長
  - (11) 研究・学術情報部長
  - (12) 学長が指名する者 若干人
- 2 前項第12号の委員の任期は、2年とする。ただし、欠員による委員の任期は、前任者の残任期間とする。
  - 3 前項の委員は、再任されることができる。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、副センター長がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

- 2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 3 運営委員会における審議の方法について、議長は運営委員会開催に代わるものとして、電磁的記録による審議を行うことができる。

(委員以外の者の出席)

第6条 運営委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

### 第3章 教員選考委員会

(審議事項)

第7条 規則第7条第2号の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター教員選考委員会（以下「教員選考委員会」という。）は、センターの専任教員の選考に関する事項を審議する。

(組織、委員長及び議事等)

第8条 教員選考委員会の組織、委員長、議事及び委員以外の者の出席については、第3条から第6条まで（第5条第3項を除く。）を準用する。この場合において、第3条第

1 項第 10 号から第 12 号の委員は組織から除くものとし、第 5 条第 1 項中「委員の過半数」を「委員の 3 分の 2 以上」と読み替えて適用する。

#### 第 4 章 部門長会議

(審議事項)

第 9 条 規則第 8 条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター部門長会議（以下「部門長会議」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの業務計画及び管理運営に関すること。
- (2) センターの予算に関すること。
- (3) センターの部門及び各部会との連絡調整に関すること。
- (4) その他運営委員会から審議を付託された事項に関すること。

(組織)

第 10 条 部門長会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター部門長
- (4) 学務部長
- (5) センター長が指名する者 若干人

2 前項第 5 号の委員の任期及び再任については、第 3 条第 2 項及び第 3 項を準用する。

(委員長及び議事等)

第 11 条 部門長会議の委員長、議事及び委員以外の者の出席については、第 4 条から第 6 条までを準用する。

#### 第 5 章 学生 IR 統括部会

(審議事項)

第 12 条 規則第 12 条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター学生 IR 統括部会（以下「学生 IR 統括部会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターにおける学生 IR の統括に関すること。
- (2) 学生の進路状況及び進路先評価等に関すること。
- (3) 学生のキャリア形成及び就職支援における全学的な総合調整に関すること。
- (4) キャリア・サポートルームに関すること。
- (5) その他学生 IR、学生のキャリア形成及び就職支援に関すること。

(組織)

第 13 条 学生 IR 統括部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学生 IR 統括部門長
- (2) 学生 IR 統括部門を担当する教員

- (3) 高大接続部門長、全学教育部門長及び教育開発・学修支援部門長
  - (4) 各学部の教授会から選出された教員 各1人
  - (5) 学務部学生支援課長、教育企画課長及び入試課長
  - (6) その他学生 IR 統括部門長が指名した者
- 2 前項第4号及び第6号の委員の任期及び再任については、第3条第2項及び第3項を準用する。

(委員長及び議事等)

第14条 学生 IR 統括部会に委員長を置き、学生 IR 統括部門長をもって充てる。

- 2 委員長は、学生 IR 統括部会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
- 4 学生 IR 統括部会の議事及び委員以外の者の出席については、第5条及び第6条を準用する。

## 第6章 全学教育部会

(審議事項)

第15条 規則第16条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター全学教育部会（以下「全学教育部会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 全学教育（教養教育を含む。第4号及び第5号において同じ。）の全学的な総合調整に関すること。
- (2) 全学教育科目の授業実施計画に関すること。
- (3) 全学教育科目のカリキュラム編成及び改善に関すること。
- (4) 全学教育に関する予算に関すること。
- (5) その他全学教育の実施に関すること。

(組織)

第16条 全学教育部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 全学教育部門長
  - (2) 全学教育部門を担当する専任教員
  - (3) 各学部及び国際社会科学府の教授会から選出された教員 各1人
  - (4) 教育学部学校教育課程保健体育講座から選出された教員 1人
  - (5) 国際戦略推進機構から選出された教員 3人
  - (6) 学務部教育企画課長
  - (7) その他全学教育部門長が指名した者 若干名
- 2 前項第3号から第5号まで及び第7号の委員の任期及び再任については、第3条第2項及び第3項を準用する。

(委員長及び議事等)

第17条 全学教育部会に委員長を置き、全学教育部門長をもって充てる。

- 2 委員長は、全学教育部会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
- 4 全学教育部会の議事及び委員以外の者の出席については、第5条及び第6条を準用する。

## 第7章 教育開発・学修支援部会

### (審議事項)

第18条 規則第18条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会（以下「教育開発・学修支援部会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 授業設計と成績評価（シラバスの改善を含む。）に関する事。
- (2) ICT等を活用したキャリア教育及び学生の能動的学修方法等に関する事。
- (3) ファカルティ・ディベロップメントに関する事。
- (4) 学生の学修行動調査に関する事。
- (5) 全学リテラシー共通テキスト等に関する事。
- (6) その他教育開発及び学生の学修支援に関する事。

### (組織)

第19条 教育開発・学修支援部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育開発・学修支援部門長
  - (2) 教育開発・学修支援部門を担当する専任教員
  - (3) 全学教育部門長
  - (4) 各学部の教授会から選出された教員 各1人
  - (5) 国際戦略推進機構及び情報基盤センターから選出された教員 各1人
  - (6) 学務部教育企画課長
  - (7) 研究・学術情報部図書館情報課長及び情報企画課長
  - (8) その他教育開発・学修支援部門長が指名した者 若干名
- 2 前項第4号、第5号及び第8号の委員の任期及び再任については、第3条第2項及び第3項を準用する。

### (委員長及び議事等)

第20条 教育開発・学修支援部会に委員長を置き、教育開発・学修支援部門長をもって充てる。

- 2 委員長は、教育開発・学修支援部会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
- 4 教育開発・学修支援部会の議事及び委員以外の者の出席については、第5条及び第6条を準用する。

## 第8章 雑則

### (会議の合同開催等)

第21条 第5条、第11条及び前条に規定する運営委員会、部門長会議及び教育開発・学修支援部会は、組織運営規則第18条第1項に規定する横浜国立大学大学院教育強化推進センターとの事前の協議を経て、合同で開催することができる。この場合において、合同で開催される委員会等の議事については、この規則及び横浜国立大学大学院教育強化推進センターに置く会議の組織運営に関する規則を適用し、議長については、それぞれの委員長の互選により置くものとする。

(事務)

第22条 センターに置く会議の事務は、学務部において処理する。

(雑則)

第23条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

#### 附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成29年3月31日までの間、第15条第1号及び第2号に規定する「教養教育」とあるのは「教養教育及び平成29年度開設予定の全学教育科目（各学部が開設予定の高度全学教育科目を含む。）」と読み替えて適用する。
- 3 平成29年3月31日までの間、第13条第1項第4号、第16条第1項第3号及び第19条第1項第4号に規定する「各学部」とあるのは「各学部（都市科学部（仮称）設置準備委員会を含む。）」と読み替えて適用する。
- 4 横浜国立大学大学教育総合センターに置く会議の組織運営に関する規則（平成16年規則第512号）は、廃止する。

#### 附 則(平成28年3月30日規則第38号)

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

#### 附 則(平成29年3月30日規則第69号)

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

#### 附 則(平成29年8月1日規則第82号)

- 1 この規則は、平成29年8月1日から施行する。
- 2 当分の間、第15条第3号に規定する「全学教育科目」とあるのは「全学教育科目及び平成28年度入学者まで適用の教養教育科目」と読み替えて適用する。

#### 附 則(平成30年3月29日規則第47号)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

#### 附 則(平成30年4月12日規則第58号)

この規則は、平成30年4月12日から施行する。





# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人横浜国立大学

## (2) 大学名

横浜国立大学大学院

## (3) 大学の位置

〒240-8501

神奈川県横浜市常盤台79番5号

(神奈川県横浜市常盤台79番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(ハセベ ユウイチ) 長谷部 勇一 (平成27年4月)		
学府長	(ワタナベ マサヨシ) 渡邊 正義 (平成30年4月)		
専攻長 数物・電子情報系理工学専攻(D)	(セキヤ タカオ) 関谷 隆夫 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
大学院理工学府 数物・電子情報系理工学専攻(博士課程後期) 博士(理学) 博士(工学)	理学関係  工学関係	3 年	18 人	54 人	理工学部

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	18人	人	( )	( )	( )	( )	( )	( )	1.22 倍	
志願者数	23	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )		
受験者数	22	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )		
合格者数	22	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )		
B 入学者数	22	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )		
入学定員超過率 B/A	1.22									

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ ( ) 内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
- ・ [ ] 内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	22 [ 6 ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	秋季入学定員は若干名
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次			/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
計	22 [ 6 ] ( - )	[ ] ( )			[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	22 人	0 人	平成30年度	人	人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
平成32年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
合 計	22 人	0 人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

・各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要ありません。)

・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入して

・在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。

・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するため準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。

・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学

・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{22} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<横浜国立大学理工学部 数物・電子情報系理工学専攻（博士課程後期）>

### (1) ① 授業科目表

#### 【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
S	医工学融合研究	1-2-3①~②		2		2						
	システム設計実習	1-2-3④~⑤		4		3	5					
	システムデバイス実習	1-2-3④~⑤		4		4	4					
	エネルギー・制御実習	1-2-3④~⑤		4		2	2					
	医療情報システム実習	1-2-3④~⑤		4		4						
	医療デバイス実習	1-2-3④~⑤		4		4						
	医療メカトロニクス実習	1-2-3④~⑤		4		4						
	医療生体システム実習	1-2-3④~⑤		4		4						
	医工連携分野実習	1-2-3④~⑤		4		4						
	アンテナ伝播特論	1-2-3④~⑤		2		1						
	オープンソース創造特論	1-2-3①~②		2			1					
	システム制御情報特論	1-2-3①~②		2		1						
	デジタル回路特論	1-2-3④~⑤		2			1					
	データストレージ特論	1-2-3④~⑤		2		1						
	マイクロ波工学特論	1-2-3①~②		2			1					
	マルチメディア移動通信特論	1-2-3④~⑤		2								兼1
	メカトロニクス特論	1-2-3④~⑤		2			1					
	光子エレクトロニクス特論	1-2-3④~⑤		2		1						
	集積ナノデバイス工学特論	1-2-3④~⑤		2			1					
	情報理論特論	1-2-3①~②		2		1						
	知能システム特論	1-2-3④~⑤		2		1						
	超伝導エレクトロニクス論	1-2-3①~②		2		1						
	電力システム工学特論	1-2-3①~②		2		1						
	電力系統保護システム特論	1-2-3④~⑤		2			1					
	半導体デバイス特論	1-2-3④~⑤		2		1						
	符号理論特論	1-2-3①~②		2		1						
	量子効果デバイス特論	1-2-3④~⑤		2			1					
	量子集積デバイス特論	1-2-3④~⑤		2			1					
	生体医工システム特論	1-2-3④~⑤		2		1						
	ナノフォトニクス特論	1-2-3①~②		2		1						
	電気電子ネットワーク演習	1-2-3④~⑤		1		9	11					兼2
	電気電子ネットワーク教育研修	1-2-3④~⑤		1		9	11					兼2
	電気電子ネットワーク学外研修	1-2-3④~⑤		1		9	11					兼2
電気電子ネットワーク特別研究	1-2-3④~⑤		2		9	11					兼2	
電気電子ネットワーク特別演習	1-2-3①~②、④~⑤		3		9	11						
電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1S	①①~②		1		9	11					兼2	
電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2S	②①~②		1		9	11					兼2	
電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3S	③①~②		1		9	11					兼2	
電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1F	④④~⑤		1		9	11					兼2	
電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2F	④④~⑤		1		9	11					兼2	
電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3F	④④~⑤		1		9	11					兼2	
電気電子ネットワーク国際インターンシップ	1-2-3①~②、④~⑤		1		9	11					兼2	
情報システム演習	1-2-3④~⑤		1		9	11					兼2	
情報システム教育研修	1-2-3④~⑤		1		9	11					兼2	
情報システム学外研修	1-2-3④~⑤		1		9	11					兼2	
情報システム特別研究	1-2-3④~⑤		2		9	11					兼2	
情報システム特別演習	1-2-3①~②、④~⑤		3		9	11						

#### 【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	医工学融合研究	1-2-3①~②		2		2						
	システム設計実習	1-2-3④~⑤		4		3	5					
	システムデバイス実習	1-2-3④~⑤		4		4	4					
	エネルギー・制御実習	1-2-3④~⑤		4		2	2					
	医療情報システム実習	1-2-3④~⑤		4		4						
	医療デバイス実習	1-2-3④~⑤		4		4						
	医療メカトロニクス実習	1-2-3④~⑤		4		4						
	医療生体システム実習	1-2-3④~⑤		4		4						
	医工連携分野実習	1-2-3④~⑤		4		4						
	アンテナ伝播特論	1-2-3④~⑤		2		1						
	オープンソース創造特論	1-2-3①~②		2			1					
	システム制御情報特論	1-2-3①~②		2		1						
	デジタル回路特論	1-2-3④~⑤		2			1					
	データストレージ特論	1-2-3④~⑤		2		1						
	マイクロ波工学特論	1-2-3①~②		2			1					
	マルチメディア移動通信特論	1-2-3④~⑤		2								兼1
	メカトロニクス特論	1-2-3④~⑤		2			1					
	光子エレクトロニクス特論	1-2-3④~⑤		2		1						
	集積ナノデバイス工学特論	1-2-3④~⑤		2			1					
	情報理論特論	1-2-3①~②		2		1						
	知能システム特論	1-2-3④~⑤		2		1						
	超伝導エレクトロニクス論	1-2-3①~②		2		1						
	電力システム工学特論	1-2-3①~②		2		1						
	電力系統保護システム特論	1-2-3④~⑤		2			1					
	半導体デバイス特論	1-2-3④~⑤		2		1						
	符号理論特論	1-2-3①~②		2		1						
	量子効果デバイス特論	1-2-3④~⑤		2			1					
	量子集積デバイス特論	1-2-3④~⑤		2			1					
	生体医工システム特論	1-2-3④~⑤		2		1						
	ナノフォトニクス特論	1-2-3①~②		2		1						
	電気電子ネットワーク演習	1-2-3④~⑤		1		9	10	10				兼2
	電気電子ネットワーク教育研修	1-2-3④~⑤		1		9	10	10				兼2
	電気電子ネットワーク学外研修	1-2-3④~⑤		1		9	10	10				兼2
電気電子ネットワーク特別研究	1-2-3④~⑤		2		9	10	10				兼2	
電気電子ネットワーク特別演習	1-2-3①~②、④~⑤		3		9	10	10					
電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1S	①①~②		1		9	10	10				兼2	
電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2S	②①~②		1		9	10	10				兼2	
電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3S	③①~②		1		9	10	10				兼2	
電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1F	④④~⑤		1		9	10	10				兼2	
電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2F	④④~⑤		1		9	10	10				兼2	
電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3F	④④~⑤		1		9	10	10				兼2	
電気電子ネットワーク国際インターンシップ	1-2-3①~②、④~⑤		1		9	10	10				兼2	
情報システム演習	1-2-3④~⑤		1		9	10	10				兼2	
情報システム教育研修	1-2-3④~⑤		1		9	10	10				兼2	
情報システム学外研修	1-2-3④~⑤		1		9	10	10				兼2	
情報システム特別研究	1-2-3④~⑤		2		9	10	10				兼2	
情報システム特別演習	1-2-3①~②、④~⑤		3		9	10	10					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
	情報システムコロキウムⅢ-1S	1①~②		1		9	11				兼2
	情報システムコロキウムⅢ-2S	2①~②		1		9	11				兼2
	情報システムコロキウムⅢ-3S	3①~②		1		9	11				兼2
	情報システムコロキウムⅢ-1F	1④~⑤		1		9	11				兼2
	情報システムコロキウムⅢ-2F	2④~⑤		1		9	11				兼2
	情報システムコロキウムⅢ-3F	3④~⑤		1		9	11				兼2
	情報システム国際インターンシップ	1-2-3①~②・④~⑤		1		9	11				兼2
	応用物理演習	1-2-3④~⑤		1		9	11				兼2
	応用物理教育研修	1-2-3④~⑤		1		9	11				兼2
	応用物理学外研修	1-2-3④~⑤		1		9	11				兼2
	応用物理特別研究	1-2-3④~⑤		2		9	11				兼2
	応用物理特別演習	1-2-3①~②・④~⑤		3		9	11				
	応用物理コロキウムⅢ-1S	1①~②		1		9	11				兼2
	応用物理コロキウムⅢ-2S	2①~②		1		9	11				兼2
	応用物理コロキウムⅢ-3S	3①~②		1		9	11				兼2
	応用物理コロキウムⅢ-1F	1④~⑤		1		9	11				兼2
	応用物理コロキウムⅢ-2F	2④~⑤		1		9	11				兼2
	応用物理コロキウムⅢ-3F	3④~⑤		1		9	11				兼2
	応用物理国際インターンシップ	1-2-3①~②・③・④・⑤・⑥		1		9	11				兼2
	ナノスケールマテリアルデザイン	1-2④~⑤		2		1	1				
	量子系の数値シミュレーション	1-2④~⑤		2			1				
	ナノ・マイクロ凝縮系物性論	1-2④~⑤		2			1				
	低温物性物理学特論	1-2①~②		2			1				
	磁気科学特論	1-2④~⑤		2		1					
	先端磁性物理学	1-2④~⑤		2			1				
	多重極限物性物理学	1-2①~②		2		1					
	新物質の物理学	1-2④~⑤		2			1				
	量子情報物理学特論	1-2④~⑤		2		1	1				
	超高速光科学特論	1-2①~②		2		1					
	精密レーザー分光特論	1-2④~⑤		2		1					
	テラヘルツ科学特論	1-2①~②		2			1				
	先端半導体物理学	1-2①~②		2		1					
	ナノスケール物性科学特論	1-2①~②		2			1				
	先端的表面計測特論	1-2①~②		2			1				
	高エネルギー宇宙線物理学特論	1-2④~⑤		2			1				
	宇宙素粒子物理学特論	1-2④~⑤		2			1				
	ニュートリノ物理学特論	1-2①~②		2			1				
	非線形波動	1-2④~⑤		2			1				
	プラズマ実験物理学	1-2①~②		2			1				
	物理学特別演習	1-2-3①~②・④~⑤		3		7	15				
	物理学特別輪講A	1①~②		2		7	15				
	物理学特別輪講B	1④~⑤		2		7	15				
	物理学教育研修	1-2-3①~②・③・④・⑤・⑥		1		7	15				
	物理学学外研修	1-2-3①~②・③・④・⑤・⑥		1		7	15				
	物理学特別研究	1-2-3①~②・④~⑤		2		7	15				
	数理科学特別輪講A	1-2-3①~②		2		4	2				
	数理科学特別輪講B	1-2-3④~⑤		2		4	2				
	数理科学特別輪講C	1-2-3①~②		2		4	2				
	数理科学特別輪講D	1-2-3④~⑤		2		4	2				
	数理科学特別演習	1-2-3①~②・④~⑤		3		4	2				
	数理科学学外特別研修	1-2-3①~②・③・④・⑤・⑥		1		4	2				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
	情報システムコロキウムⅢ-1S	1①~②		1		10	10				兼2
	情報システムコロキウムⅢ-2S	2①~②		1		10	10				兼2
	情報システムコロキウムⅢ-3S	3①~②		1		10	10				兼2
	情報システムコロキウムⅢ-1F	1④~⑤		1		10	10				兼2
	情報システムコロキウムⅢ-2F	2④~⑤		1		10	10				兼2
	情報システムコロキウムⅢ-3F	3④~⑤		1		10	10				兼2
	情報システム国際インターンシップ	1-2-3①~②・④~⑤		1		10	10				兼2
	応用物理演習	1-2-3④~⑤		1		10	10				兼2
	応用物理教育研修	1-2-3④~⑤		1		10	10				兼2
	応用物理学外研修	1-2-3④~⑤		1		10	10				兼2
	応用物理特別研究	1-2-3④~⑤		2		10	10				兼2
	応用物理特別演習	1-2-3①~②・④~⑤		3		10	10				
	応用物理コロキウムⅢ-1S	1①~②		1		10	10				兼2
	応用物理コロキウムⅢ-2S	2①~②		1		10	10				兼2
	応用物理コロキウムⅢ-3S	3①~②		1		10	10				兼2
	応用物理コロキウムⅢ-1F	1④~⑤		1		10	10				兼2
	応用物理コロキウムⅢ-2F	2④~⑤		1		10	10				兼2
	応用物理コロキウムⅢ-3F	3④~⑤		1		10	10				兼2
	応用物理国際インターンシップ	1-2-3①~②・③・④~⑤		1		10	10				兼2
	ナノスケールマテリアルデザイン	1-2④~⑤		2		1	1				
	量子系の数値シミュレーション	1-2④~⑤		2			1				
	ナノ・マイクロ凝縮系物性論	1-2④~⑤		2			1				
	低温物性物理学特論	1-2①~②		2			1				
	磁気科学特論	1-2④~⑤		2		1					
	先端磁性物理学	1-2④~⑤		2			1				
	多重極限物性物理学	1-2①~②		2		1					
	新物質の物理学	1-2④~⑤		2			1				
	量子情報物理学特論	1-2④~⑤		2		1	1				
	超高速光科学特論	1-2①~②		2		1					
	精密レーザー分光特論	1-2④~⑤		2		1					
	テラヘルツ科学特論	1-2①~②		2			1				
	先端半導体物理学	1-2①~②		2		1					
	ナノスケール物性科学特論	1-2①~②		2			1				
	先端的表面計測特論	1-2①~②		2			1				
	高エネルギー宇宙線物理学特論	1-2④~⑤		2			1				
	宇宙素粒子物理学特論	1-2④~⑤		2			1				
	ニュートリノ物理学特論	1-2①~②		2			1				
	非線形波動	1-2④~⑤		2			1				
	プラズマ実験物理学	1-2①~②		2			1				
	物理学特別演習	1-2-3①~②・④~⑤		3		7	15				
	物理学特別輪講A	1①~②		2		7	15				
	物理学特別輪講B	1④~⑤		2		7	15				
	物理学教育研修	1-2-3①~②・③・④・⑤・⑥		1		7	15				
	物理学学外研修	1-2-3①~②・③・④・⑤・⑥		1		7	15				
	物理学特別研究	1-2-3①~②・④~⑤		2		7	15				
	数理科学特別輪講A	1-2-3①~②		2		4	2				
	数理科学特別輪講B	1-2-3④~⑤		2		4	2				
	数理科学特別輪講C	1-2-3①~②		2		4	2				
	数理科学特別輪講D	1-2-3④~⑤		2		4	2				
	数理科学特別演習	1-2-3①~②・④~⑤		3		4	2				
	数理科学学外特別研修	1-2-3①~②・③・④・⑤・⑥		1		4	2				

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。  
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。  
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。  
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。  
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【平成30年度】**

・設置申請時に誤植があったため、「医療情報システム実習」、「医療デバイス実習」、「医療メカトロニクス実習」、「医療生体システム実習」、「医工連携分野実習」を担当する専任教員の配置数を「教授4」から「教授5」に修正した。

・設置申請時に誤植があったため、「電気電子ネットワーク演習」、「電気電子ネットワーク教育研修」、「電気電子ネットワーク学外研修」、「電気電子ネットワーク特別研究」、「電気電子ネットワーク特別演習」、「電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1S」、「電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2S」、「電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3S」、「電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1F」、「電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2F」、「電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3F」、「電気電子ネットワーク国際インターンシップ」、「情報システム演習」、「情報システム教育研修」、「情報システム学外研修」、「情報システム特別研究」、「情報システム特別演習」、「情報システムコロキウムⅢ-1S」、「情報システムコロキウムⅢ-2S」、「情報システムコロキウムⅢ-3S」、「情報システムコロキウムⅢ-1F」、「情報システムコロキウムⅢ-2F」、「情報システムコロキウムⅢ-3F」、「情報システム国際インターンシップ」、「応用物理演習」、「応用物理教育研修」、「応用物理学外研修」、「応用物理特別研究」、「応用物理特別演習」、「応用物理コロキウムⅢ-1S」、「応用物理コロキウムⅢ-2S」、「応用物理コロキウムⅢ-3S」、「応用物理コロキウムⅢ-1F」、「応用物理コロキウムⅢ-2F」、「応用物理コロキウムⅢ-3F」、「応用物理国際インターンシップ」を担当する専任教員の配置数を「教授9、准教授11」から「教授10、准教授10」に修正した。

・カリキュラムを見直し、「知能システム特論」の開講タームを「④～⑤」から「①～②」に、「応用物理国際インターンシップ」の開講タームを「①・②・③・④・⑤・⑥」から「①～②・④～⑤」に修正した。

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
- ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
0	98	0	98	0	98	0	98	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
				[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	システム制御情報特論	2	1・2・3	専門	選択	隔年度開講のため
2	マイクロ波工学特論	2	1・2・3	専門	選択	隔年度開講のため
3	メカトロニクス特論	2	1・2・3	専門	選択	隔年度開講のため
4	集積ナノデバイス工学特論	2	1・2・3	専門	選択	隔年度開講のため
5	符号理論特論	2	1・2・3	専門	選択	隔年度開講のため
6	量子集積デバイス特論	2	1・2・3	専門	選択	隔年度開講のため
7	生体医工システム特論	2	1・2・3	専門	選択	隔年度開講のため

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

該当なし

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

隔年で開講する科目であるため、学生の履修に影響はない。  
履修案内、時間割表に明示するとともに、掲示板にて周知した。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{7}{98} = 7.14\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。



### 3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	335,097㎡	— ㎡	— ㎡	335,097 ㎡				
	運動場用地	89,916 ㎡	— ㎡	— ㎡	89,916 ㎡				
	小 計	425,013 ㎡	— ㎡	— ㎡	425,013 ㎡				
	そ の 他	237,446 ㎡	— ㎡	— ㎡	237,446 ㎡				
	合 計	662,459 ㎡	— ㎡	— ㎡	662,459 ㎡				
(2) 校 舎	専 用	175,694 ㎡	— ㎡	— ㎡	175,694 ㎡				
	( ㎡)	( ㎡)	( ㎡)	( ㎡)	( ㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	113室	153室	770室	31室 (補助職員 18人)	14室 (補助職員 2人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	理工学府			139 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	学府単位での特定不能なため、大学全体の数	
		[うち外国書]	[うち外国書]						[うち外国書]
	冊	種	点	点	点				
	理工学府	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)		
計	1,337,756 [508,893] (1,337,756 [508,893])	34,493 [19,515] (34,493 [19,515])	12,506 [11,935] (12,506 [11,935])	8,859 (8,859)	3,802 (3,802)	40 (40)			
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	15,336 ㎡		1,472 席		1,346,389 冊				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	3,882 ㎡		野球場		テニスコートほか				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費(運営費交付金)による
		教員1人当たり研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

#### 4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	横浜国立大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 定員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
<b>経済学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番3号	
経済学科	4	238	3年次15	476	学士(経済学)	1.07	平成29年度		
経済システム学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
国際経済学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成16年度		平成29年学生募集停止
<b>経営学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
経営学科	4	287	-	574	学士(経営学)	1.04	平成29年度		
経営学科(昼間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	昭和42年度		平成29年学生募集停止
経営学科(夜間主コース)	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
会計・情報学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
経営システム科学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
国際経営学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	平成3年度		平成29年学生募集停止
<b>都市科学部</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番6号	
都市社会共生学科	4	74	-	148	学士(学術)	0.87	平成29年度		
建築学科	4	70	2年次2	142	学士(工学)	0.96	平成29年度		
都市基盤学科	4	48	3年次5	96	学士(工学)	1.01	平成29年度		
環境リスク共生学科	4	56	-	112	学士(環境学)	1.04	平成29年度		
<b>教育学研究科</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
高度教職実践専攻 (専門職学位課程)	2	15	-	30	教職修士(専門職)	1.03	平成29年度		
<b>理工学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程前期)	2	109	-	109	修士(工学)	1.03	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程前期)	2	107	-	107	修士(理学、工学)	1.01	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程前期)	2	146	-	146	修士(理学、工学)	1.04	平成30年度		
機械・材料・海洋系工学専攻(博士課程後期)	3	11	-	11	博士(工学)	0.54	平成30年度		
化学・生命系理工学専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(理学、工学)	0.41	平成30年度		
数物・電子情報系理工学専攻(博士課程後期)	3	18	-	18	博士(理学、工学)	1.22	平成30年度		
<b>環境情報学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番7号	
人工環境専攻(博士課程前期)	2	75	-	75	修士(環境学、工学、学術)	0.90	平成30年度		
自然環境専攻(博士課程前期)	2	33	-	33	修士(環境学、理学、学術)	0.90	平成30年度		
情報環境専攻(博士課程前期)	2	65	-	65	修士(情報学、理学、学術)	0.98	平成30年度		

人工環境専攻(博士課程後期)	3	15	-	15	博士(環境学、工学、学術)	0.60	平成30年度	
自然環境専攻(博士課程後期)	3	6	-	6	博士(環境学、理学、学術)	0.50	平成30年度	
情報環境専攻(博士課程後期)	3	12	-	12	博士(情報学、理学、学術)	0.91	平成30年度	
環境生命学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、情報科学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リサーチマネジメント専攻(博士課程前期)	2	-	-	-	修士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境生命学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境システム学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
情報メディア環境学専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成13年度	平成30年学生募集停止
環境イノベーションマネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、情報科学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止
環境リサーチマネジメント専攻(博士課程後期)	3	-	-	-	博士(環境学、工学、学術)	-	平成18年度	平成30年学生募集停止

大学の名称	横浜国立大学							備考
-------	--------	--	--	--	--	--	--	----

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
教育学部 学校教育課程	4	230	-	920	学士(教育)	1.02	平成10年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
教育人間科学部 人間文化課程	4	-	-	-	学士(教養)	-	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	平成29年学生募集停止
理工学部 機械・材料・海洋系学科	4	185	-	740	学士(工学)	1.02	平成29年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
化学・生命系学科	4	187	-	748	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度		
数物・電子情報系学科	4	287	-	1148	学士(理学、工学)	1.02	平成23年度		
建築都市・環境系学科	4	-	-	-	学士(理学、工学)	-	平成23年度		平成29年学生募集停止
工学部 生産工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	平成23年学生募集停止
建設学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度		平成23年学生募集停止
電子情報工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	昭和60年度		平成23年学生募集停止
知能物理工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成10年度		平成23年学生募集停止
教育学研究科 教育実践専攻(修士課程)	2	85	-	170	修士(教育学)	1.12	平成23年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	
国際社会科学府 経済学専攻(博士課程前期)	2	38	-	76	修士(経済学)	0.90	平成25年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
経営学専攻(博士課程前期)	2	50	-	100	修士(経営学)	1.03	平成25年度		
国際経済法学専攻(博士課程前期)	2	25	-	50	修士(法学、国際)	1.04	平成25年度		
経済学専攻(博士課程後期)	3	10	-	30	博士(経済学、学術)	0.40	平成25年度		
経営学専攻(博士課程後期)	3	12	-	36	博士(経営学、学術)	0.44	平成25年度		
国際経済法学専攻(博士課程後期)	3	8	-	24	博士(法学、国際)	0.49	平成25年度		

法曹実務専攻（専門職学位課程）	3	25	-	75	法務博士（専門職）	0.41	平成25年度		
<b>国際社会科学研究所</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号	
グローバル経済専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経済学、学術）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
企業システム専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（経営学、学術）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
国際経済法学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（国際経済法）	-	平成11年度		平成25年学生募集停止
<b>工学府</b>								神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
機能発現工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程前期）	2	-	-	-	修士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
機能発現工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
システム統合工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
物理情報工学専攻（博士課程後期）	3	-	-	-	博士（工学、学術）	-	平成13年度		平成30年学生募集停止
<b>都市イノベーション学府</b>									
建築都市文化専攻（博士課程前期）	2	68	-	136	修士（工学、学術）	0.93	平成23年度		
都市地域社会専攻（博士課程前期）	2	37	-	74	修士（工学、学術）	0.98	平成23年度		
都市イノベーション専攻（博士課程後期）	3	12	-	36	博士（工学、学術）	0.83	平成23年度		

- （注）・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<横浜国立大学理工学府 数物・電子情報系理工学専攻（博士課程後期）>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	アライ ヒロユキ 新井 宏之  <平成30年4月>
		システム設計実習 アンテナ伝播特論【隔年】 電気電子ネットワーク演習 電気電子ネットワーク教育研修 電気電子ネットワーク学外研修 電気電子ネットワーク特別研究 電気電子ネットワーク特別演習 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1F 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2F 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3F 電気電子ネットワーク国際インターンシップ 情報システム演習 情報システム教育研修 情報システム学外研修 情報システム特別研究 情報システム特別演習 情報システムコロキウムⅢ-1S 情報システムコロキウムⅢ-2S 情報システムコロキウムⅢ-3S 情報システムコロキウムⅢ-1F 情報システムコロキウムⅢ-2F 情報システムコロキウムⅢ-3F 情報システム国際インターンシップ 応用物理演習 応用物理教育研修 応用物理学外研修 応用物理特別研究 応用物理特別演習 応用物理コロキウムⅢ-1S 応用物理コロキウムⅢ-2S 応用物理コロキウムⅢ-3S 応用物理コロキウムⅢ-1F 応用物理コロキウムⅢ-2F 応用物理コロキウムⅢ-3F 応用物理国際インターンシップ
		ウメハラ イズル 梅原 出  <平成30年4月>
		多重極限物性物理学 物理工学特別演習 物理工学特別輪講A 物理工学特別輪講B 物理工学教育研修 物理工学学外研修 物理工学特別研究
専	教授	オオノ カオル 大野 かおる  <平成30年4月>
		ナノスケールマテリアルデザイン 物理工学特別演習 物理工学特別輪講A 物理工学特別輪講B 物理工学教育研修 物理工学学外研修 物理工学特別研究
専	教授	オオヤマ ツトム 大山 カ  <平成30年4月>
		エネルギー・制御実習 電力システム工学特論【隔年】 電気電子ネットワーク演習 電気電子ネットワーク教育研修 電気電子ネットワーク学外研修 電気電子ネットワーク特別研究 電気電子ネットワーク特別演習 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3S

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	アライ ヒロユキ 新井 宏之  <平成30年4月>
		システム設計実習 アンテナ伝播特論【隔年】 電気電子ネットワーク演習 電気電子ネットワーク教育研修 電気電子ネットワーク学外研修 電気電子ネットワーク特別研究 電気電子ネットワーク特別演習 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1F 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2F 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3F 電気電子ネットワーク国際インターンシップ 情報システム演習 情報システム教育研修 情報システム学外研修 情報システム特別研究 情報システム特別演習 情報システムコロキウムⅢ-1S 情報システムコロキウムⅢ-2S 情報システムコロキウムⅢ-3S 情報システムコロキウムⅢ-1F 情報システムコロキウムⅢ-2F 情報システムコロキウムⅢ-3F 情報システム国際インターンシップ 応用物理演習 応用物理教育研修 応用物理学外研修 応用物理特別研究 応用物理特別演習 応用物理コロキウムⅢ-1S 応用物理コロキウムⅢ-2S 応用物理コロキウムⅢ-3S 応用物理コロキウムⅢ-1F 応用物理コロキウムⅢ-2F 応用物理コロキウムⅢ-3F 応用物理国際インターンシップ
		ウメハラ イズル 梅原 出  <平成30年4月>
		多重極限物性物理学 物理工学特別演習 物理工学特別輪講A 物理工学特別輪講B 物理工学教育研修 物理工学学外研修 物理工学特別研究
専	教授	オオノ カオル 大野 かおる  <平成30年4月>
		ナノスケールマテリアルデザイン 物理工学特別演習 物理工学特別輪講A 物理工学特別輪講B 物理工学教育研修 物理工学学外研修 物理工学特別研究
専	教授	オオヤマ ツトム 大山 カ  <平成30年4月>
		エネルギー・制御実習 電力システム工学特論【隔年】 電気電子ネットワーク演習 電気電子ネットワーク教育研修 電気電子ネットワーク学外研修 電気電子ネットワーク特別研究 電気電子ネットワーク特別演習 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3S



		数理科学特別演習 数理科学学外特別研修
専	教授	コウ ホウライ 洪 鋒雷 〈平成30年4月〉
		精密レーザー分光特論 物理学特別演習 物理学特別輪講A 物理学特別輪講B 物理学教育研修 物理学学外研修 物理学特別研究
専	教授	コウノ リュウジ 河野 隆二 〈平成30年4月〉
		システム設計実習 医療情報システム実習 医療デバイス実習 医療メカトロニクス実習 医療生体システム実習 医工連携分野実習 情報理論特論 電気電子ネットワーク演習 電気電子ネットワーク教育研修 電気電子ネットワーク学外研修 電気電子ネットワーク特別研究 電気電子ネットワーク特別演習 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1F 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2F 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3F 電気電子ネットワーク国際インターンシップ 情報システム演習 情報システム教育研修 情報システム学外研修 情報システム特別研究 情報システム特別演習 情報システムコロキウムⅢ-1S 情報システムコロキウムⅢ-2S 情報システムコロキウムⅢ-3S 情報システムコロキウムⅢ-1F 情報システムコロキウムⅢ-2F 情報システムコロキウムⅢ-3F 情報システム国際インターンシップ 応用物理演習 応用物理教育研修 応用物理学外研修 応用物理特別研究 応用物理特別演習 応用物理コロキウムⅢ-1S 応用物理コロキウムⅢ-2S 応用物理コロキウムⅢ-3S 応用物理コロキウムⅢ-1F 応用物理コロキウムⅢ-2F 応用物理コロキウムⅢ-3F 応用物理国際インターンシップ
専	教授	コサカ ヒデオ 小坂 英男 〈平成30年4月〉
		量子情報物理学特論※ 物理学特別演習 物理学特別輪講A 物理学特別輪講B 物理学教育研修 物理学学外研修 物理学特別研究
専	教授	コンノ ノリオ 今野 紀雄 〈平成30年4月〉
		数理科学特別輪講A 数理科学特別輪講B 数理科学特別輪講C 数理科学特別輪講D 数理科学特別演習 数理科学学外特別研修
専	教授	シオジ ナオキ 塩路 直樹 〈平成30年4月〉
		数理科学特別輪講A 数理科学特別輪講B 数理科学特別輪講C 数理科学特別輪講D 数理科学特別演習 数理科学学外特別研修
		セキヤ タカオ 関谷 隆夫 〈平成30年4月〉

		数理科学特別演習 数理科学学外特別研修
専	教授	コウ ホウライ 洪 鋒雷 〈平成30年4月〉
		精密レーザー分光特論 物理学特別演習 物理学特別輪講A 物理学特別輪講B 物理学教育研修 物理学学外研修 物理学特別研究
専	教授	コウノ リュウジ 河野 隆二 〈平成30年4月〉
		システム設計実習 医療情報システム実習 医療デバイス実習 医療メカトロニクス実習 医療生体システム実習 医工連携分野実習 情報理論特論 電気電子ネットワーク演習 電気電子ネットワーク教育研修 電気電子ネットワーク学外研修 電気電子ネットワーク特別研究 電気電子ネットワーク特別演習 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1F 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2F 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3F 電気電子ネットワーク国際インターンシップ 情報システム演習 情報システム教育研修 情報システム学外研修 情報システム特別研究 情報システム特別演習 情報システムコロキウムⅢ-1S 情報システムコロキウムⅢ-2S 情報システムコロキウムⅢ-3S 情報システムコロキウムⅢ-1F 情報システムコロキウムⅢ-2F 情報システムコロキウムⅢ-3F 情報システム国際インターンシップ 応用物理演習 応用物理教育研修 応用物理学外研修 応用物理特別研究 応用物理特別演習 応用物理コロキウムⅢ-1S 応用物理コロキウムⅢ-2S 応用物理コロキウムⅢ-3S 応用物理コロキウムⅢ-1F 応用物理コロキウムⅢ-2F 応用物理コロキウムⅢ-3F 応用物理国際インターンシップ
専	教授	コサカ ヒデオ 小坂 英男 〈平成30年4月〉
		量子情報物理学特論※ 物理学特別演習 物理学特別輪講A 物理学特別輪講B 物理学教育研修 物理学学外研修 物理学特別研究
専	教授	コンノ ノリオ 今野 紀雄 〈平成30年4月〉
		数理科学特別輪講A 数理科学特別輪講B 数理科学特別輪講C 数理科学特別輪講D 数理科学特別演習 数理科学学外特別研修
専	教授	シオジ ナオキ 塩路 直樹 〈平成30年4月〉
		数理科学特別輪講A 数理科学特別輪講B 数理科学特別輪講C 数理科学特別輪講D 数理科学特別演習 数理科学学外特別研修
		セキヤ タカオ 関谷 隆夫 〈平成30年4月〉









専	准教授	<p>情報システム特別研究  情報システム特別演習  情報システムコロキウムⅢ-1S  情報システムコロキウムⅢ-2S  情報システムコロキウムⅢ-3S  情報システムコロキウムⅢ-1F  情報システムコロキウムⅢ-2F  情報システムコロキウムⅢ-3F  情報システム国際インターンシップ  応用物理演習  応用物理教育研修  応用物理学外研修  応用物理特別研究  応用物理特別演習  応用物理コロキウムⅢ-1S  応用物理コロキウムⅢ-2S  応用物理コロキウムⅢ-3S  応用物理コロキウムⅢ-1F  応用物理コロキウムⅢ-2F  応用物理コロキウムⅢ-3F  応用物理国際インターンシップ</p>
専	准教授	<p>イシワタ シンゴ  石渡 信吾  &lt;平成30年4月&gt;</p>
専	准教授	<p>非線形波動  物理学特別演習  物理学特別演習A  物理学特別演習B  物理学教育研修  物理学学外研修  物理学特別研究</p>
専	准教授	<p>イチゲ コウイチ  市毛 弘一  &lt;平成30年4月&gt;</p>
専	准教授	<p>システム設計実習  デジタル回路特論【隔年】  電気電子ネットワーク演習  電気電子ネットワーク教育研修  電気電子ネットワーク学外研修  電気電子ネットワーク特別研究  電気電子ネットワーク特別演習  電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1S  電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2S  電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3S  電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1F  電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2F  電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3F  電気電子ネットワーク国際インターンシップ  情報システム演習  情報システム教育研修  情報システム学外研修  情報システム特別研究  情報システム特別演習  情報システムコロキウムⅢ-1S  情報システムコロキウムⅢ-2S  情報システムコロキウムⅢ-3S  情報システムコロキウムⅢ-1F  情報システムコロキウムⅢ-2F  情報システムコロキウムⅢ-3F  情報システム国際インターンシップ  応用物理演習  応用物理教育研修  応用物理学外研修  応用物理特別研究  応用物理特別演習  応用物理コロキウムⅢ-1S  応用物理コロキウムⅢ-2S  応用物理コロキウムⅢ-3S  応用物理コロキウムⅢ-1F  応用物理コロキウムⅢ-2F  応用物理コロキウムⅢ-3F  応用物理国際インターンシップ</p>
専	准教授	<p>イチヤナギ ユウコ  一柳 優子  &lt;平成30年4月&gt;</p>
専	准教授	<p>先端磁性物理学  物理学特別演習  物理学特別演習A  物理学特別演習B  物理学教育研修  物理学学外研修  物理学特別研究</p>
専	准教授	<p>ウエハラ マサトモ  上原 政智  &lt;平成30年4月&gt;</p>
専	准教授	<p>新物質の物理学  物理学特別演習  物理学特別演習A  物理学特別演習B  物理学教育研修  物理学学外研修  物理学特別研究</p>
専	准教授	<p>オオノ シンヤ  大野 真也  &lt;平成30年4月&gt;</p>
専	准教授	<p>先端的表面計測特論  物理学特別演習  物理学特別演習A  物理学特別演習B  物理学教育研修  物理学学外研修  物理学特別研究</p>

専	准教授	<p>情報システム特別研究  情報システム特別演習  情報システムコロキウムⅢ-1S  情報システムコロキウムⅢ-2S  情報システムコロキウムⅢ-3S  情報システムコロキウムⅢ-1F  情報システムコロキウムⅢ-2F  情報システムコロキウムⅢ-3F  情報システム国際インターンシップ  応用物理演習  応用物理教育研修  応用物理学外研修  応用物理特別研究  応用物理特別演習  応用物理コロキウムⅢ-1S  応用物理コロキウムⅢ-2S  応用物理コロキウムⅢ-3S  応用物理コロキウムⅢ-1F  応用物理コロキウムⅢ-2F  応用物理コロキウムⅢ-3F  応用物理国際インターンシップ</p>
専	准教授	<p>イシワタ シンゴ  石渡 信吾  &lt;平成30年4月&gt;</p>
専	准教授	<p>非線形波動  物理学特別演習  物理学特別演習A  物理学特別演習B  物理学教育研修  物理学学外研修  物理学特別研究</p>
専	准教授	<p>イチゲ コウイチ  市毛 弘一  &lt;平成30年4月&gt;</p>
専	准教授	<p>システム設計実習  デジタル回路特論【隔年】  電気電子ネットワーク演習  電気電子ネットワーク教育研修  電気電子ネットワーク学外研修  電気電子ネットワーク特別研究  電気電子ネットワーク特別演習  電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1S  電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2S  電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3S  電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1F  電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2F  電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3F  電気電子ネットワーク国際インターンシップ  情報システム演習  情報システム教育研修  情報システム学外研修  情報システム特別研究  情報システム特別演習  情報システムコロキウムⅢ-1S  情報システムコロキウムⅢ-2S  情報システムコロキウムⅢ-3S  情報システムコロキウムⅢ-1F  情報システムコロキウムⅢ-2F  情報システムコロキウムⅢ-3F  情報システム国際インターンシップ  応用物理演習  応用物理教育研修  応用物理学外研修  応用物理特別研究  応用物理特別演習  応用物理コロキウムⅢ-1S  応用物理コロキウムⅢ-2S  応用物理コロキウムⅢ-3S  応用物理コロキウムⅢ-1F  応用物理コロキウムⅢ-2F  応用物理コロキウムⅢ-3F  応用物理国際インターンシップ</p>
専	准教授	<p>イチヤナギ ユウコ  一柳 優子  &lt;平成30年4月&gt;</p>
専	准教授	<p>先端磁性物理学  物理学特別演習  物理学特別演習A  物理学特別演習B  物理学教育研修  物理学学外研修  物理学特別研究</p>
専	准教授	<p>ウエハラ マサトモ  上原 政智  &lt;平成30年4月&gt;</p>
専	准教授	<p>新物質の物理学  物理学特別演習  物理学特別演習A  物理学特別演習B  物理学教育研修  物理学学外研修  物理学特別研究</p>
専	准教授	<p>オオノ シンヤ  大野 真也  &lt;平成30年4月&gt;</p>
専	准教授	<p>先端的表面計測特論  物理学特別演習  物理学特別演習A  物理学特別演習B  物理学教育研修  物理学学外研修  物理学特別研究</p>







		応用物理特別演習 応用物理コロキウムⅢ-1S 応用物理コロキウムⅢ-2S 応用物理コロキウムⅢ-3S 応用物理コロキウムⅢ-1F 応用物理コロキウムⅢ-2F 応用物理コロキウムⅢ-3F 応用物理国際インターンシップ
専	准教授	ツシマ アキラ 津嶋 晴 <平成30年4月>
		プラズマ実験物理学 物理工学特別演習 物理工学特別輪講A 物理工学特別輪講B 物理工学教育研修 物理工学学外研修 物理工学特別研究
専	准教授	ナカムラ ショウゴ 中村 正吾 <平成30年4月>
		宇宙素粒子物理学特論 物理工学特別演習 物理工学特別輪講A 物理工学特別輪講B 物理工学教育研修 物理工学学外研修 物理工学特別研究
専	准教授	ニシジマ ヨシアキ 西島 喜明 <平成30年4月>
		システムデバイス実習 ナノフォトニクス特論 電気電子ネットワーク演習 電気電子ネットワーク教育研修 電気電子ネットワーク学外研修 電気電子ネットワーク特別研究 電気電子ネットワーク特別演習 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1F 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2F 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3F 電気電子ネットワーク国際インターンシップ 情報システム演習 情報システム教育研修 情報システム学外研修 情報システム特別研究 情報システム特別演習 情報システムコロキウムⅢ-1S 情報システムコロキウムⅢ-2S 情報システムコロキウムⅢ-3S 情報システムコロキウムⅢ-1F 情報システムコロキウムⅢ-2F 情報システムコロキウムⅢ-3F 情報システム国際インターンシップ 応用物理演習 応用物理教育研修 応用物理学外研修 応用物理特別研究 応用物理特別演習 応用物理コロキウムⅢ-1S 応用物理コロキウムⅢ-2S 応用物理コロキウムⅢ-3S 応用物理コロキウムⅢ-1F 応用物理コロキウムⅢ-2F 応用物理コロキウムⅢ-3F 応用物理国際インターンシップ
専	准教授	ホリキリ トモユキ 堀切 智之 <平成30年4月>
		量子情報物理学特論※ 物理工学特別演習 物理工学特別輪講A 物理工学特別輪講B 物理工学教育研修 物理工学学外研修 物理工学特別研究
専	准教授	ホンダ アツフミ 本田 淳史 <平成30年4月>
		数理学特別輪講A 数理学特別輪講B 数理学特別輪講C 数理学特別輪講D 数理学特別演習 数理学学外特別研修
専	准教授	ミナミノ アキヒロ 南野 彰宏 <平成30年4月>
		ニュートリノ物理学特論 物理工学特別演習 物理工学特別輪講A 物理工学特別輪講B 物理工学教育研修 物理工学学外研修 物理工学特別研究
		ヤマナシ ユウキ 山梨 裕希 <平成30年4月>

		応用物理特別演習 応用物理コロキウムⅢ-1S 応用物理コロキウムⅢ-2S 応用物理コロキウムⅢ-3S 応用物理コロキウムⅢ-1F 応用物理コロキウムⅢ-2F 応用物理コロキウムⅢ-3F 応用物理国際インターンシップ
専	准教授	ツシマ アキラ 津嶋 晴 <平成30年4月>
		プラズマ実験物理学 物理工学特別演習 物理工学特別輪講A 物理工学特別輪講B 物理工学教育研修 物理工学学外研修 物理工学特別研究
専	准教授	ナカムラ ショウゴ 中村 正吾 <平成30年4月>
		宇宙素粒子物理学特論 物理工学特別演習 物理工学特別輪講A 物理工学特別輪講B 物理工学教育研修 物理工学学外研修 物理工学特別研究
専	准教授	ニシジマ ヨシアキ 西島 喜明 <平成30年4月>
		システムデバイス実習 ナノフォトニクス特論 電気電子ネットワーク演習 電気電子ネットワーク教育研修 電気電子ネットワーク学外研修 電気電子ネットワーク特別研究 電気電子ネットワーク特別演習 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1F 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2F 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3F 電気電子ネットワーク国際インターンシップ 情報システム演習 情報システム教育研修 情報システム学外研修 情報システム特別研究 情報システム特別演習 情報システムコロキウムⅢ-1S 情報システムコロキウムⅢ-2S 情報システムコロキウムⅢ-3S 情報システムコロキウムⅢ-1F 情報システムコロキウムⅢ-2F 情報システムコロキウムⅢ-3F 情報システム国際インターンシップ 応用物理演習 応用物理教育研修 応用物理学外研修 応用物理特別研究 応用物理特別演習 応用物理コロキウムⅢ-1S 応用物理コロキウムⅢ-2S 応用物理コロキウムⅢ-3S 応用物理コロキウムⅢ-1F 応用物理コロキウムⅢ-2F 応用物理コロキウムⅢ-3F 応用物理国際インターンシップ
専	准教授	ホリキリ トモユキ 堀切 智之 <平成30年4月>
		量子情報物理学特論※ 物理工学特別演習 物理工学特別輪講A 物理工学特別輪講B 物理工学教育研修 物理工学学外研修 物理工学特別研究
専	准教授	ホンダ アツフミ 本田 淳史 <平成30年4月>
		数理学特別輪講A 数理学特別輪講B 数理学特別輪講C 数理学特別輪講D 数理学特別演習 数理学学外特別研修
専	准教授	ミナミノ アキヒロ 南野 彰宏 <平成30年4月>
		ニュートリノ物理学特論 物理工学特別演習 物理工学特別輪講A 物理工学特別輪講B 物理工学教育研修 物理工学学外研修 物理工学特別研究
		ヤマナシ ユウキ 山梨 裕希 <平成30年4月>





		ツジ ヒロユキ 辻 宏之
		<平成30年4月>
兼任	講師	マルチメディア移動通信特論【隔年】 電気電子ネットワーク演習 電気電子ネットワーク教育研修 電気電子ネットワーク学外研修 電気電子ネットワーク特別研究 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1F 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2F 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3F 電気電子ネットワーク国際インターンシップ 情報システム演習 情報システム教育研修 情報システム学外研修 情報システム特別研究 情報システムコロキウムⅢ-1S 情報システムコロキウムⅢ-2S 情報システムコロキウムⅢ-3S 情報システムコロキウムⅢ-1F 情報システムコロキウムⅢ-2F 情報システムコロキウムⅢ-3F 情報システム国際インターンシップ 応用物理演習 応用物理教育研修 応用物理学外研修 応用物理特別研究 応用物理コロキウムⅢ-1S 応用物理コロキウムⅢ-2S 応用物理コロキウムⅢ-3S 応用物理コロキウムⅢ-1F 応用物理コロキウムⅢ-2F 応用物理コロキウムⅢ-3F 応用物理国際インターンシップ

		ツジ ヒロユキ 辻 宏之
		<平成30年4月>
兼任	講師	マルチメディア移動通信特論【隔年】 電気電子ネットワーク演習 電気電子ネットワーク教育研修 電気電子ネットワーク学外研修 電気電子ネットワーク特別研究 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3S 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-1F 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-2F 電気電子ネットワークコロキウムⅢ-3F 電気電子ネットワーク国際インターンシップ 情報システム演習 情報システム教育研修 情報システム学外研修 情報システム特別研究 情報システムコロキウムⅢ-1S 情報システムコロキウムⅢ-2S 情報システムコロキウムⅢ-3S 情報システムコロキウムⅢ-1F 情報システムコロキウムⅢ-2F 情報システムコロキウムⅢ-3F 情報システム国際インターンシップ 応用物理演習 応用物理教育研修 応用物理学外研修 応用物理特別研究 応用物理コロキウムⅢ-1S 応用物理コロキウムⅢ-2S 応用物理コロキウムⅢ-3S 応用物理コロキウムⅢ-1F 応用物理コロキウムⅢ-2F 応用物理コロキウムⅢ-3F 応用物理国際インターンシップ

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。  
 その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、結めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

特になし

- (注)
- ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
  - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
  - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
6	4	1
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	教授	准教授	講師	助教	計 (C)
21	27	0	9	57	21	27	0	9	57	21	27	0	9	57
(21)	(27)	(0)	(9)	(57)						[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
48	0	9			48	0	9			48	0	9		
(48)	(0)	(9)								[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上 記（B））の教員 のうち、定年を延 長して採用してい る教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。  
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{57}{57} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{57} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1				該当なし	①		
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1				該当なし	③		
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)			
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D) + (F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{0}{57} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1				該当なし			
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および ( ) 書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時  (平成29年8月)		該当なし	
設置計画履行状況 調 査 時 (平成31年2月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (平成32年2月)			

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

## 7 その他全般的事項

<大学院理工学府 数物・電子情報系理工学専攻（博士課程後期）>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
変更なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

#### ① 実施体制

##### a 委員会の設置状況

横浜国立大学では、平成28年度に発足した高大接続・全学教育推進センターが中心となって教員の資質の維持向上、FD活動を行っている。理工学府からセンター教育開発・学修支援部会委員を1名選出し、学部内でのFD活動等の連絡、調整、実施を主に担当する。

○別添① 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則

○別添② 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センターに置く会議の組織運営に関する規則

##### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

定例の高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会は月1回開催。（参加教員14名）

##### c 委員会の審議事項等

学生IR、高大接続、全学教育、および教育開発・学修支援に関する事項。

#### ② 実施状況

##### a 実施内容

高大接続・全学教育推進センターが行う活動に学府として協力、実施する。

各種研修会（TA研修会等）

・FDフォーラム開催

・公開授業開催

・ベストティーチャー表彰

・シラバス改善（ループリックの利用等）

・学生調査

##### b 実施方法

・各内容に即し、全学でコーディネートして実施する。

##### c 開催状況（教員の参加状況含む）

・今年度4月時点ではまだ特別な行事の開催はないが、今後開催される予定。  
昨年度は、理工学府担当（予定）教員を集めた集会においてセミナーを2回（7月と12月）開催した。

##### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

・高大接続・全学教育推進センターの指針に基づきループリックを含むシラバスを作成した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各ターム終了時に授業評価を実施予定。実施結果に基づき自己点検表を作成する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

基本的にホームページ上で公開する。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

開講時期の変更など軽微な変更はあるものの、履修案内やオリエンテーション等において学生に十分な説明を行っているため、学生の履修に影響はない。設置の趣旨・目的の完全な達成に向けて、理工学府担当の教員が平成30年4月から予定通り授業を開始しており、当初設定のカリキュラムの遂行を実現していく予定で、設置趣旨・目的の完全な実現をはかる。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

未定

b 公表方法

未定

③ 認証評価を受ける計画

・平成33年度に評価機関(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構)の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表(予定)の有無 (  有  無 )

b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期 ( 平成30年7月1日 )

(注) ・ 「a ホームページに公表(予定)有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。  
・ 「b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期」には、「a ホームページに公表(予定)有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。



## ○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則

(平成 28 年 3 月 22 日規則第 25 号)

改正 平成 28 年 3 月 30 日規則第 38 号 平成 30 年 4 月 12 日規則第 57 号

## 目次

- 第 1 章 総則(第 1 条・第 2 条)
- 第 2 章 業務及び組織(第 3 条―第 10 条)
- 第 3 章 学生 IR 統括部門(第 11 条・第 12 条)
- 第 4 章 高大接続部門(第 13 条・第 14 条)
- 第 5 章 全学教育部門(第 15 条・第 16 条)
- 第 6 章 教育開発・学修支援部門(第 17 条・第 18 条)
- 第 7 章 雑則(第 19 条・第 20 条)
- 附則

## 第 1 章 総則

## (趣旨)

第 1 条 この規則は、横浜国立大学学則(以下「学則」という。)第 14 条の規定に基づき、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター(以下「センター」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

## (目的)

第 2 条 センターは、横浜国立大学(以下「本学」という。)における高大接続システム改革の実現に向けて全学一体で推進する中心的な役割を果たし、大学教育の質的転換及び入学者選抜方法の改善のための学生行動調査等を重視するインスティテューショナル・リサーチ(以下「学生 IR」という。)の推進とともに、初年次教育科目から高度全学教育科目を体系的に編成した全学教育(教養教育を含む。)の企画、調整、実施及び改善を図り、もって国際通用性のある本学教育の質保証に資することを目的とする。

## 第 2 章 業務及び組織

## (業務)

第 3 条 センターは、前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 本学の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)及び入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に基づく高大接続システム改革の実現に向けた大学教育の質的転換及び入学者選抜方法の改善のための学生 IR の推進に関すること。
- (2) 学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の内外を通じて培うことができるよう、学生のキャリア形成及び

就職支援等における組織間の有機的な連携を推進するための企画、調整、実施及び改善に関すること。

(3) 入学者選抜方法の改善、多面的・総合的な評価方法の調査研究、企画及び調整、入学広報並びに高大連携に関すること。

(4) 初年次教育科目から高度全学教育科目までを体系的に編成した全学教育（教養教育を含む。）の企画、調整、実施及び改善に関すること。

(5) 授業設計と成績評価の向上、ICT等を活用したアクティブラーニング及びキャリア教育の開発、学生の能動的学修の支援並びにこれらの組織的な研修に資するファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）の調査研究、企画、調整、実施及び改善に関すること。

(6) その他前条の目的を達成するために必要な業務に関すること。

2 前項に掲げる業務は、国立大学法人横浜国立大学組織運営規則（平成16年規則第5号。以下「組織運営規則」という。）第18条に規定する横浜国立大学大学院教育強化推進センターとの緊密に連携して行うものとする。

（組織）

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

(1) センター長

(2) 副センター長

(3) センター専任教員

(4) センター長が指名又は推薦する本学の教員

(5) その他必要な職員

（センター長）

第5条 センター長は、本学の副学長又は専任教授をもって充て、学長が任命する。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

（副センター長）

第6条 副センター長は、第4条第3号又は第4号の教員の中から、センター長の推薦に基づき学長が任命する。

2 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 副センター長の任期は、センター長が定める。ただし、第1項の規定に基づき推薦したセンター長の任期を超えることはできない。

（運営委員会等）

第7条 センターに、学則第12条第2項及び組織運営規則第12条第2項の規定に基づく教授会として、次に掲げる委員会を置く。

- (1) 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター運営委員会
- (2) 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター教員選考委員会  
(部門長会議)

第8条 センターに、組織運営規則第12条第3項の規定に基づく代議員会として、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター部門長会議を置く。  
(部門及び部門長)

第9条 センターに第3条に掲げる業務を遂行するために、次の部門を置く。

- (1) 学生 IR 統括部門
- (2) 高大接続部門
- (3) 全学教育部門
- (4) 教育開発・学修支援部門

2 部門に部門長を置く。

3 学生 IR 統括部門、高大接続部門及び教育開発・学修支援部門の部門長は、第4条第3号又は第4号の教員の中から、センター長の推薦に基づき学長が任命する。

4 全学教育部門の部門長は、教養教育主事をもって充て、学長が任命する。

5 部門長は、部門の業務を掌理する。

6 部門長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任の部門長の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究員)

第10条 センターに、研究員を置くことができる。

2 研究員は、第3条各号に規定する業務に関連した研究又は実践歴等を有する者のうちから、第8条に規定する部門長会議の議を経て、センター長が委嘱する。

### 第3章 学生 IR 統括部門

(業務)

第11条 学生 IR 統括部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) センターにおける学生 IR の統括に関すること。
- (2) 学生卒業後の進路状況及び進路先評価等に関する調査研究、企画、調整及び実施並びに本学における人材育成システムの評価に関すること。
- (3) 学生のキャリア形成及び就職支援における組織間の有機的な連携を推進するための企画、調整、実施及び改善に関すること。
- (4) キャリア・サポートルームに関すること。
- (5) その他学生 IR、学生のキャリア形成及び就職支援に関すること。

(学生 IR 統括部会)

第12条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、学生 IR 統括部会を置く。

### 第4章 高大接続部門

(業務)

第13条 高大接続部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 入学者選抜方法の改善に関する学生 IR の推進に関すること。
- (2) 多面的・総合的な評価方法に関する調査研究、企画及び調整に関すること。
- (3) 入学広報及び高大連携に関する業務に関すること。
- (4) 高大接続学習プログラムに関する業務に関すること。
- (5) その他高大接続に関する支援等の業務（他の部門に係る業務を除く。）に関すること。

(アドミッション部会との連携)

第14条 前条に規定する業務を遂行するために、横浜国立大学入学者選抜のための組織及び運営に関する規則（平成16年規則第10号）第2条に規定するアドミッション部会と連携するものとする。

#### 第5章 全学教育部門

(業務)

第15条 全学教育部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学教育（教養教育を含む。次号、第4号及び第5号において同じ。）の在り方、教育理念と教育目標に関する学生 IR の推進に関すること。
- (2) 全学教育のカリキュラム編成、シラバス作成及び履修方法等に関する全学的な総合調整に関すること。
- (3) 全学教育科目の授業の実施及び改善に関すること。
- (4) 全学教育に関する予算に関すること。
- (5) その他全学教育に関する必要な事項に関すること。

(全学教育部会)

第16条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、全学教育部会を置く。

#### 第6章 教育開発・学修支援部門

(業務)

第17条 教育開発・学修支援部門は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 大学教育及び学生の学修支援の在り方、教育理念と教育目標に関する学生 IR の推進に関すること。
- (2) 授業設計と成績評価（シラバスの改善を含む。）に関する調査研究、企画、調整、実施及び改善に関すること。
- (3) ICT等を活用したアクティブラーニング及びキャリア教育の開発並びに学生の能動的学修方法等に関する調査研究、開発、調整及び改善に関すること。
- (4) 大学教育の質的転換のためのFDに関する調査研究、企画、調整、実施及び評価に関すること。

- (5) 学生の学修行動調査の調査研究、企画、調整、実施及び評価に関すること。
- (6) 全学リテラシー共通テキスト等の教材開発、企画及び調整に関すること。
- (7) その他教育開発及び学生の学修支援に関する必要な事項に関すること。

(教育開発・学修支援部会)

第18条 前条に規定する業務を遂行するための具体的事項を審議するために、教育開発・学修支援部会を置く。

#### 第7章 雑則

(事務)

第19条 センターの事務は、学務部において処理する。

(雑則)

第20条 この規則に定めるもののほか、センターに関する必要な事項は、運営委員会の議を経て、センター長が定める。

#### 附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日に任命されるセンター長の選考は、学長が行い、その任期は、第5条第3項の規定にかかわらず、平成29年3月31日までとする。
- 3 平成29年3月31日までの間、第15条第1号及び第2号に規定する「教養教育」とあるのは「教養教育及び平成29年度開設予定の全学教育科目（各学部が開設予定の高度全学教育科目を含む。）」と読み替えて適用する。
- 4 横浜国立大学大学教育総合センター規則（平成16年規則511号）は、廃止する。

附 則(平成28年3月30日規則第38号)

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成30年4月12日規則第57号)

この規則は、平成30年4月12日から施行する。

○横浜国立大学高大接続・全学教育推進センターに置く会議の組織運営に関する  
規則

(平成 28 年 3 月 22 日規則第 26 号)

改正 平成 28 年 3 月 30 日規則第 38 号 平成 29 年 3 月 30 日規則第 69 号  
平成 29 年 8 月 1 日規則第 82 号 平成 30 年 3 月 29 日規則第 47 号  
平成 30 年 4 月 12 日規則第 58 号

目次

- 第 1 章 総則(第 1 条)
- 第 2 章 運営委員会(第 2 条―第 6 条)
- 第 3 章 教員選考委員会(第 7 条・第 8 条)
- 第 4 章 部門長会議(第 9 条―第 11 条)
- 第 5 章 学生 IR 統括部会(第 12 条―第 14 条)
- 第 6 章 全学教育部会(第 15 条―第 17 条)
- 第 7 章 教育開発・学修支援部会(第 18 条―第 20 条)
- 第 8 章 雑則(第 21 条―第 23 条)

附則

第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター規則（以下「規則」という。）第 20 条の規定に基づき、横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター（以下「センター」という。）に置く会議の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

第 2 章 運営委員会

(審議事項)

第 2 条 規則第 7 条第 1 号の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの組織に関すること。
- (2) センターの業務計画（センターの予算を含む。）及び管理運営に係る重要事項に関すること。
- (3) その他センターに関する重要事項に関すること。

(組織)

第 3 条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学部長

- (2) 研究院長
  - (3) 教養教育主事
  - (4) 附属図書館長
  - (5) 情報基盤センター長
  - (6) センター長
  - (7) 副センター長
  - (8) センター部門長
  - (9) センター専任教員
  - (10) 学務部長
  - (11) 研究・学術情報部長
  - (12) 学長が指名する者 若干人
- 2 前項第12号の委員の任期は、2年とする。ただし、欠員による委員の任期は、前任者の残任期間とする。
  - 3 前項の委員は、再任されることができる。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、副センター長がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

- 2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 3 運営委員会における審議の方法について、議長は運営委員会開催に代わるものとして、電磁的記録による審議を行うことができる。

(委員以外の者の出席)

第6条 運営委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

### 第3章 教員選考委員会

(審議事項)

第7条 規則第7条第2号の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター教員選考委員会（以下「教員選考委員会」という。）は、センターの専任教員の選考に関する事項を審議する。

(組織、委員長及び議事等)

第8条 教員選考委員会の組織、委員長、議事及び委員以外の者の出席については、第3条から第6条まで（第5条第3項を除く。）を準用する。この場合において、第3条第

1 項第 10 号から第 12 号の委員は組織から除くものとし、第 5 条第 1 項中「委員の過半数」を「委員の 3 分の 2 以上」と読み替えて適用する。

#### 第 4 章 部門長会議

(審議事項)

第 9 条 規則第 8 条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター部門長会議（以下「部門長会議」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの業務計画及び管理運営に関すること。
- (2) センターの予算に関すること。
- (3) センターの部門及び各部会との連絡調整に関すること。
- (4) その他運営委員会から審議を付託された事項に関すること。

(組織)

第 10 条 部門長会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター部門長
- (4) 学務部長
- (5) センター長が指名する者 若干人

2 前項第 5 号の委員の任期及び再任については、第 3 条第 2 項及び第 3 項を準用する。

(委員長及び議事等)

第 11 条 部門長会議の委員長、議事及び委員以外の者の出席については、第 4 条から第 6 条までを準用する。

#### 第 5 章 学生 IR 統括部会

(審議事項)

第 12 条 規則第 12 条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター学生 IR 統括部会（以下「学生 IR 統括部会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターにおける学生 IR の統括に関すること。
- (2) 学生の進路状況及び進路先評価等に関すること。
- (3) 学生のキャリア形成及び就職支援における全学的な総合調整に関すること。
- (4) キャリア・サポートルームに関すること。
- (5) その他学生 IR、学生のキャリア形成及び就職支援に関すること。

(組織)

第 13 条 学生 IR 統括部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学生 IR 統括部門長
- (2) 学生 IR 統括部門を担当する教員



- (3) 高大接続部門長、全学教育部門長及び教育開発・学修支援部門長
  - (4) 各学部の教授会から選出された教員 各1人
  - (5) 学務部学生支援課長、教育企画課長及び入試課長
  - (6) その他学生 IR 統括部門長が指名した者
- 2 前項第4号及び第6号の委員の任期及び再任については、第3条第2項及び第3項を準用する。

(委員長及び議事等)

第14条 学生 IR 統括部会に委員長を置き、学生 IR 統括部門長をもって充てる。

- 2 委員長は、学生 IR 統括部会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
- 4 学生 IR 統括部会の議事及び委員以外の者の出席については、第5条及び第6条を準用する。

## 第6章 全学教育部会

(審議事項)

第15条 規則第16条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター全学教育部会（以下「全学教育部会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 全学教育（教養教育を含む。第4号及び第5号において同じ。）の全学的な総合調整に関すること。
- (2) 全学教育科目の授業実施計画に関すること。
- (3) 全学教育科目のカリキュラム編成及び改善に関すること。
- (4) 全学教育に関する予算に関すること。
- (5) その他全学教育の実施に関すること。

(組織)

第16条 全学教育部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 全学教育部門長
  - (2) 全学教育部門を担当する専任教員
  - (3) 各学部及び国際社会科学府の教授会から選出された教員 各1人
  - (4) 教育学部学校教育課程保健体育講座から選出された教員 1人
  - (5) 国際戦略推進機構から選出された教員 3人
  - (6) 学務部教育企画課長
  - (7) その他全学教育部門長が指名した者 若干名
- 2 前項第3号から第5号まで及び第7号の委員の任期及び再任については、第3条第2項及び第3項を準用する。

(委員長及び議事等)

第17条 全学教育部会に委員長を置き、全学教育部門長をもって充てる。

- 2 委員長は、全学教育部会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
- 4 全学教育部会の議事及び委員以外の者の出席については、第5条及び第6条を準用する。

## 第7章 教育開発・学修支援部会

### (審議事項)

第18条 規則第18条の規定に基づき、センターに置く横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会（以下「教育開発・学修支援部会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 授業設計と成績評価（シラバスの改善を含む。）に関する事。
- (2) ICT等を活用したキャリア教育及び学生の能動的学修方法等に関する事。
- (3) ファカルティ・ディベロップメントに関する事。
- (4) 学生の学修行動調査に関する事。
- (5) 全学リテラシー共通テキスト等に関する事。
- (6) その他教育開発及び学生の学修支援に関する事。

### (組織)

第19条 教育開発・学修支援部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育開発・学修支援部門長
  - (2) 教育開発・学修支援部門を担当する専任教員
  - (3) 全学教育部門長
  - (4) 各学部の教授会から選出された教員 各1人
  - (5) 国際戦略推進機構及び情報基盤センターから選出された教員 各1人
  - (6) 学務部教育企画課長
  - (7) 研究・学術情報部図書館情報課長及び情報企画課長
  - (8) その他教育開発・学修支援部門長が指名した者 若干名
- 2 前項第4号、第5号及び第8号の委員の任期及び再任については、第3条第2項及び第3項を準用する。

### (委員長及び議事等)

第20条 教育開発・学修支援部会に委員長を置き、教育開発・学修支援部門長をもって充てる。

- 2 委員長は、教育開発・学修支援部会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。
- 4 教育開発・学修支援部会の議事及び委員以外の者の出席については、第5条及び第6条を準用する。

## 第8章 雑則

### (会議の合同開催等)

第21条 第5条、第11条及び前条に規定する運営委員会、部門長会議及び教育開発・学修支援部会は、組織運営規則第18条第1項に規定する横浜国立大学大学院教育強化推進センターとの事前の協議を経て、合同で開催することができる。この場合において、合同で開催される委員会等の議事については、この規則及び横浜国立大学大学院教育強化推進センターに置く会議の組織運営に関する規則を適用し、議長については、それぞれの委員長の互選により置くものとする。

(事務)

第22条 センターに置く会議の事務は、学務部において処理する。

(雑則)

第23条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

#### 附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成29年3月31日までの間、第15条第1号及び第2号に規定する「教養教育」とあるのは「教養教育及び平成29年度開設予定の全学教育科目（各学部が開設予定の高度全学教育科目を含む。）」と読み替えて適用する。
- 3 平成29年3月31日までの間、第13条第1項第4号、第16条第1項第3号及び第19条第1項第4号に規定する「各学部」とあるのは「各学部（都市科学部（仮称）設置準備委員会を含む。）」と読み替えて適用する。
- 4 横浜国立大学大学教育総合センターに置く会議の組織運営に関する規則（平成16年規則第512号）は、廃止する。

#### 附 則(平成28年3月30日規則第38号)

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

#### 附 則(平成29年3月30日規則第69号)

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

#### 附 則(平成29年8月1日規則第82号)

- 1 この規則は、平成29年8月1日から施行する。
- 2 当分の間、第15条第3号に規定する「全学教育科目」とあるのは「全学教育科目及び平成28年度入学者まで適用の教養教育科目」と読み替えて適用する。

#### 附 則(平成30年3月29日規則第47号)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

#### 附 則(平成30年4月12日規則第58号)

この規則は、平成30年4月12日から施行する。